

令和3年度
「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」
調査報告書

長野市

目 次

I	調査の概要	1
	1 調査の目的	
	2 調査の対象	
	3 抽出方法	
	4 調査の方法	
	5 調査時期	
	6 送付・回収状況	
	7 調査事項	
	8 調査票の集計	
	報告書の見方	
II	回答者の属性	5
III	結果の概要	13
IV	調査の結果	19
	一般的なこと	21
	女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて	43
	仕事と生活の調和に関することについて	91
	地域社会に関することについて	125
	選択的夫婦別姓制度に関することについて	135
	男女の人権に関することについて	161
	男女共同参画施策に関することについて	171
	資 料	175
	単純集計	177
	調査票	205

I 調査の概要

1 調査の目的

長野市における男女共同参画に関する市民の意識と実態を調査し、男女共同参画施策の推進状況の把握と、今後の男女共同参画行政の推進のための資料を得ることを目的とする。

2 調査の対象

令和3年5月15日現在で長野市に在住する18歳以上75歳未満の男女各1,000人
(計:2,000人)

3 抽出方法

長野市住民基本台帳より、単純無作為抽出

4 調査の方法

調査票を郵送し、個人へ記入を依頼。その後、返信用封筒(料金受取人払)により調査票を返送してもらう郵送調査法による(調査票は別紙のとおり)。

5 調査時期

令和3年6月24日(木) ～ 令和3年7月6日(火)

6 送付・回収状況

送付数:2,000票

回収数:719票 (回収率:36.0%)

【男性票:292票、女性票:423票 性別無回答:4票】

7 調査事項

● 回答者の属性

A性別 B年齢 C職業 D家族 E配偶者の有無

F子の有無 G配偶者またはパートナーの就業の有無

(1) 一般的な質問

(2) 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関する質問

(3) 仕事と生活の調和に関する質問

(5) 地域社会に関する質問

(6) 選択的夫婦別姓制度に関する質問

(7) 男女の人権に関する質問

(8) 男女共同参画施策に関する質問

(9) 自由記入

8 調査票の集計

電子計算機による集計(委託)

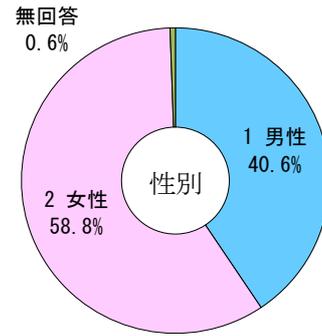
報告書の見方

- ①調査結果の数値は、原則として百分率で表記した。百分率の値は、小数点以下第2位を四捨五入し、小数点第1位まで表記している。従って、内訳を合計しても100%に合致しない場合がある。
- ②アンケートへの回答は、単数回答と複数回答を求めた設問があり、複数回答を求めた設問では、比率の合計が100%を上回る場合がある。
- ③属性別の結果については、特徴的なもの、資料として重要と思われるものについて分析した。なお、図表によっては、不明サンプルを表示していないため、標本数の合計が全体の標本数と異なる場合がある。
- ④設問中の選択肢の文字数が多いものについては、本文中や図表中において、便宜上短く省略している場合がある。
- ⑤回答者数が少ない場合参考値として掲載。データの精度が低くなる為その分析は行わないものとする。

II 回答者の属性

A 性別

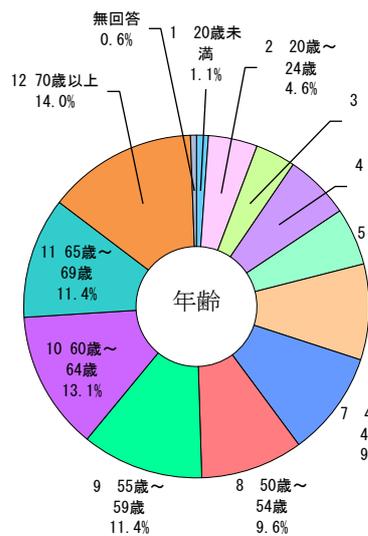
	回答者数 (人)	割合 (%)
1 男性	292	40.6%
2 女性	423	58.8%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%



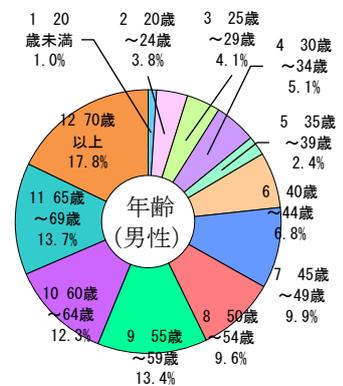
B 年齢

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 20歳未満	8	5	3	0	1.1	1.2	1.0	0.0
2 20歳～24歳	33	22	11	0	4.6	5.2	3.8	0.0
3 25歳～29歳	27	15	12	0	3.8	3.5	4.1	0.0
4 30歳～34歳	44	28	15	1	6.1	6.6	5.1	25.0
5 35歳～39歳	39	32	7	0	5.4	7.6	2.4	0.0
6 40歳～44歳	65	45	20	0	9.0	10.6	6.8	0.0
7 45歳～49歳	71	42	29	0	9.9	9.9	9.9	0.0
8 50歳～54歳	69	41	28	0	9.6	9.7	9.6	0.0
9 55歳～59歳	82	43	39	0	11.4	10.2	13.4	0.0
10 60歳～64歳	94	58	36	0	13.1	13.7	12.3	0.0
11 65歳～69歳	82	42	40	0	11.4	9.9	13.7	0.0
12 70歳以上	101	49	52	0	14.0	11.6	17.8	0.0
無回答	4	1	0	3	0.6	0.2	0.0	75.0
合計	719	423	292	4	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】



【男女別】

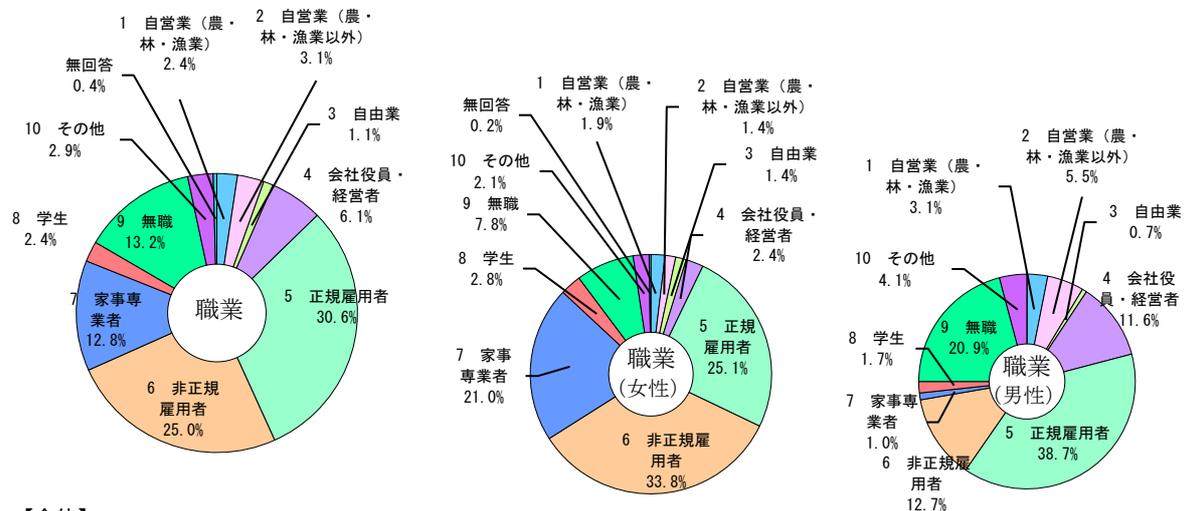


C 職業

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 自営業 (農・林・漁業)	17	8	9	0	2.4	1.9	3.1	0.0
2 自営業 (農・林・漁業以外)	22	6	16	0	3.1	1.4	5.5	0.0
3 自由業	8	6	2	0	1.1	1.4	0.7	0.0
4 会社役員・経営者	44	10	34	0	6.1	2.4	11.6	0.0
5 正規雇用者	220	106	113	1	30.6	25.1	38.7	25.0
6 非正規雇用者	180	143	37	0	25.0	33.8	12.7	0.0
7 家事専業者	92	89	3	0	12.8	21.0	1.0	0.0
8 学生	17	12	5	0	2.4	2.8	1.7	0.0
9 無職	95	33	61	1	13.2	7.8	20.9	25.0
10 その他	21	9	12	0	2.9	2.1	4.1	0.0
無回答	3	1	0	2	0.4	0.2	0.0	50.0
合計	719	423	292	4	100.0	100.0	100.0	100.0

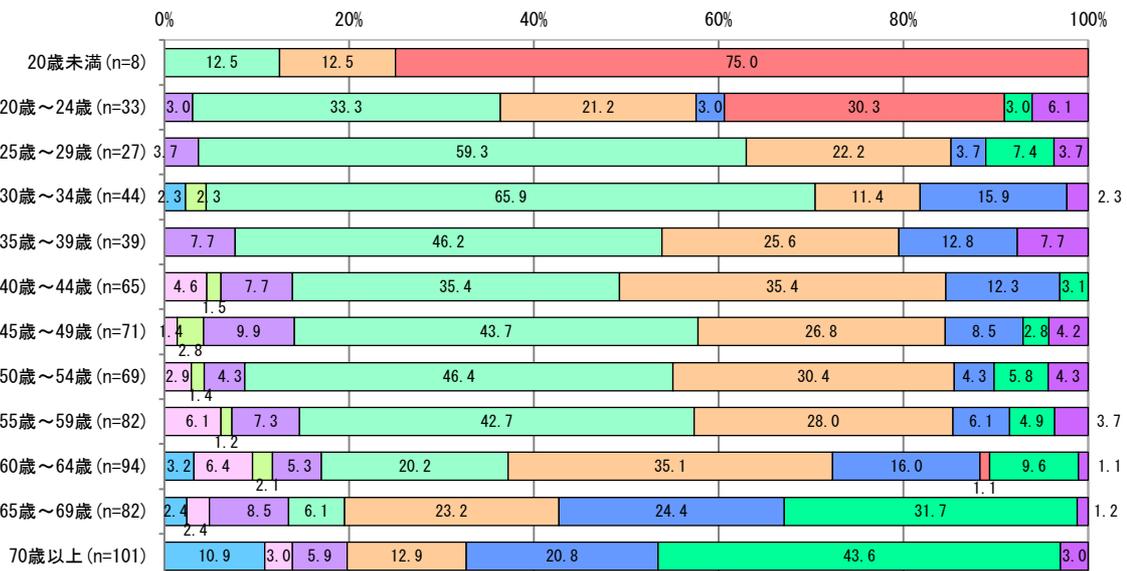
【年代別】

【男女別】



【全体】

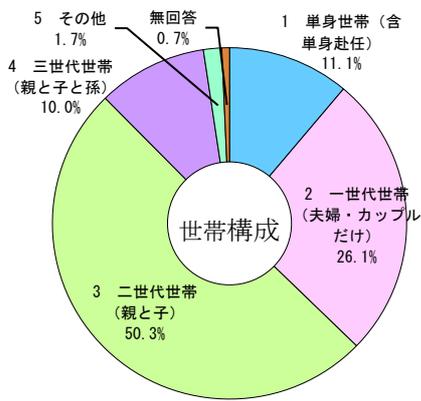
- 自営業 (農・林・漁)
- 自営業 (農・林・漁以外)
- 自由業
- 会社役員・経営者
- 正規雇用者
- 非正規雇用者
- 家事専業者
- 学生
- 無職
- その他
- 無回答



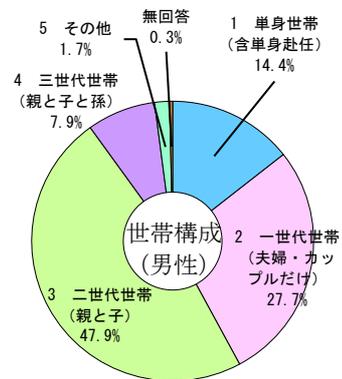
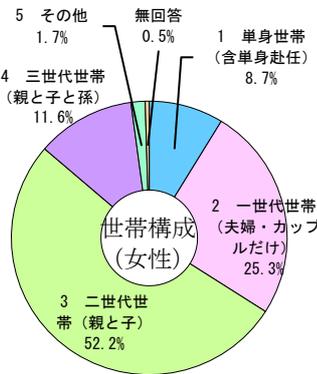
D あなたのご家族の構成（世帯構成）について教えてください。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 単身世帯（含単身赴任）	80	37	42	1	11.1	8.7	14.4	25.0
2 一世代世帯（夫婦・カップルだけ）	188	107	81	0	26.1	25.3	27.7	0.0
3 二世世代世帯（親と子）	362	221	140	1	50.3	52.2	47.9	25.0
4 三世世代世帯（親と子と孫）	72	49	23	0	10.0	11.6	7.9	0.0
5 その他	12	7	5	0	1.7	1.7	1.7	0.0
無回答	5	2	1	2	0.7	0.5	0.3	50.0
合計	719	423	292	4	100.0	100.0	100.0	100.0

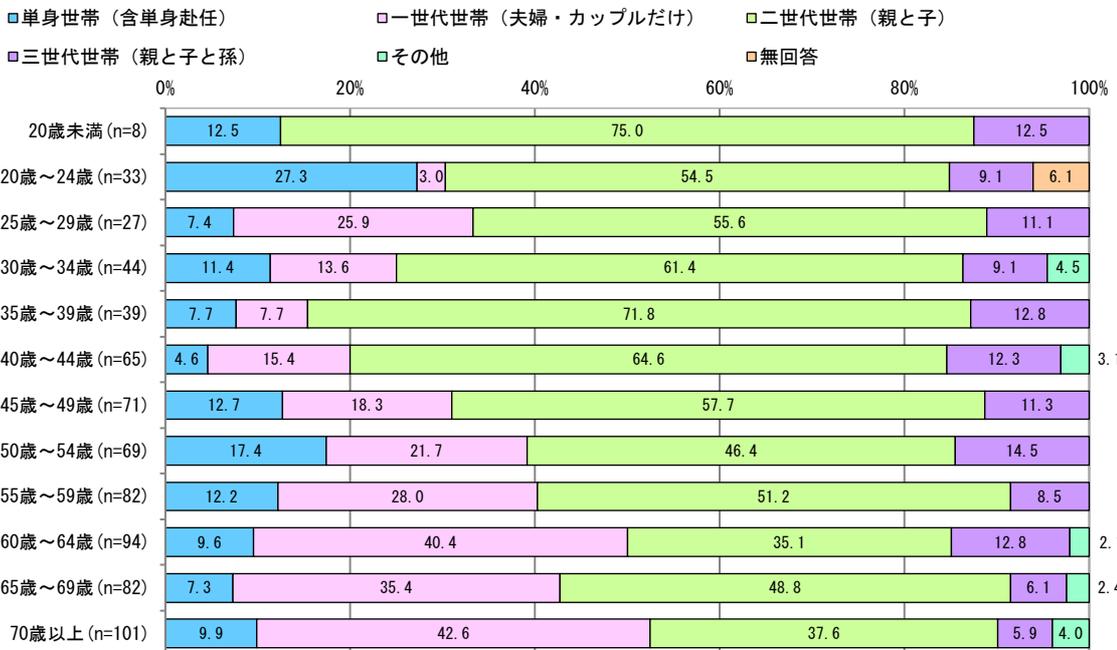
【全体】



【男女別】



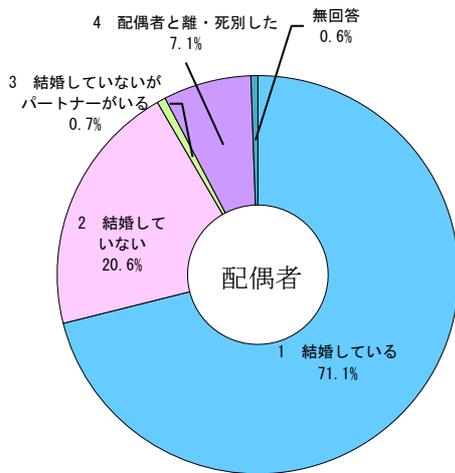
【年代別】



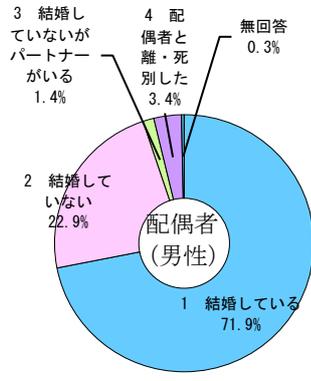
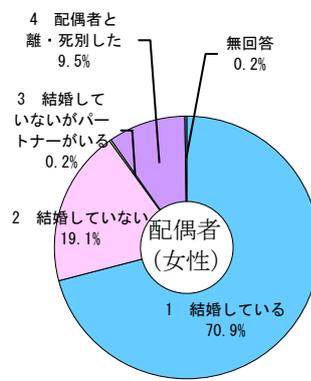
E あなたは現在、結婚していますか。

	回答者数 (人)				割合 (%)			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 結婚している	511	300	210	1	71.1	70.9	71.9	25.0
2 結婚していない	148	81	67	0	20.6	19.1	22.9	0.0
3 結婚していないがパートナーがいる	5	1	4	0	0.7	0.2	1.4	0.0
4 配偶者と離・死別した	51	40	10	1	7.1	9.5	3.4	25.0
無回答	4	1	1	2	0.6	0.2	0.3	50.0
合計	719	423	292	4	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

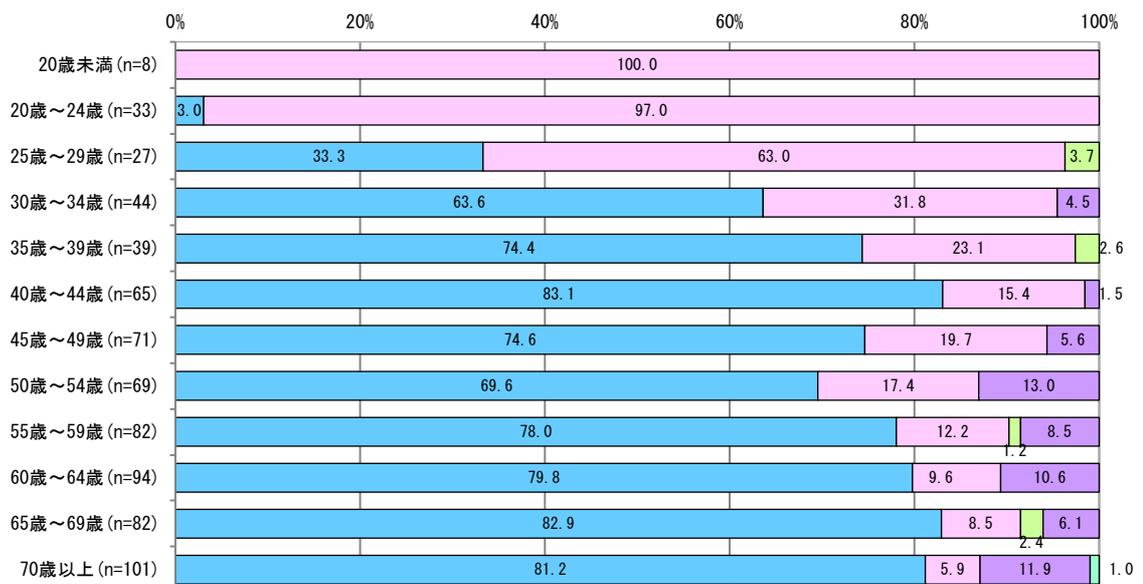


【男女別】



【年代別】

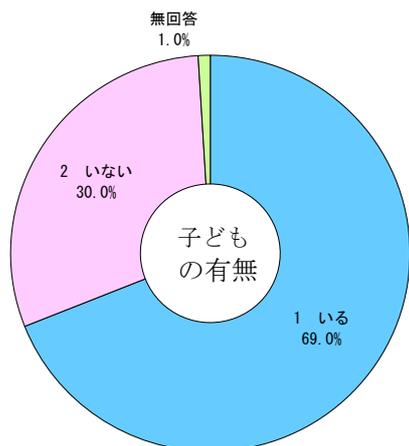
■結婚している □結婚していない ■結婚していないがパートナーがいる ■配偶者と離・死別した ■無回答



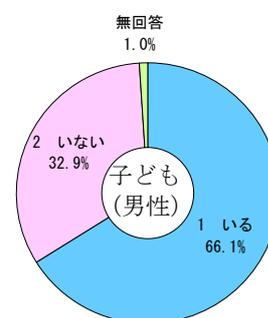
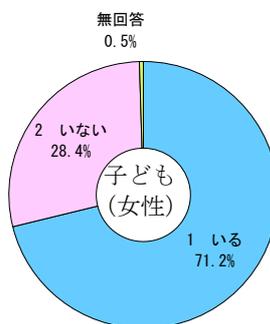
F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる	496	301	193	2	69.0	71.2	66.1	50.0
2 いない	216	120	96	0	30.0	28.4	32.9	0.0
無回答	7	2	3	2	1.0	0.5	1.0	50.0
合計	719	423	292	4	100.0	100.0	100.0	100.0

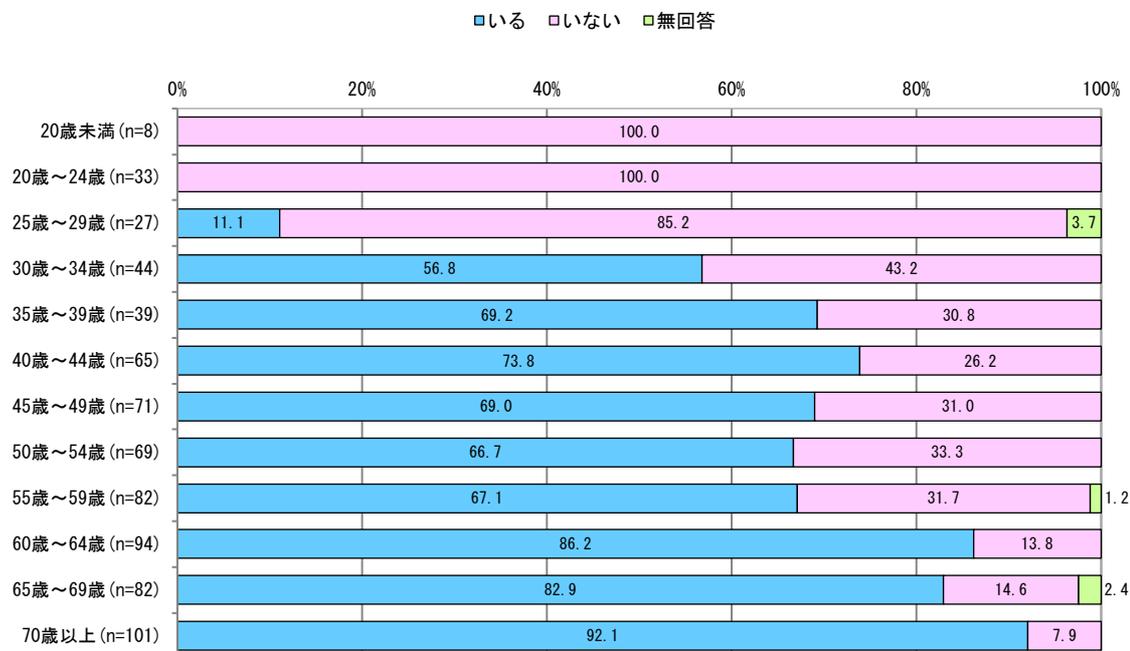
【全体】



【男女別】



【年代別】

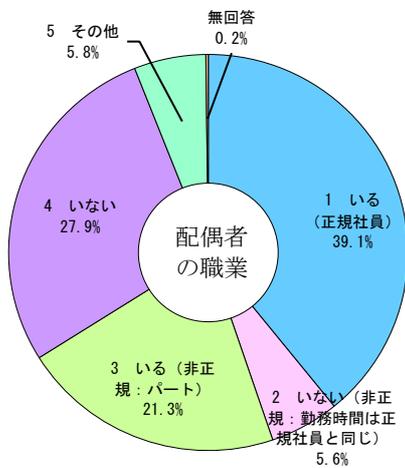


結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

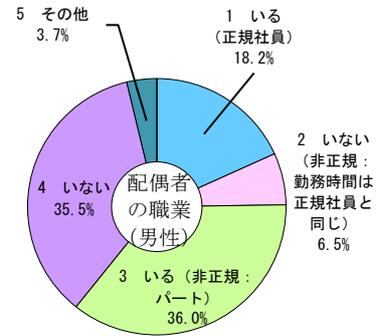
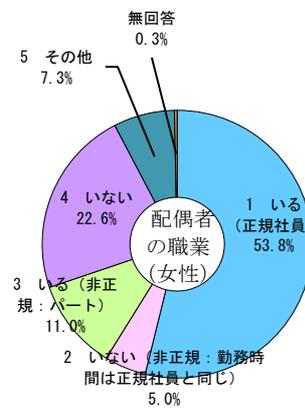
G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

	回答者数（人）				割合（％）			
	全体	女性	男性	無回答	全体	女性	男性	無回答
1 いる（正規社員）	202	162	39	1	39.1	53.8	18.2	100.0
2 いる（非正規：勤務時間は正規社員と同じ）	29	15	14	0	5.6	5.0	6.5	0.0
3 いる（非正規：パート）	110	33	77	0	21.3	11.0	36.0	0.0
4 いない	144	68	76	0	27.9	22.6	35.5	0.0
5 その他	30	22	8	0	5.8	7.3	3.7	0.0
無回答	1	1	0	0	0.2	0.3	0.0	0.0
合計	516	301	214	1	100.0	100.0	100.0	100.0

【全体】

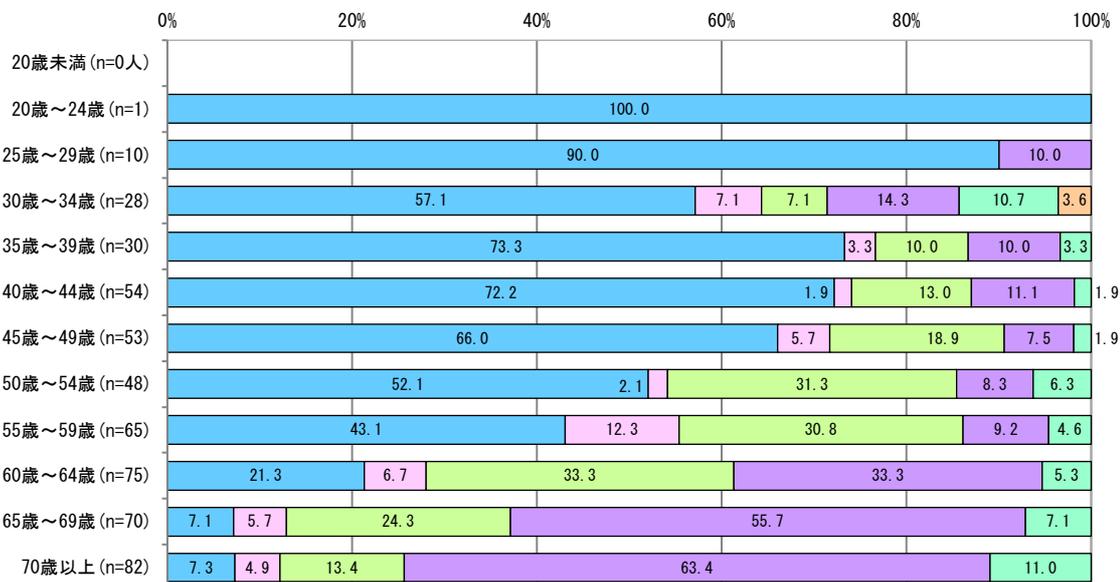


【男女別】



【年代別】

■いる（正規社員） □いる（非正規：勤務時間は正規社員と同じ） □いる（非正規：パート） □いない □その他 □無回答



Ⅲ 結果の概要

1 一般的なこと

(1) 社会における男女の扱いについて

「家庭」、「学校教育」、「地域社会」、「職場」、「法律や制度」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」の8つの分野に関して、男女は平等になっているかを尋ねたところ、「平等である」と考えている割合が高いのは、「学校教育」(56.7%)の1分野であった。それ以外の分野では「男性の方が優遇」という回答合計が最も多くなっている。特に「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」では「男性の方が優遇」という回答合計が7割を超えている。

分野別でみると、「家庭」においては、「男性の方が優遇」という回答合計は、男性が43.9%に対し、女性が62.1%となり、性別による感じ方に差がある。同様に、「法律や制度」においても、「男性の方が優遇」という回答合計は、男性が37.0%なのに対し、女性は56.7%となっている。また、「地域社会」、「職場」、「社会通念・慣習・しきたり」、「政治」、「社会全体」といった分野でも、「男性の方が優遇」という回答割合が多く、男女とも約5割～9割となっている。

(2) 男女共同参画に関する用語について

「男女共同参画社会」に関する7つの用語の認知度を尋ねたところ、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が高いのは、「ジェンダー」(89.3%)、「男女共同参画社会」(83.5%)となっている。また、「女性差別撤廃条約」(51.9%)、「女性活躍推進法」(58.1%)も、5割台となっている。それ以外の3つの用語の認知度は、5割を下回っている。

(3) 固定的性別役割分担意識について

「男性は仕事、女性は家事・育児」という考え方について、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は22.9%、一方、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は66.6%となっている。前年に比べ、前者は8.6ポイント減少し、後者は0.3ポイント減少した。平成22年度調査から、「反対」、「どちらかといえば反対」という回答の合計が、半数を上回っている。年代別でみると、24歳以下、35歳～49歳、65歳～69歳の女性と、24歳以下、40歳～59歳の男性で「賛成」がない結果となっている。

(4) 女性が職業をもつことについて

女性が働くことへの考え方に関しては、男女ともに「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」が約5割と、最も多い回答となっている。

2 女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関することについて

(1) 方針決定の場などへの女性活躍の必要性について

方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大、女性の活躍の必要性に関しては、男女ともに「必要だと思う」という回答が最も多い回答となっており、「必要ないと思う」という回答は1.8%となっている。

(2) 職場における男女の平等について

職場における「賃金」、「昇進や昇格」、「仕事の内容」、「研修の機会や内容」、「経験や能力を発揮する機会」の5つに関して、男女が平等であるかを尋ねたところ、「昇進や昇格」以外の項目では「平等である」という回答が最も多くなっている。「昇進や昇格」に関しては、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答が最も多い。「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答が最も多いのは、「仕事の内容」9.2%となっているが、この項目における「どちらかといえば男性の方が優遇されている」は24.0%と女性を上回っている。

(3) 職場における女性の活躍推進について

職場において女性の活躍推進について尋ねたところ、男女ともに「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多くなっている。

女性が活躍するために企業が取り組むべきは何かと尋ねたところ、「とても重要だと思う」と考えている割合が高いのは、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」(62.9%)、「企業内託児所や学童保育所などの設置」(58.1%)、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」(54.5%)、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」(47.9%)の4分野であった。

(4) 女性の就労意識について

職業についている女性の方に尋ねたところ、「そう思う」と考えている割合が高いのは、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(32.3%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(32.3%)、「女性も管理職として活躍している」(29.4%)の3分野であった。「思わない」と考えている割合が高いのは、「女性の管理職の部下には、なりたくない」(55.6%)、「退職して仕事に就かない」(44.4%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(33.3%)の3分野であった。

(5) 女性の再就職について

離職されている方に、再就職の際の雇用形態の希望を尋ねたところ、女性では、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」(38.5%)という回答が最も多くなっている。次いで「正規社員」(11.5%)、「非正規社員」(10.7%)となっている。男性では、「正規社員」(28.1%)という回答が最も多くなっている。

「非正規社員」、「パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)」を回答した女性に理由を尋ねたところ、「仕事より家庭生活を優先したいから」(60.0%)が最も多い回答となっており、次いで「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」(36.7%)、「配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから」(30.0%)となっている。

(6) 離職の原因(理由)について

離職の原因(理由)について尋ねたところ、「結婚」という回答が全体で32.5%、「出産」が全体で28.0%となっているが、「結婚」では男性が5.5%なのに対し、女性は44.1%、「出産」では男性が3.9%なのに対し、女性は38.3%となり、性別により差がある。

(7) 女性の就労について

女性の活躍を進めるうえでの問題について尋ねたところ、「家事・育児との両立が難しい」(84.4%)という回答が最も多くなっており、次いで「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(55.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.5%)となっている。また、女性が意欲をもって働き続けるために何が必要か尋ねたところ、「職場の理解や協力」(40.8%)が最も多い回答となっており、次いで「育児・介護に関する制度の充実」(38.0%)、「働き方改革の推進」(32.3%)と続いている。

離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思うか尋ねたところ、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(89.7%)が最も多い回答となっており、次いで「保育所などの保育施設の充実」(66.3%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(61.6%)と続いている。

3 仕事と生活の調和に関することについて

(1) ワーク・ライフ・バランスの認知度について

「ワーク・ライフ・バランス」という言葉の認知度については、「言葉も内容も知っている」という回答が、全体の35.2%となっており、認知度は依然として低い。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が37.0%と女性の33.8%より多くなっている。

(2) 理想とする生活と、現実の生活について

「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活」の優先度について、理想とする生活と、現実の生活について尋ねたところ、理想とする生活としては、『仕事』と『家庭生活』をともに優先が最も多い回答となった。現実の生活では、『家庭生活』優先が最も多い回答となっている。女性は35.0%と多く回答しており、男性は17.1%となっている。男性では、『仕事』優先」という回答が35.0%となっており、性別により違いがある。

(3) 家事と育児・介護について

「掃除」、「洗濯」、「食料品、日用品などの買物」、「食事のしたく」、「食事の後かたづけ」、「ごみ捨て」の6つの分野に関して尋ねたところ、「主に自分がしている」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「ごみ捨て」(41.4%)、女性では、「食事のしたく」(73.7%)であった。「していない」と答えた割合が最も高いのは、男性では、「洗濯」(48.8%)で、女性では、「ごみ捨て」(20.4%)であった。

また、男性は、「食料品、日用品などの買物」については、「自分とは家族が同じ程度している」という回答割合が3割を超えている。

家事従事時間に関しては、平日では「0～1時間未満」という回答は、男性60.3%、女性8.3%と差が大きくなっている。休日では「0～1時間未満」という回答が男性40.4%、女性6.4%となっており、平日に比べて差が小さくなっている。

育児に関しては、「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」という回答割合の合計は、男性は19.3%、女性は54.4%と差が大きい。介護に関しては男性が14.3%、女性が19.2%と育児より差が小さい。

「育児・介護休業制度」に関しても、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(69.3%)、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(66.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(59.5%)、「昇給、昇格に影響すると考えるから」(30.7%)といった理由で利用が進まない状況となっている。

4 地域社会に関することについて

自治会やPTAなど地域の活動における現状と女性の参画について

自治会やPTAなど、地域での活動における事例について 尋ねたところ、「そうである」という回答が多かったのは、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」で、47.3%となっている。一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」(44.5%)、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」(35.6%)、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」(35.2%)となっている。

女性が地域の重要な方針決定の場に参画するためにはどうすればよいか尋ねたところ、「積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も回答割合が高く、約3割(25.2%)となっている。次いで、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」(23.9%)と「役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること」(17.2%)と続いている。

5 「選択的夫婦別姓制度」に関することについて

(1) 名字（姓）とはどういうものかについて

名字（姓）とは、どういうものだと思うか尋ねたところ、「先祖から受け継がれてきた名称」が68.7%と最も多く、「他の人と区別して自分を表す名称の一部」(56.6%)、「夫婦を中心にした家族の名称」(48.7%)と続いている。

(2) 婚姻によって、夫婦のいずれかが必ず名字（姓）を変えなければならないことについて

婚姻前から仕事をしている人が、婚姻によって名字（姓）を変えると、仕事の上で何らかの不便を生ずることがあると思うかについて尋ねたところ、「何らかの不便を生ずることがあると思う」(46.0%)という回答が最も多くなっている。一方、「何らの不便も生じないと思う」(30.9%)も3割程となる。

(3) 夫婦別姓の法制化について

夫婦が希望する場合には婚姻前の姓を名乗ることができるように法律を改めることについては、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない」(40.5%)が最も多く、約4割となっている。現在の法律を改める必要がないという回答は、14.3%となっている。

6 男女の人権に関することについて

(1) DV（ドメスティック・バイオレンス）について

DVを受けた又はしたことがあるか尋ねたところ、「受けたことがある」と答えた割合は、男性が31.5%に対し、女性は46.6%となっている。項目別でみると、「大声で怒鳴る」については、男性で「したことがある」という回答が24.7%、女性では8.0%、女性では「受けたことがある」という回答が20.3%、男性は3.4%となっている。

DVにあったときの相談窓口として、「知っている」という回答が最も多かったのは、「県警（警察安全相談窓口）」で約5割(54.9%)となっている。次いで、「特にない」(30.2%)、「女性の人権ホットライン」(19.2%)、「長野県児童虐待・DV24時間ホットライン」(18.4%)、「長野県女性相談センター」(17.5%)の順となる。

DVに対する考え方は、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」が最も多く、約6割(56.2%)となっている。

7 男女共同参画施策に関することについて

(1) 男女共同参画社会実現へ向けた行政に期待することについて

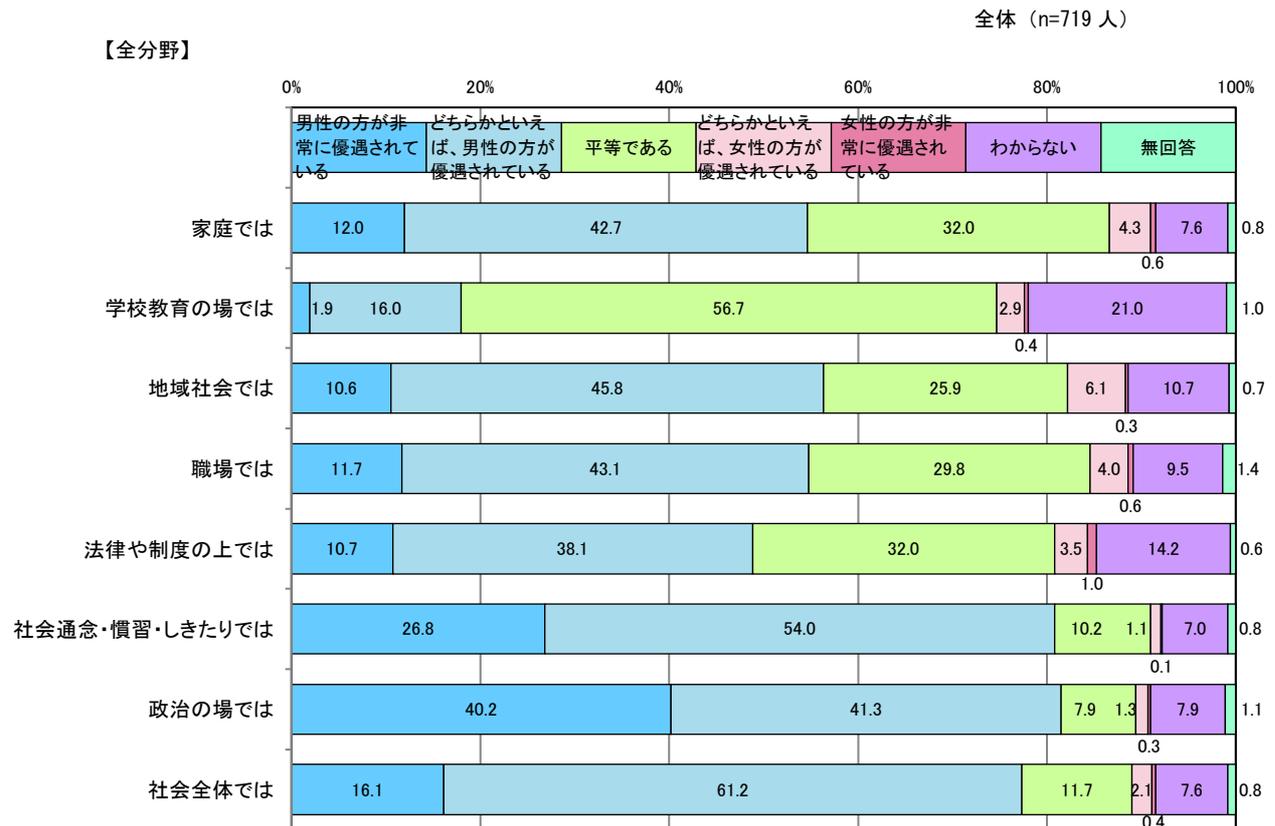
行政に期待することについては、「男女がともに働きやすい職場環境の整備促進」(66.6%)が最も多くなっている。次いで、「働く場における男女の均等な機会と待遇の確保」(49.7%)、「職業生活と家事や育児、介護等の家庭生活との両立に向けた環境づくり」(46.7%)の順となっている。

IV 調査の結果

一般的なこと

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

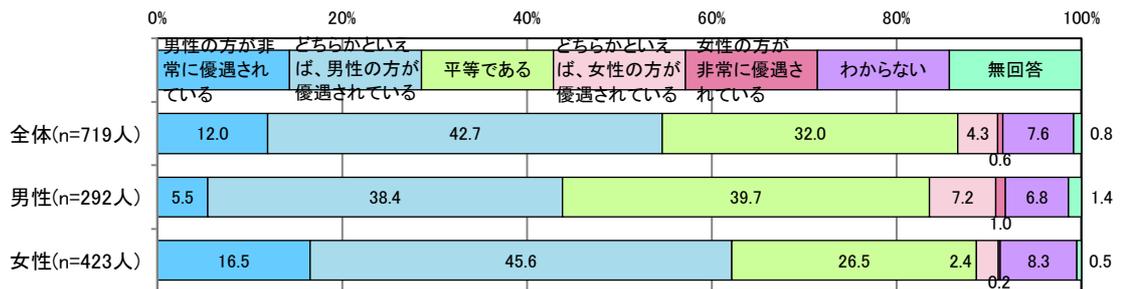
- ・「平等である」と考えている割合が多いのは、「学校教育」(56.7%)、「家庭」(32.0%)、「法律や制度」(32.0%)の3分野となっている。
- ・一方、「政治」(81.5%)、「社会通念・慣習・しきたり」(80.8%)では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計がいずれも約7割以上で最も多い回答となっている。



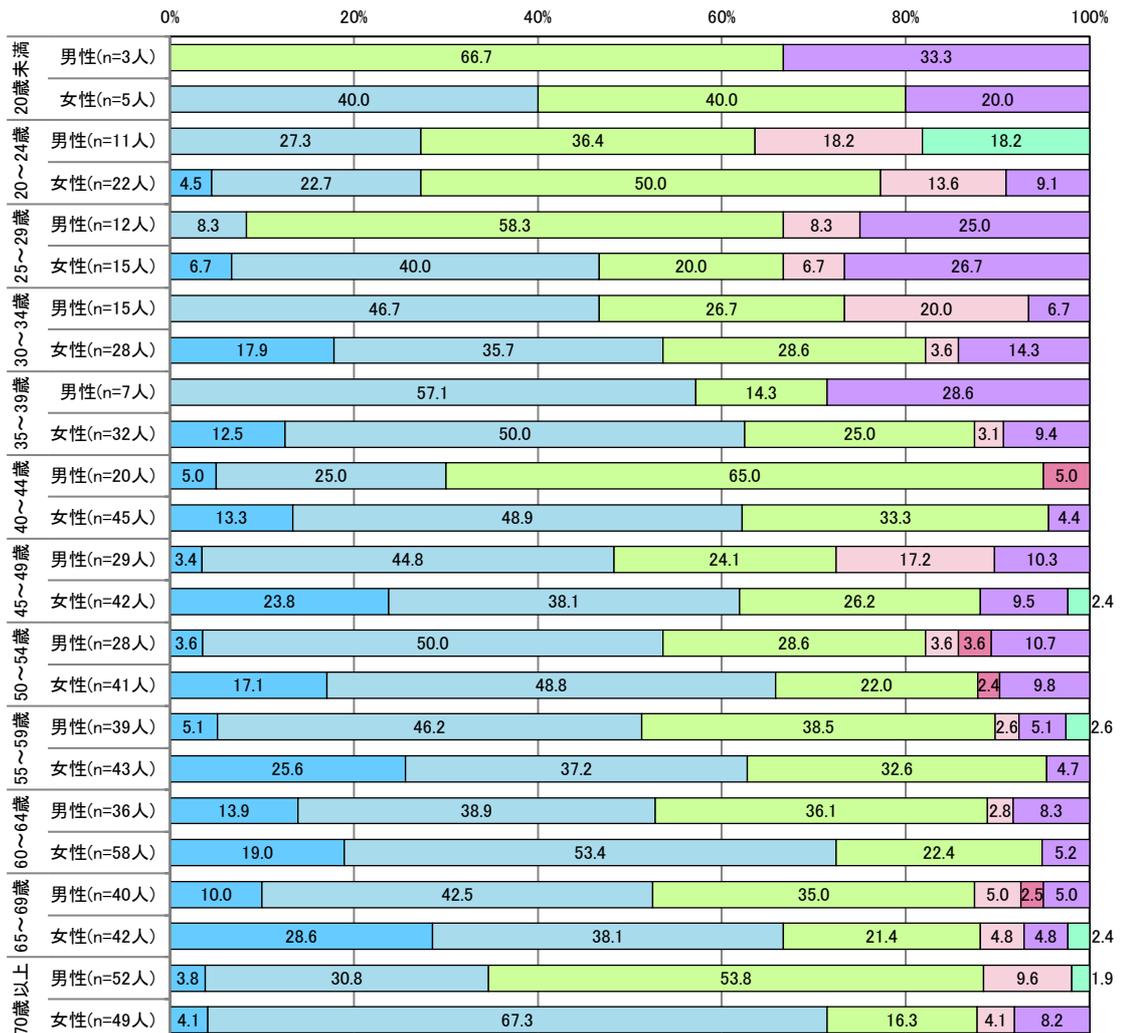
1 家庭では

- ・性別でみると、男性は、「平等である」(39.7%)という回答が最も多く、約4割となっている。女性は「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」(45.6%)が約5割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計は、男性では約4割(43.9%)となっているが、女性では約6割(62.1%)となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計は、女性では35歳以上で6割を超えている。男性では、29歳以下と40歳～44歳、70歳以上を除いた世代で「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多い。

【性別】

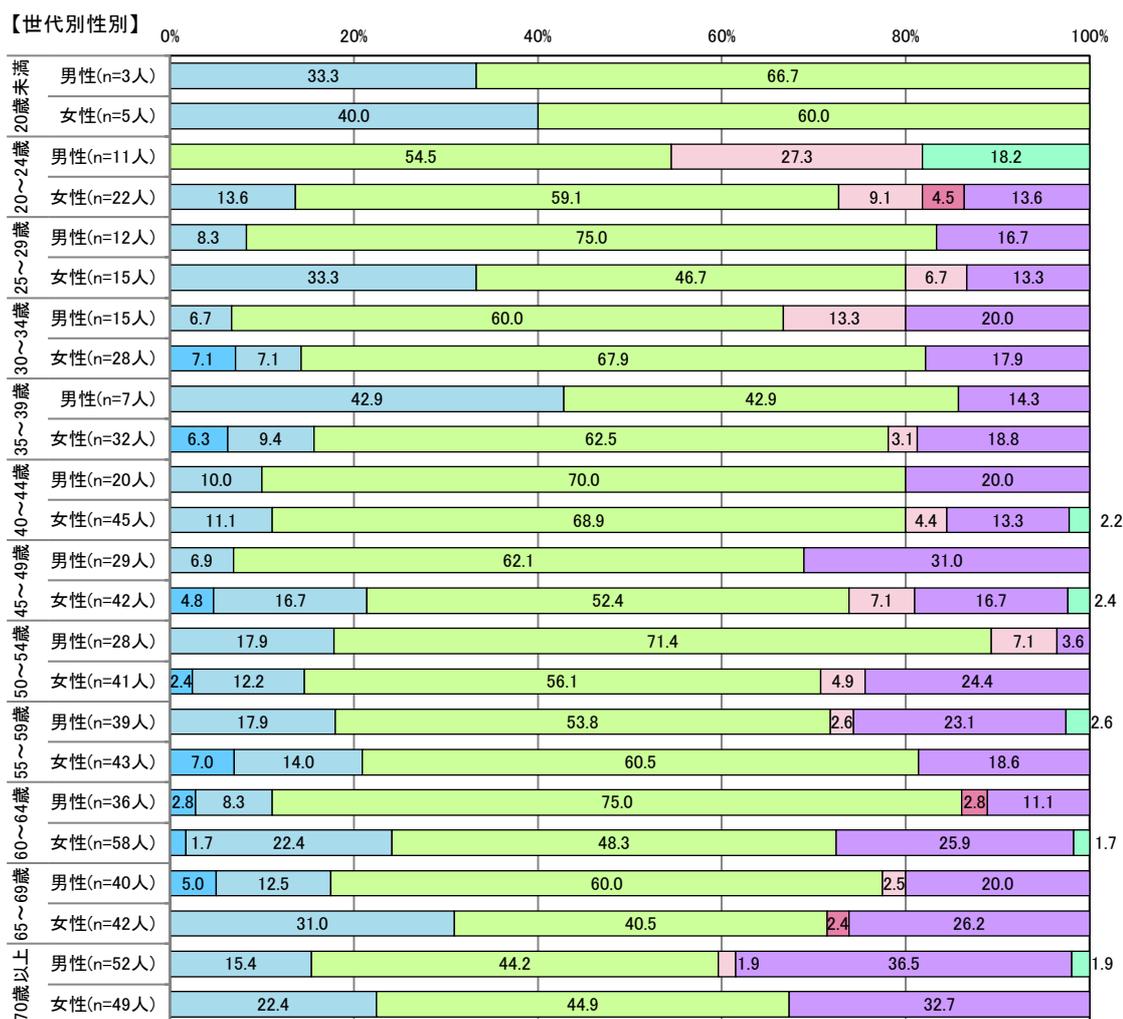
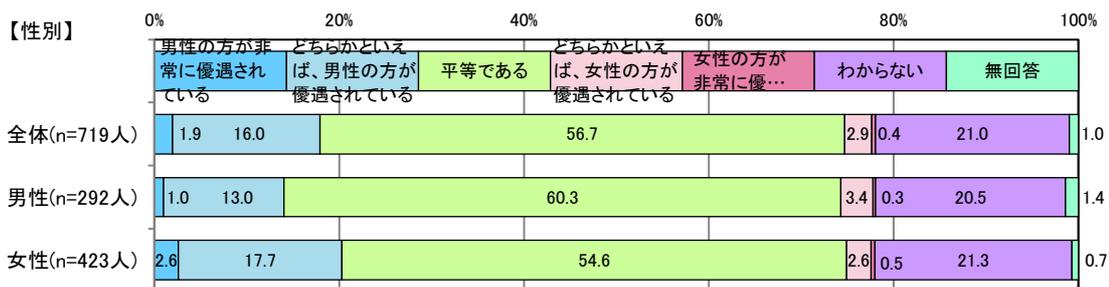


【世代別性別】



2 学校教育の場では

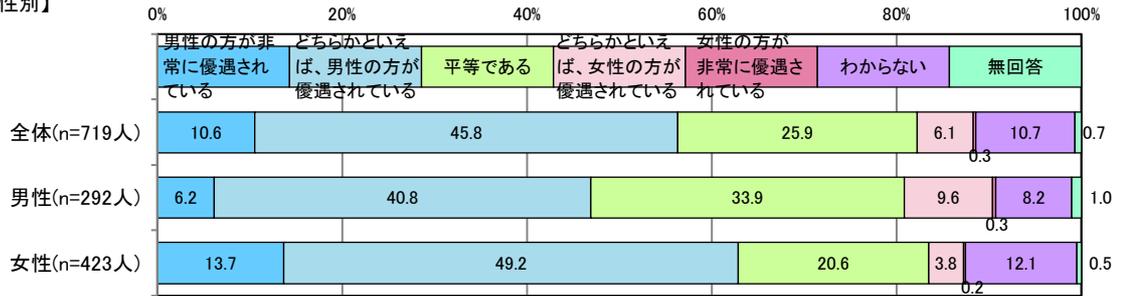
- ・性別でみると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性（60.3%）は約6割、女性（54.6%）は約5割となっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答は、男性よりも女性の方がやや多くなっている。
- ・世代別性別でみると、35歳～39歳の男性を除いた各世代で「平等である」という回答が最も多くなっている。「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が3割以上となる世代は、20歳未満の男女、25歳～29歳の女性、35歳～39歳の男性、65歳～69歳の女性となっている。



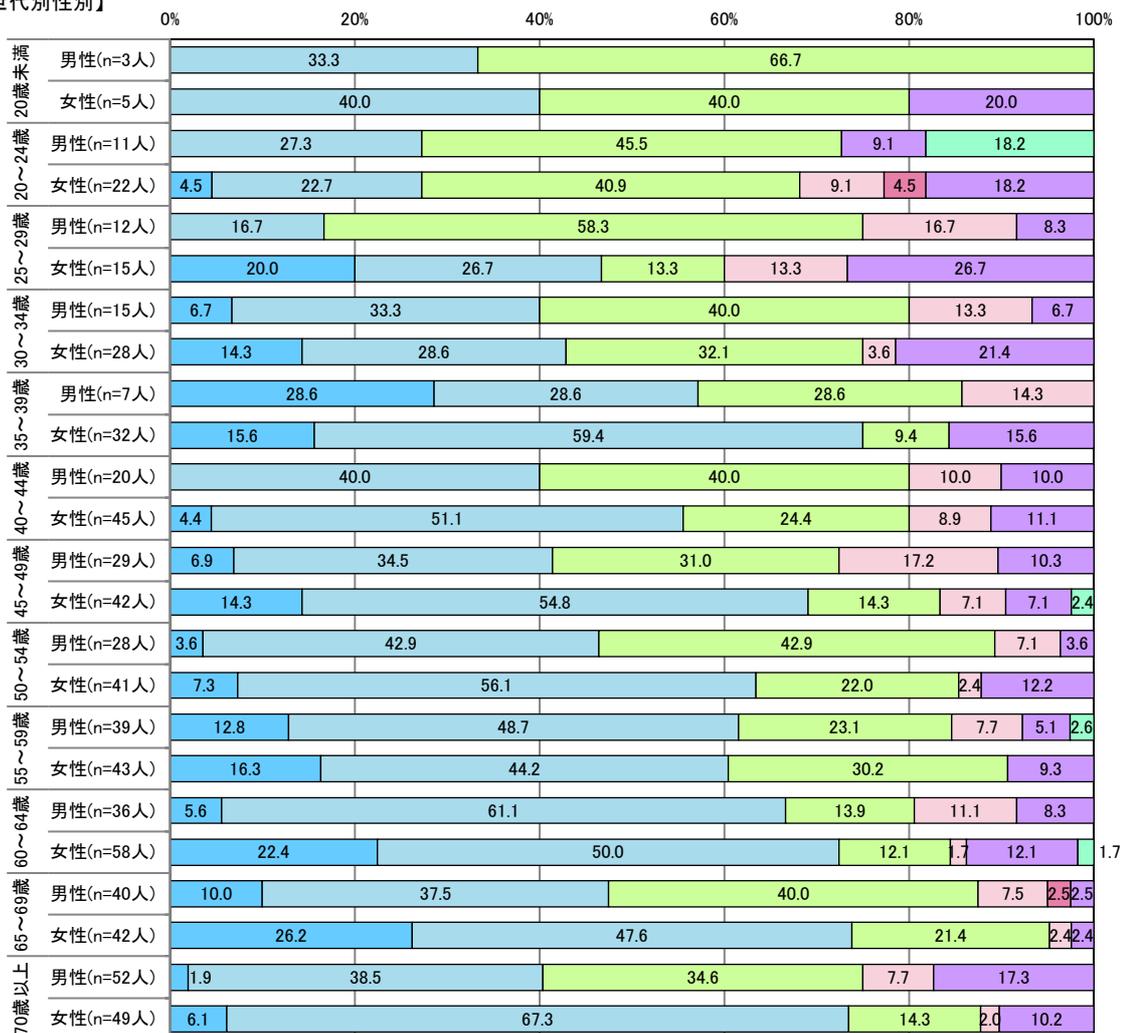
3 地域社会では

- 性別でみると、男女とも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性は約4割（40.8%）、女性は約5割（49.2%）となっている。一方、「平等である」という回答は男性が約3割（33.9%）であるのに対し、女性は約2割（20.6%）となっている。
- 世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、35歳～39歳の女性、45歳～54歳の女性、55歳～64歳の男女、65歳以上の女性となっている。

【性別】

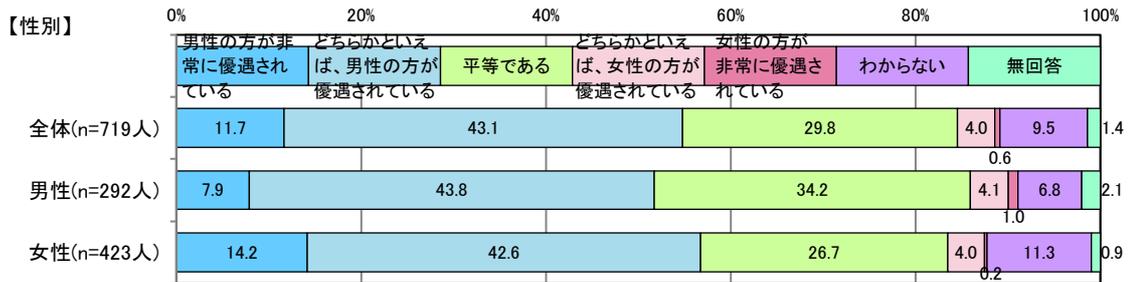


【世代別性別】

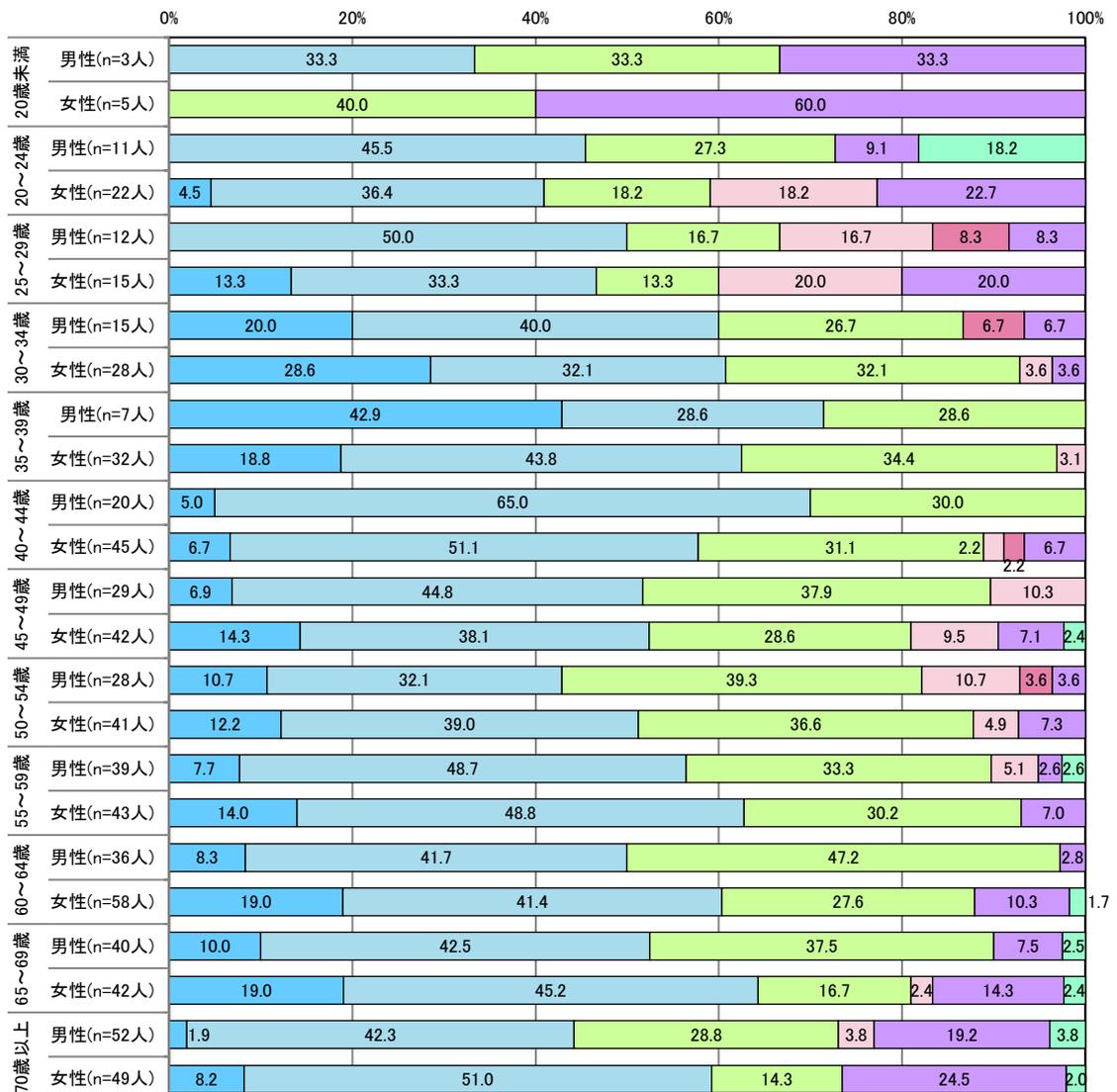


4 職場では

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（43.8%）、女性（42.6%）とも約4割となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男女、30歳～34歳の女性、35歳～39歳の男性、50歳～54歳の男性、60歳～64歳の男性を除き、いずれも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多くなっている。「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、30歳～39歳の男女。40歳～44歳の男性、55歳～69歳の女性となっている。

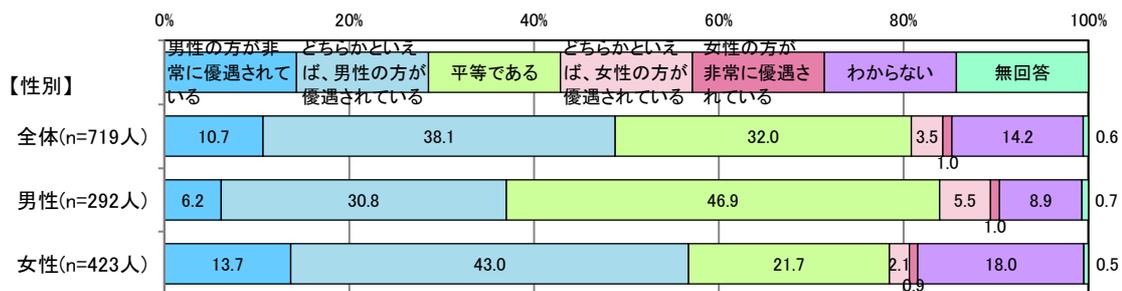


【世代別性別】

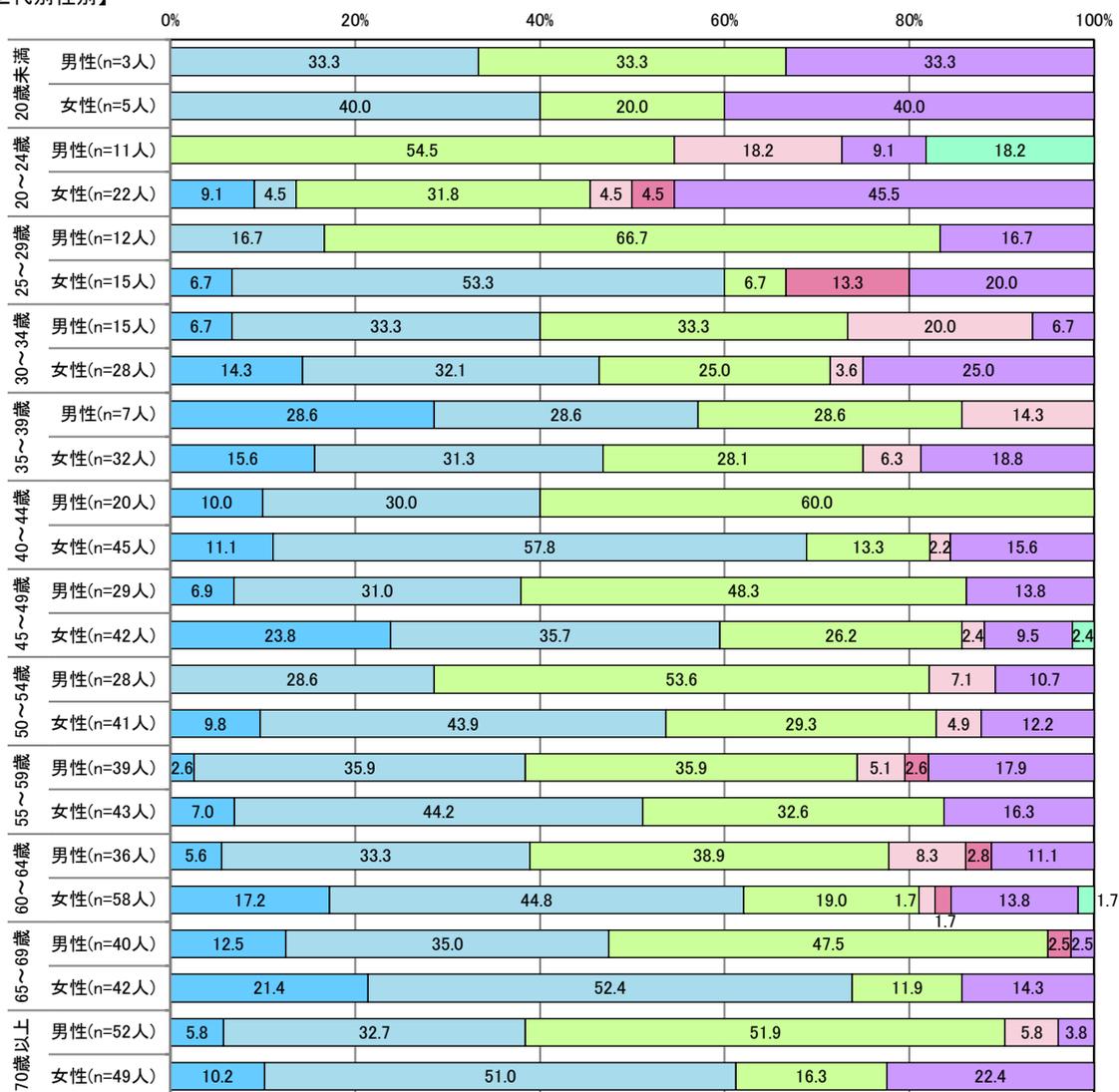


5 法律や制度の上では

- ・性別でみると、男性では「平等である」という回答が最も多く、約5割（46.9%）となっている。一方、女性は「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」（43.0%）という回答が最も多くなっている。法律や制度については男女間で感じ方に差があると考えられる。
- ・世代別性別でみると、男性では、20歳～29歳、40歳～44歳、50歳～54歳、70歳以上の世代で、「平等である」という回答が5割を超えている。
- ・女性では、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となる世代は、25歳～29歳、40歳～44歳、60歳以上となっている。

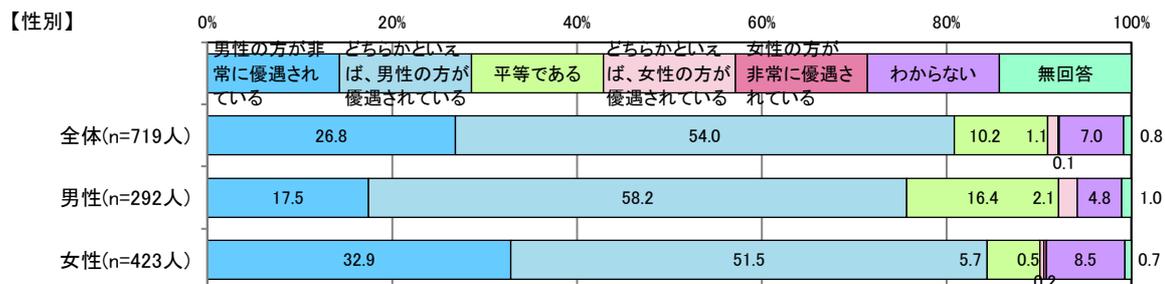


【世代別性別】

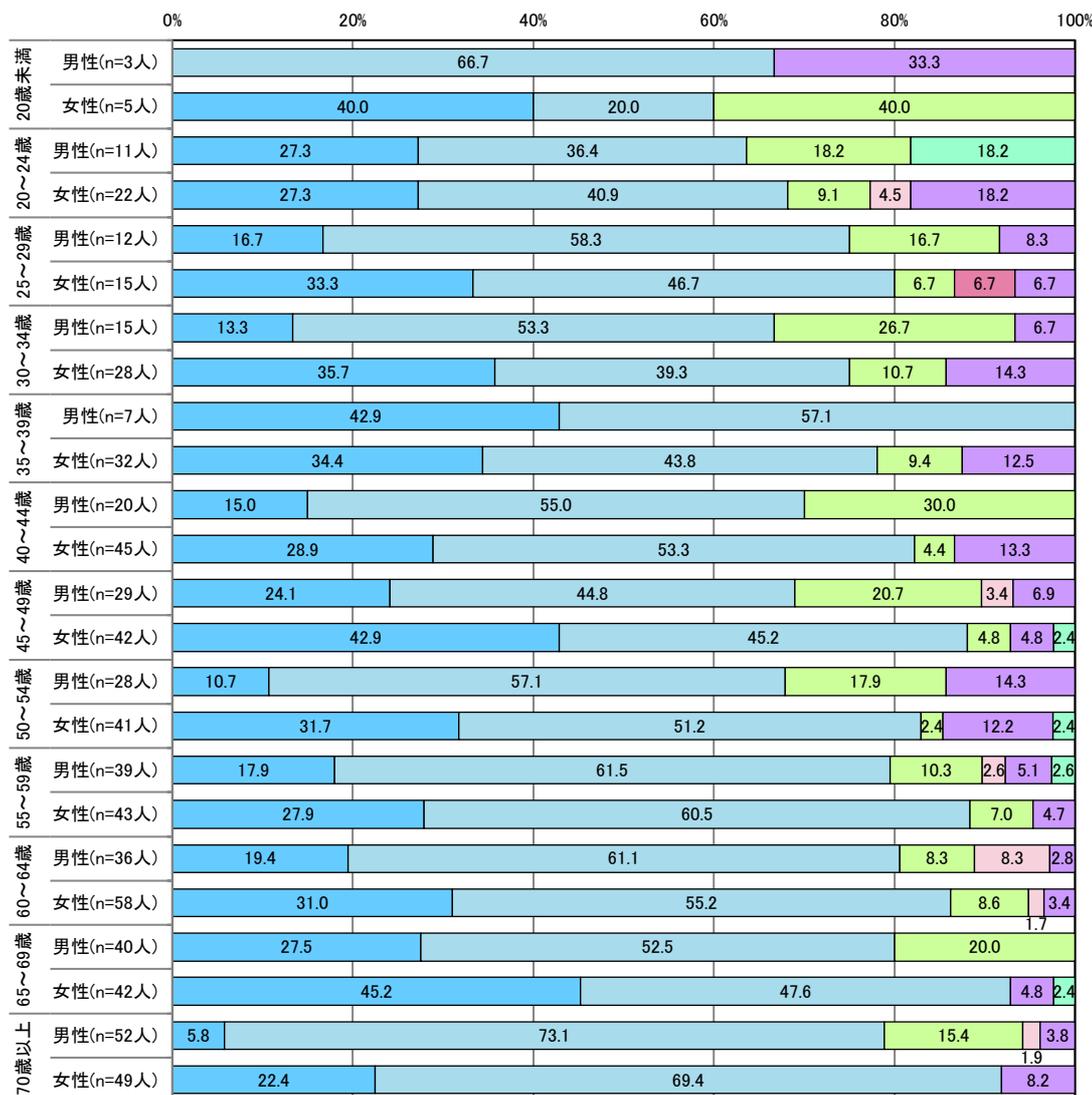


6 社会通念・慣習・しきたりでは

- ・性別では、男女とも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（58.2%）、女性（51.5%）となっている。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代でも、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。
- ・特に8割以上の世代は、25歳～29歳の女性、35歳～39歳の男性、40歳～59歳の女性、60歳～69歳の男女、70歳以上の女性となっている。



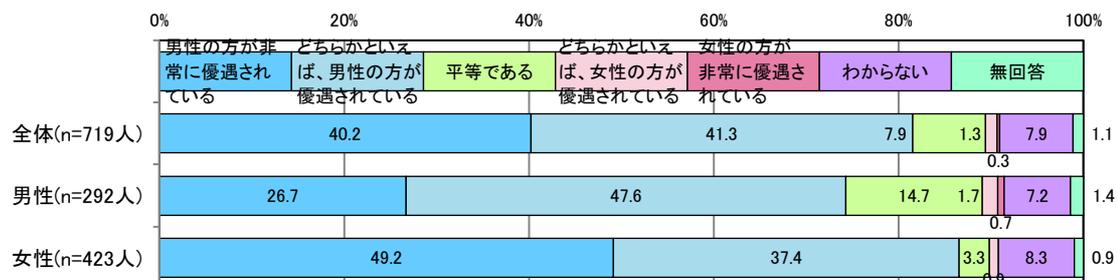
【世代別性別】



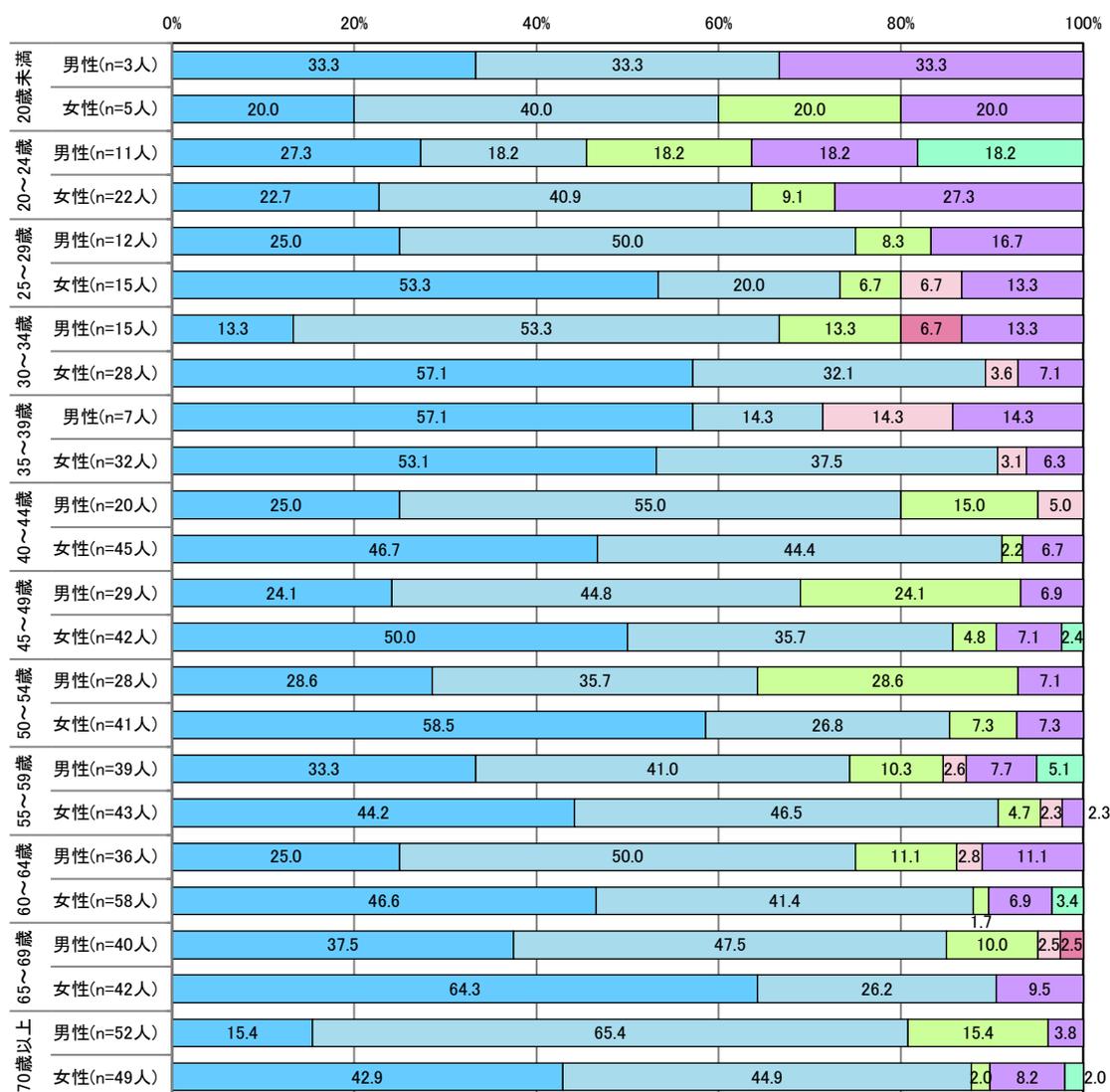
7 政治の場では

- ・性別でみると、男性は「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」が約5割（47.6%）、女性は「男性の方が非常に優遇されている」が約5割（49.2%）と最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。

【性別】

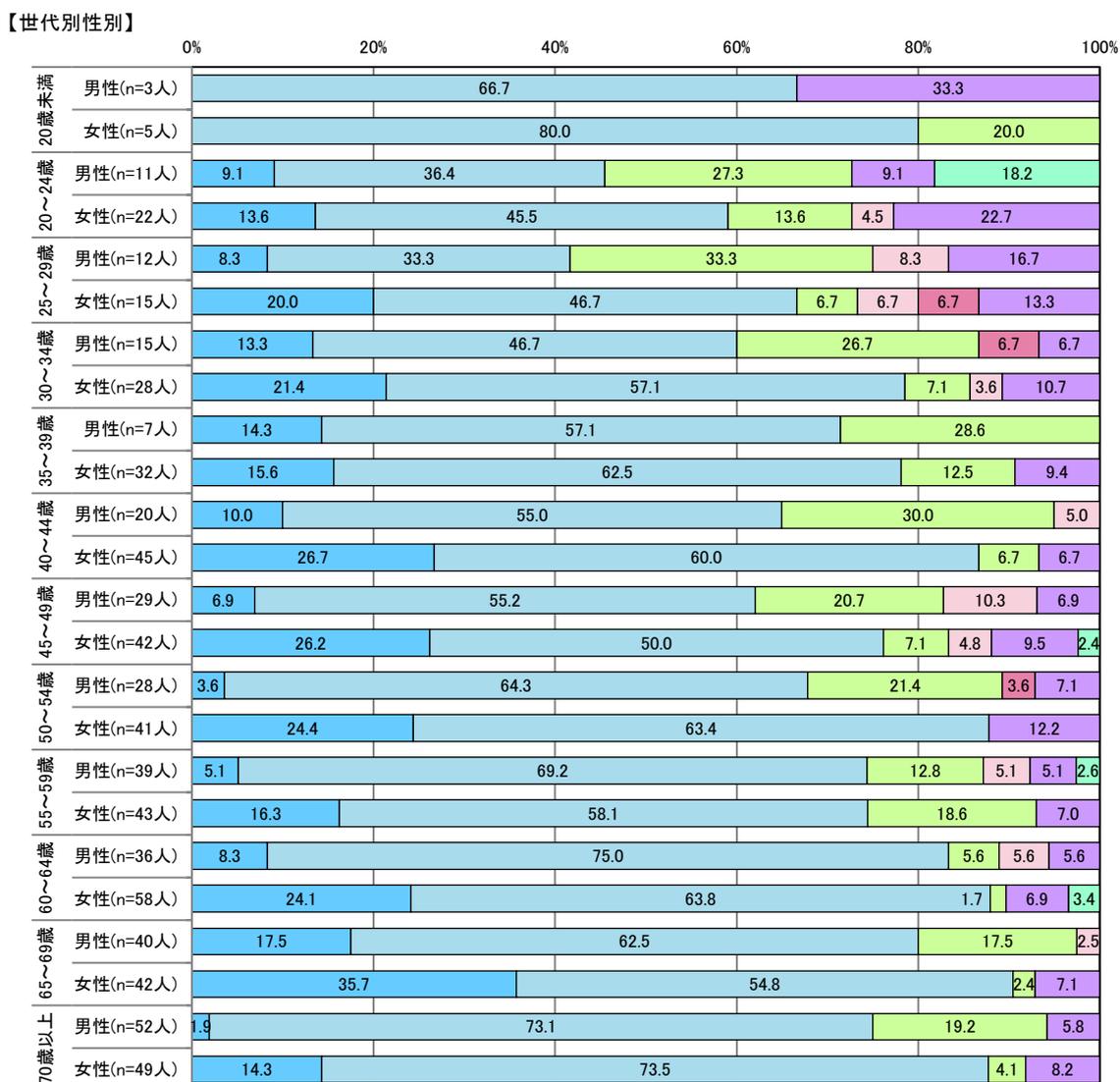
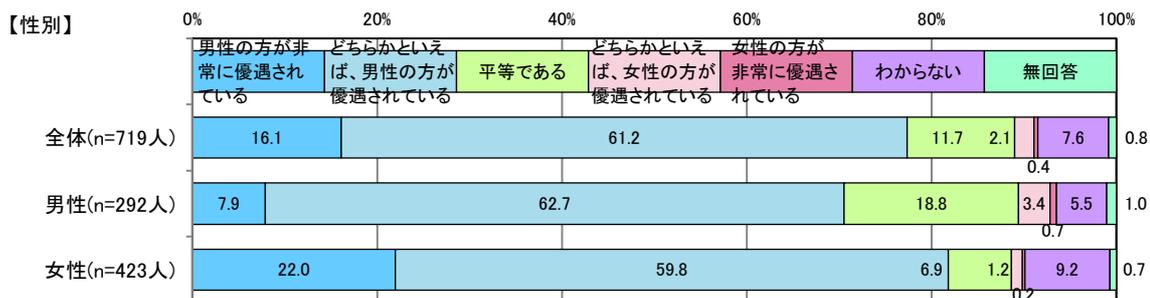


【世代別性別】



8 社会全体では

- ・性別でみると、男女とも「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答が最も多く、男性（62.7%）、女性（59.8%）とも約6割となっている。
- ・「平等である」という回答は、男性が約2割（18.8%）、女性が約1割（6.9%）となる。社会全体においても男性が優位であると感じている割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の男性を除き、いずれの世代においても「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば、男性の方が優遇されている」という回答合計が6割以上となっている。

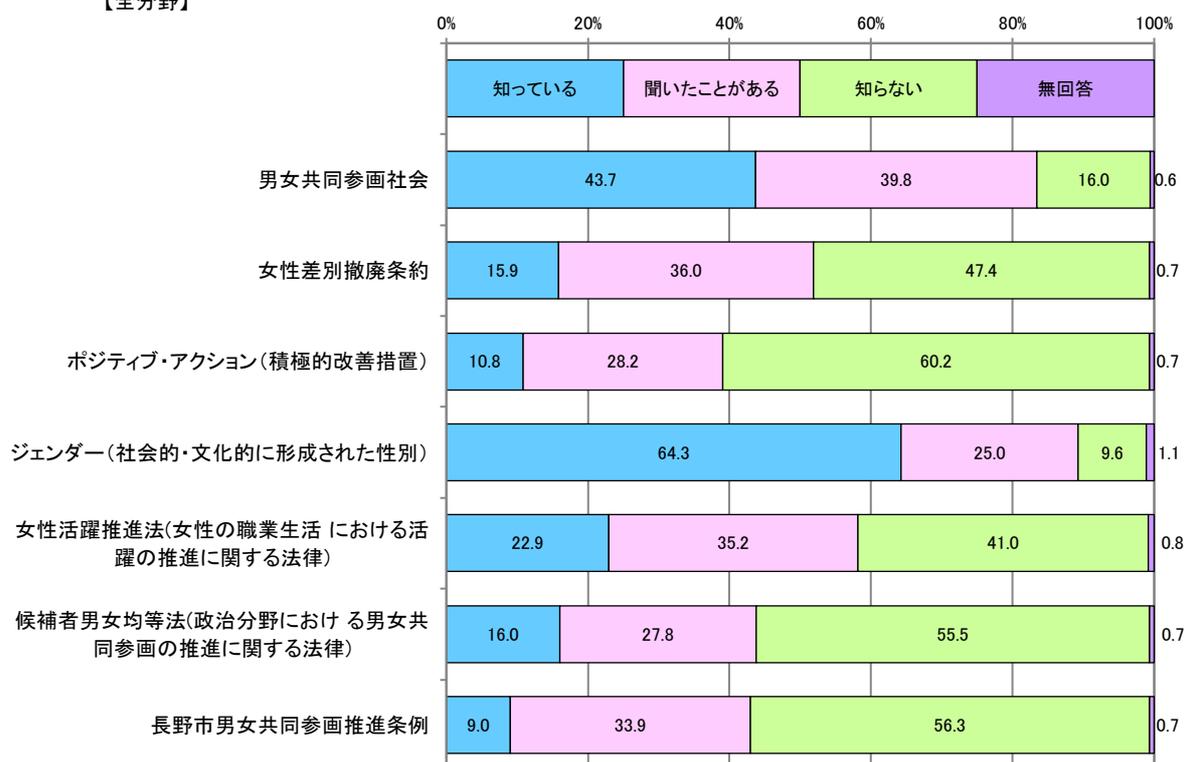


問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
 あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合を合計すると、「ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）」（89.3%）、「男女共同参画社会」（83.5%）が8割以上と認知度が高い。次に、「女性活躍推進法」（58.1%）、「女性差別撤廃条約」（51.9%）が5割台、「候補者男女均等法」（43.8%）「長野市男女共同参画推進条例」（42.9%）が約4割となっている。

【全分野】

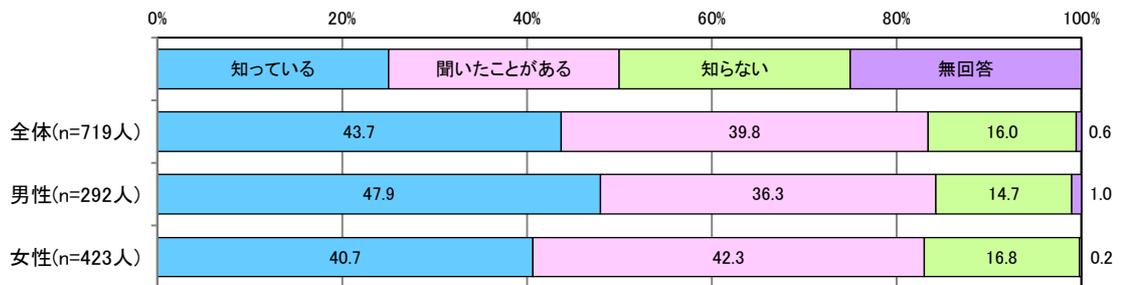
全体 (n=719)



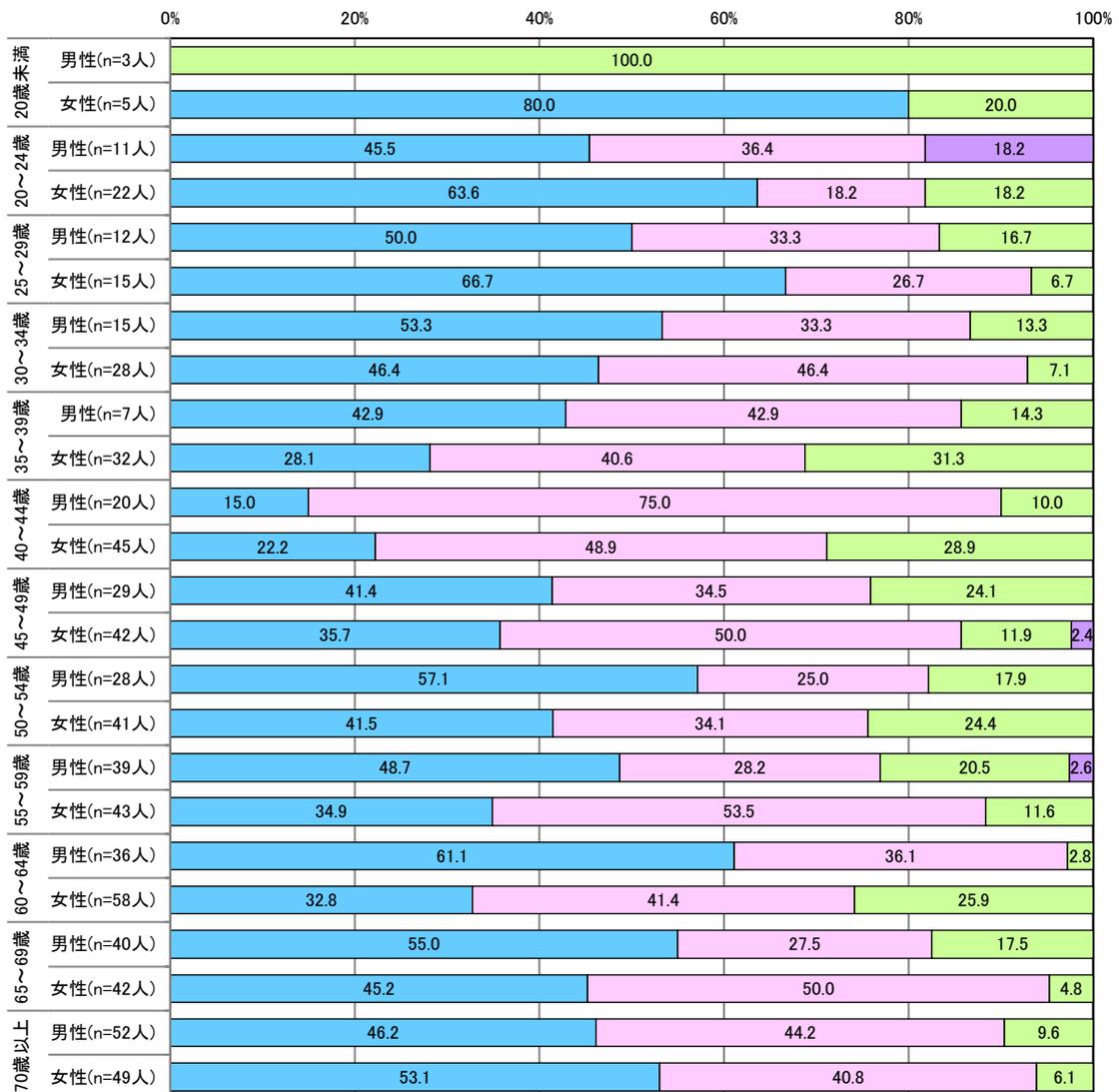
1 男女共同参画社会

- ・性別では、男女とも「知っている」及び「聞いたことがある」の回答割合の合計が、約8割となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が9割を超えているのは、25歳～34歳の女性、60歳～64歳の男性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男女となっている。一方、35歳～44歳の女性で、「知らない」という回答が、約3割となっている。

【性別】



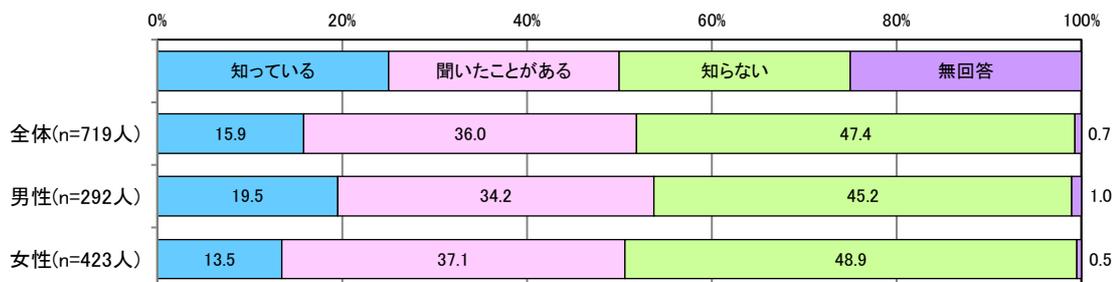
【世代別性別】



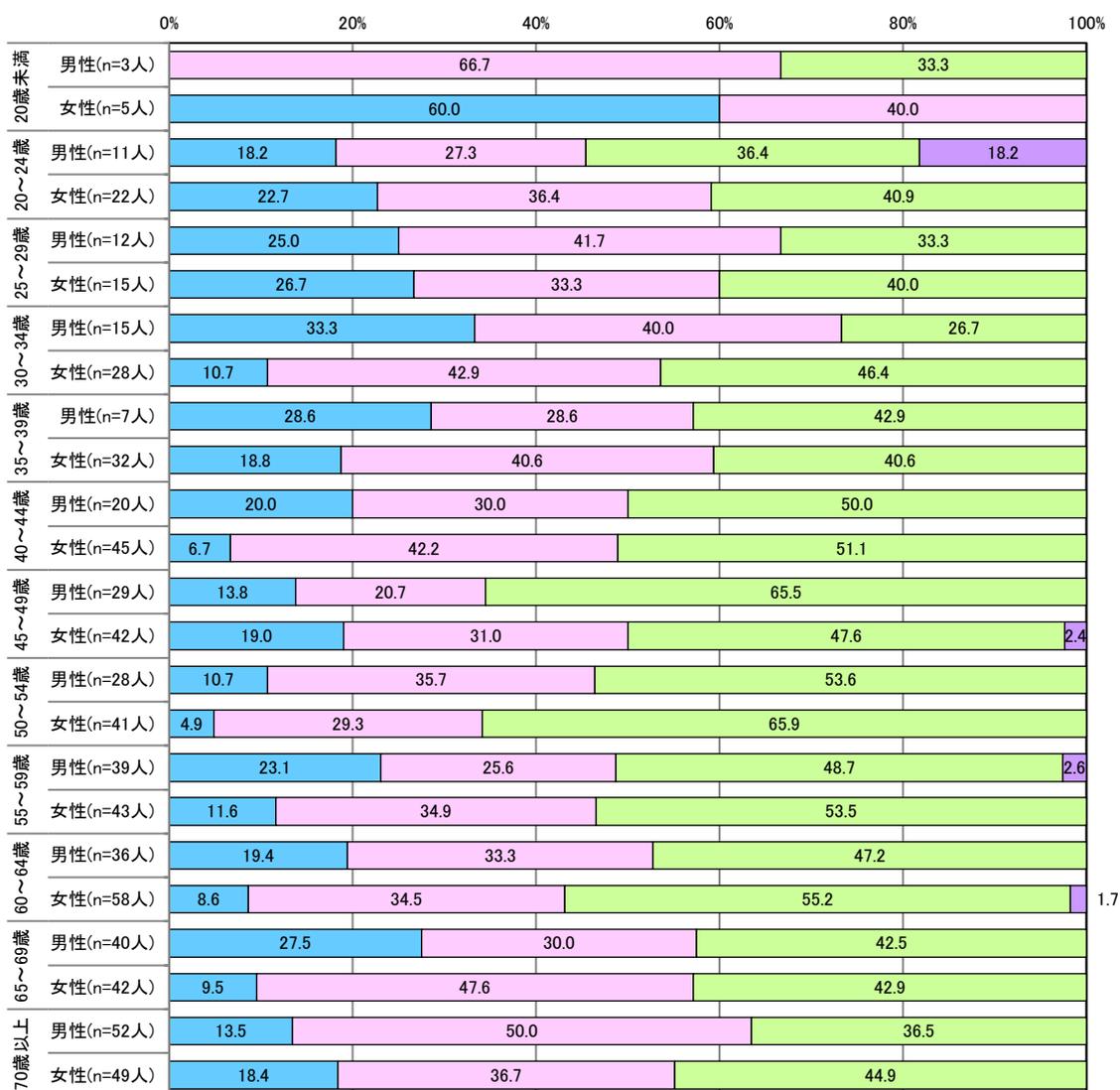
2 女性差別撤廃条約

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は45.2%、女性は48.9%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が53.7%、女性が50.6%となっている。
- ・世代別性別で見ると、40歳～44歳の男女、45歳～54歳の男性、50歳～64歳の女性で、「知らない」という回答が5割以上となっている。

【性別】



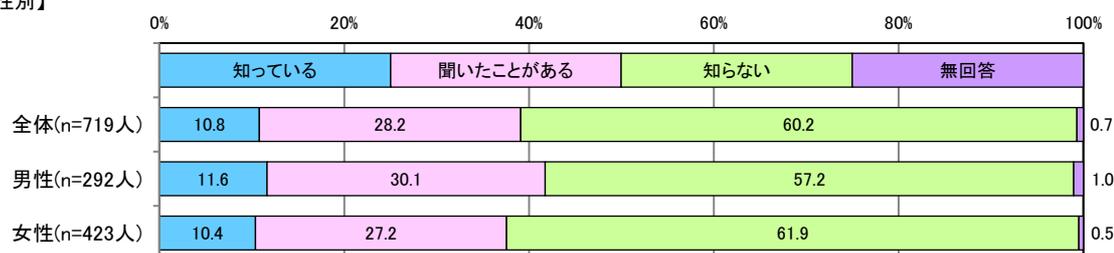
【世代別性別】



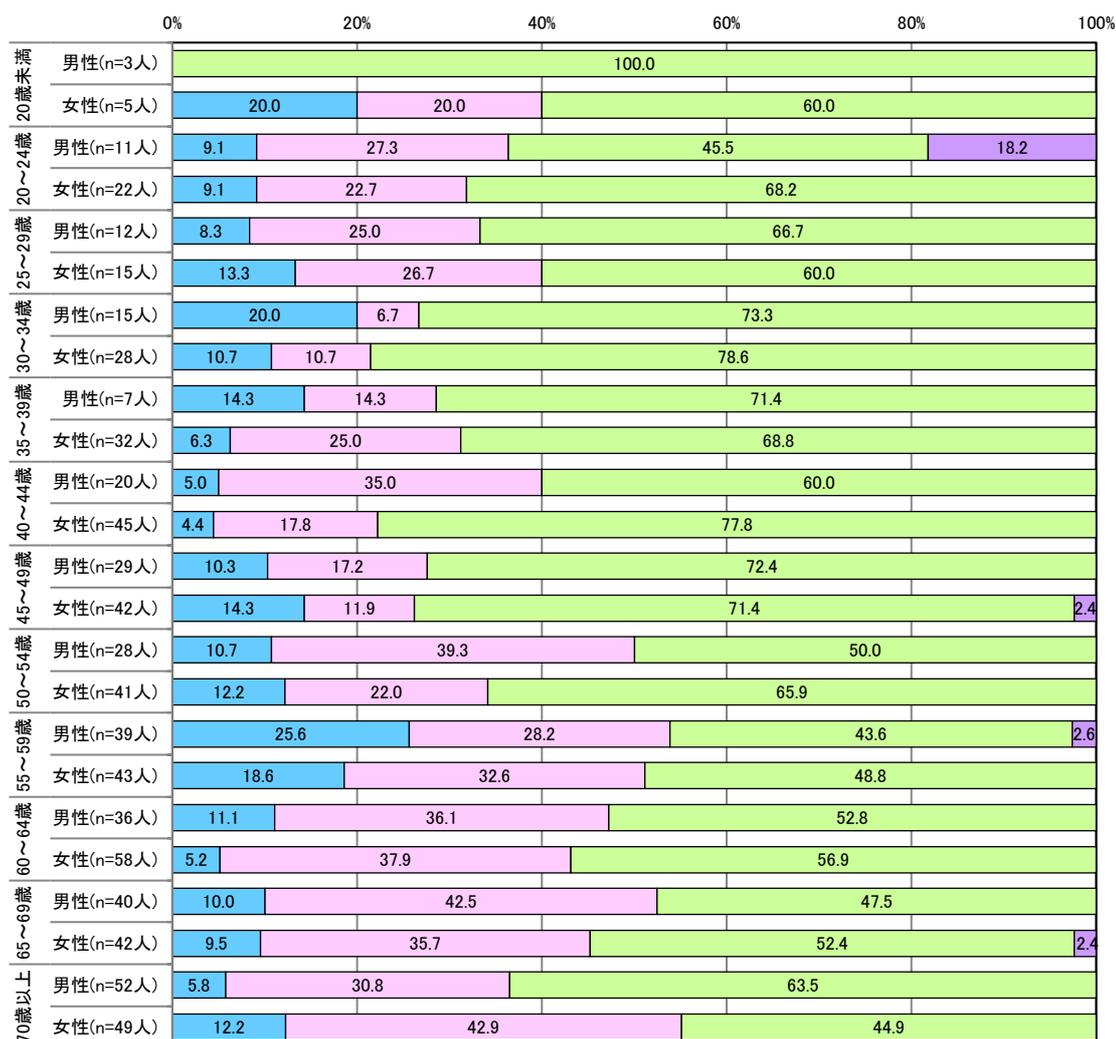
3 ポジティブ・アクション（積極的改善措置）

- ・性別で見ると、「知らない」という回答が男女とも最も多く、男性が 57.2%、女性が 61.9% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 41.7%、女性が 37.6%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知らない」という回答割合が 6 割を以上となっているのは、20 歳未満の男女、20 歳～54 歳の女性、25 歳～49 歳の男性、70 歳以上の男性となっている。「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が 4 割以上は、20 歳未満の女性、25 歳～29 歳の女性、40 歳～44 歳の男性、50 歳～54 歳の男性、55 歳～69 歳の男女、70 歳以上の女性となっている。

【性別】



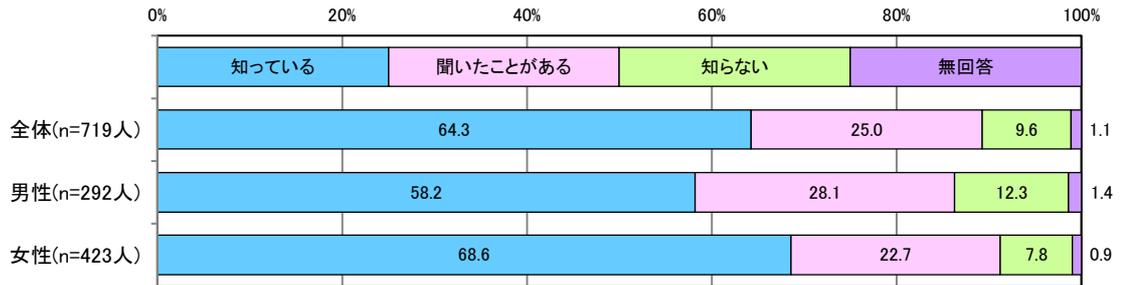
【世代別性別】



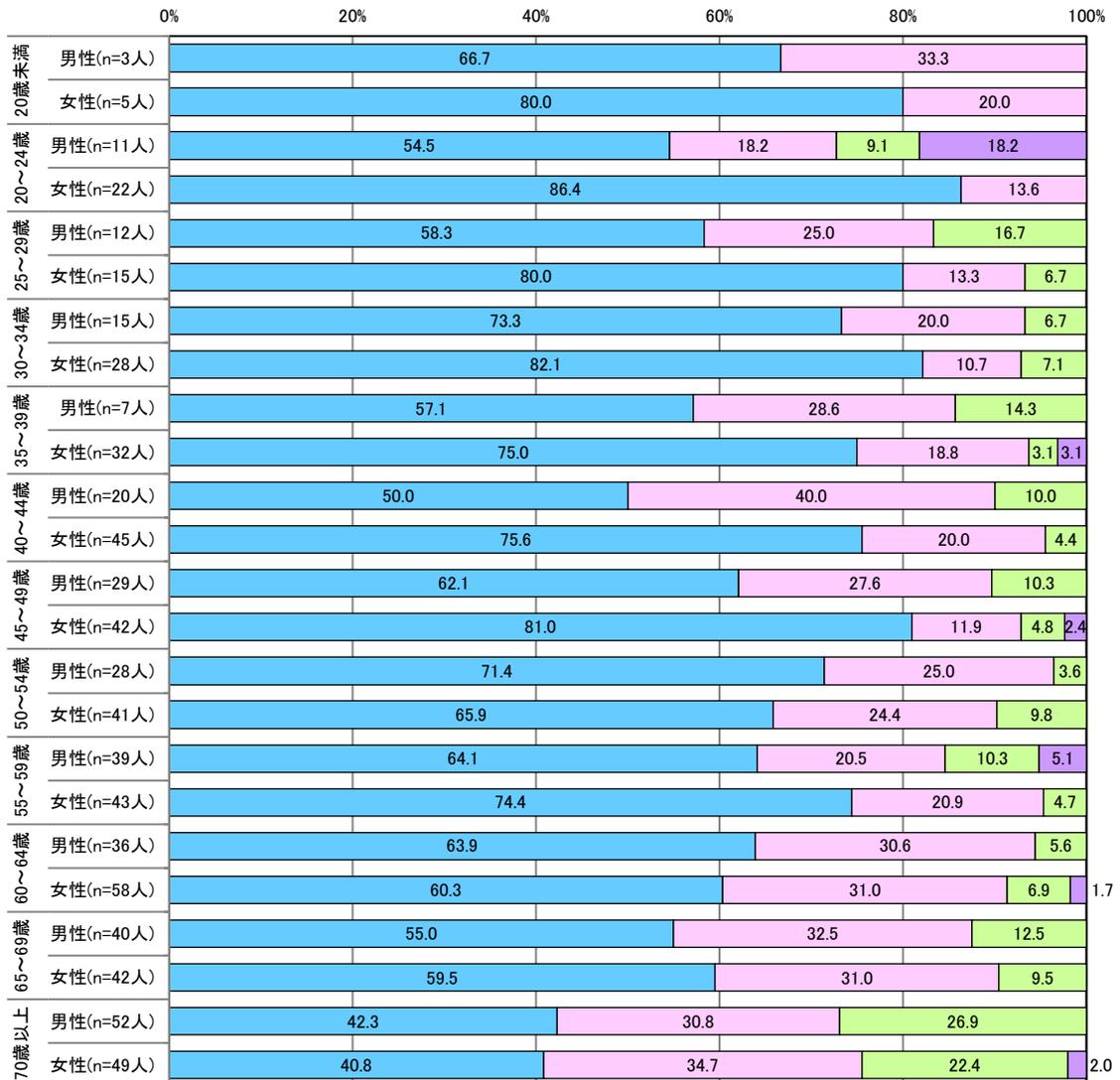
4 ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）

- ・性別で見ると、「知っている」という回答が男女とも最も多く、男性が 58.2%、女性が 68.6% となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が 86.3%、女性が 91.3%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「知っている」という回答割合が 8 割を超えているのは、34 歳以下の女性、45 歳～49 歳の女性となっている。一方、「知らない」という回答割合が 2 割を超えているのは、70 歳以上の男女となっている。

【性別】



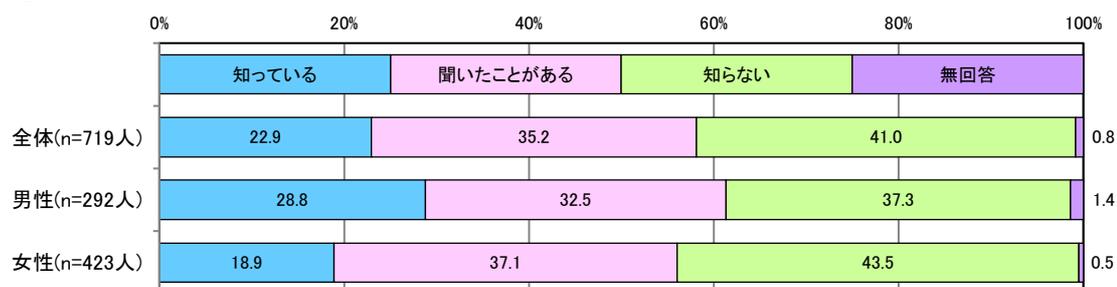
【世代別性別】



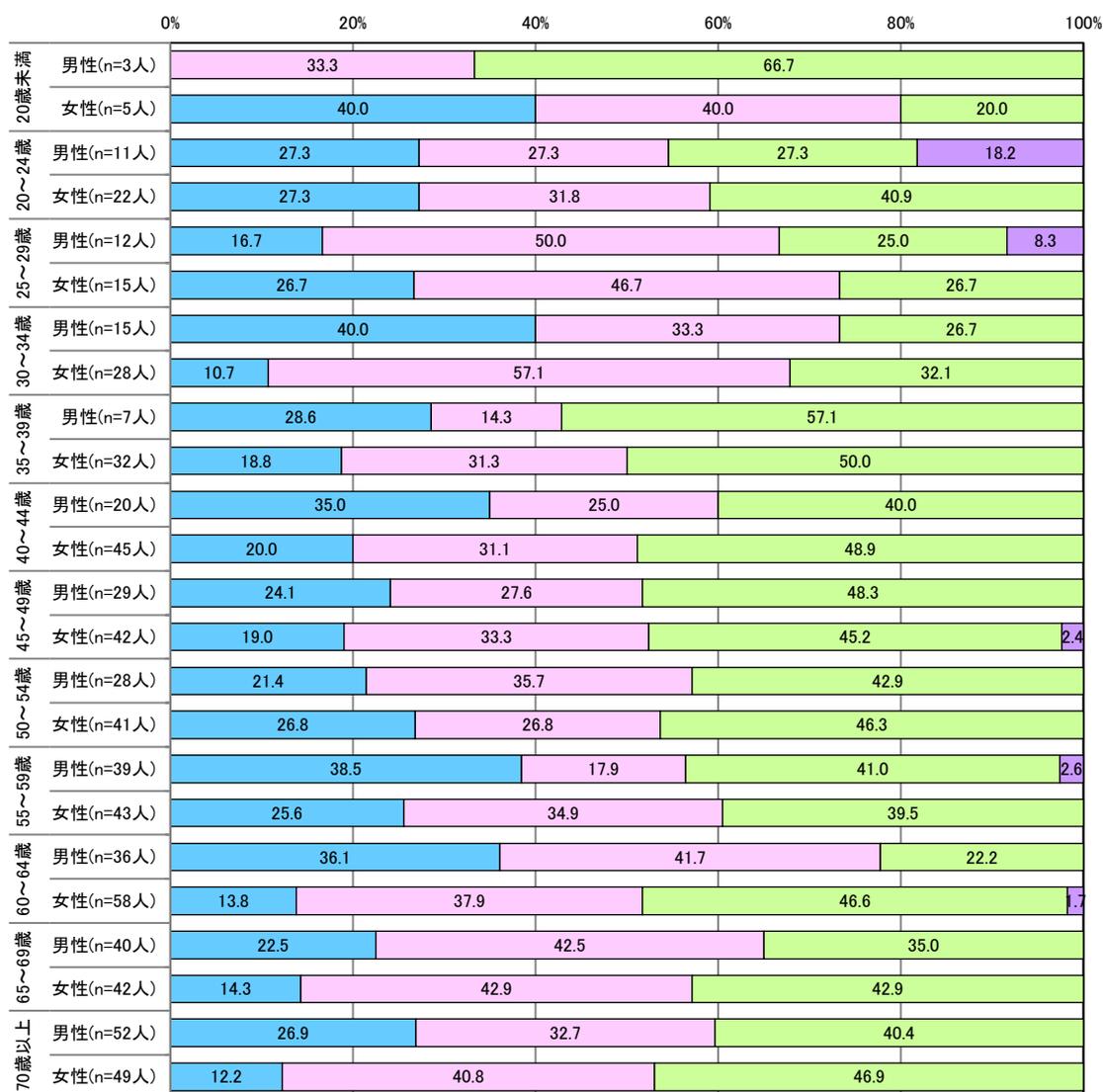
5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は37.3%、女性は43.5%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が61.3%、女性が56.0%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満の女性、25歳～34歳の男女で、40歳～44歳の男性、55歳～59歳の女性、60歳～69歳の男性で、「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計が6割以上となっている。

【性別】



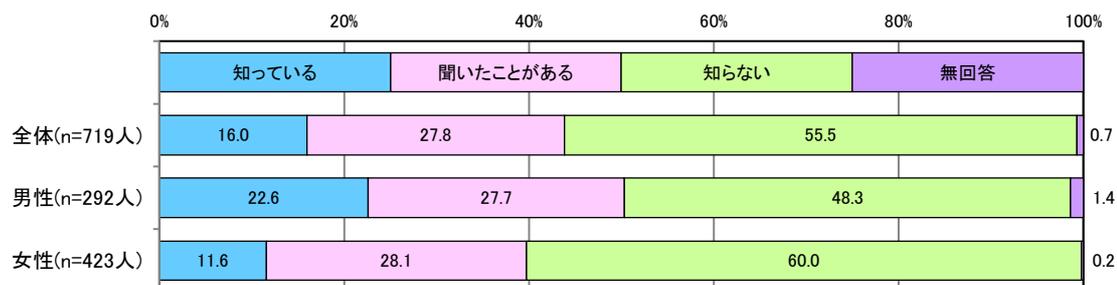
【世代別性別】



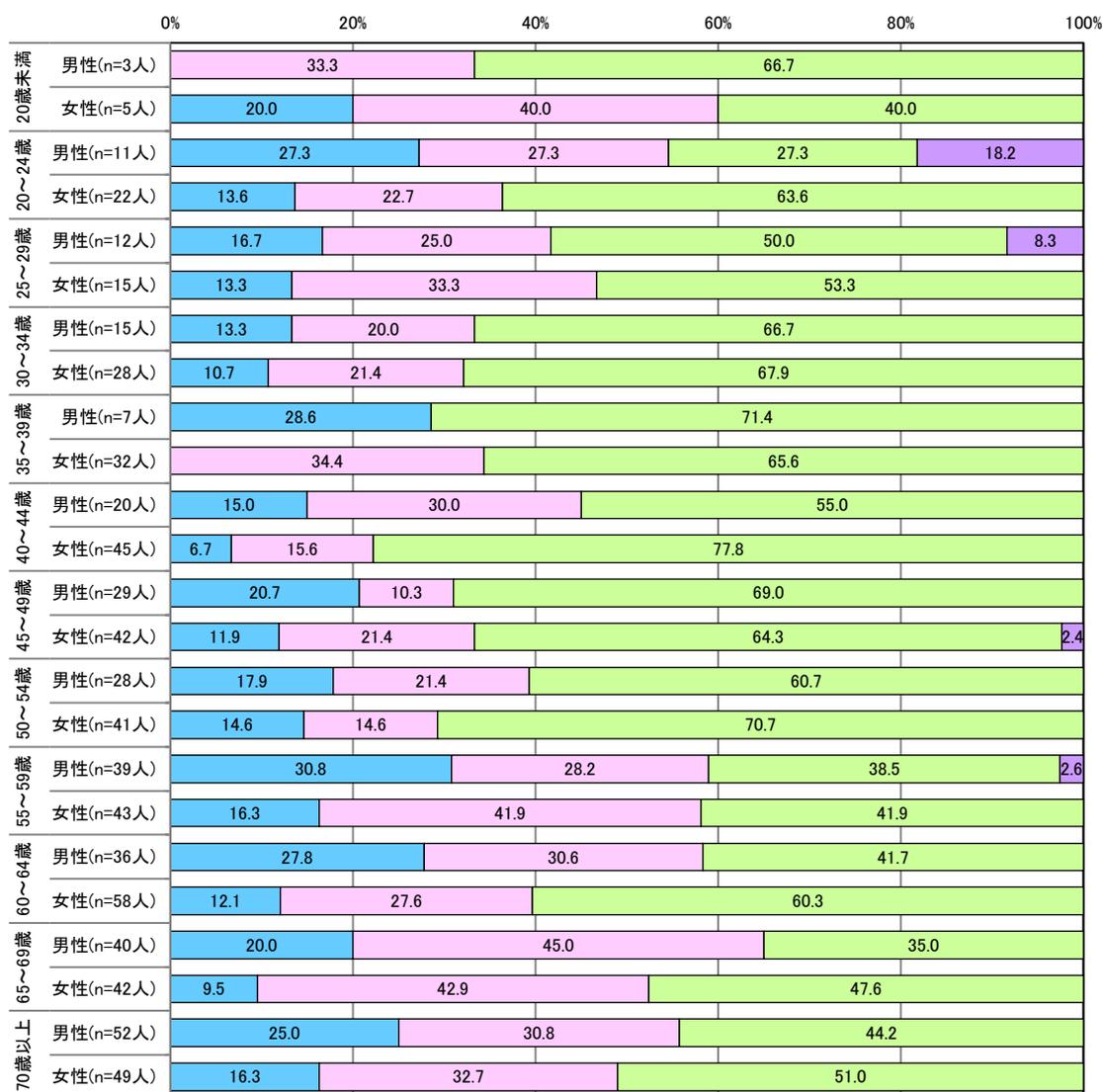
6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は48.3%、女性は60.0%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が50.3%、女性が39.7%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満の男性、20歳～24歳の女性、30歳～39歳の男女、40歳～44歳の女性、45歳～54歳の男女、60歳～64歳の女性で、「知らない」という回答が6割以上となっている。

【性別】



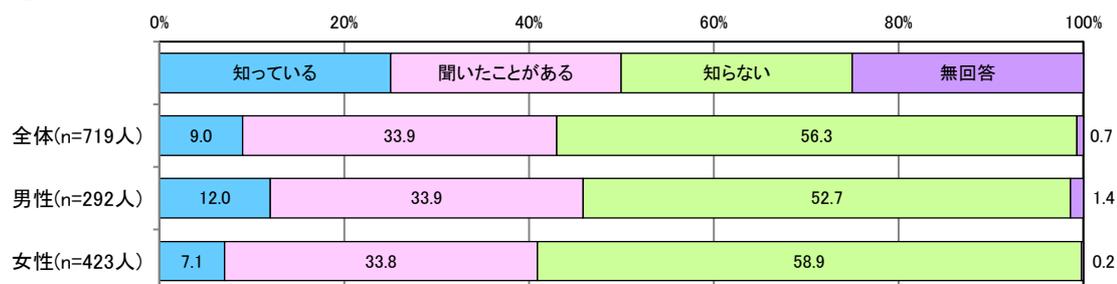
【世代別性別】



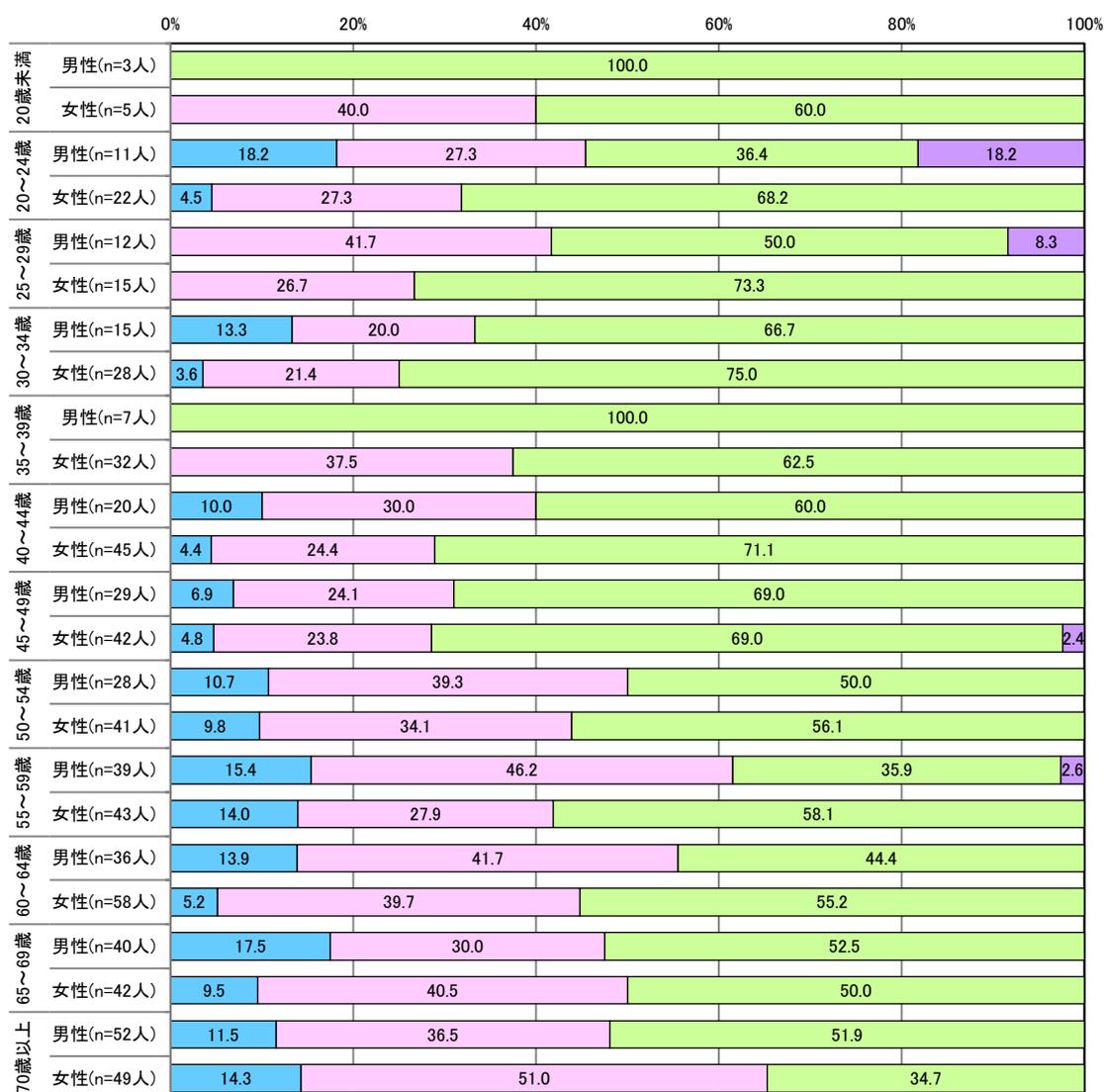
7 長野市男女共同参画推進条例

- ・性別で見ると、男女とも「知らない」という回答が最も多く、男性は52.7%、女性は58.9%となっている。
- ・「知っている」及び「聞いたことがある」という回答割合の合計は、男性が45.9%、女性が40.9%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満の男女、20歳～29歳の女性で、30歳～49歳の男女で、「知らない」という回答が6割以上となっている。

【性別】

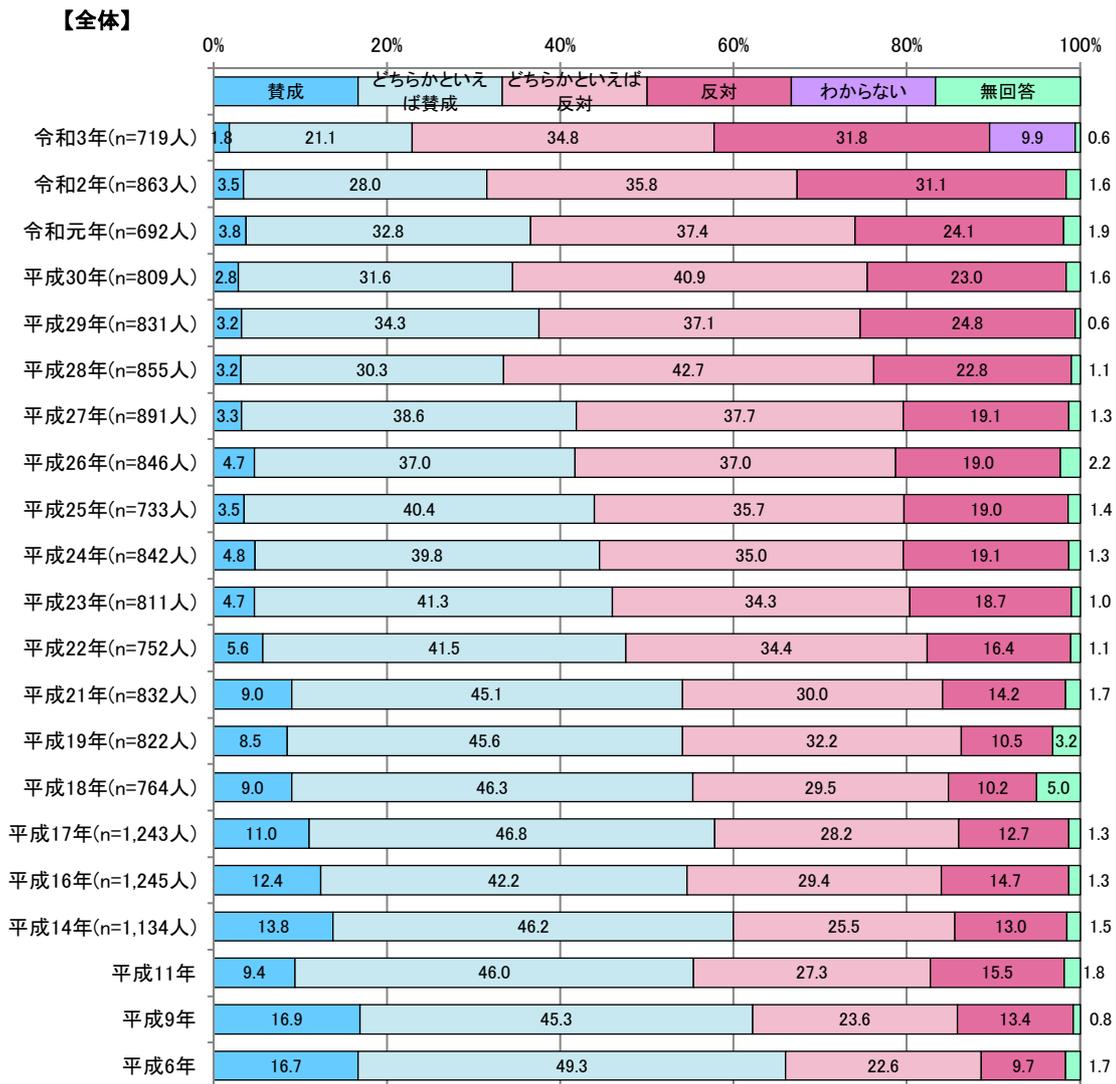


【世代別性別】

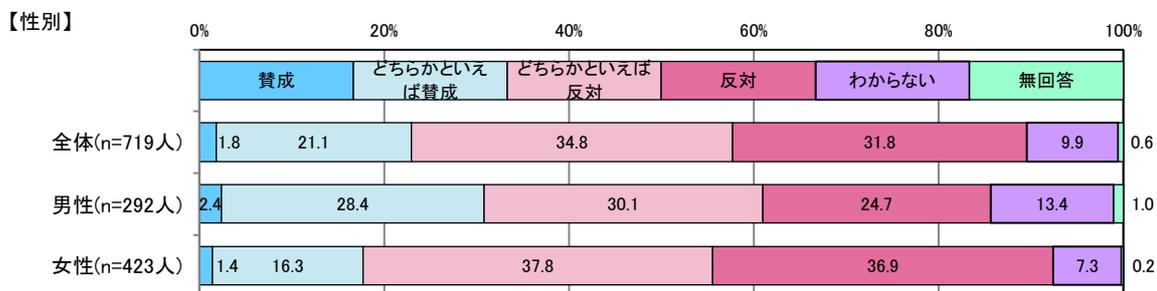


問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。次の中から1つお選びください。

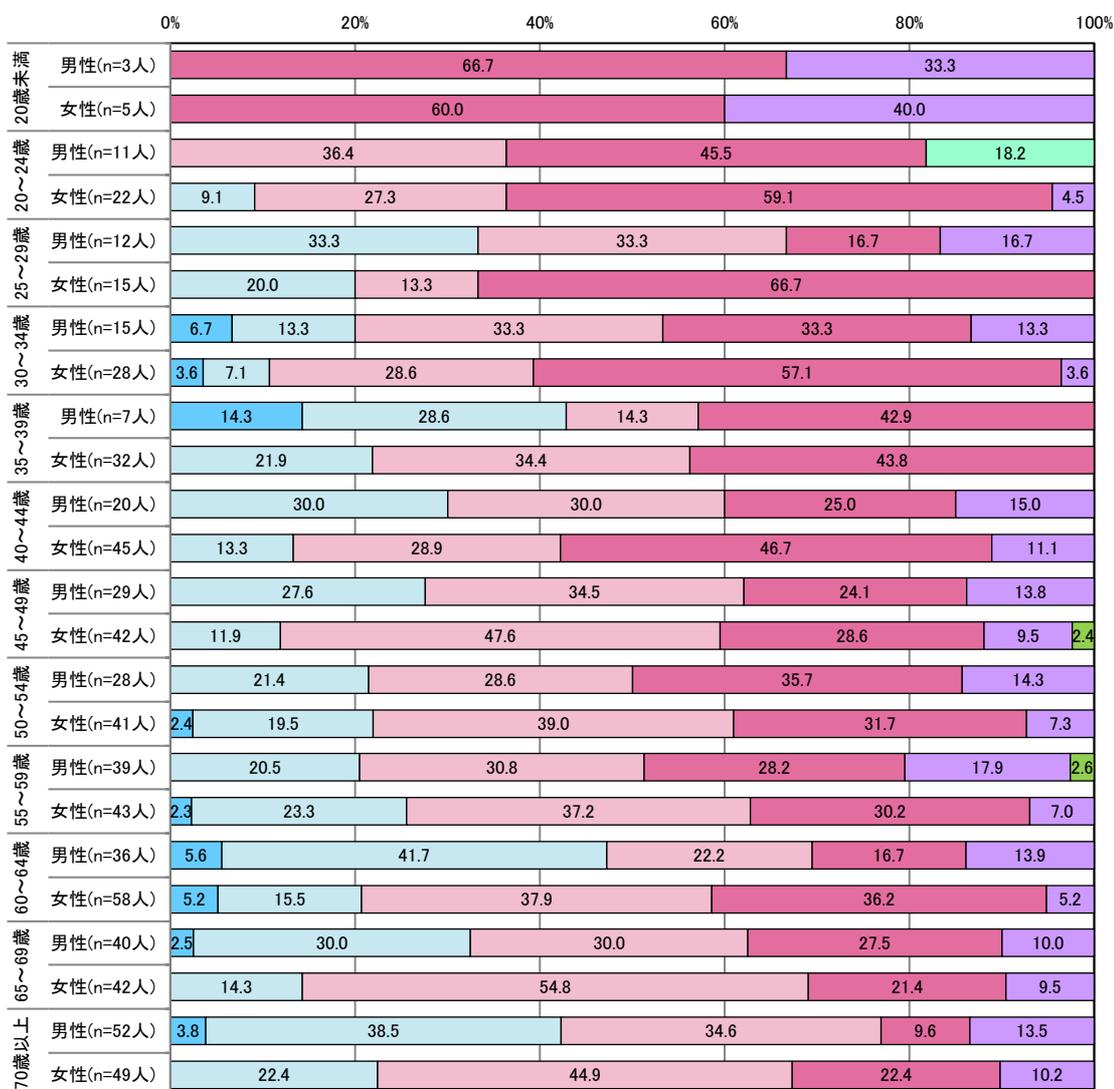
- ・令和3年の調査結果は、「賛成」が1.8%「どちらかといえば賛成」が21.1%、「どちらかといえば反対」が34.8%、「反対」が31.8%となった。
- ・経年的にみると、「賛成」及び「どちらかといえば賛成」という回答割合の合計は年々減少傾向にあり、平成28年以降は横ばい傾向となっていたものの、令和元年以降、再度減少傾向にある。令和3年は令和2年と比べて、「賛成」が1.7ポイント、「どちらかといえば賛成」は6.9ポイント減少となった。一方、「どちらかといえば反対」と「反対」の回答割合の合計は0.3ポイントの減少となり、「わからない」(9.9%)が約1割となった。



- ・性別で見ると、「反対」及び「どちらかといえば反対」という回答割合の合計は、男性が 54.8%、女性が 74.7%となっている。男性より女性の方が、性別によって役割を固定する考え方に否定的な方が多くなっている。
- ・世代別性別で見ると、「どちらかといえば反対」及び「反対」の回答割合の合計は、60歳～64歳の男性、70歳以上の男性を除いて、いずれの年代も5割を超えている。

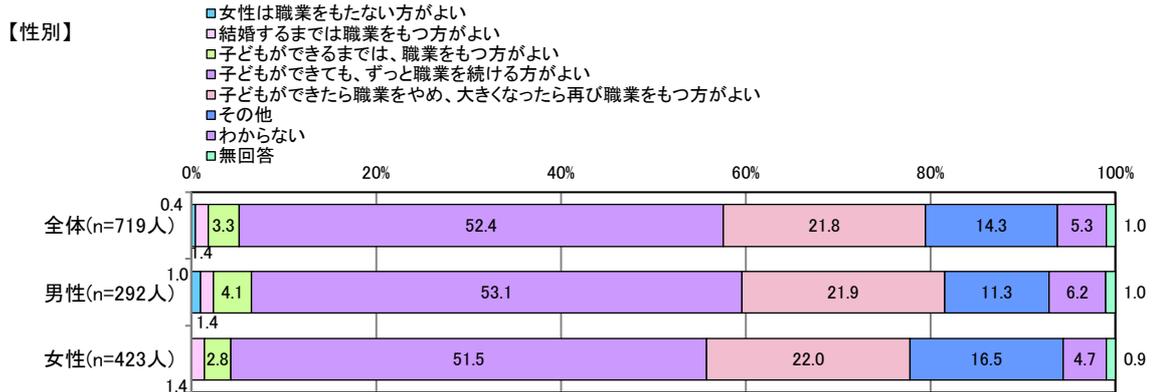


【世代別性別】

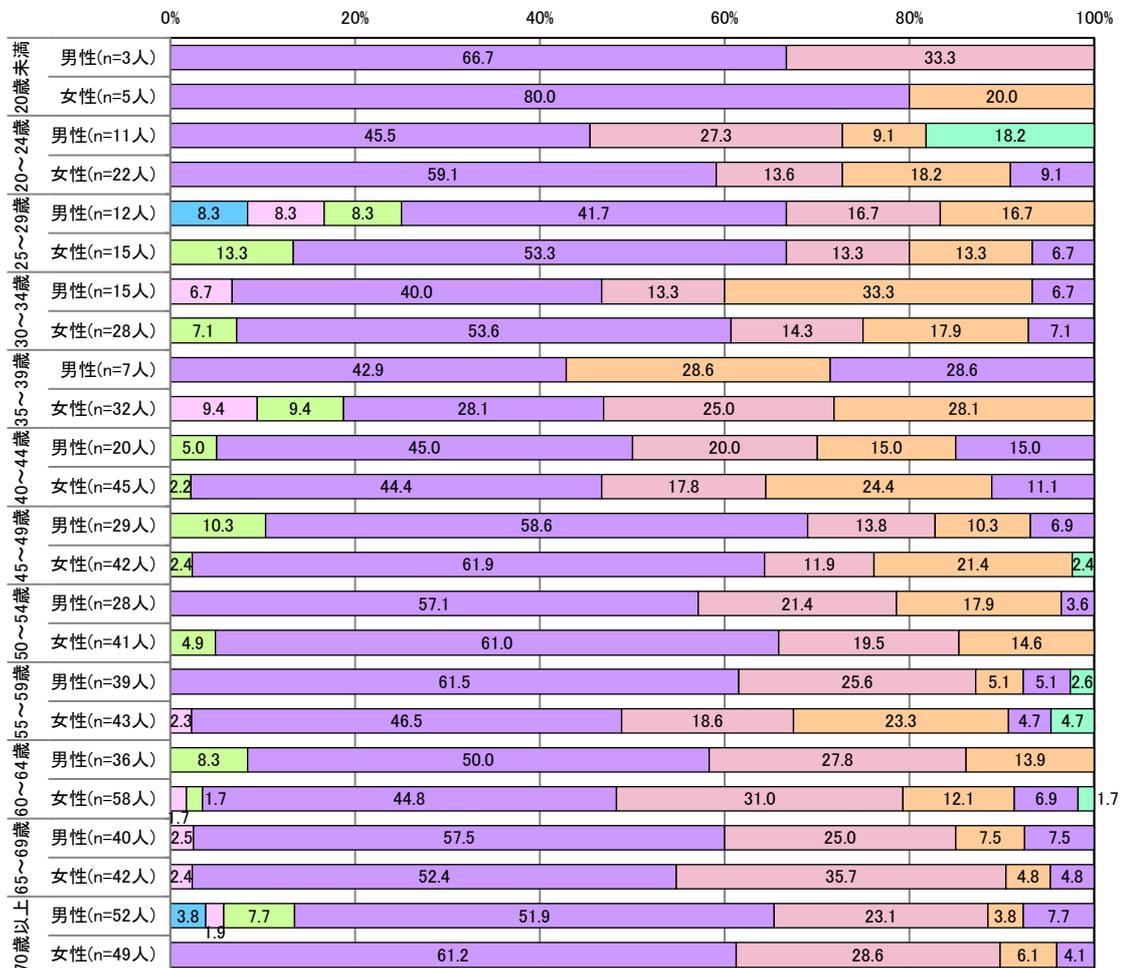


問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうお考えですか。
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女ともに、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が最も多く、次いで、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」となっている。
- ・世代別性別で見ると、35歳～39歳の女性を除き、いずれも「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が一番多くなっている。特に、20歳未満の男女、45歳～54歳の女性、55歳～59歳の男性、70歳以上の女性では、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」という回答が6割を超えている。



【世代別性別】

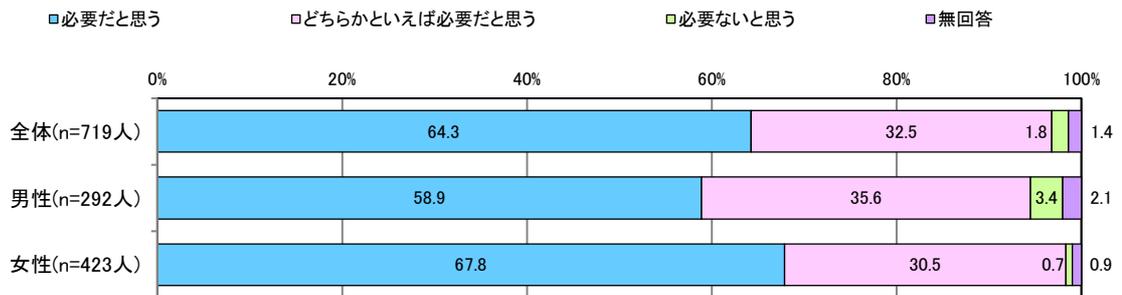


女性活躍推進法に基づく女性活躍と就労に関すること
について

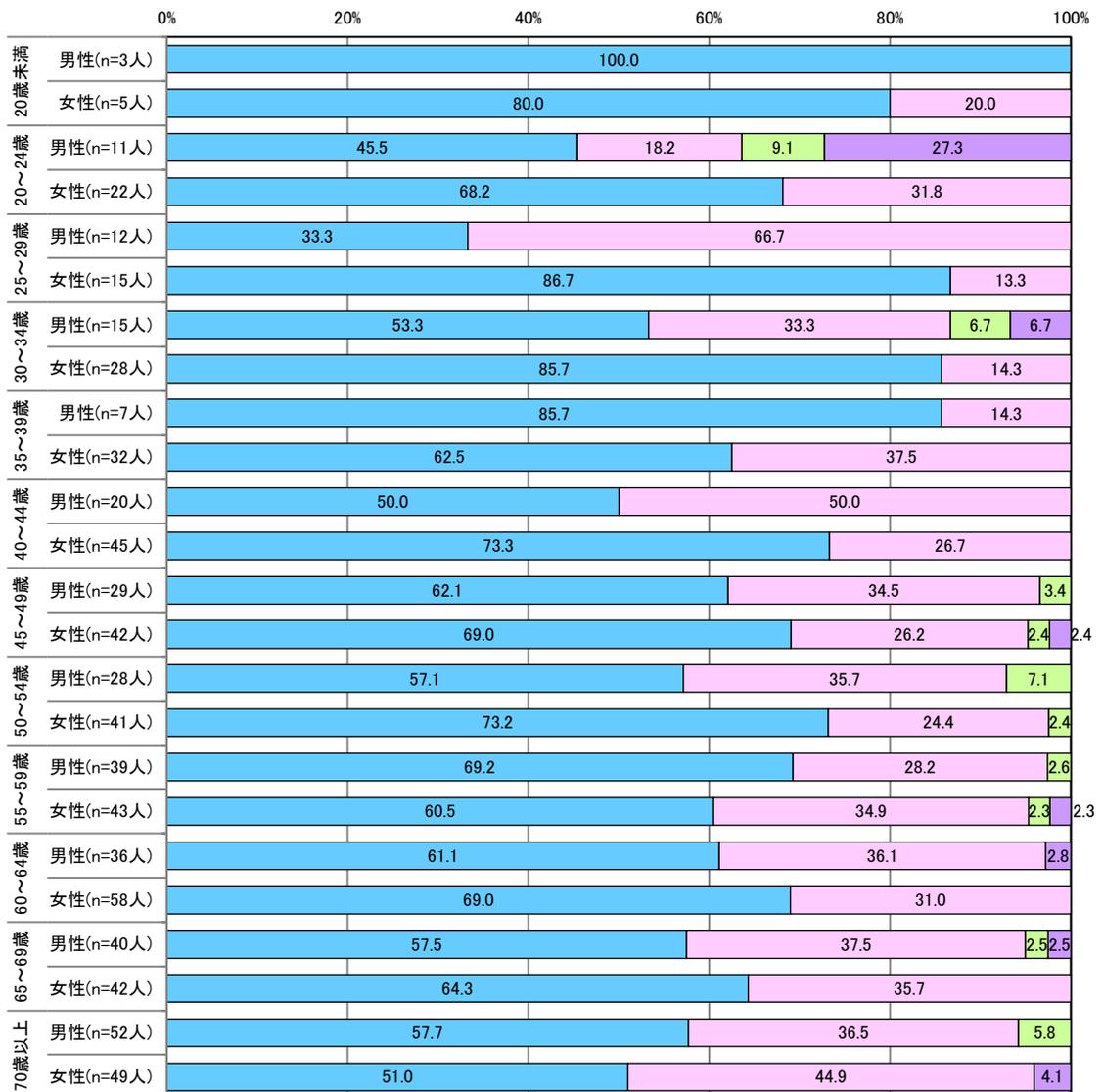
問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたは
 どうお考えですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男女ともに、「必要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、40歳～44歳の男性を除き、いずれの世代でも「必要だと思う」が最も多くなっている。特に、20歳未満の男女、25歳～34歳の女性、35歳～39歳の男性では8割を超えている。

【性別】



【世代別性別】



問6 現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「昇進や昇格」を除き、「平等である」という回答が最も多くなっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計でみると、「昇進や昇格」が約5割（52.4%）で、最も多くなっている。次いで、「賃金」（36.6%）、「経験や能力を発揮する機会」（36.3%）、「仕事の内容」（30.5%）、「研修の機会や内容」（23.4%）の順が続いている。一方、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答の割合は、「仕事の内容」が約1割（9.2%）となっている。それ以外の分野では、2%以下となっている。

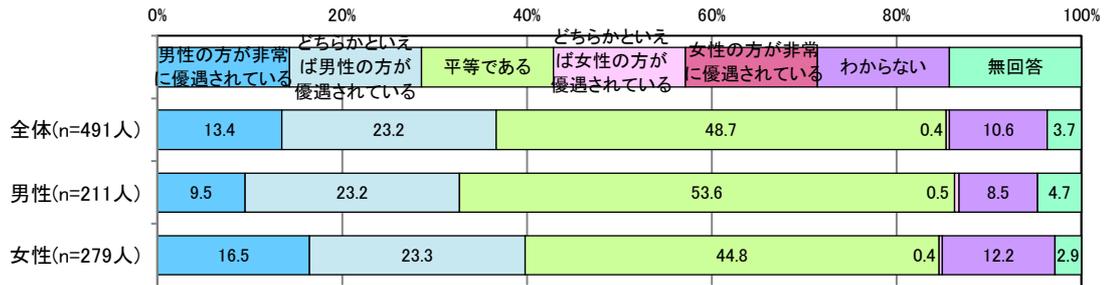


(全体 n=491人)

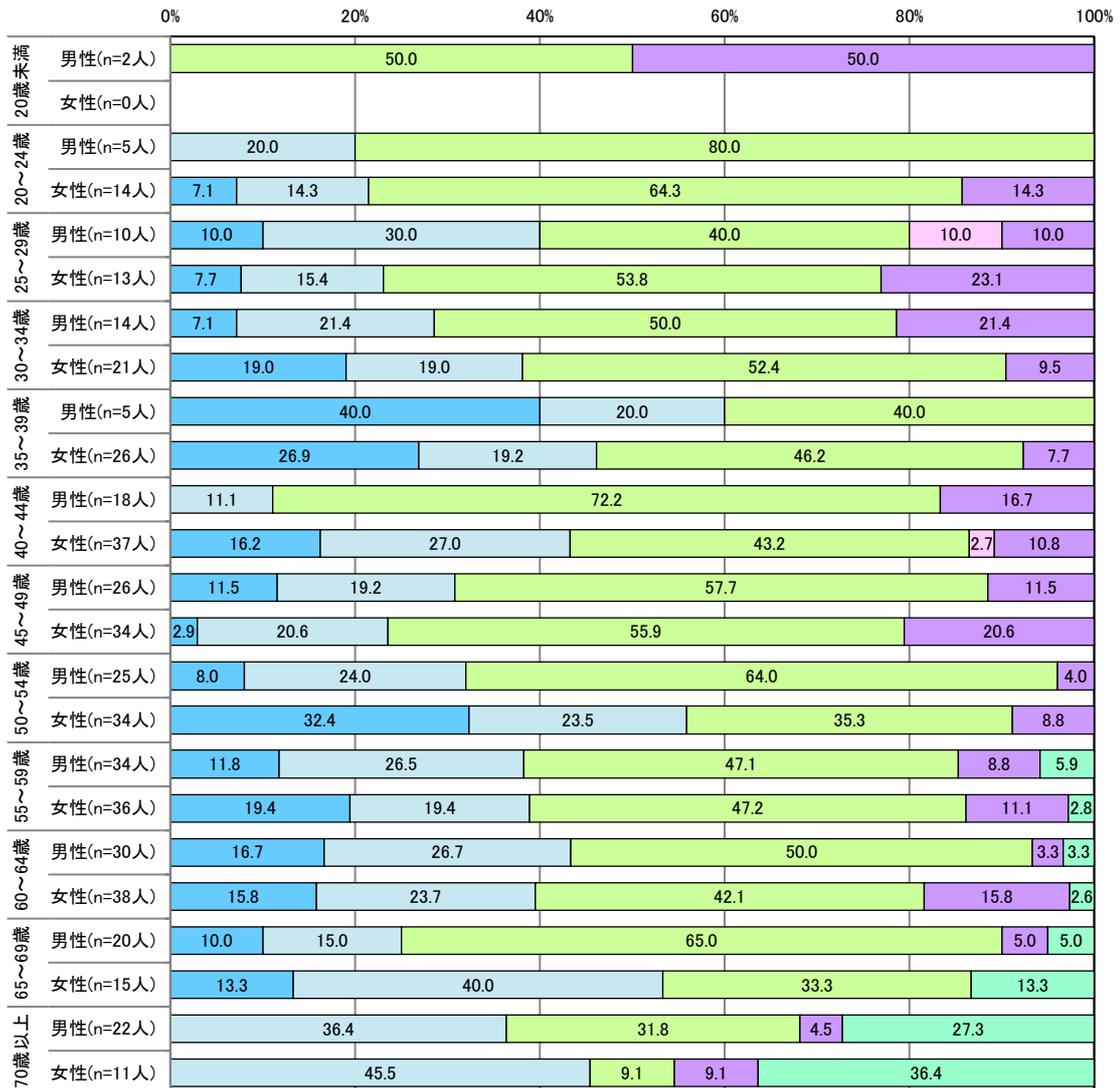
1 賃金

- ・性別でみると、男女ともに、「平等である」という回答が最も多く、男性は53.6%で、女性は44.8%となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計では、男性は32.7%、女性は39.8%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、35歳～39歳の男性、50歳～54歳の女性、65歳以上の女性、70歳以上の男性を除き、いずれも「平等である」という回答の割合最も多くなっている。

【性別】



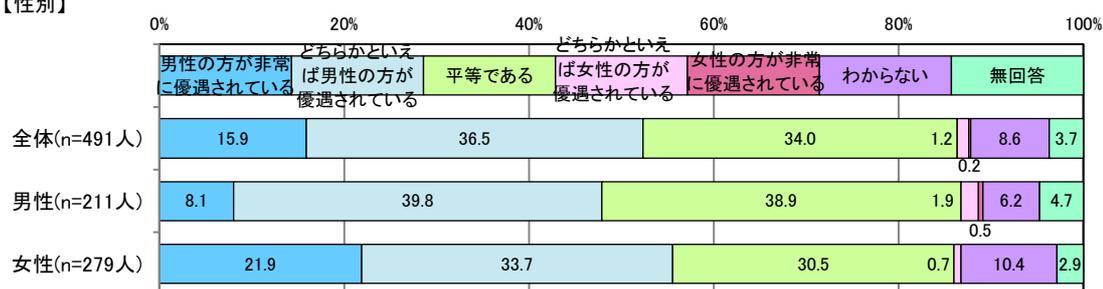
【世代別性別】



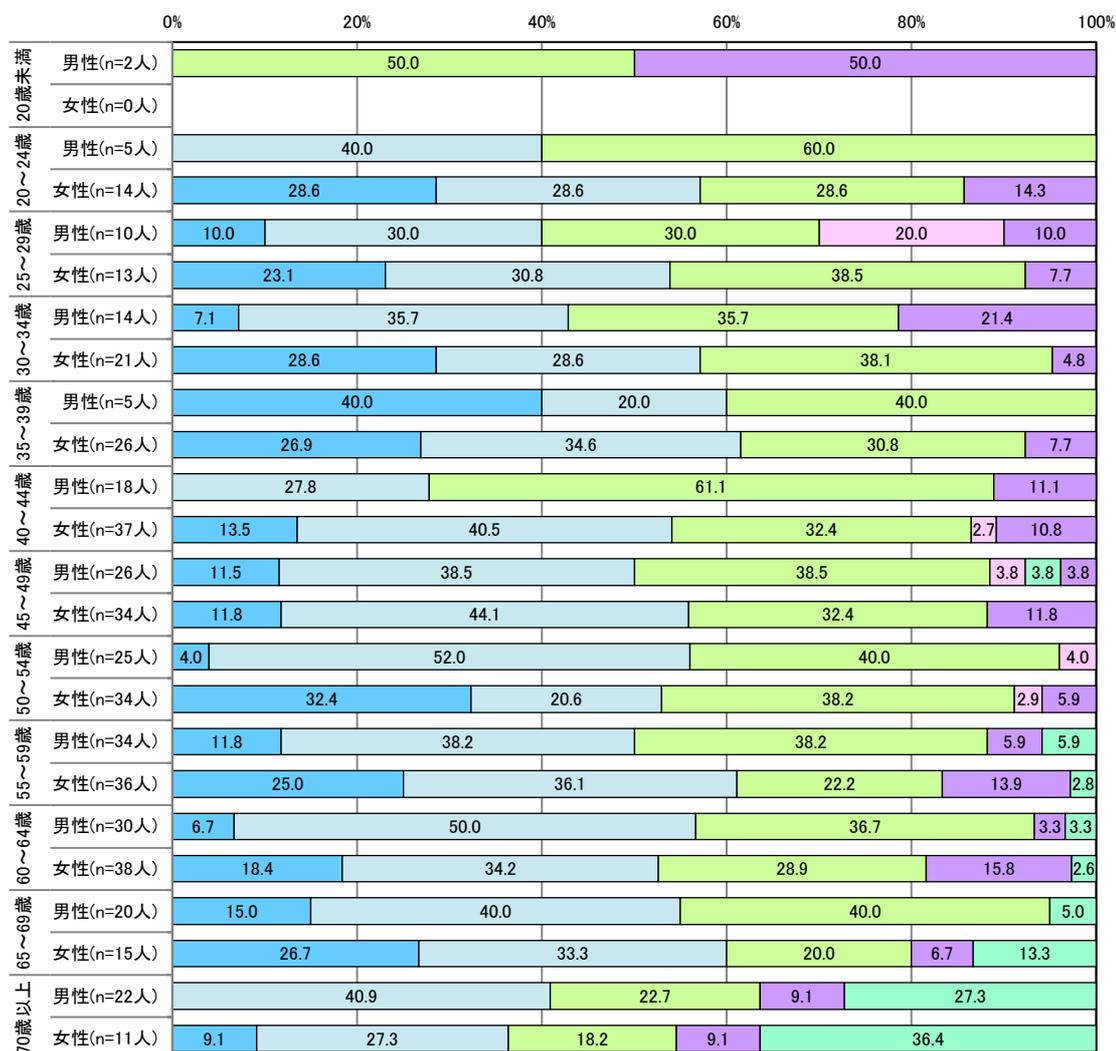
2 昇進や昇格

- ・性別でみると、男女とも、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」と「平等である」が拮抗している。男性は、それぞれ約4割、女性はそれぞれ約3割となっている。
- ・「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」という回答合計では、男性は47.9%、女性は55.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、「男性の方が非常に優遇されている」、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」の回答合計が5割以上となる世代は、20歳～69歳の女性、35歳～39歳の男性、45歳～69歳の男性となっている。一方、40歳～44歳の男性では、「平等である」(61.1%)が約6割と最も多くなっている。

【性別】

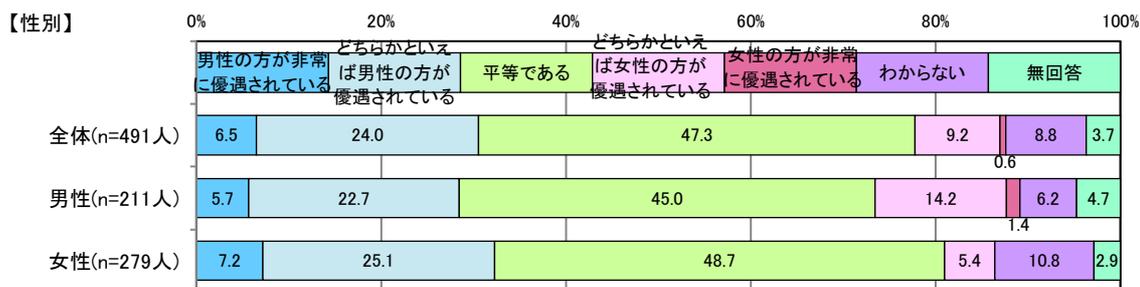


【世代別性別】

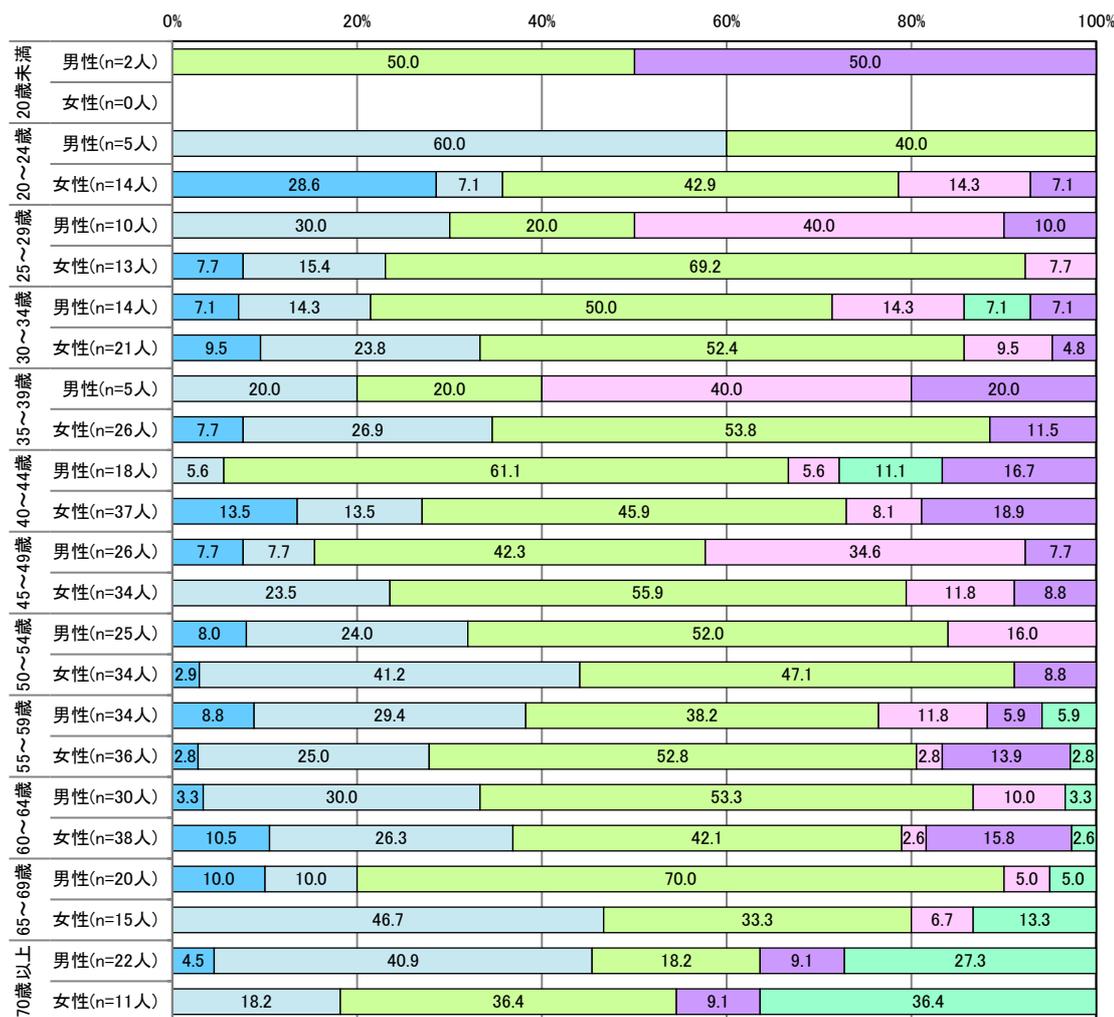


3 仕事の内容

- ・性別で見ると、男女とも「平等である」という回答が最も多く、男性が 45.0%、女性が 48.7% となっている。
- ・「どちらかといえば女性の方が優遇されている」という回答は、男性が 14.2%、女性が 5.4% で、男性の回答割合が高く、男女間に意識の差がみられる。
- ・世代別性別では、25 歳～29 歳の男性、35 歳～39 歳の男性では、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」が 4 割と最も多くなっている。一方、20 歳～64 歳の女性、30 歳～34 歳の男性、40 歳～69 歳の男性では、「平等である」という回答が最も多くなっている。

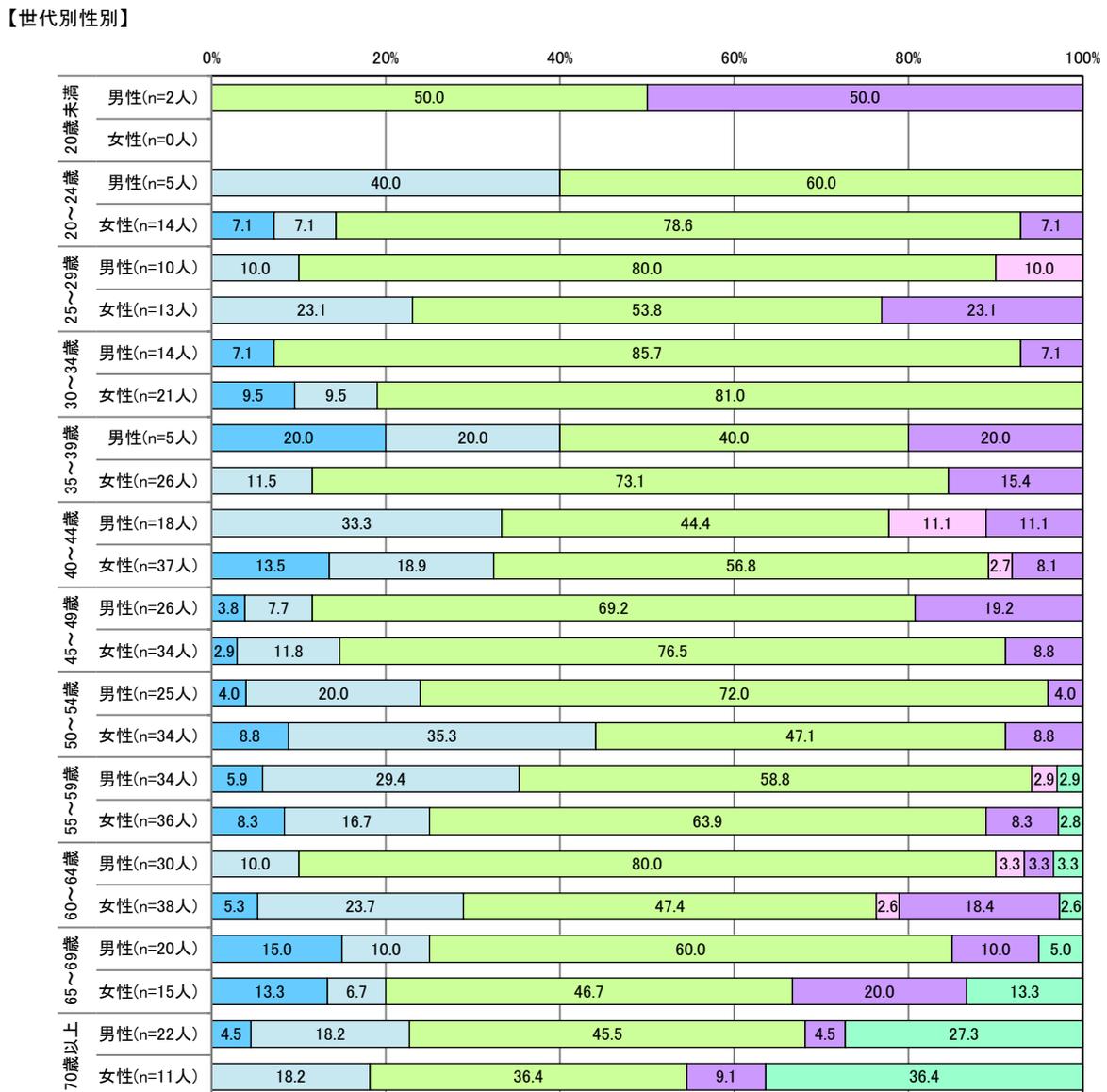
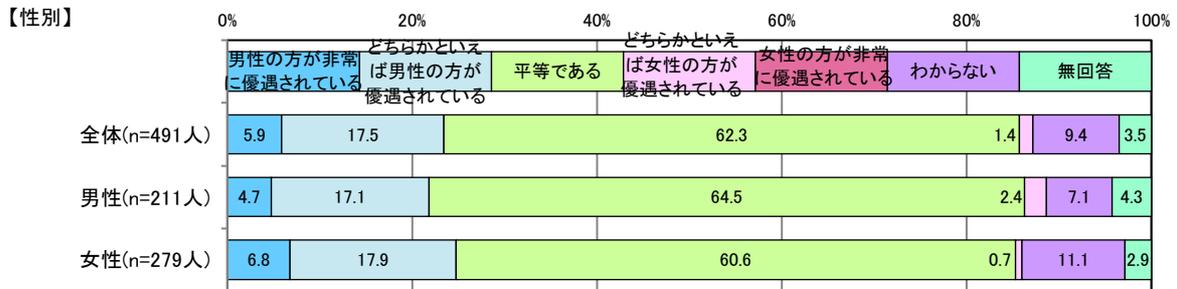


【世代別性別】



4 研修の機会や内容

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が64.5%、女性が60.6%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、70歳以上の女性を除き、いずれの世代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。



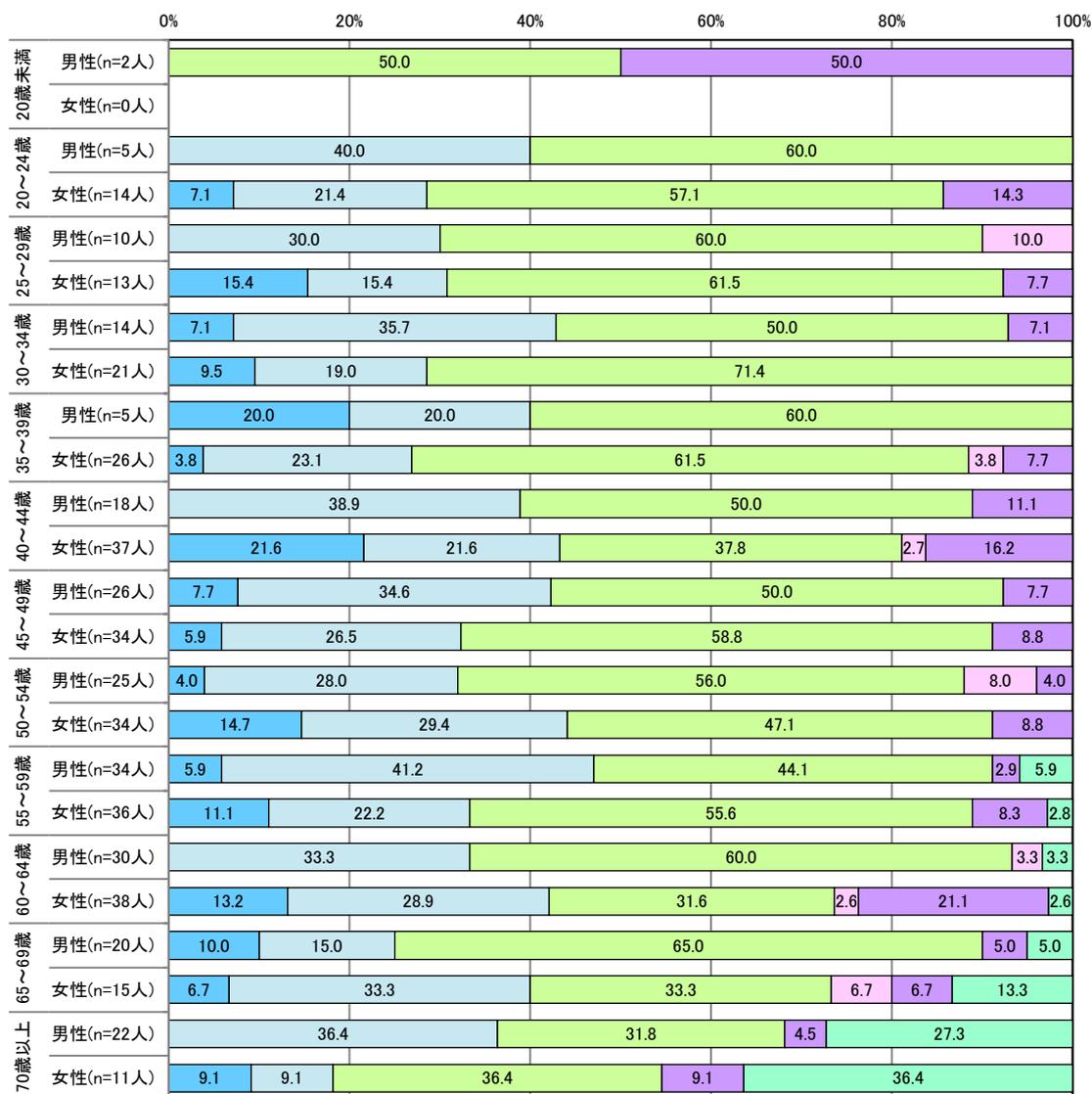
5 経験や能力を発揮する機会

- ・性別でみると、「平等である」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が51.7%、女性が49.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、65歳～69歳の女性、70歳以上の男女を除く、いずれの年代においても「平等である」という回答が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】



問7 現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

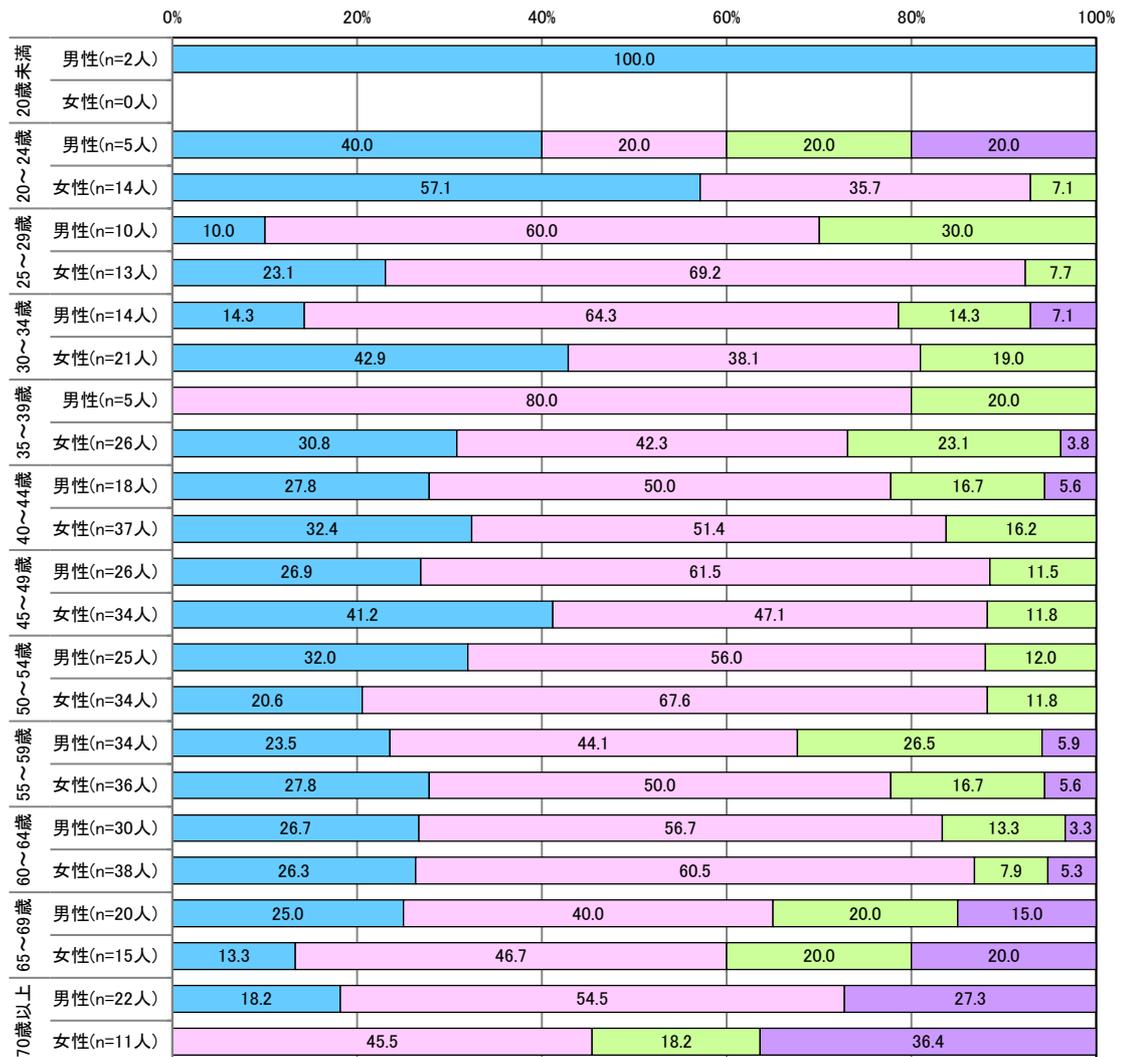
あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。
次の中から1つお選びください。

- ・性別で見ると、男女ともに、「積極的とは言えないが推進している」という回答が最も多く、次いで、「積極的に推進している」となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳未満の男性、20歳～24歳の男女、30歳～34歳の女性では、「積極的に推進している」の回答が最も多い。その他の世代では、いずれも「積極的とは言えないが推進している」の回答が最も多くなっている。

【性別】



【世代別性別】

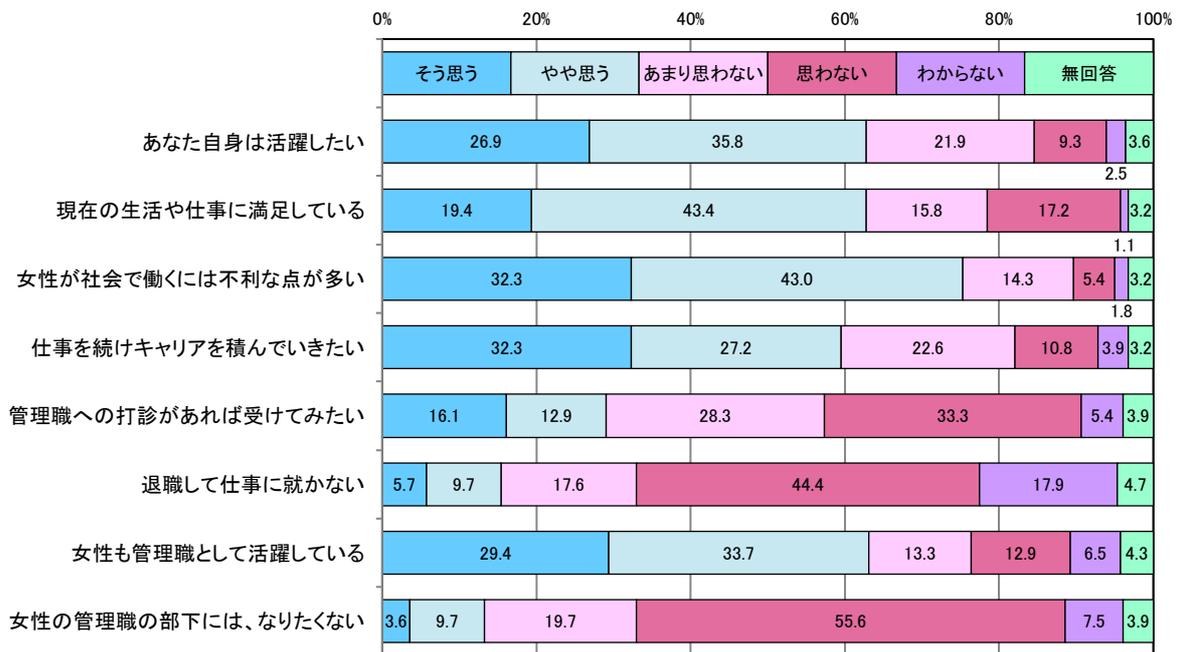


問8 現在、職業に就いていらっしゃる女性の方におたずねします。

今の職場について、あなたのお考えに近い番号を1つずつお選びください。

- ・「そう思う」という回答でみると、「女性が社会で働くには不利な点が多い」(32.3%)、「仕事を続けキャリアを積んでいきたい」(32.3%)が約3割で、最も多くなっている。次いで、「女性も管理職として活躍している」(29.4%)、「あなた自身は活躍したい」(26.9%)、「現在の生活や仕事に満足している」(19.4%)の順が続いている。
- ・「思わない」という回答の割合は、「女性の管理職の部下には、なりたくない」(55.6%)が約6割と最も多くなっている。次いで、「退職して仕事に就かない」(44.4%)、「管理職への打診があれば受けてみたい」(33.3%)となっている。

【全分野】

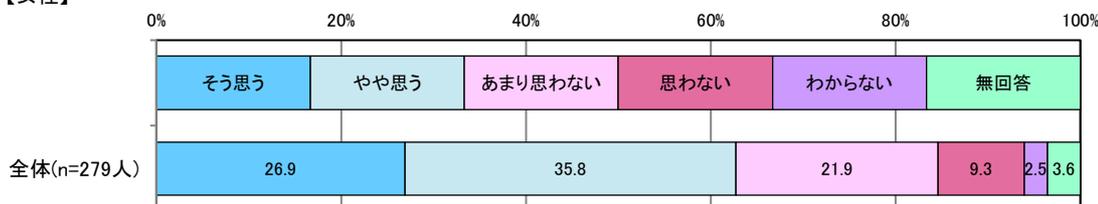


(女性のみ n=279人)

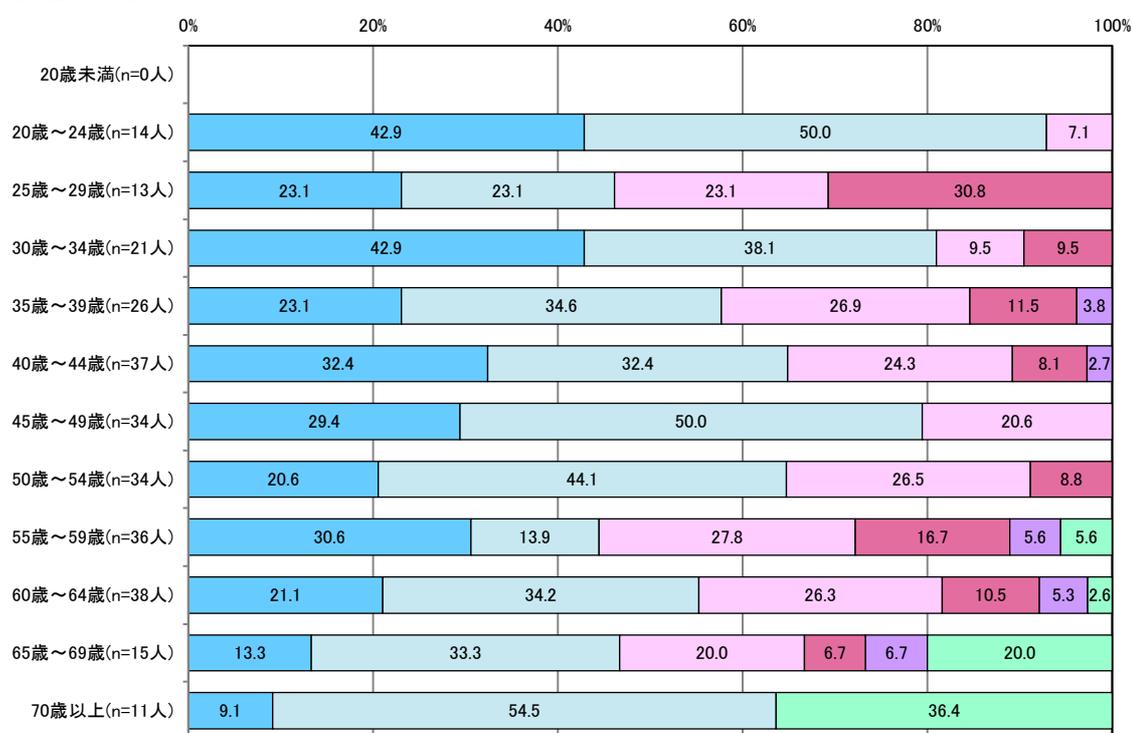
1 あなた自身は活躍したい

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、約4割（35.8%）となっている。
- ・世代別でみると、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計でみると、20歳～24歳、30歳～34歳、45歳～49歳で7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」という回答が最も多いのは、「配偶者と離・死別した」（36.0%）で約4割となっている。

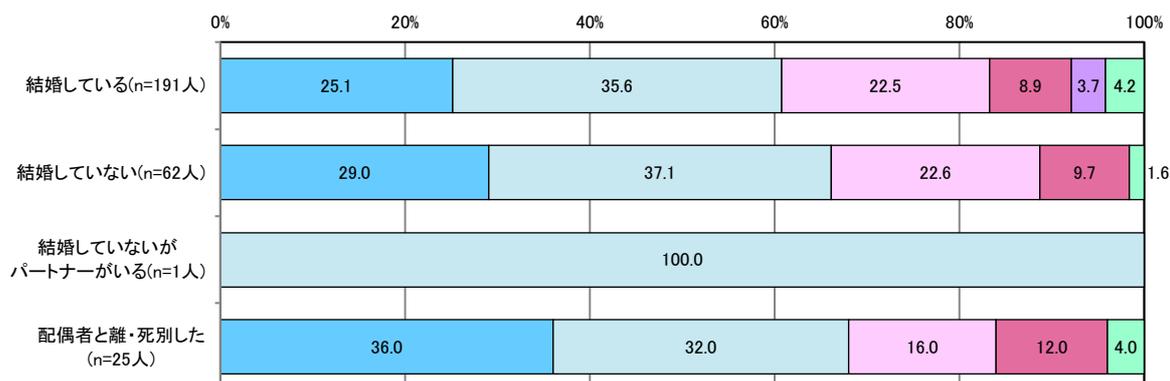
【女性】



【女性世代別】

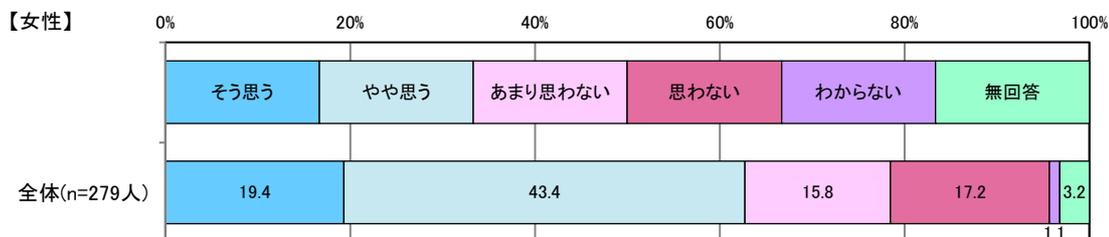


【配偶者の有無別】

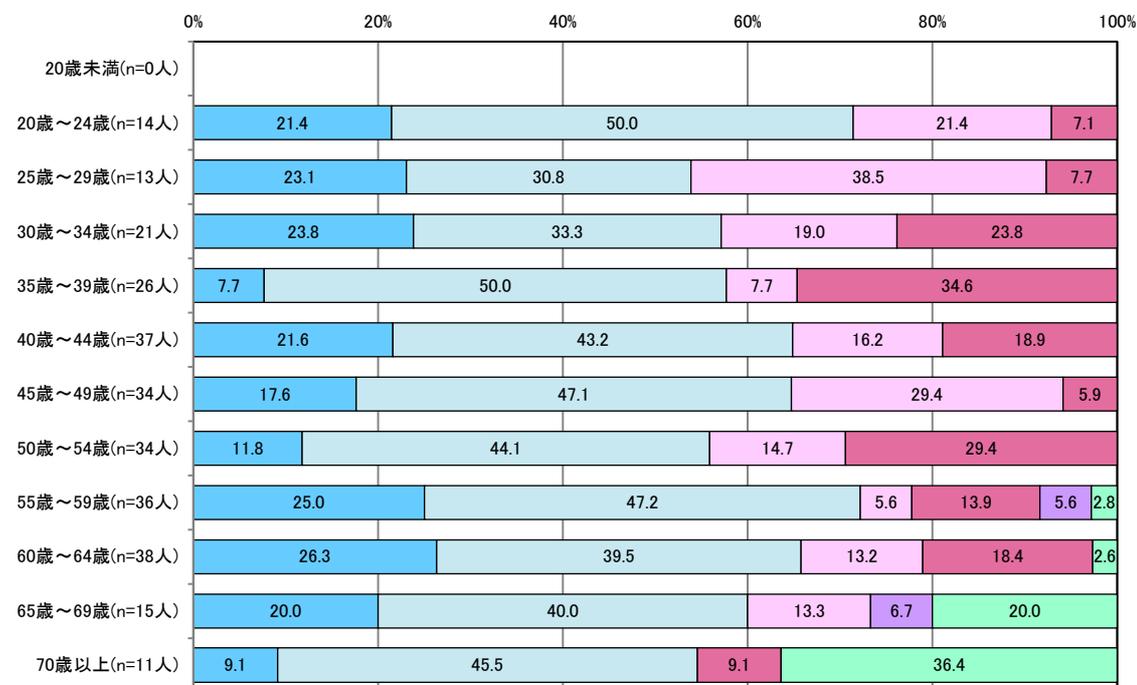


2 現在の生活や仕事に満足している

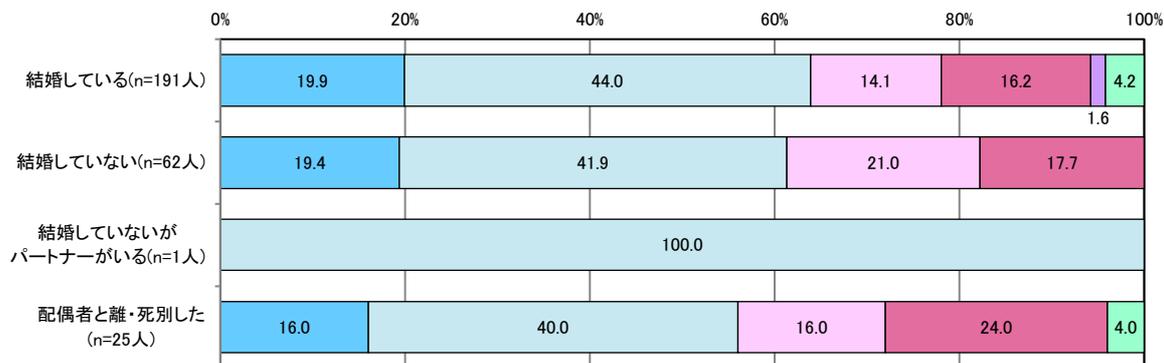
- ・全体でみると、「やや思う」という回答が最も多く、43.4%となっている。
- ・世代別でみると、20歳～24歳、55歳～59歳で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が7割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、それぞれの差は大きくない。



【女性世代別】



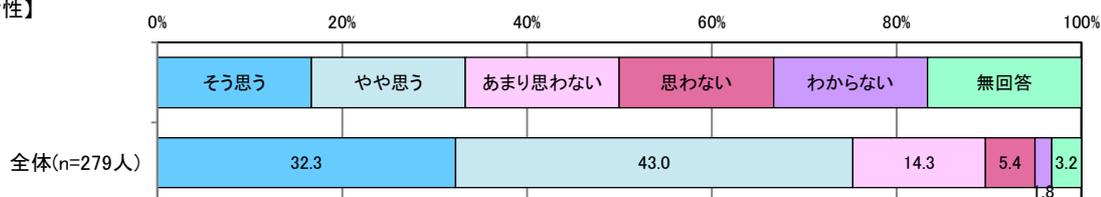
【配偶者の有無別】



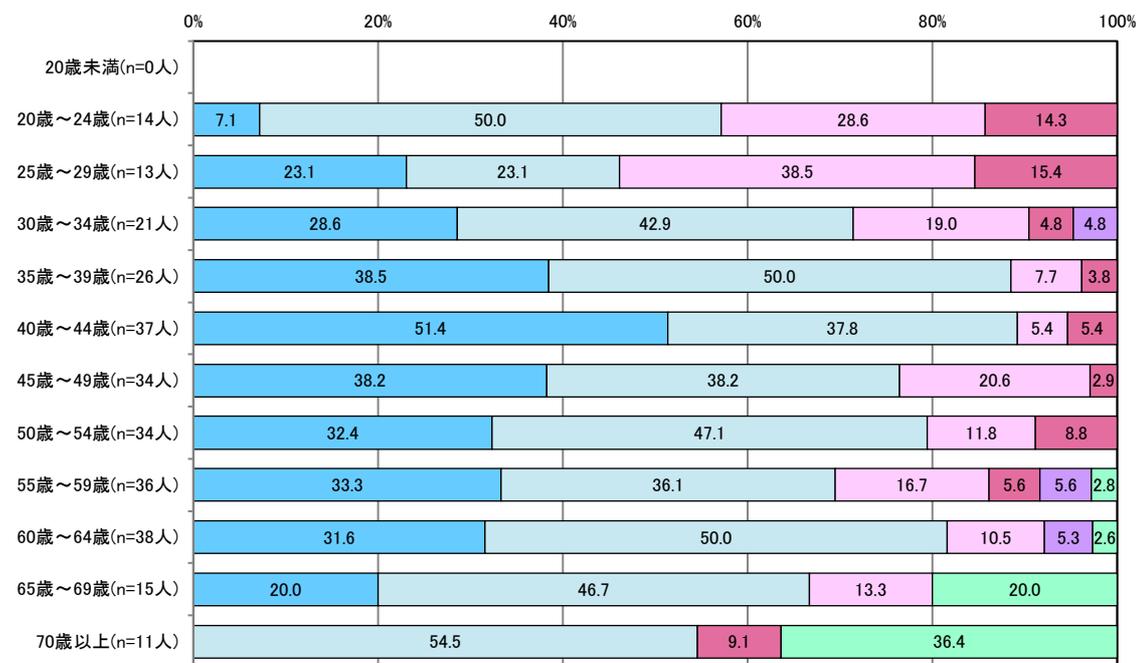
3 女性が社会で働くには不利な点が多い

- ・全体でみると、「ややそう思う」が43.0%と最も多くなっている。
- ・世代別では、30～54歳、60～64歳の年代で、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計が、7割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「そう思う」、「やや思う」の回答割合の合計は、「結婚している」、「配偶者と離・死別した」で、7割以上となっている。

【女性】



【女性世代別】

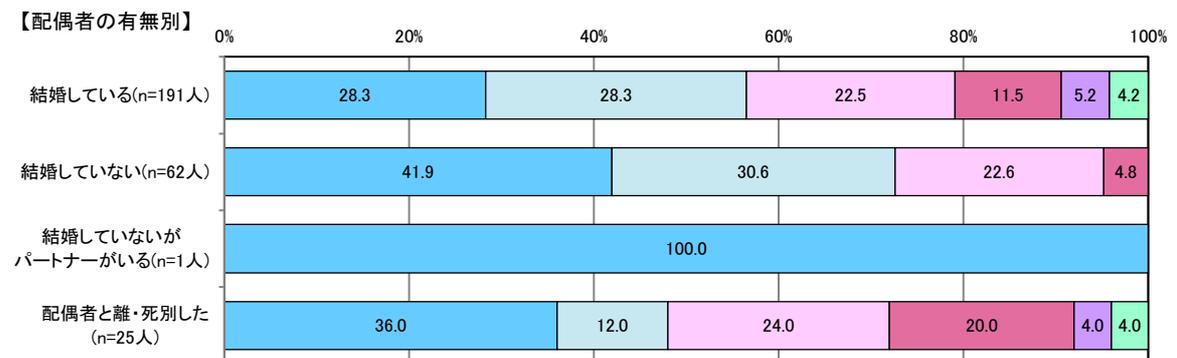
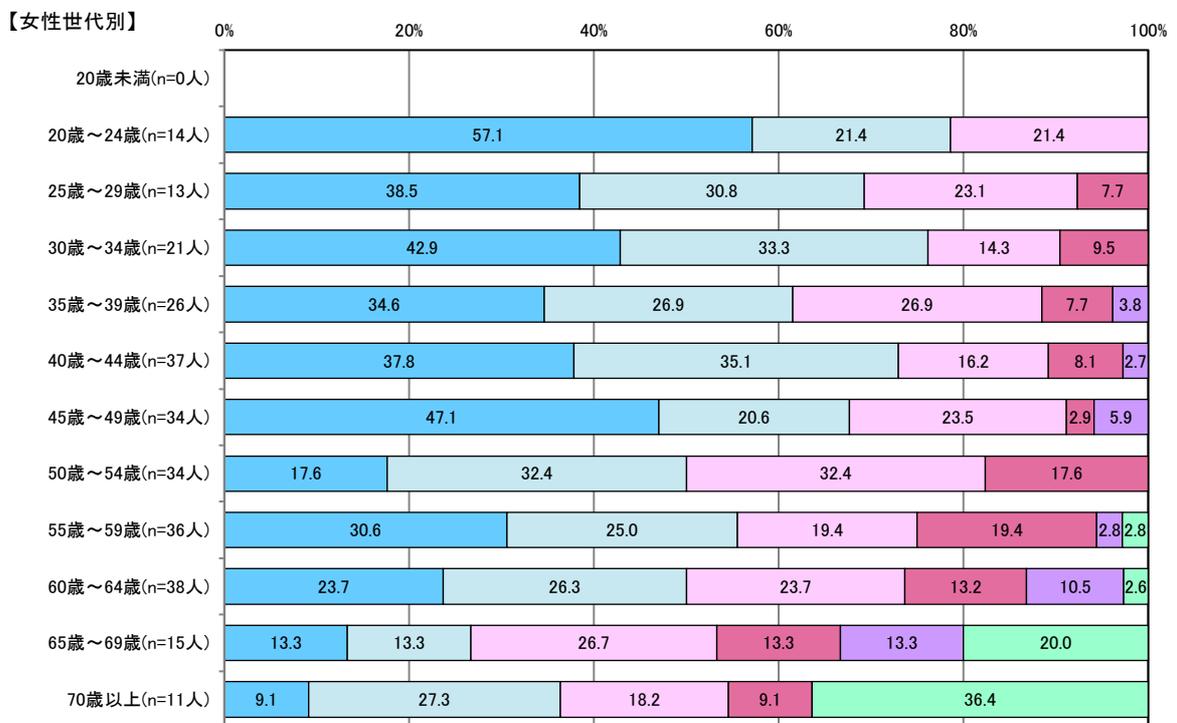
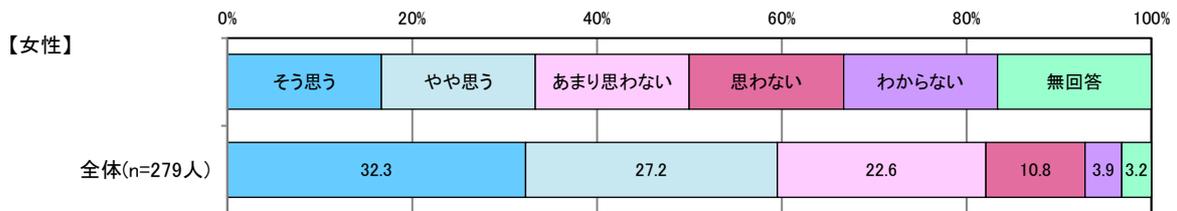


【配偶者の有無別】



4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

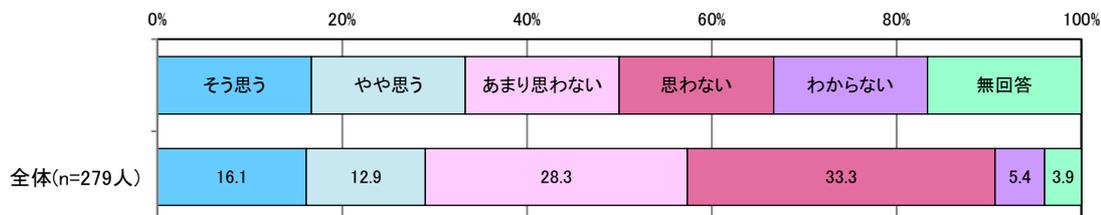
- ・全体でみると、「そう思う」という回答が 32.3%で最も多く、次いで「やや思う」が 27.2%となっている。
- ・世代別でみると、20歳～49歳の世代で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が6割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」で、「そう思う」、「やや思う」という回答割合の合計が、7割を超えている。



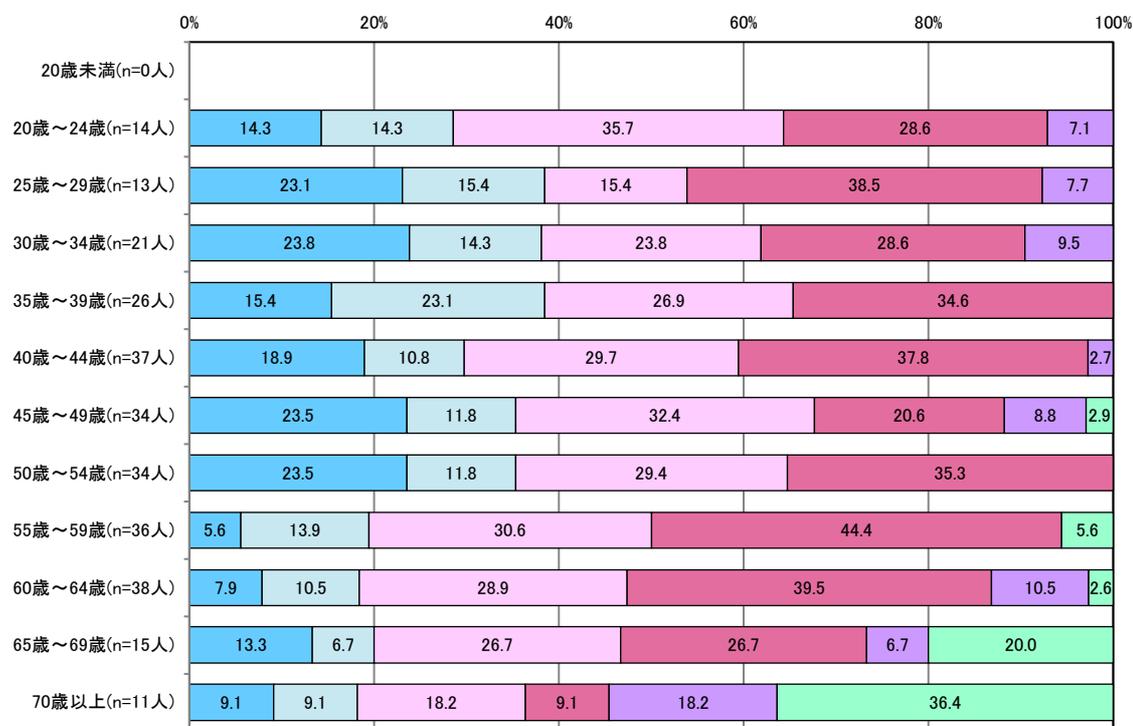
5 管理職への打診があれば受けてみたい

- ・全体でみると、「思わない」という回答が33.3%で最も多くなっている。
- ・世代別でみると、70歳以上を除き、いずれの世代でも、「思わない」「あまり思わない」という回答合計が5割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、いずれも、「思わない」「あまり思わない」という回答合計が5割を超えている。

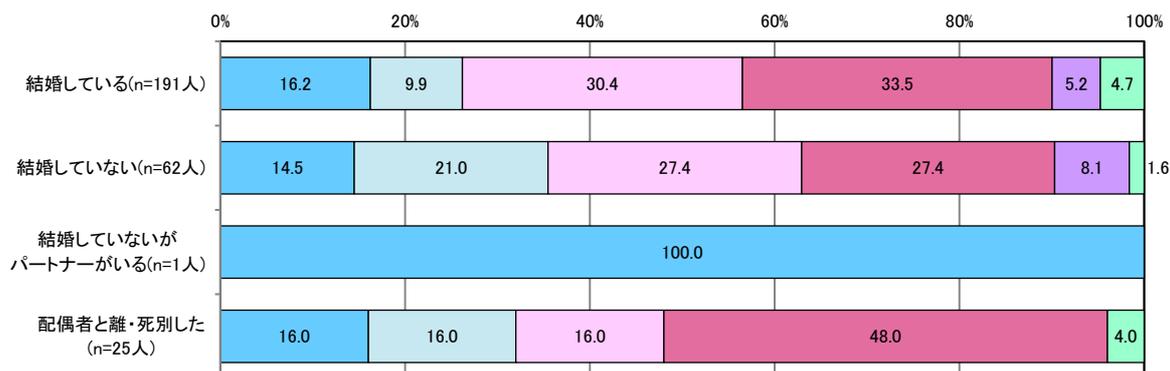
【女性】



【女性世代別】



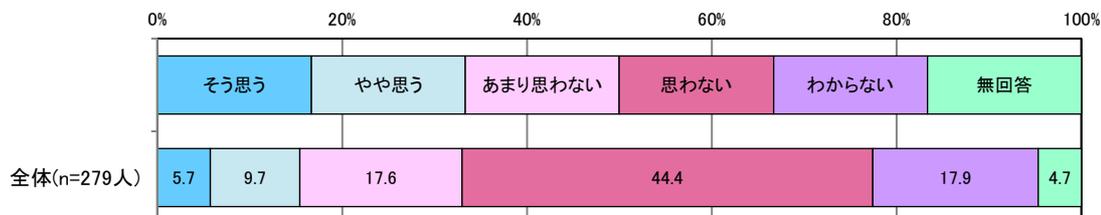
【配偶者の有無別】



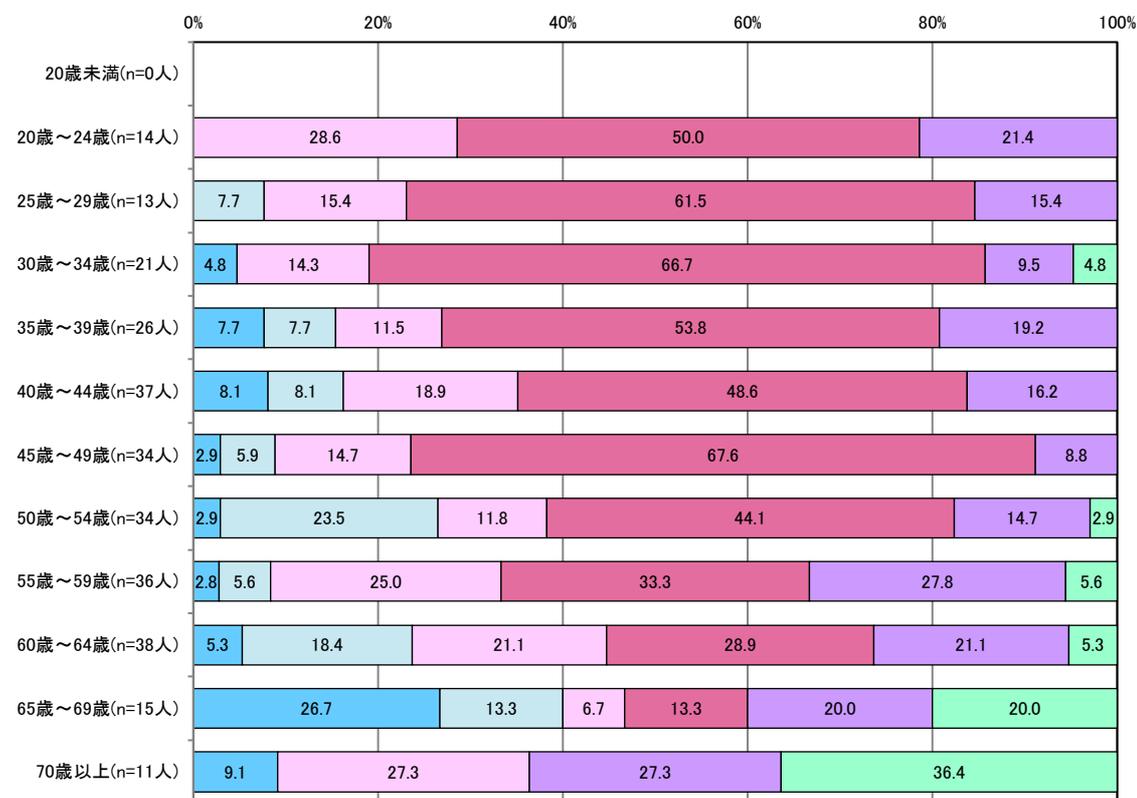
6 退職して仕事に就かない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が44.4%と約4割となっている。
- ・世代別でみると、65歳以上の年代を除き、いずれの年代においても「思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「思わない」という回答が、最も多い回答割合となっている。

【女性】



【女性世代別】



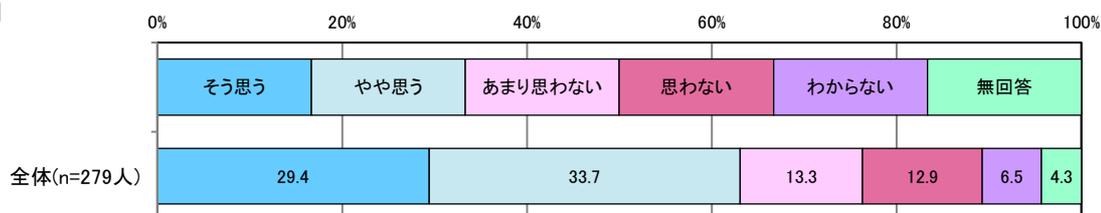
【配偶者の有無別】



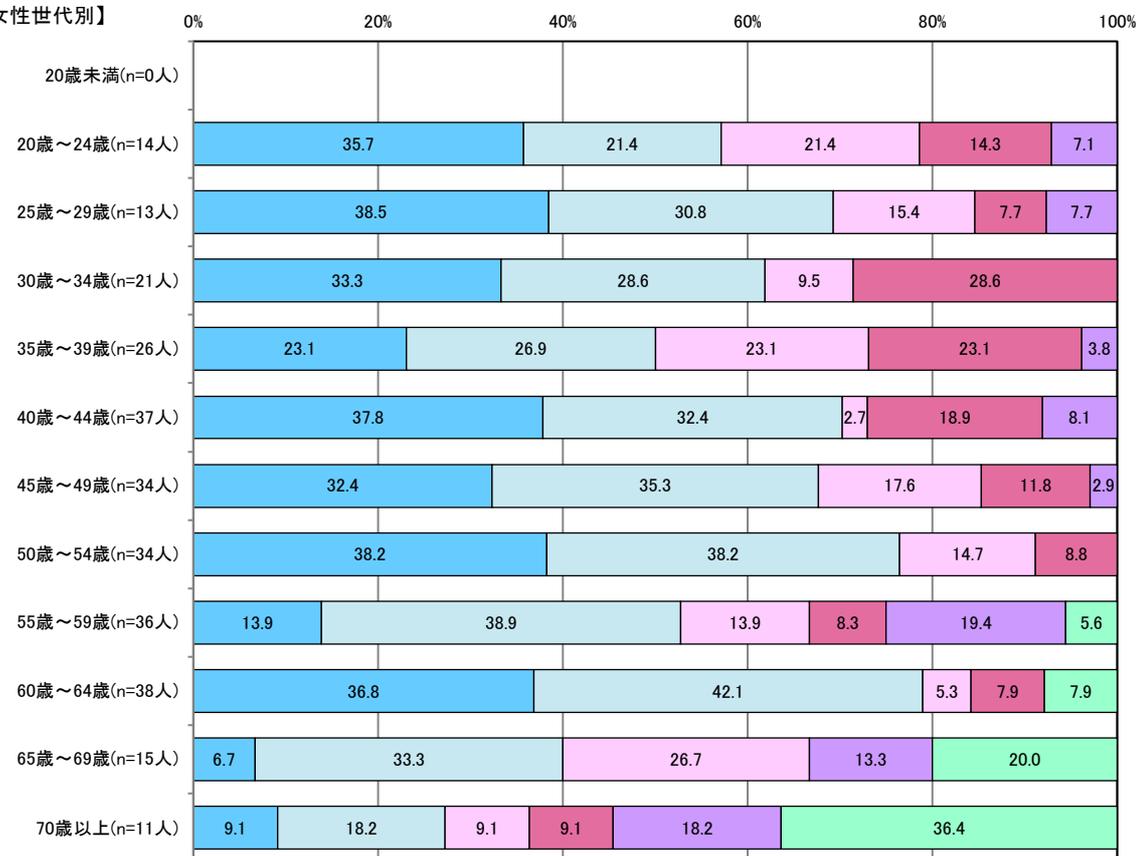
7 女性も管理職として活躍している

- ・全体でみると、「やや思う」という回答が 33.7%と最も多く、次いで「そう思う」が 29.4%と続いている。
- ・世代別でみると、25歳～34歳、40歳～54歳、60歳～64歳の年代で、「そう思う」、「ややそう思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」で、「そう思う」、「ややそう思う」という回答割合の合計が、6割を超えている。

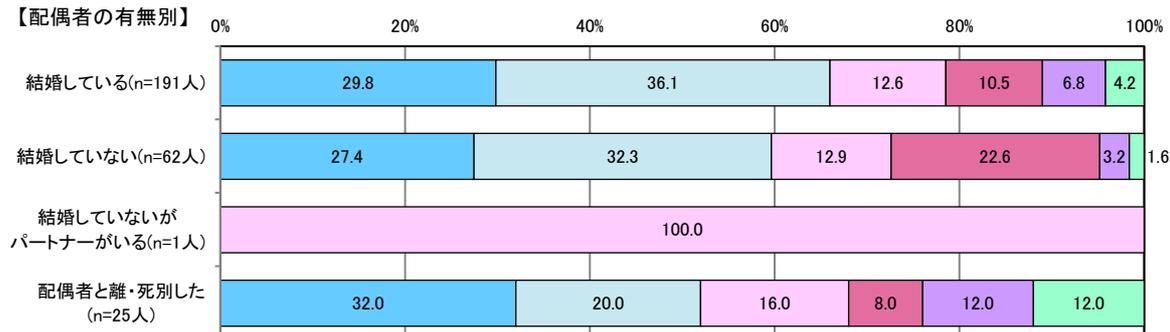
【女性】



【女性世代別】



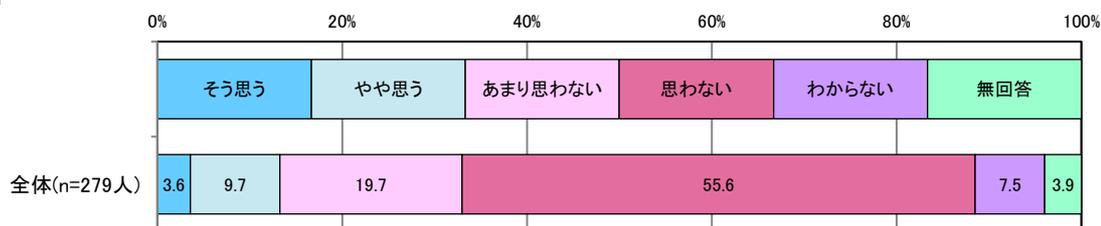
【配偶者の有無別】



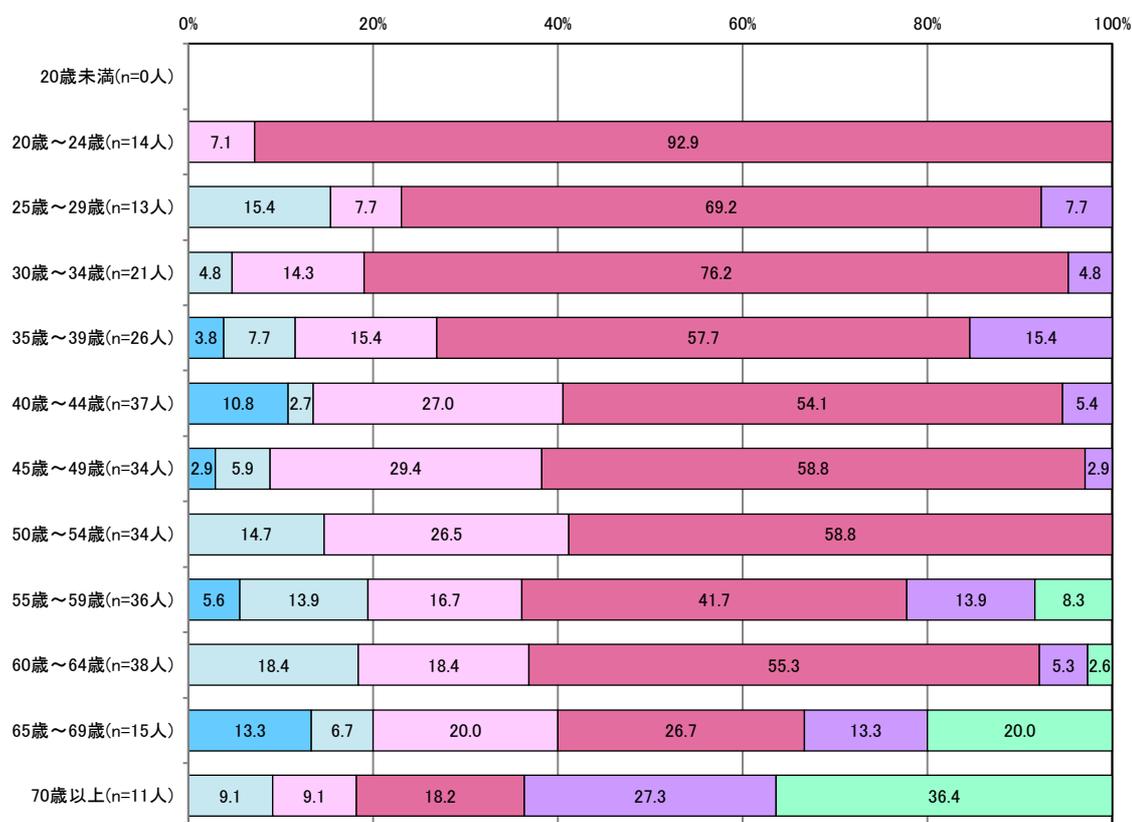
8 女性の管理職の部下には、なりたくない

- ・全体でみると、「思わない」という回答が 55.6%と約 6 割となっている。
- ・世代別でみると、20 歳～64 歳の年代で、「思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していない」で、「思わない」という回答が 69.4%と、約 7 割となっている。

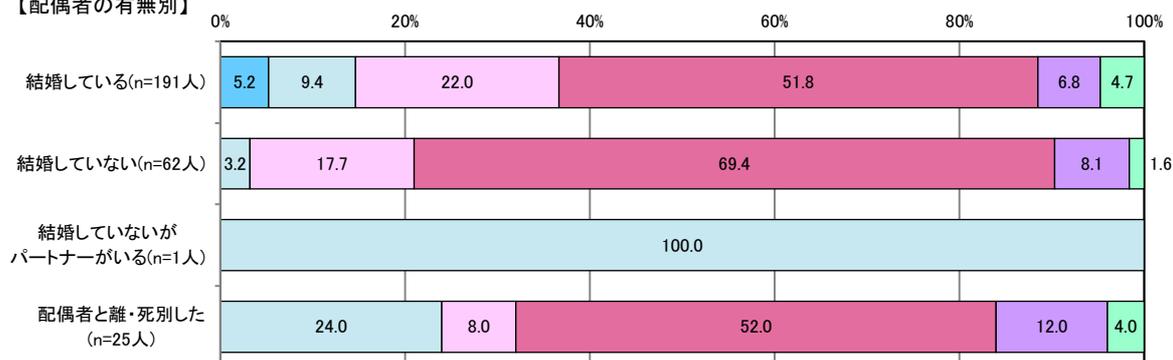
【女性】



【女性世代別】



【配偶者の有無別】

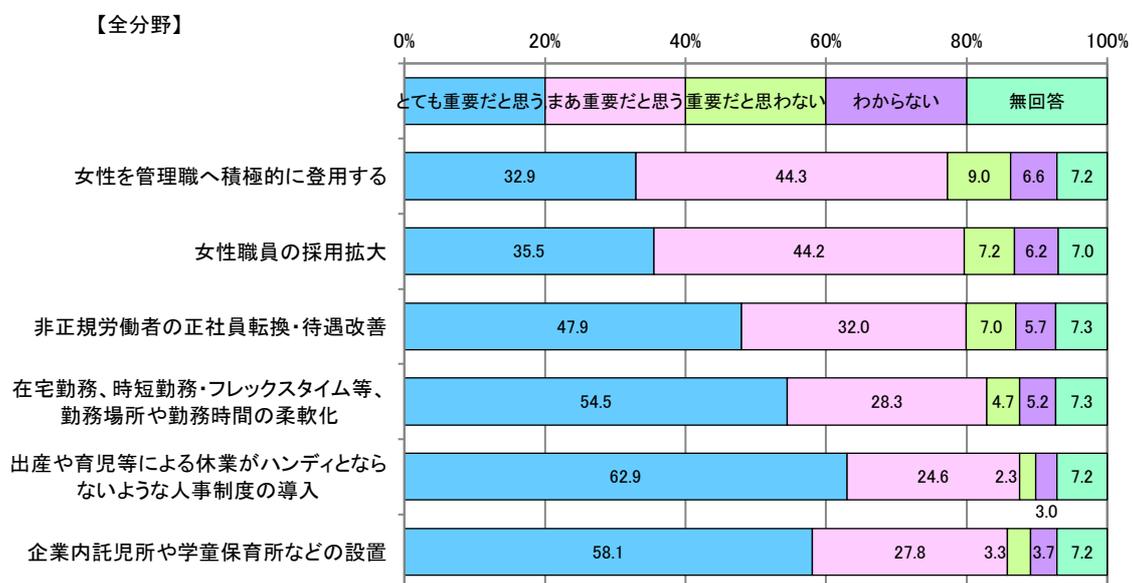


現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「女性を管理職へ積極的に登用する」、「女性職員の採用拡大」以外で、「とても重要だと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・「とても重要だと思う」という回答でみると、「出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入」（62.9%）が約6割と最も多くなっている。次いで、「企業内託児所や学童保育所などの設置」（58.1%）、「在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化」（54.5%）、「非正規労働者の正社員転換・待遇改善」（47.9%）と続いている。一方、「まあ重要だと思う」という回答は、「女性を管理職へ積極的に登用する」（44.3%）、「女性職員の採用拡大」（44.2%）で、4割を超えている。

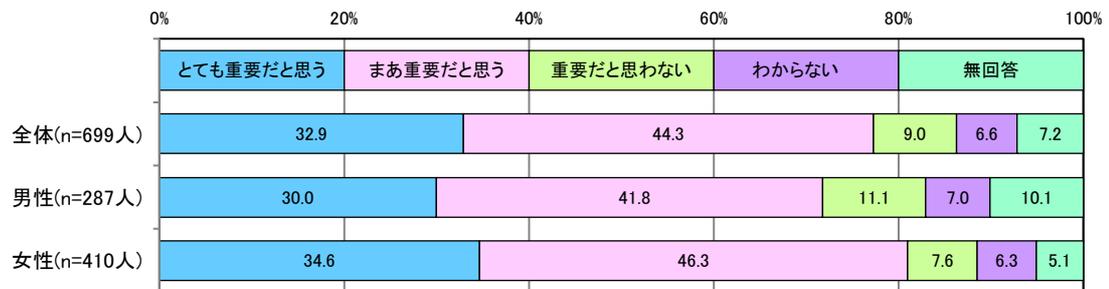


(全体 n=699人)

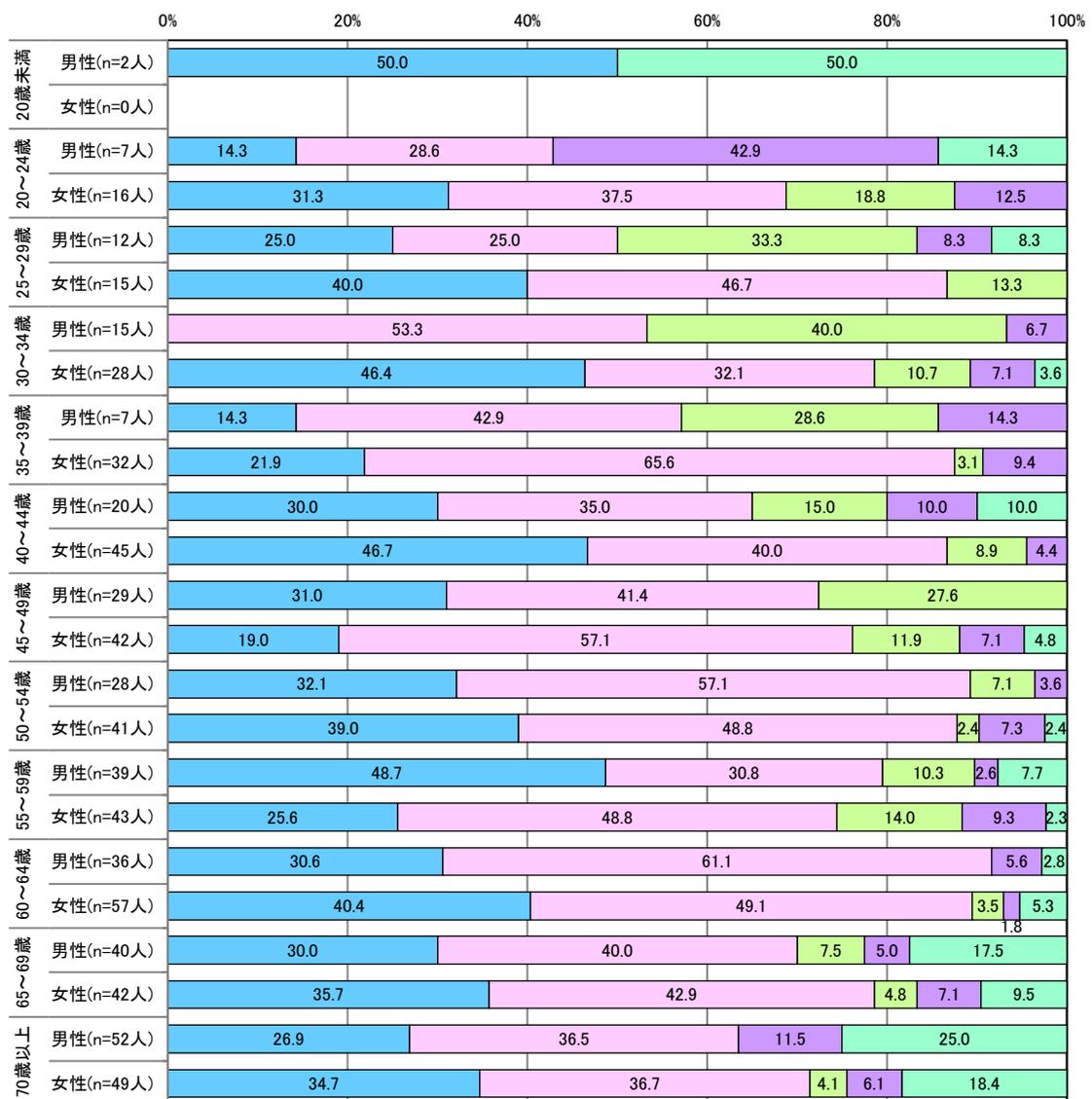
1 女性を管理職へ積極的に登用する

- ・性別で見ると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は41.8%で、女性は46.3%となっている。
- ・世代別性別で見ると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、25歳～29歳の女性、35歳～44歳の女性、50歳～54歳の男女、60歳～64歳の男女では8割以上と、他の年代に比べて高くなっている。

【性別】

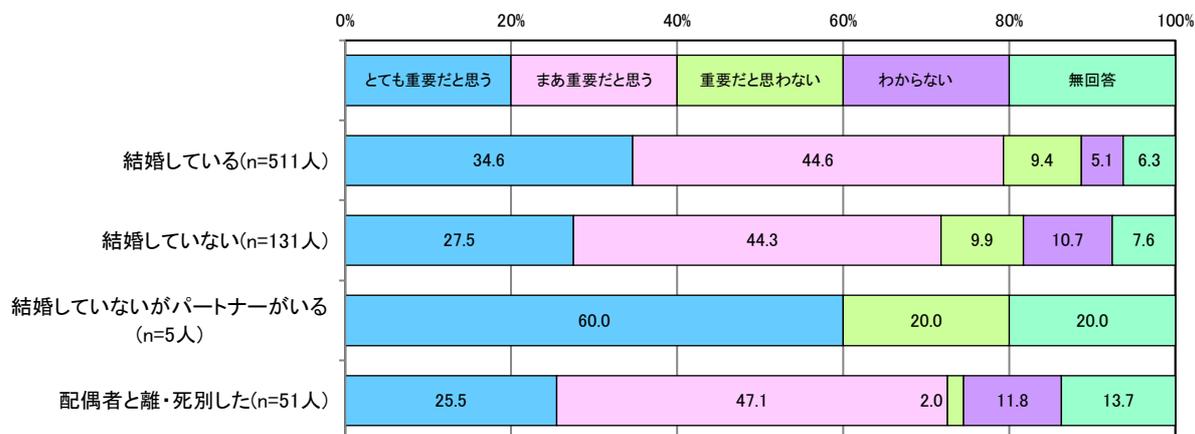


【世代別性別】



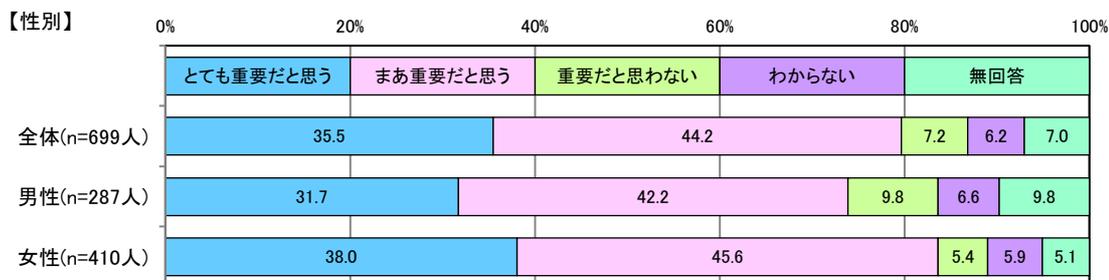
- ・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚している」で約8割となっている。一方、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」で約7割、「結婚していないがパートナーがいる」で6割となっている。

【配偶者の有無別】

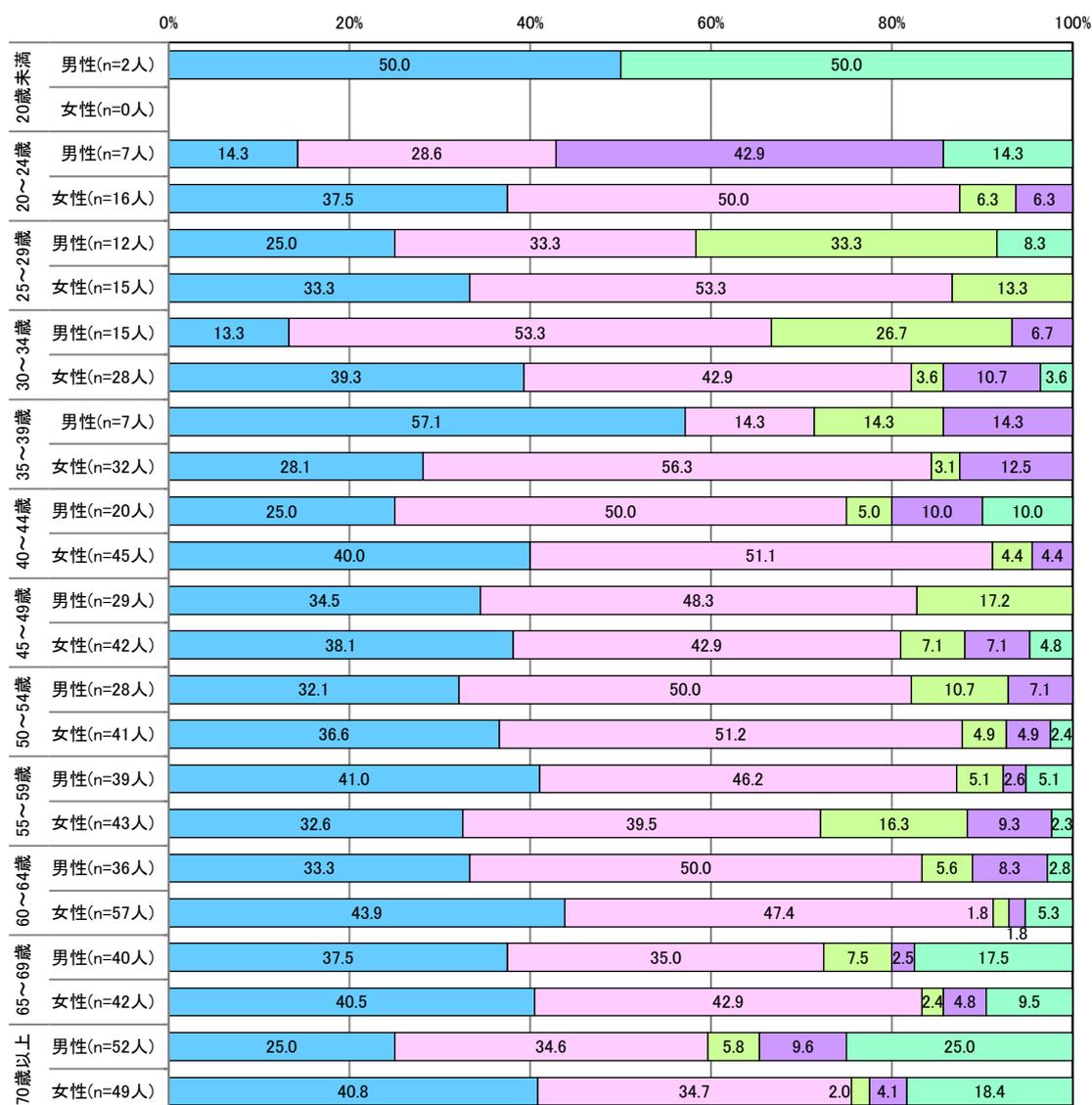


2 女性職員の採用拡大

- ・性別で見ると、男女ともに、「まあ重要だと思う」という回答が最も多く、男性は42.2%で、女性は45.6%となっている。
- ・世代別性別で見ると、20歳～44歳の女性、45歳～54歳の男女、55歳～64歳の男性、60歳～69歳の女性で、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、8割を超えている。

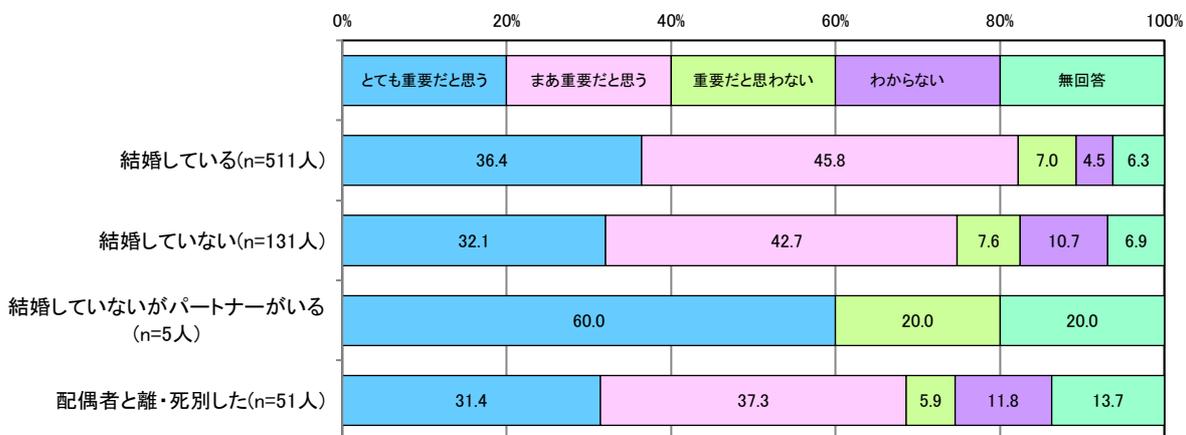


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別で見ると、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、「結婚している」で8割を超えている。一方、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」で約7割、「結婚していないがパートナーがいる」で6割となっている。

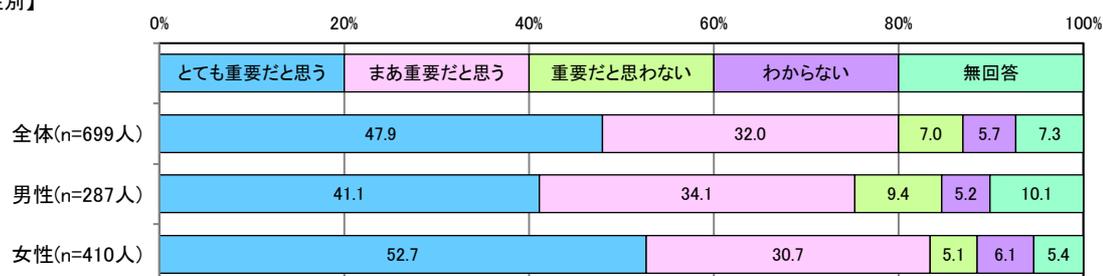
【配偶者の有無別】



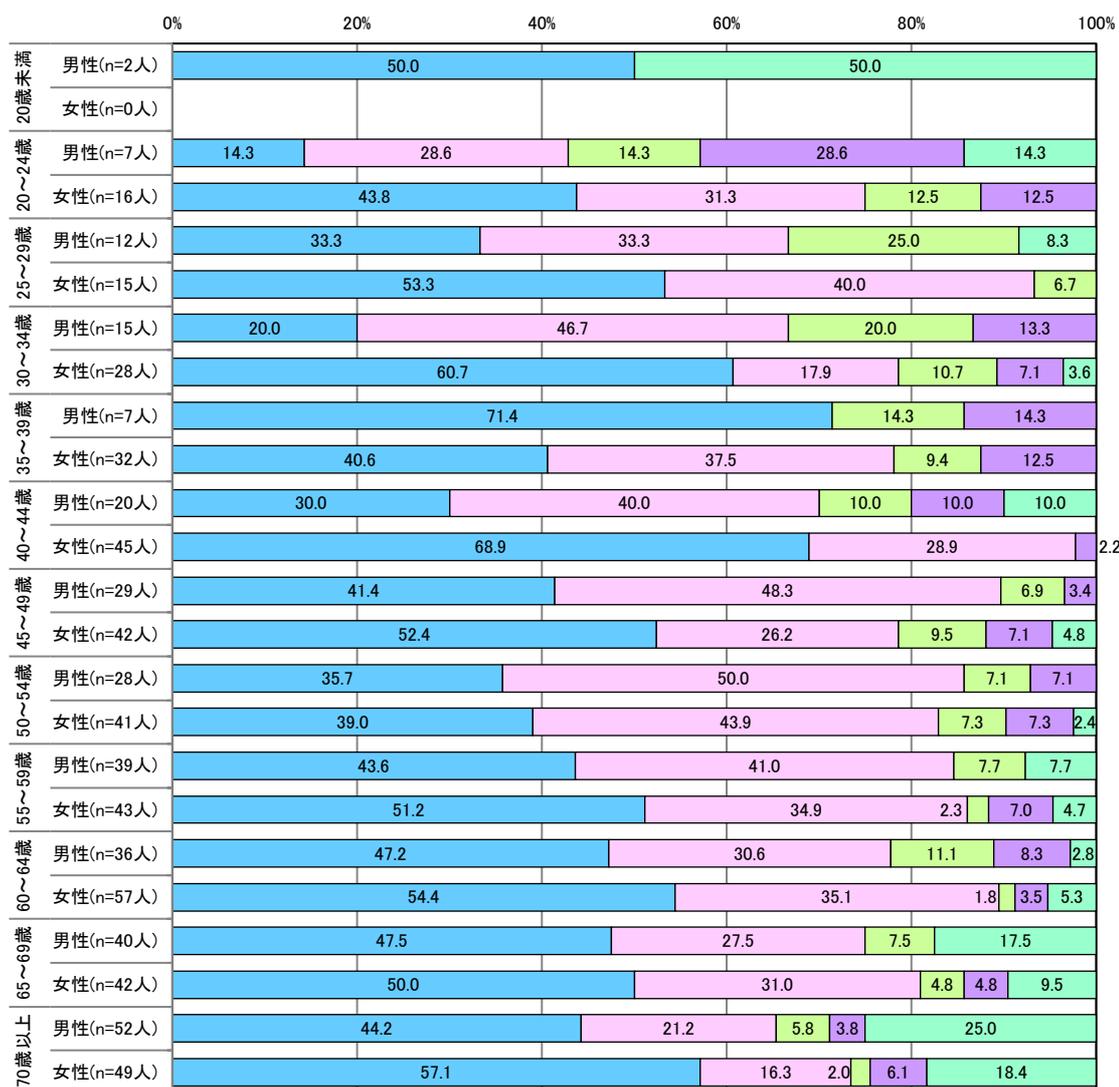
3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

- ・性別でみると、男女とも「とても重要だと思う」という回答が最も多く、男性が 41.1%、女性が 52.7%となっている。
- ・世代別性別では、24 歳以下の男性を除き、いずれの世代別性別でも、「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が、6 割を超えている。

【性別】

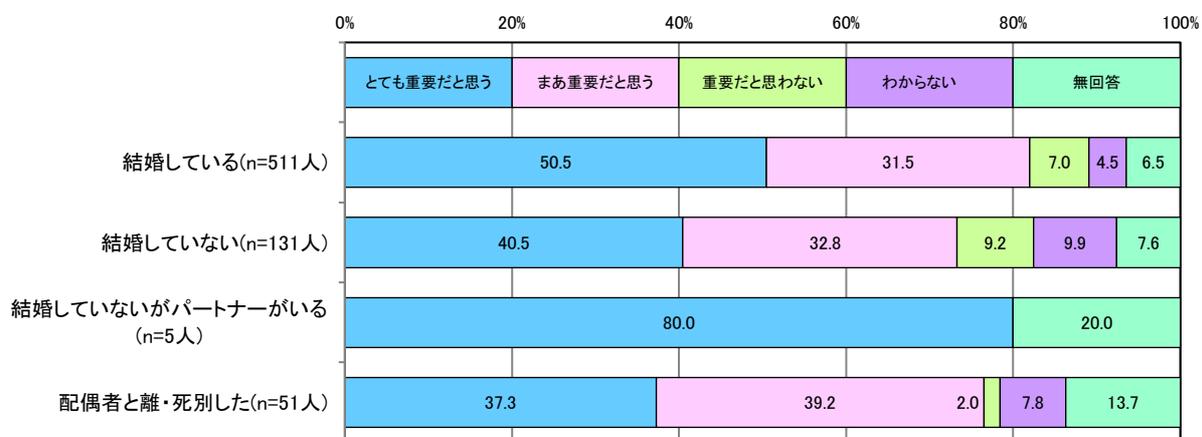


【世代別性別】



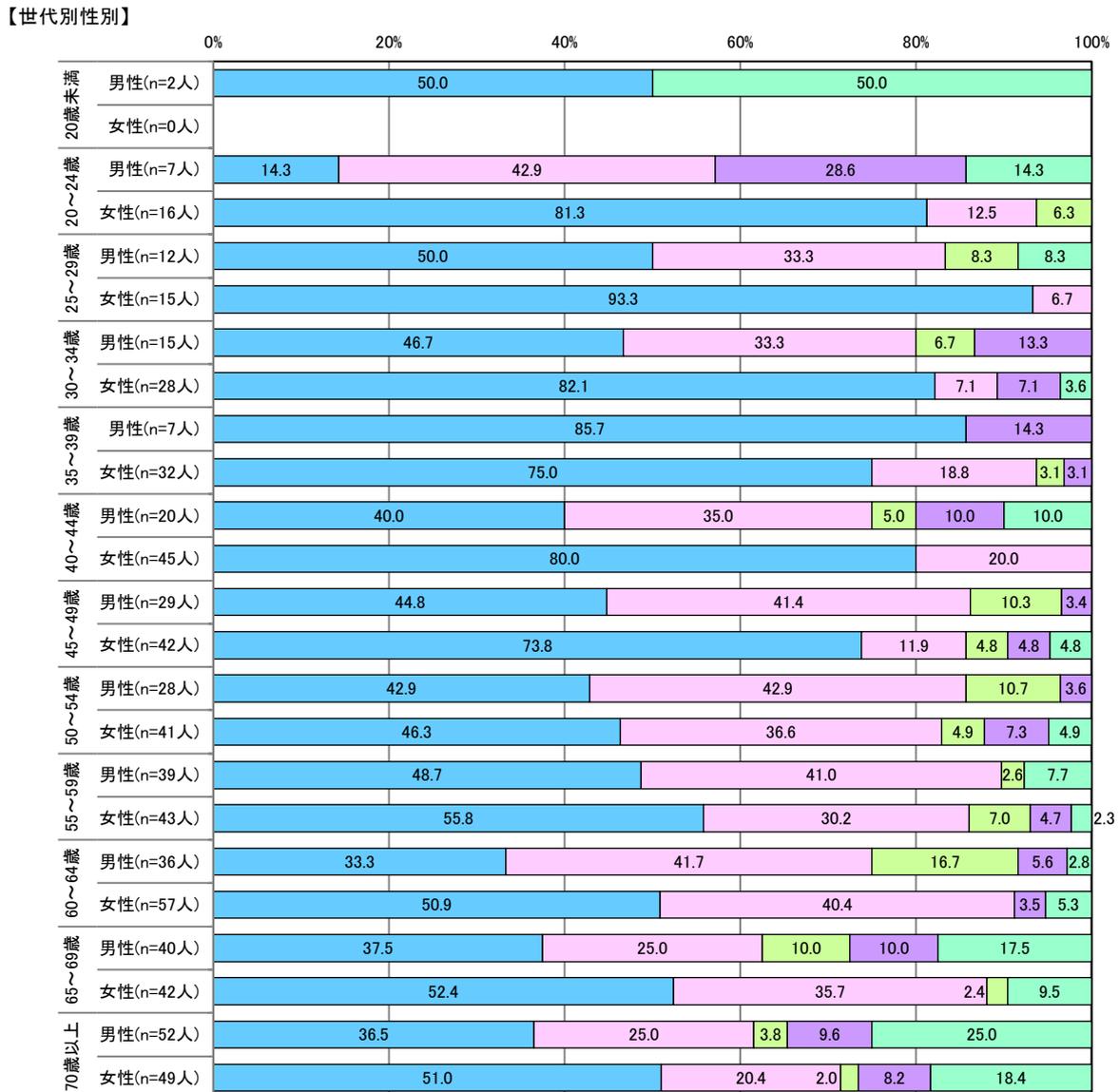
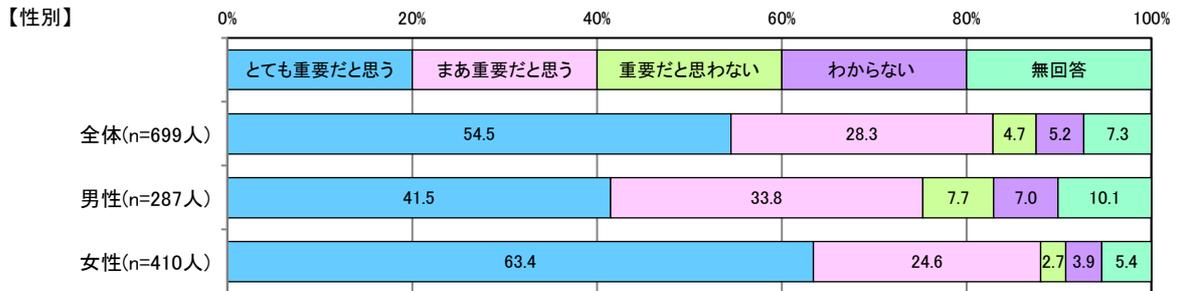
・配偶者の有無別でみると、「とても重要だと思う」という回答は、「結婚している」で 50.5%、「結婚していないがパートナーがいる」で 80.0%と回答割合が 5 割を超えている。

【配偶者の有無別】



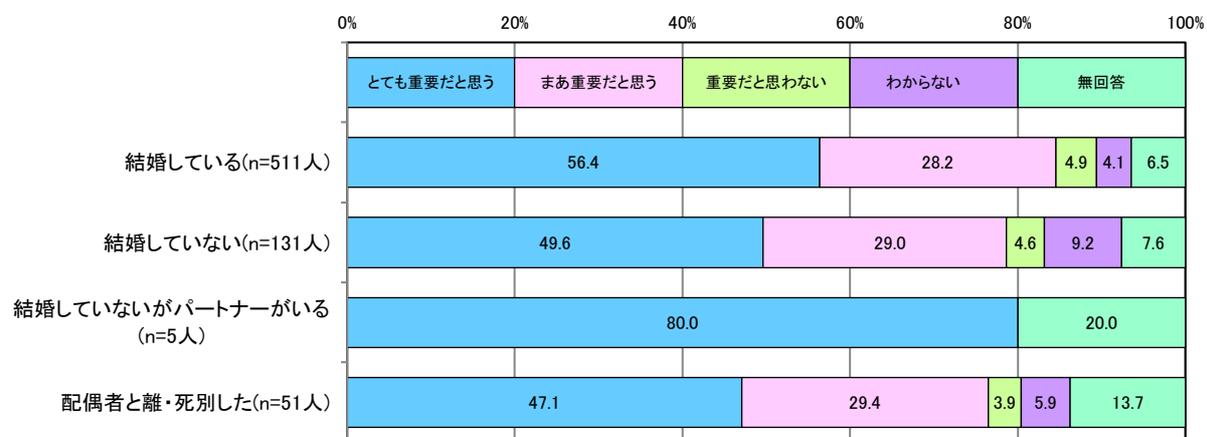
4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が41.5%、女性が63.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の男性、40歳～44歳の男性、60歳～69歳の男性、70歳以上の男女を除き、いずれの年代で、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割以上となっている。



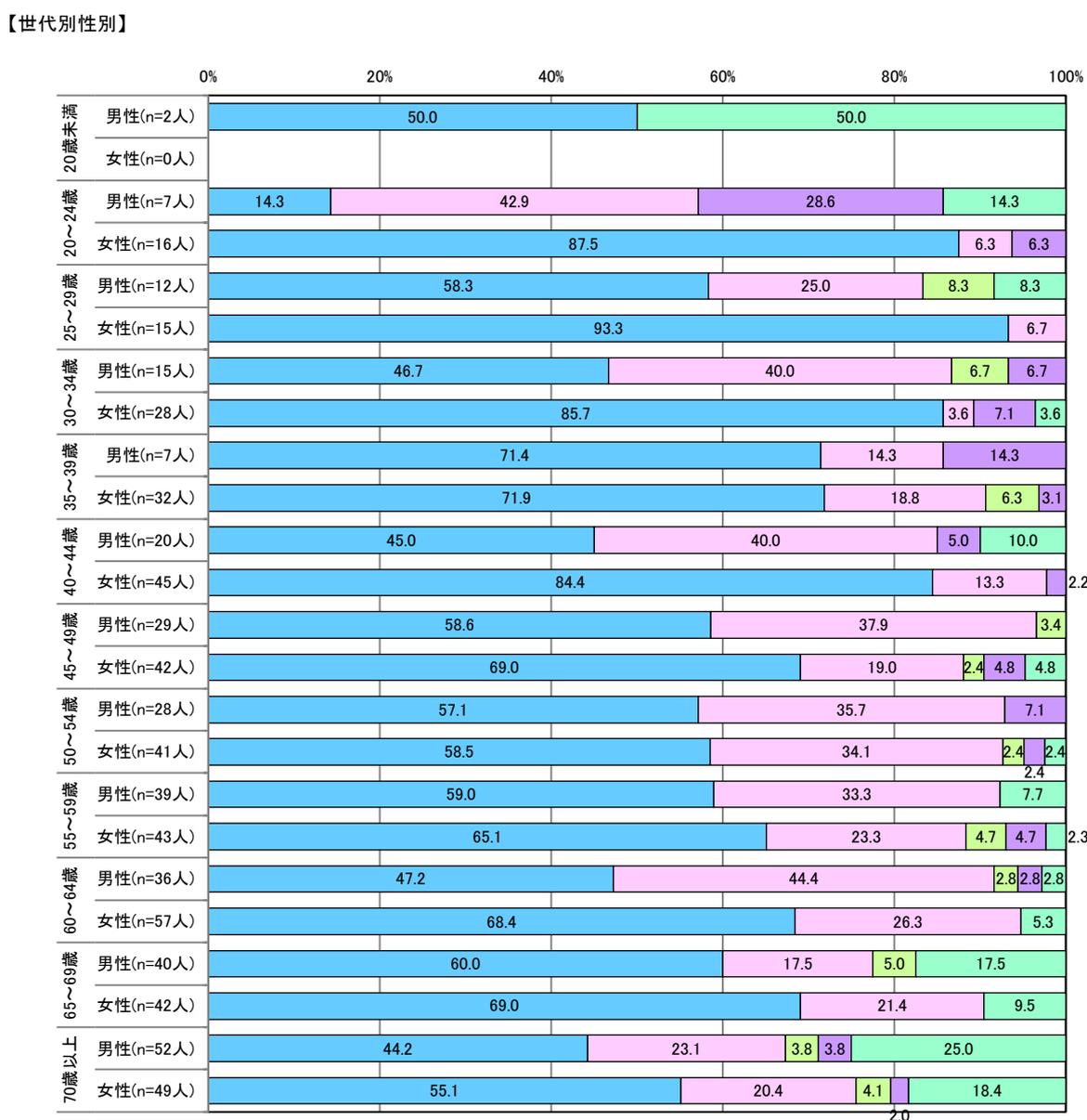
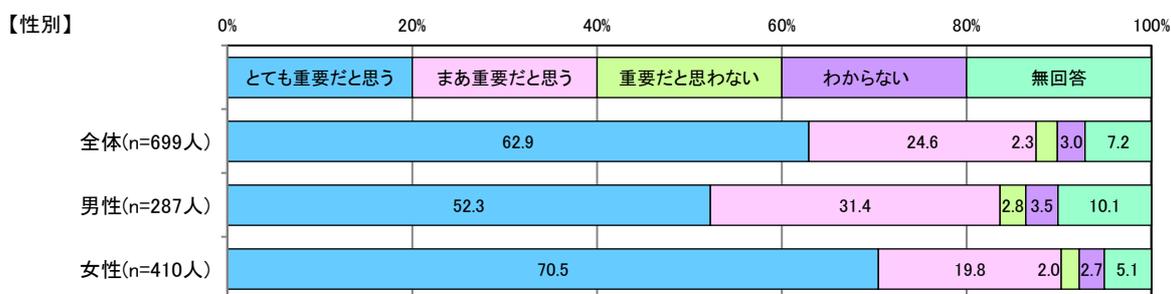
- ・配偶者の有無別で見ると、いずれも、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が約8割となっている。

【配偶者の有無別】



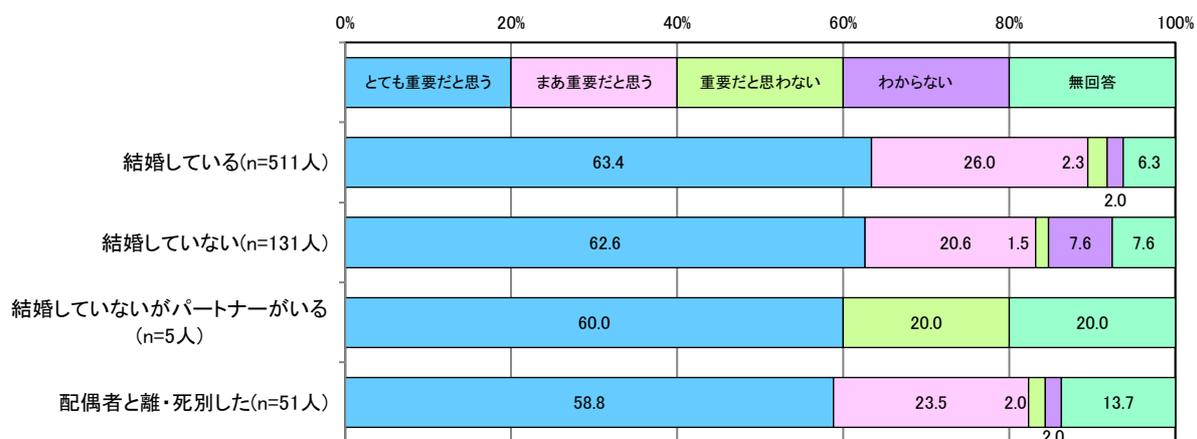
5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が52.3%、女性が70.5%となっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の男性、65歳～69歳の男性、70歳以上の男女を除き、いずれの年代で「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割以上となっている。



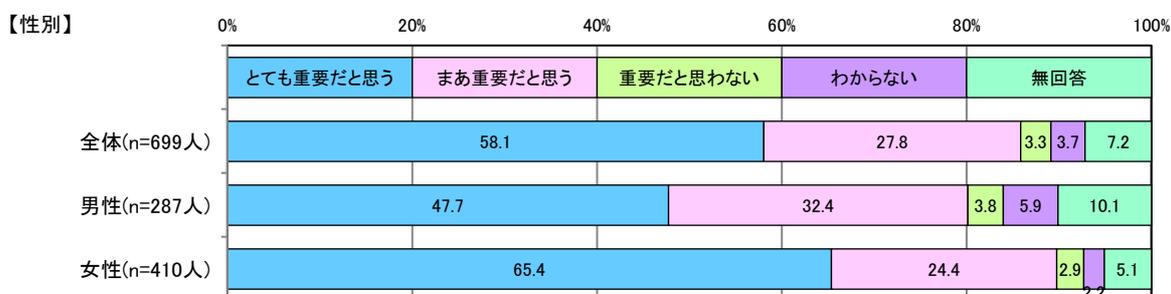
- ・配偶者の有無別で見ると、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割を超えている。

【配偶者の有無別】

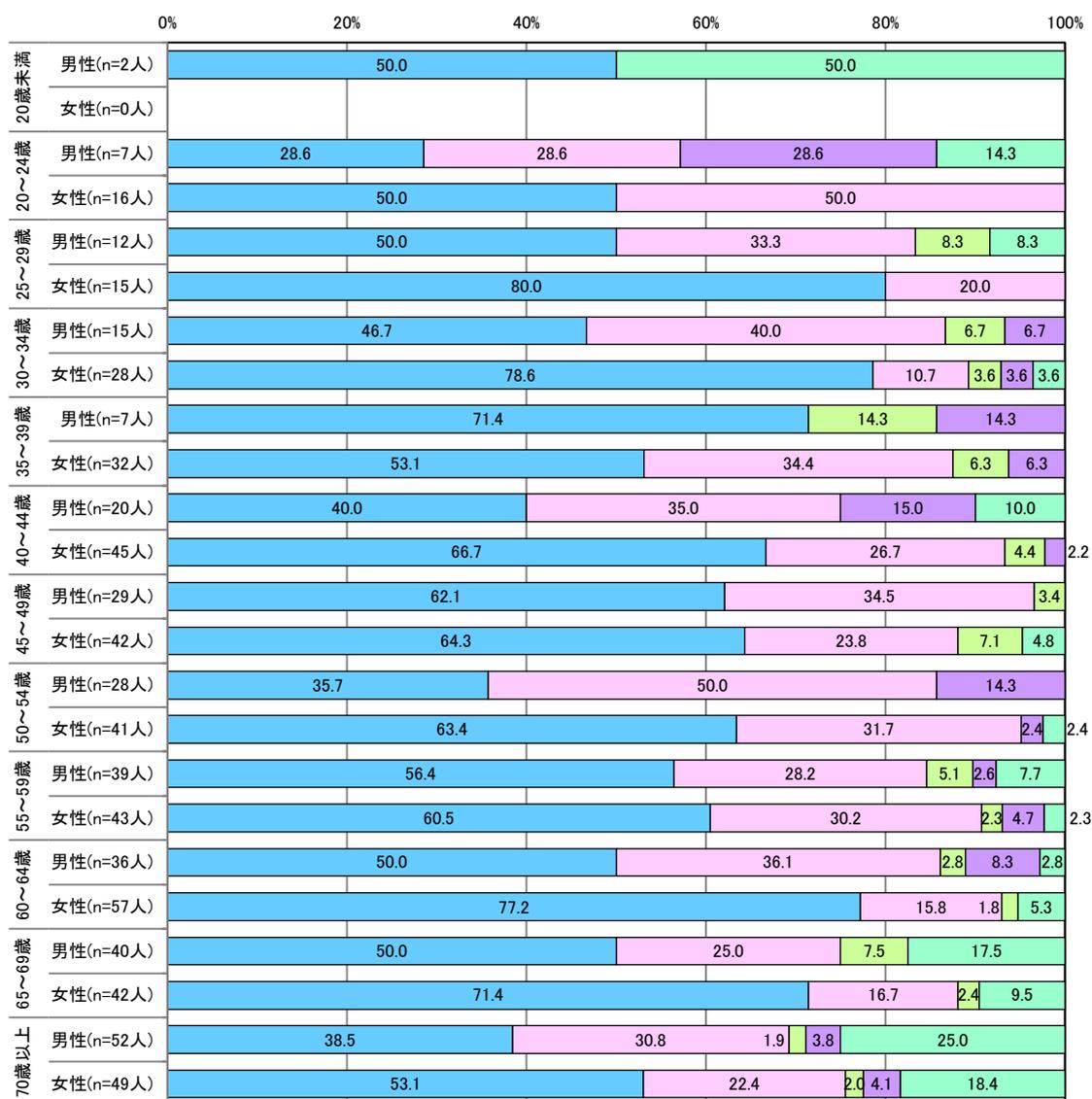


6 企業内託児所や学童保育所などの設置

- ・性別でみると、「とても重要だと思う」という回答が男女とも最も多くなっている。回答割合は、男性が47.7%、女性が65.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の男性、35歳～44歳の男性、65歳～69歳の男性、70歳以上の男女を除き、いずれの年代においても「とても重要だと思う」、「まあ重要だと思う」という回答割合の合計が8割以上となっている。

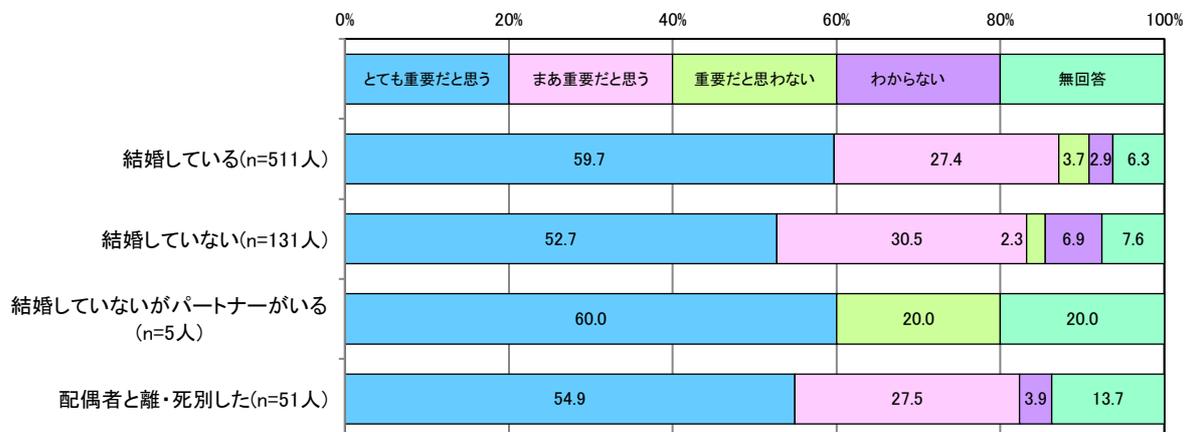


【世代別性別】



- ・配偶者の有無別でみると、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、「とても重要だと思う」と「まあ重要だと思う」の回答割合の合計が8割を超えている。

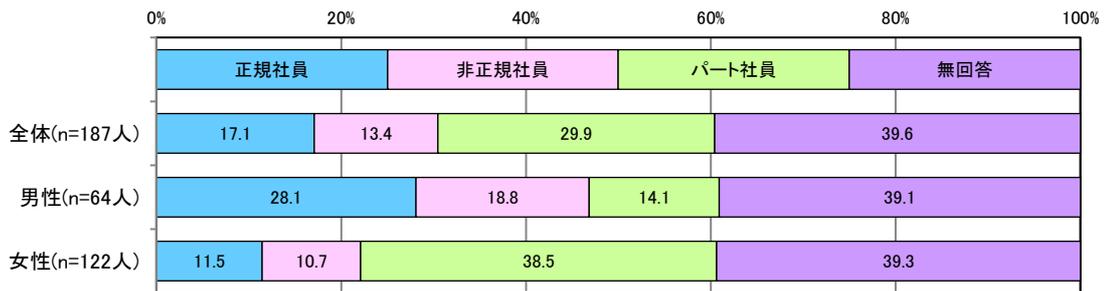
【配偶者の有無別】



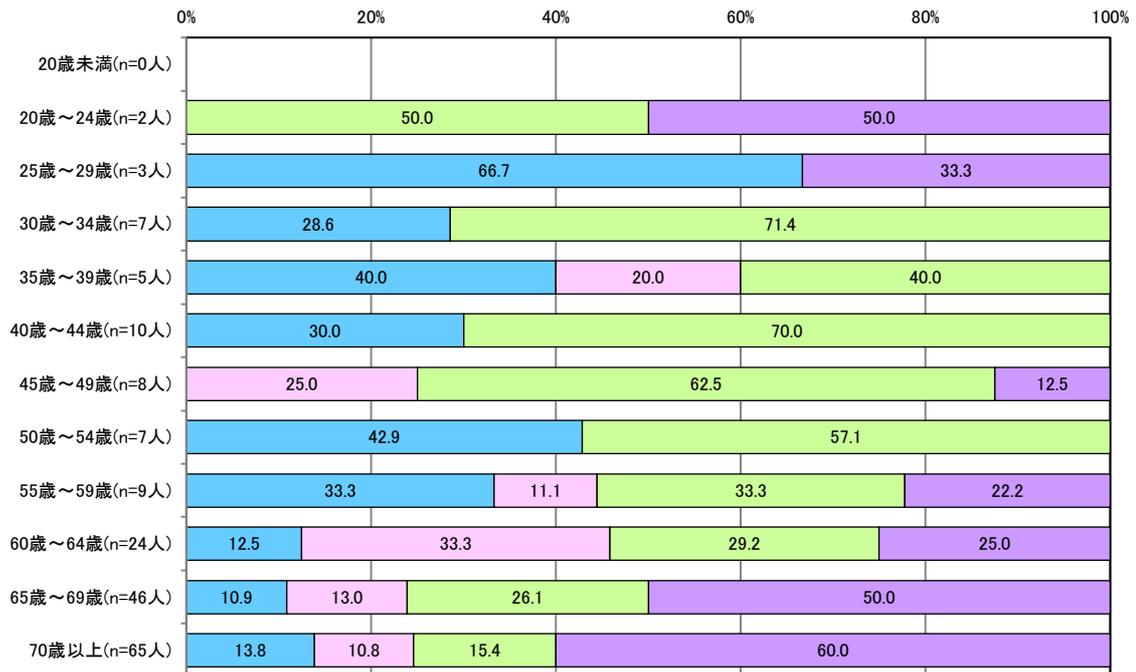
離職されている方におたずねします。

問 10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

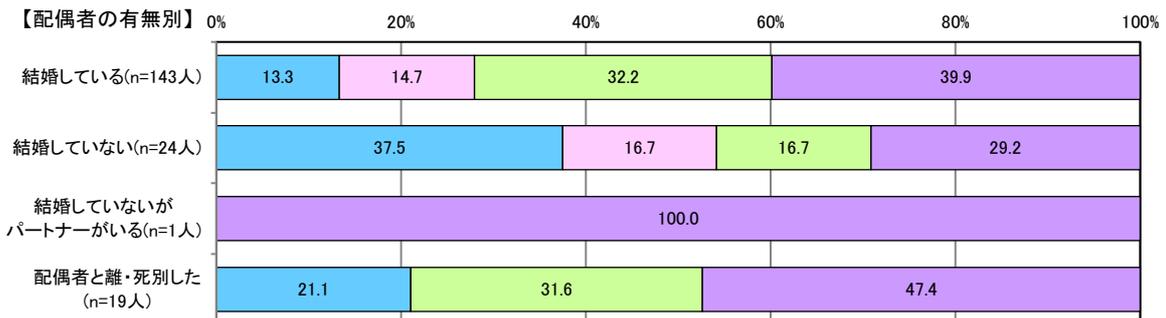
- ・全体でみると、「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」(29.9%) という回答が約3割と最も多く、次いで、「正規社員」(17.1%) となっている。
- ・性別でみると、男性では「正規社員」(28.1%) が、女性では「パート社員（家に子どもがいない時間のみ等）」(38.5%) が最も多くなっている。
- ・世代別でみると、45歳～49歳を除いた59歳以下では、「正規社員」という回答が2割以上となっている。
- ・配偶者の有無別でみると、「正規社員」という回答が、「結婚していない」で37.5%、「配偶者と離・死別した」で21.1%と2割以上となっている。



【世代別】

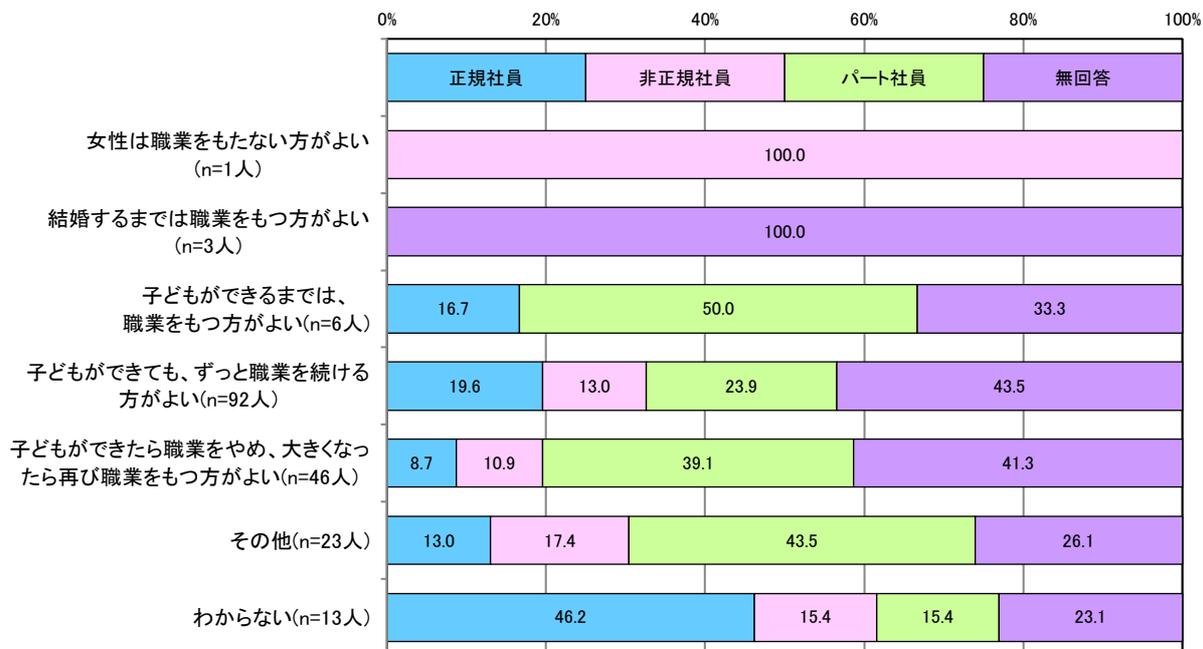


【配偶者の有無別】



- ・女性が職業を持つことについてみると、「子どもができるまでは、職業をもつ方がよい」、「子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい」では、「正規社員」という回答が約2割となっている。一方、「子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい」では、「正規社員」という回答は8.7%となっている。

【女性が職業を持つことについて】

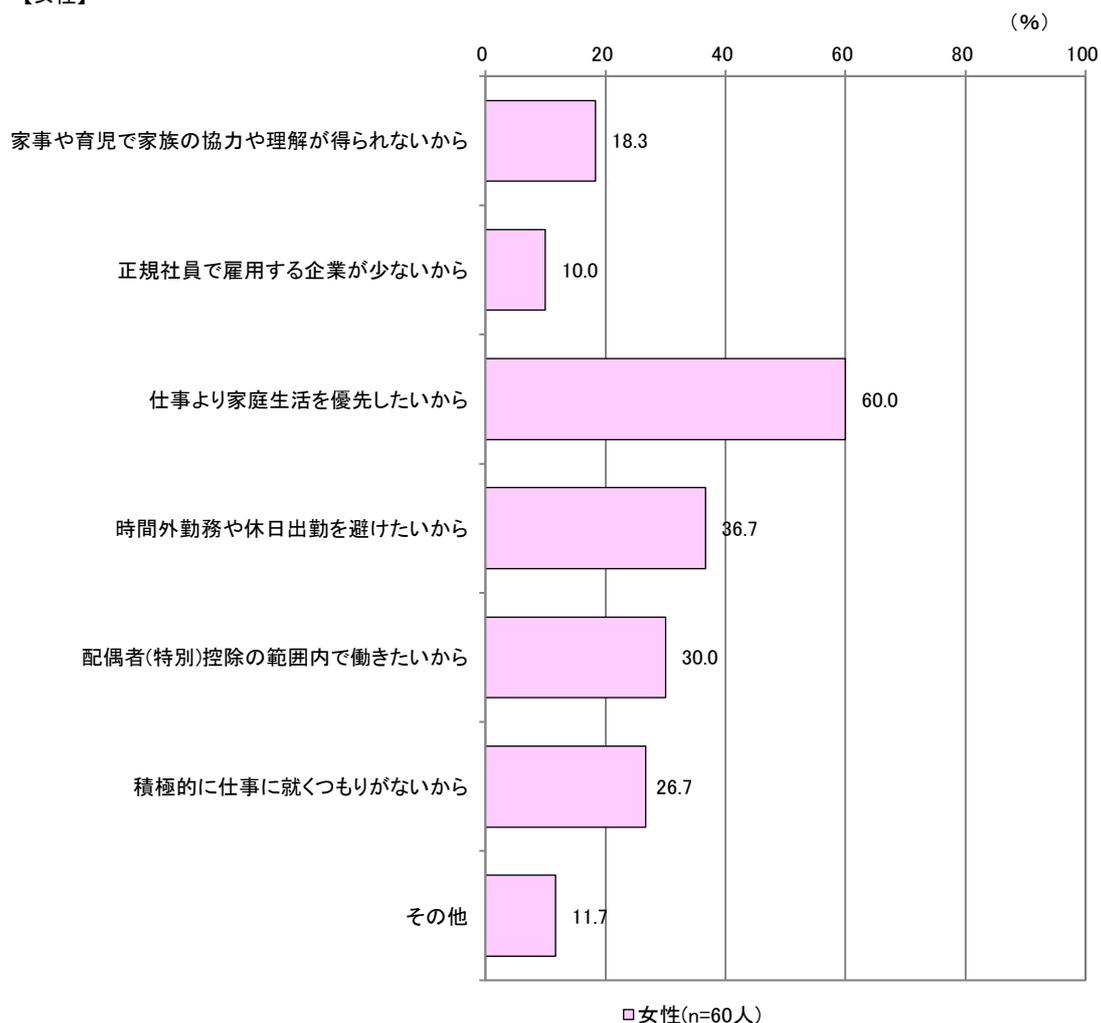


問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまでお選びください。

- ・全体でみると、「仕事より家庭生活を優先したいから」(60.0%)が最も多い回答となっている。次いで、「時間外勤務や休日出勤を避けたいから」(36.7%)、「配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから」(30.0%)、「積極的に仕事に就くつもりがないから」(26.7%)の順で続いている。

【女性】

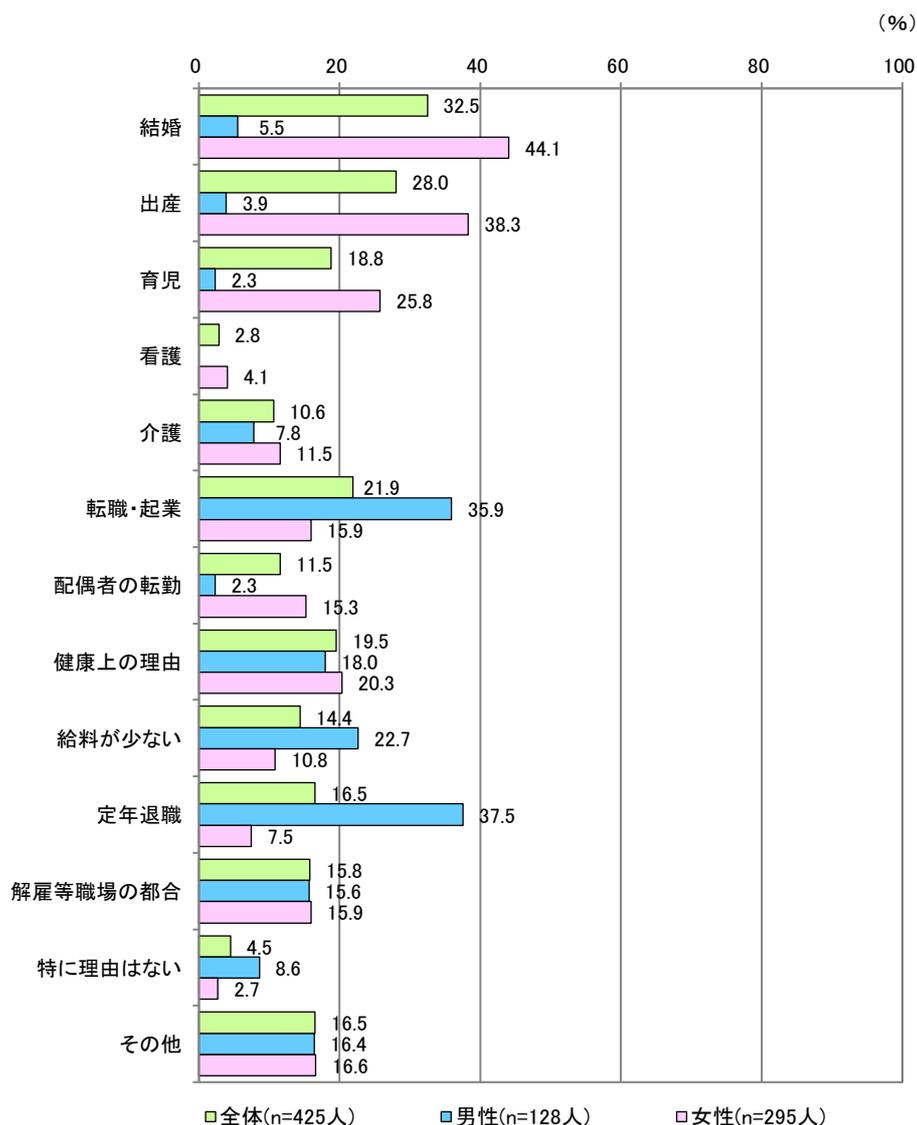


離職経験のある方におたずねします。

問 12 離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- ・全体で見ると、「結婚」(32.5%) が最も多い回答となっている。次いで、「出産」(28.0%)、「転職・起業」(21.9%) の順で続いている。
- ・性別で見ると、男性は、「定年退職」(37.5%)、「転職・起業」(35.9%)、「給料が少ない」(22.7%)、「健康上の理由」(18.0%) の順となっている。女性は、「結婚」(44.1%)、「出産」(38.3%)、「育児」(25.8%) の順となっている。
(※無回答は、離職経験のない方として集計している)。

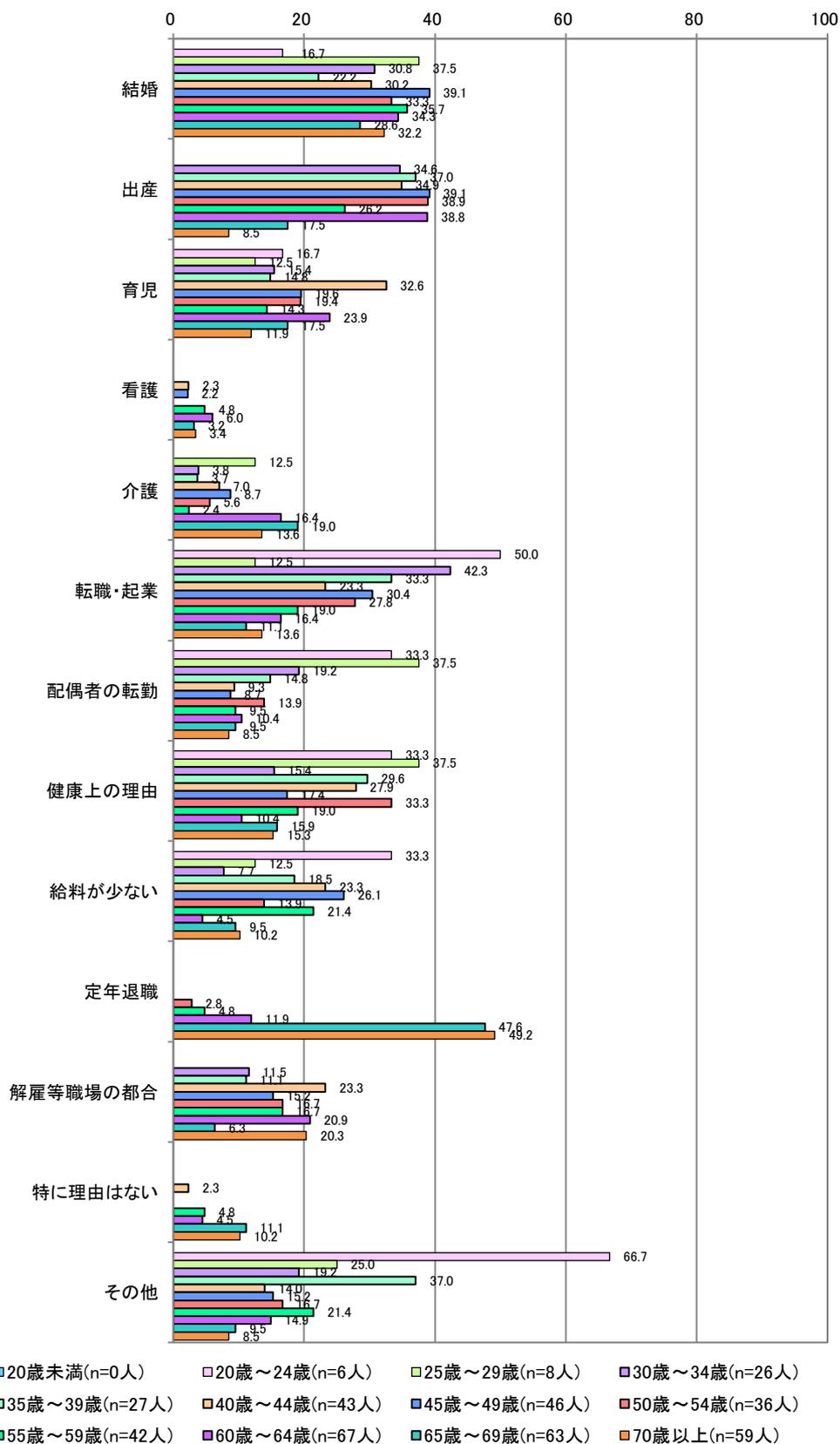
【性別】



・年代別でみると、いずれの回答でも、年代による増減の波がみられる。

【年代別】

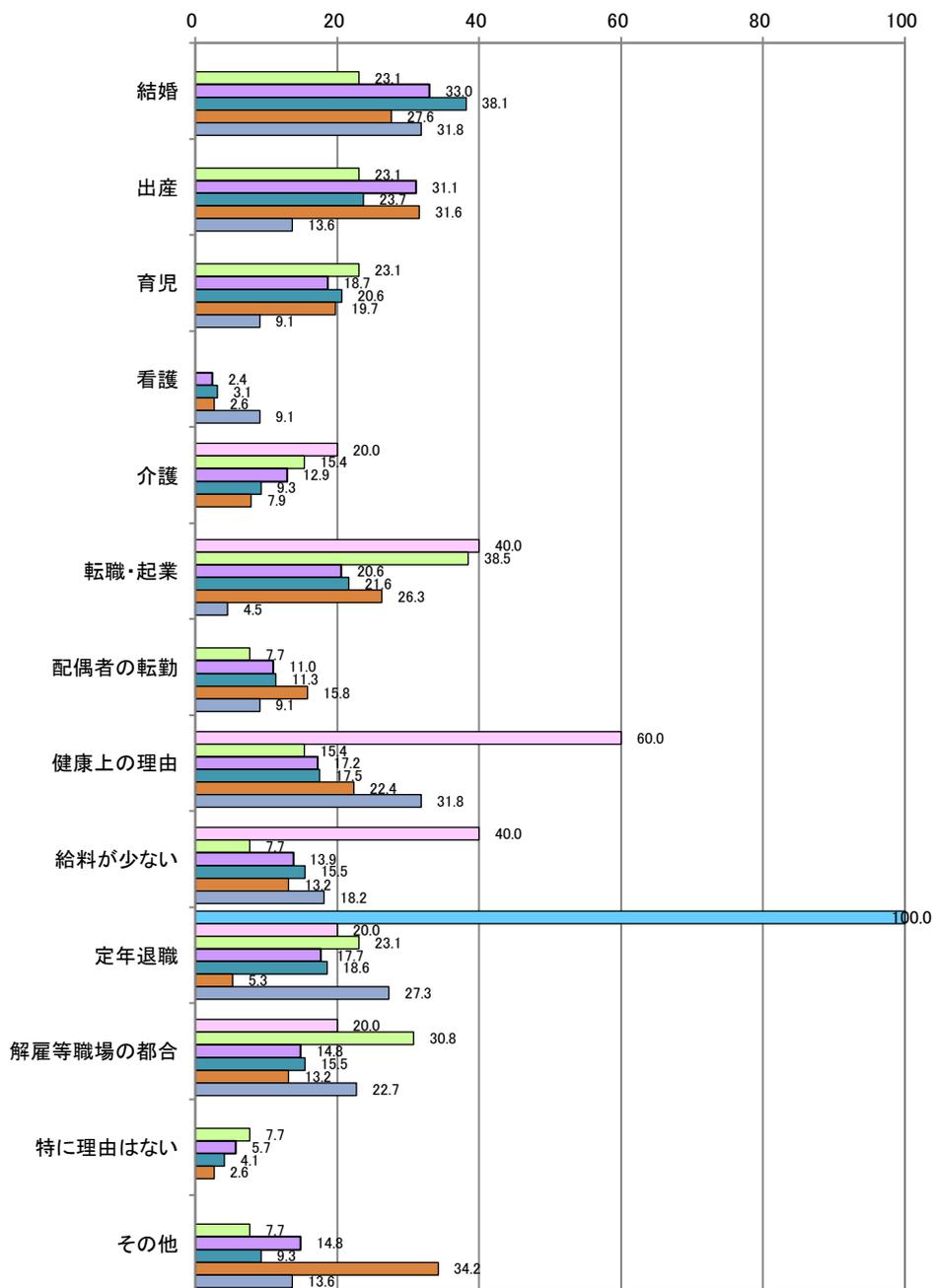
(%)



・女性が職業を持つことについてみると、その差はあまり大きくないといえる。

【女性が就業を持つことについて】

(%)

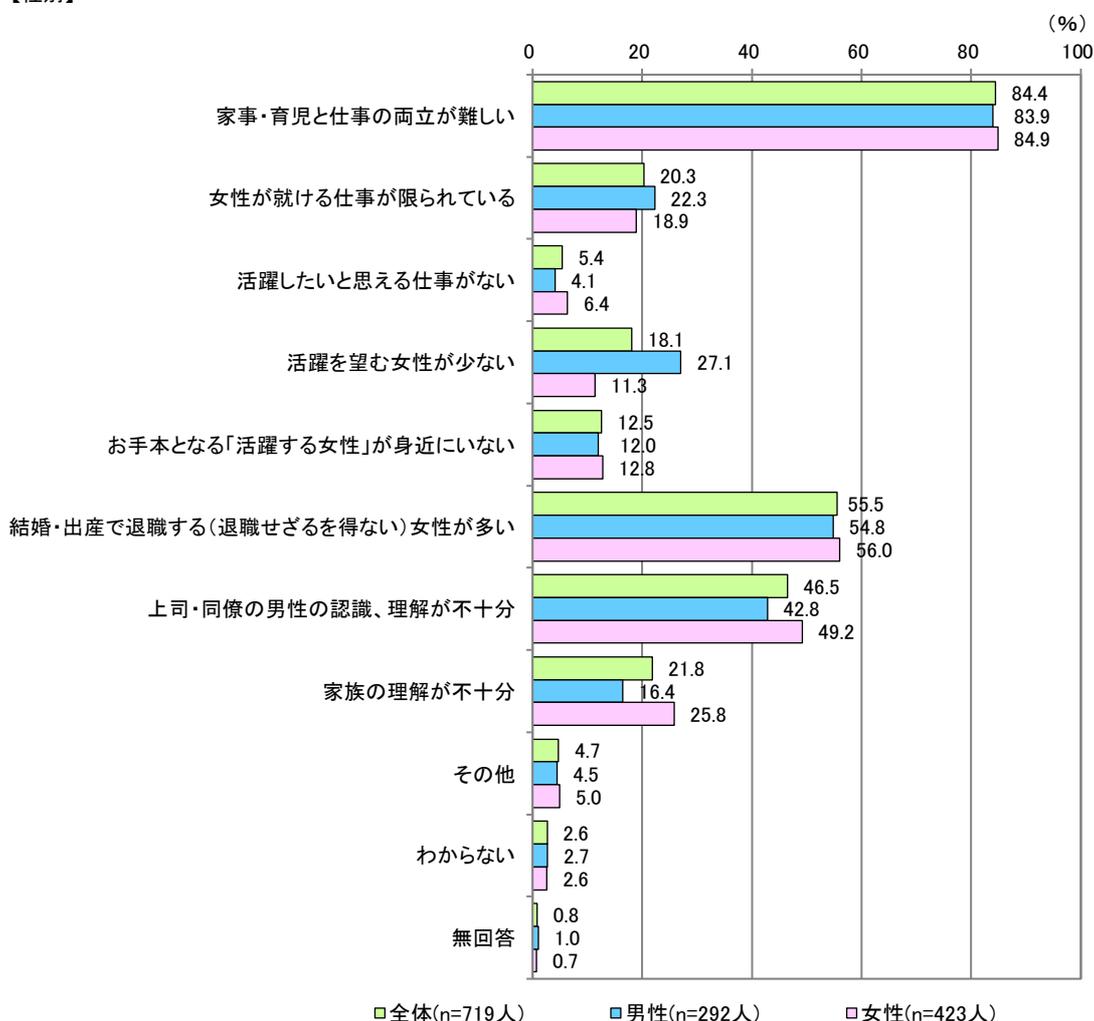


- 女性に職業をもたない方がよい(n=1人)
- 結婚するまでは職業をもつ方がよい(n=5人)
- 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい(n=13人)
- 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい(n=209人)
- 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい(n=97人)
- その他(n=76人)
- わからない(n=22人)

問 13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

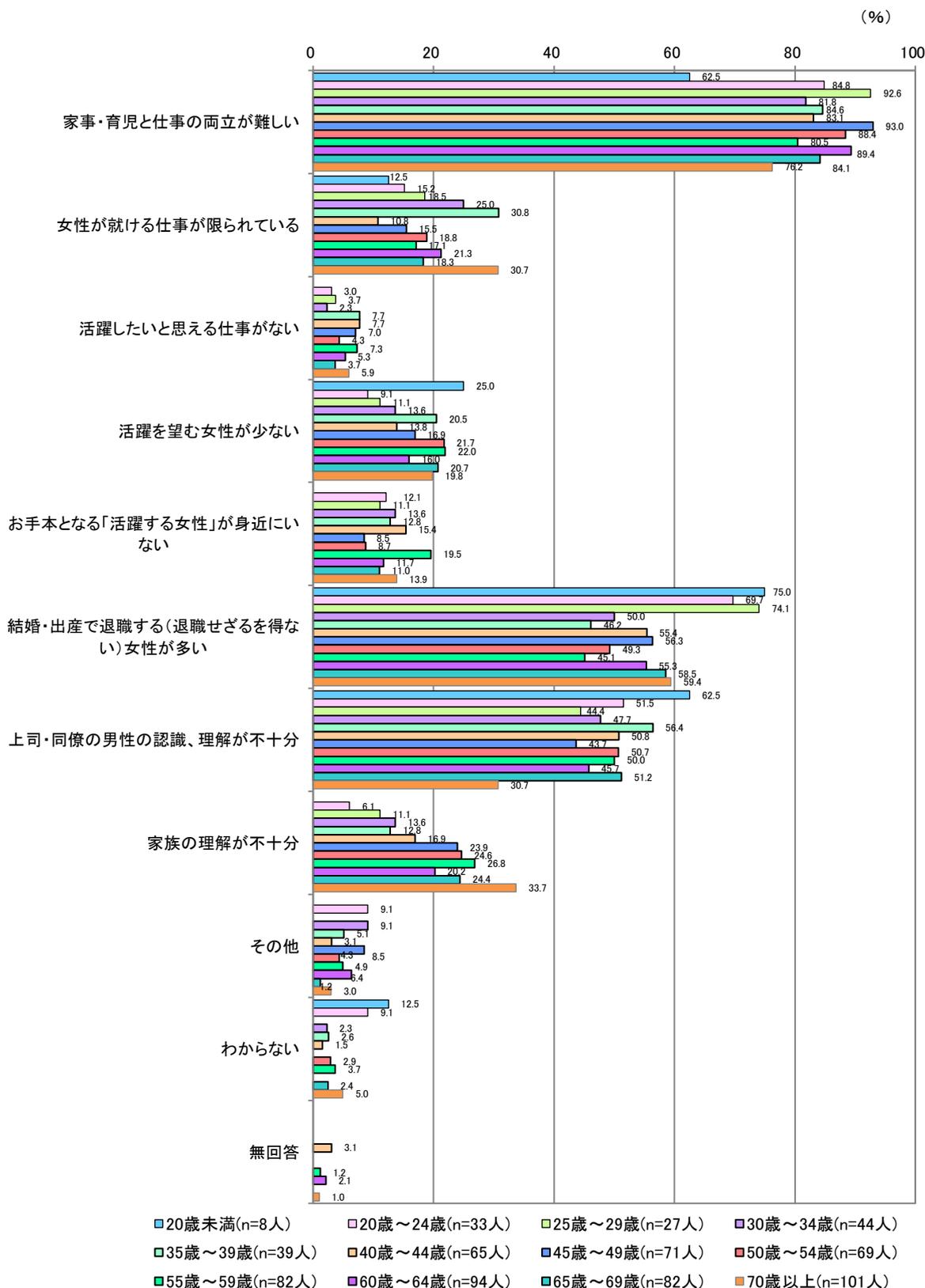
- ・全体でみると、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(84.4%)が最も多い回答となっている。次いで、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(55.5%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(46.5%)の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(83.9%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(54.8%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(42.8%)、「活躍を望む女性が少ない」(27.1%)、「女性が就ける仕事が限られている」(22.3%)の順となっている。女性も、「家事・育児と仕事の両立が難しい」(84.9%)、「結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い」(56.0%)、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」(49.2%)、「家族の理解が不十分」(25.8%)の順となっている。

【性別】



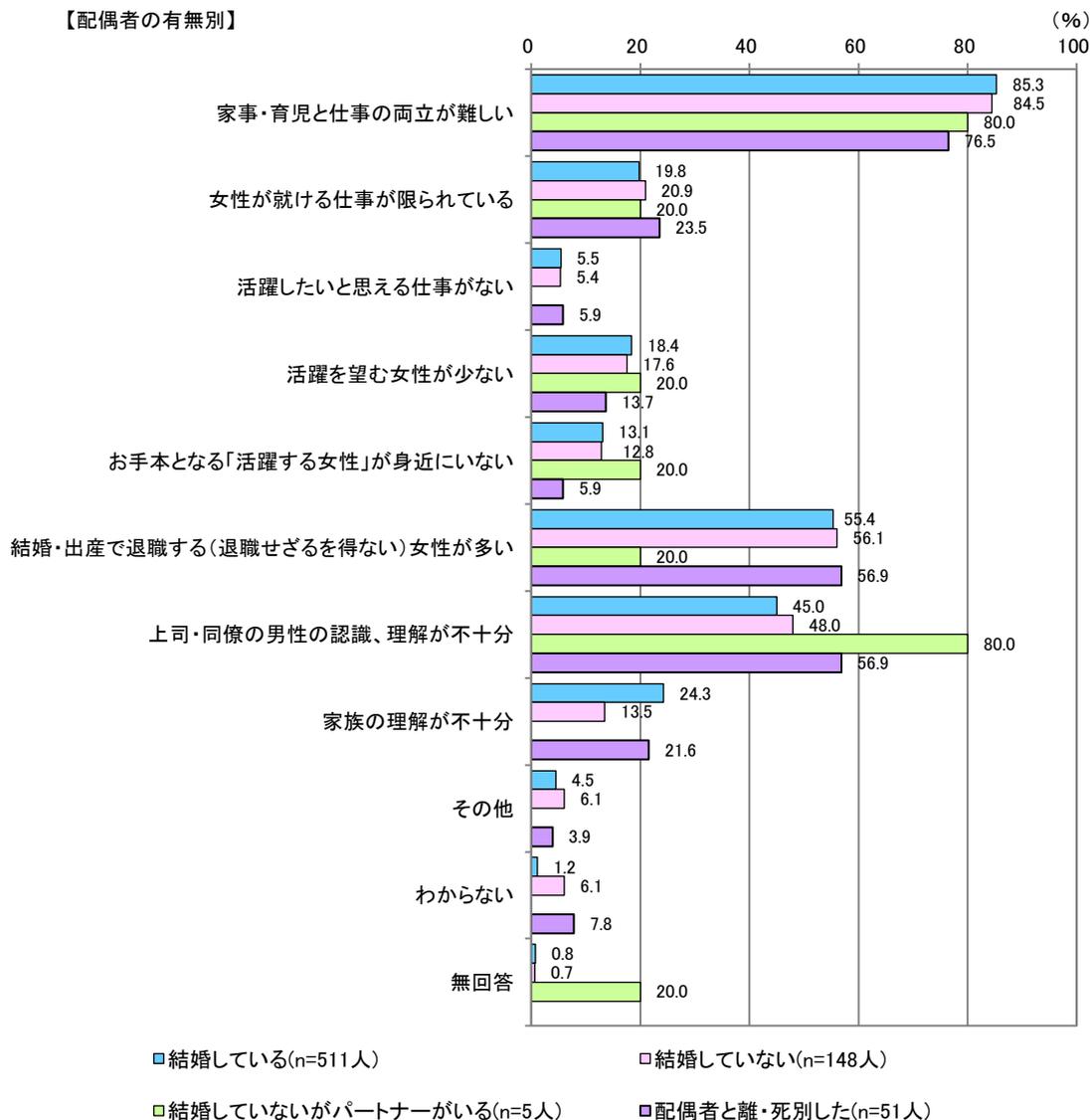
・年代別でみると、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」という回答では、29歳以下で他の年代に比べ回答割合がやや高くなっている。「家事・育児と仕事の両立が難しい」という回答では、25歳～29歳、45歳～49歳で9割を超えている。「家族の理解が不十分」という回答では、70歳以上の年代で3割を超え、他の年代に比べやや高くなっている。

【年代別】



- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「家事・育児と仕事の両立が難しい」が7割を超え、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、最も多くなっている。次いで、「結婚している」、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」では、「結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い」、「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」と続いている。一方、「結婚していないがパートナーがいる」では、「家事・育児と仕事の両立が難しい」と「上司・同僚の男性の認識、理解が不十分」が同率で最も多くなっている。

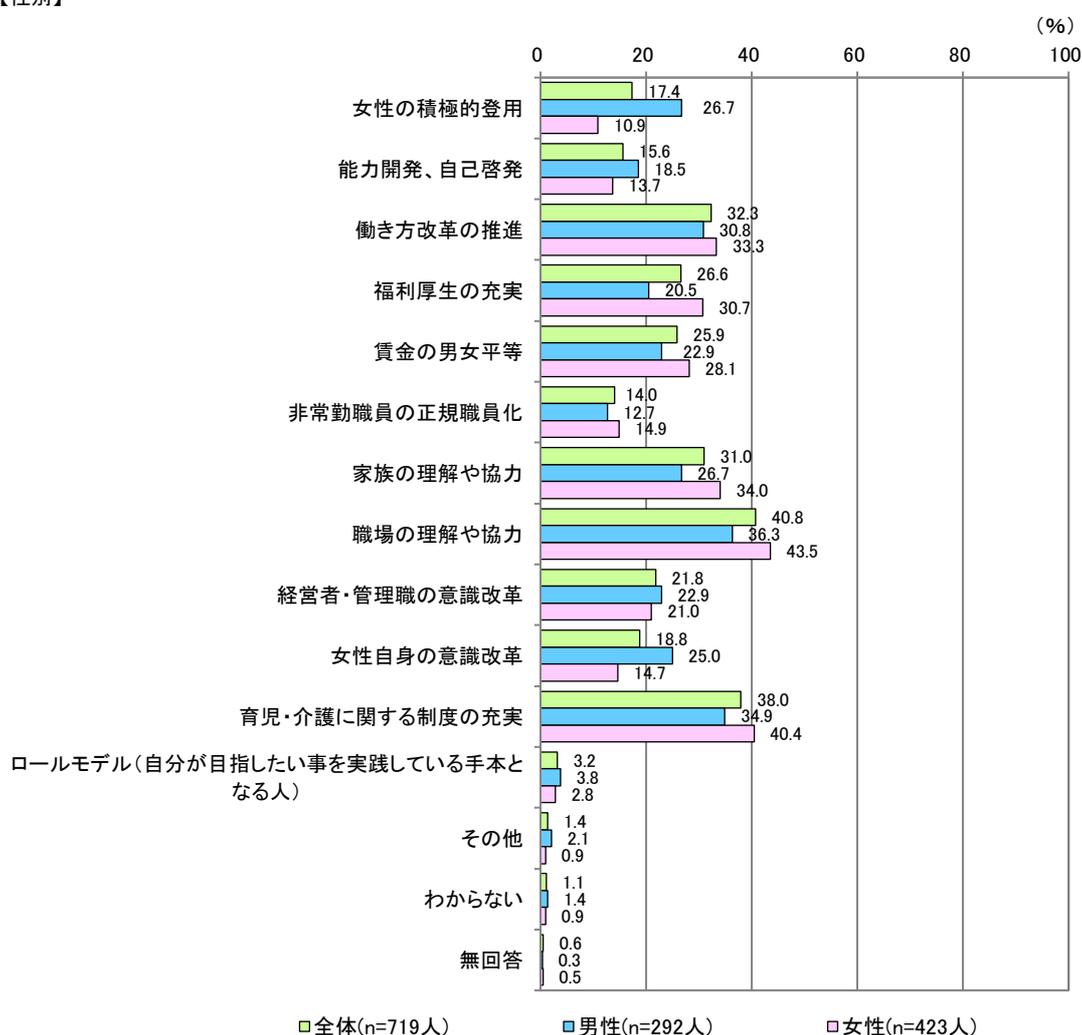
【配偶者の有無別】



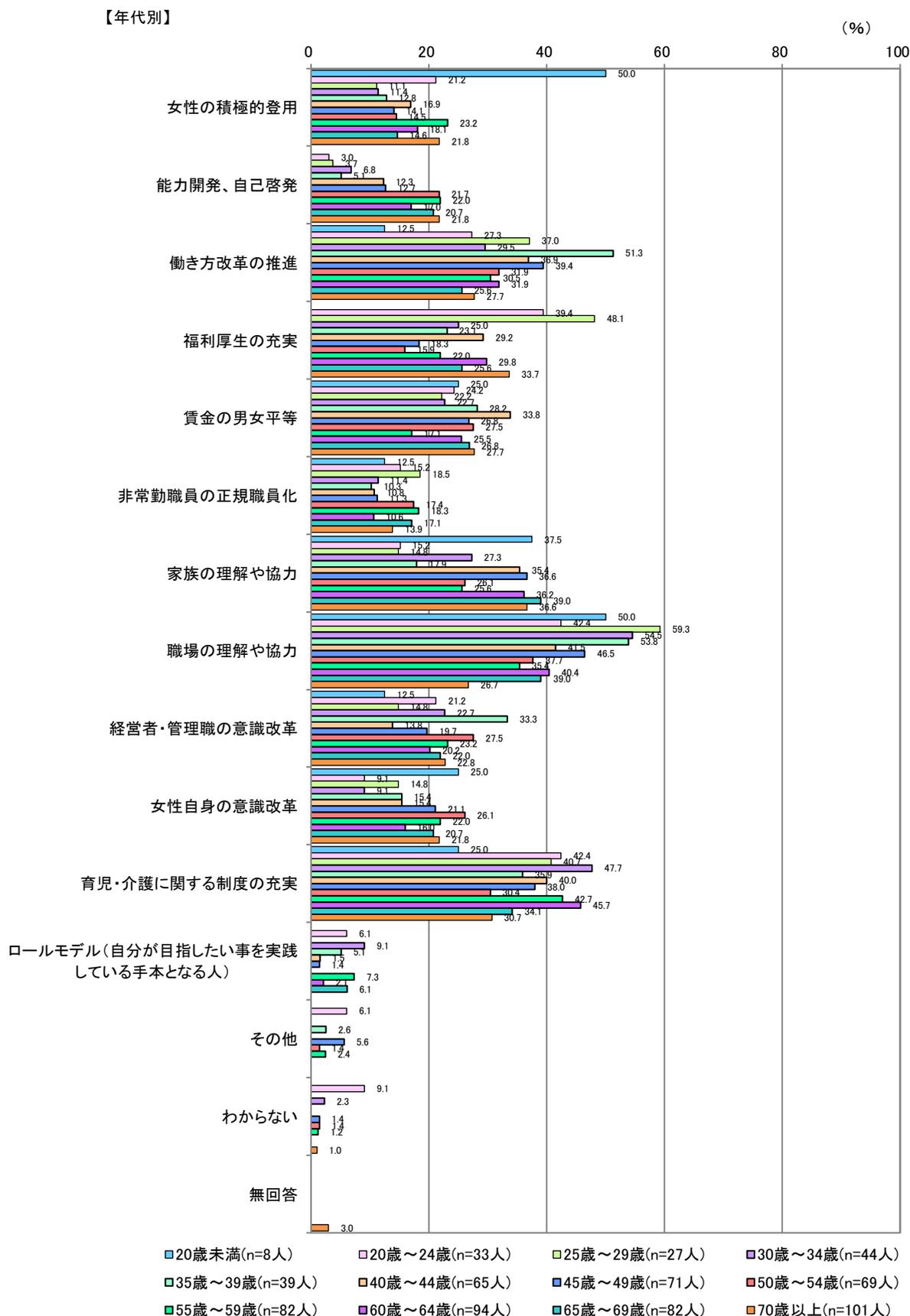
問 14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「職場の理解や協力」(40.8%) が最も多い回答となっている。次いで、「育児・介護に関する制度の充実」(38.0%)、「働き方改革の推進」(32.3%)、「家族の理解や協力」(31.0%) の順が続いている。
- ・性別でみると、男性は、「職場の理解や協力」(36.3%)、「育児・介護に関する制度の充実」(34.9%)、「働き方改革の推進」(30.8%)、「家族の理解や協力」(26.7%) の順となっている。女性は、「職場の理解や協力」(43.5%)、「育児・介護に関する制度の充実」(40.4%)、「家族の理解や協力」(34.0%)、「働き方改革の推進」(33.3%)、「福利厚生 of 充実」(30.7%) の順となっている。

【性別】

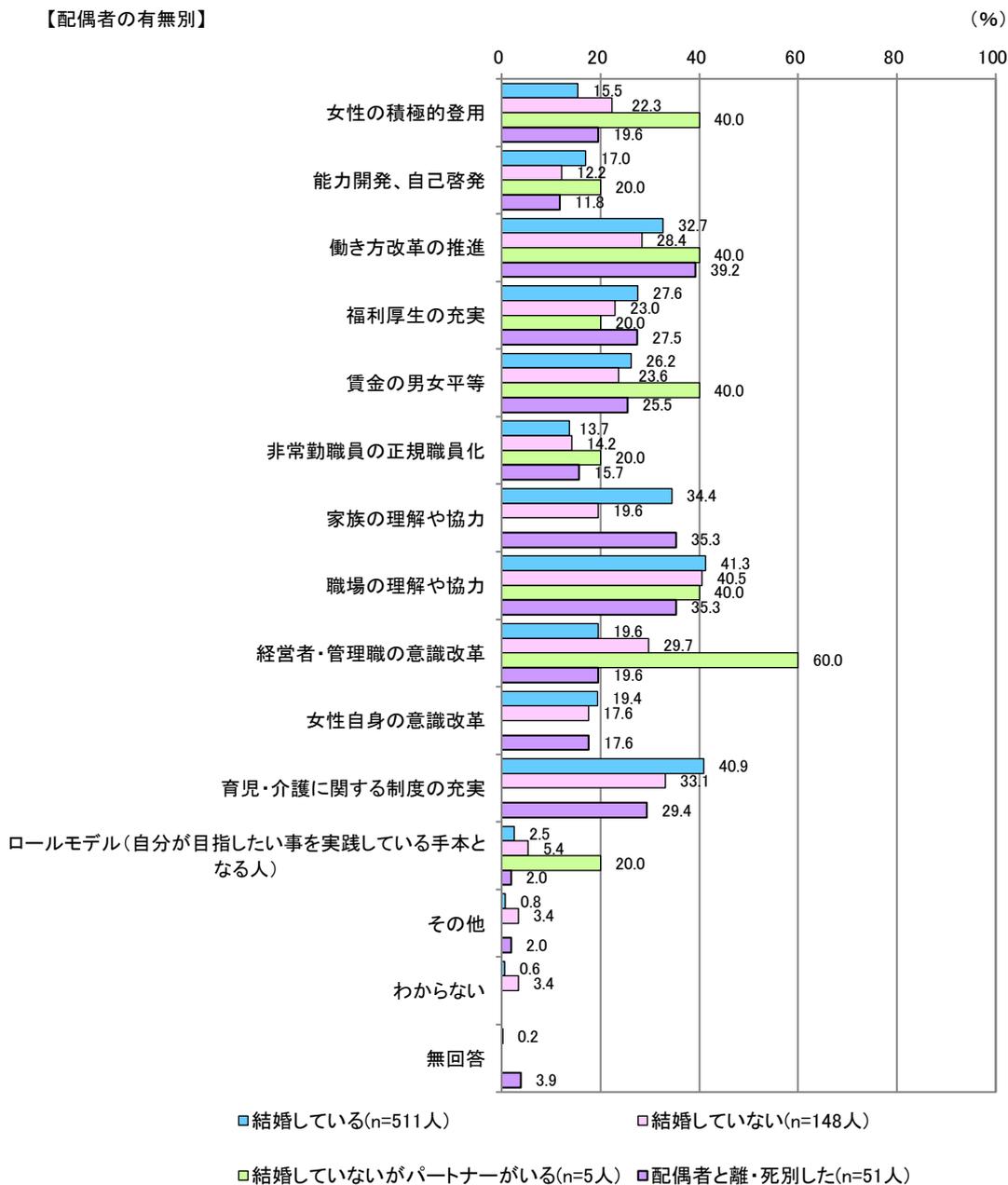


- ・年代別でみると、55歳～64歳、70歳以上を除き、いずれの年代でも、「職場の理解や協力」が最も多いか、同率で最も多くなっている。一方、55歳～64歳では「育児・介護に関する制度の充実」が、70歳以上では、「家族の理解や協力」が最も多くなっている。



- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」、「結婚していない」では、「職場の理解や協力」が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「働き方改革の推進」が、「結婚していないがパートナーがいる」では、「経営者・管理職の意識改革」が最も多くなっている。

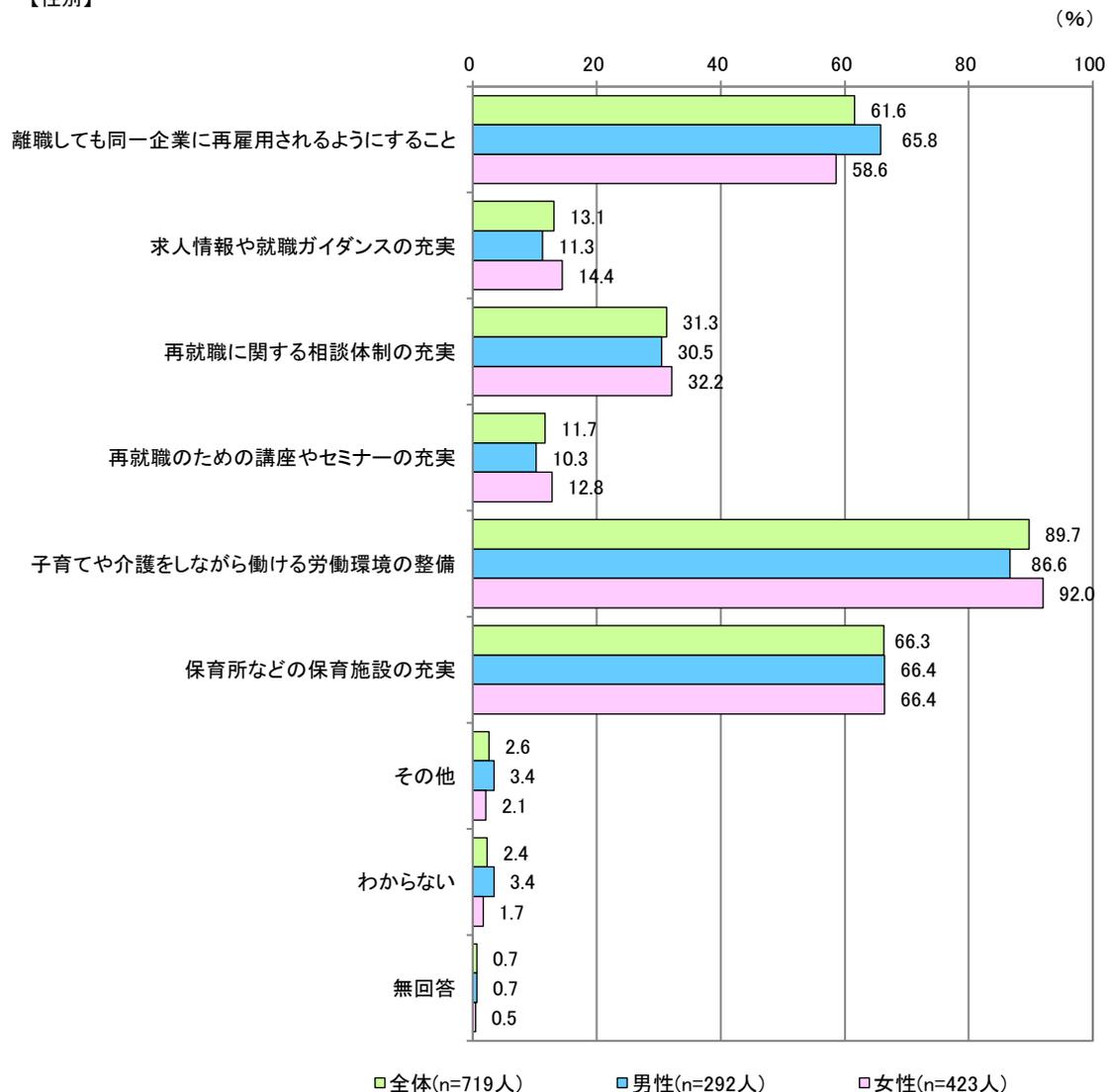
【配偶者の有無別】



問 15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- ・全体でみると、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」(89.7%)が最も多い回答となっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」(66.3%)、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」(61.6%)の順で続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が最も多くなっている。次いで、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。

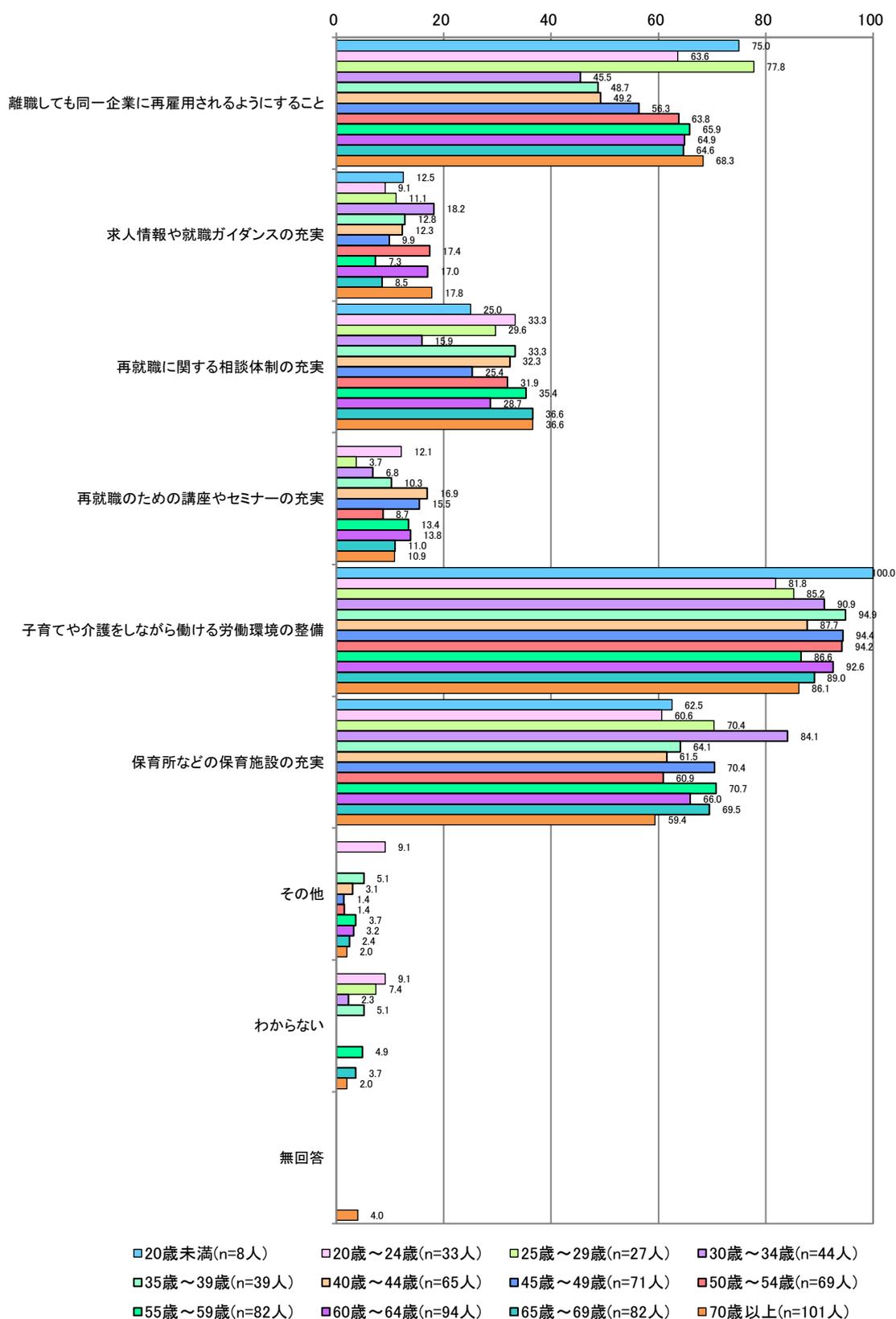
【性別】



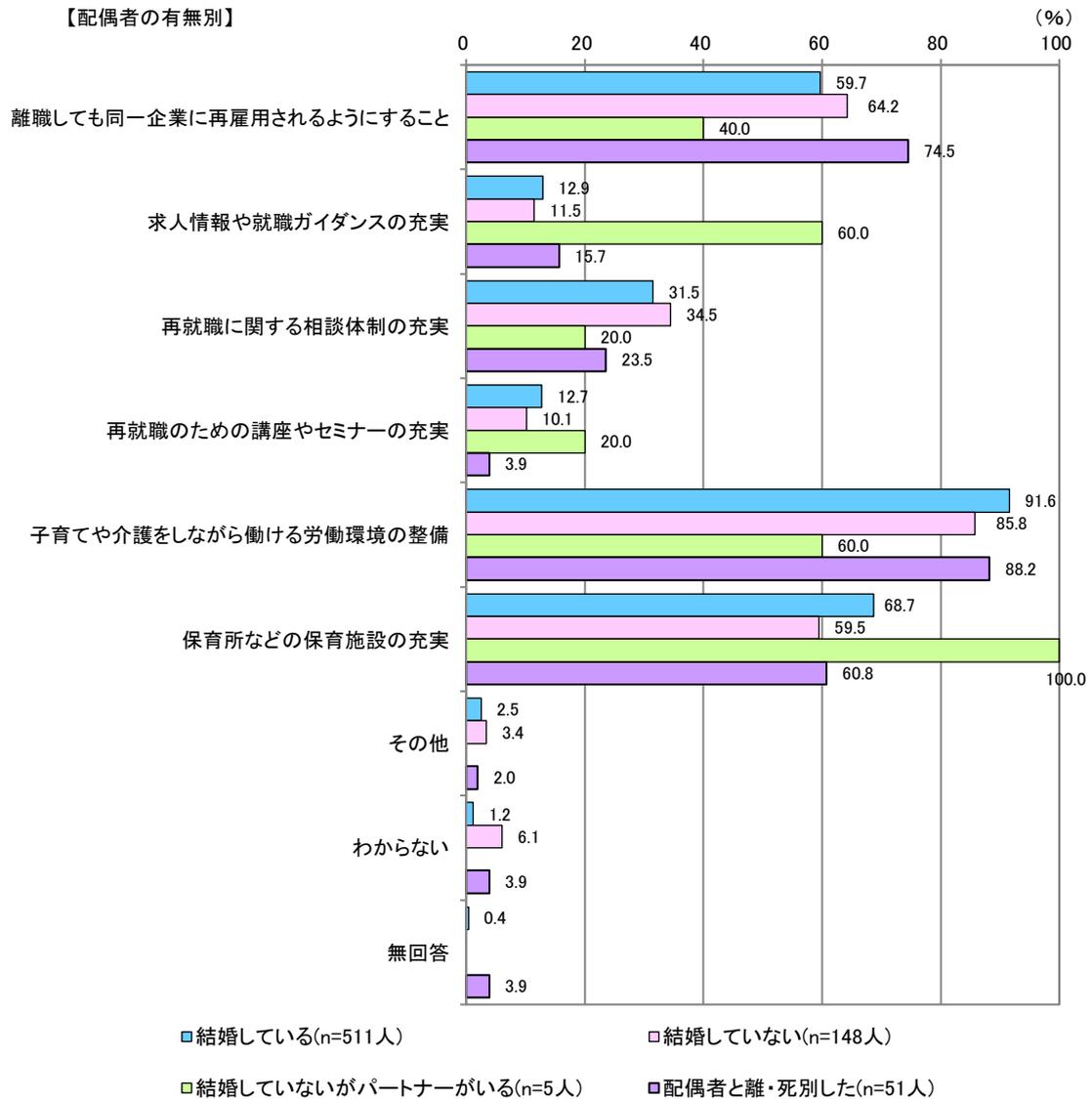
- ・年代別でみると、いずれの年代でも、上位3項目は一致している。「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」という回答では、いずれの年代でも回答割合が8割を超えている。また、「保育所などの保育施設の充実」という回答では、30歳～34歳で8割を超えている。

【年代別】

(%)



- ・配偶者の有無別でみると、いずれも「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」が6割以上と、「結婚していないがパートナーがいる」を除き、最も多くなっている。次いで、「結婚している」では、「保育所などの保育施設の充実」、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」と続いている。一方、「結婚していない」、「配偶者と離・死別した」では、「離職しても同一企業に再雇用されるようにすること」、「保育所などの保育施設の充実」と続いている。また、「結婚していないがパートナーがいる」では、「保育所などの保育施設の充実」が最も多く、次に、「求人情報や就職ガイダンスの充実」、「子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備」と続いている。

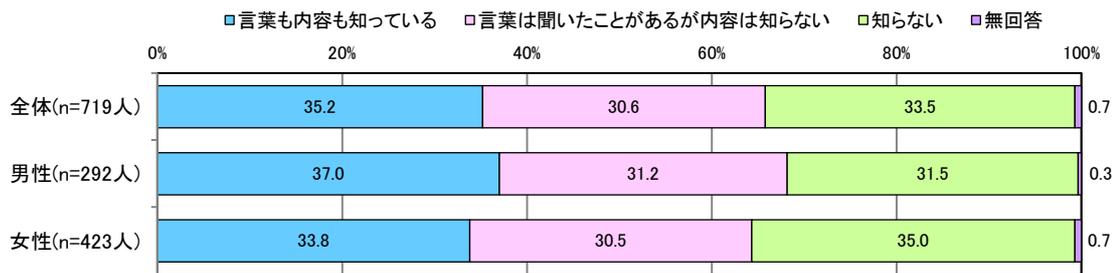


仕事と生活の調和に関することについて

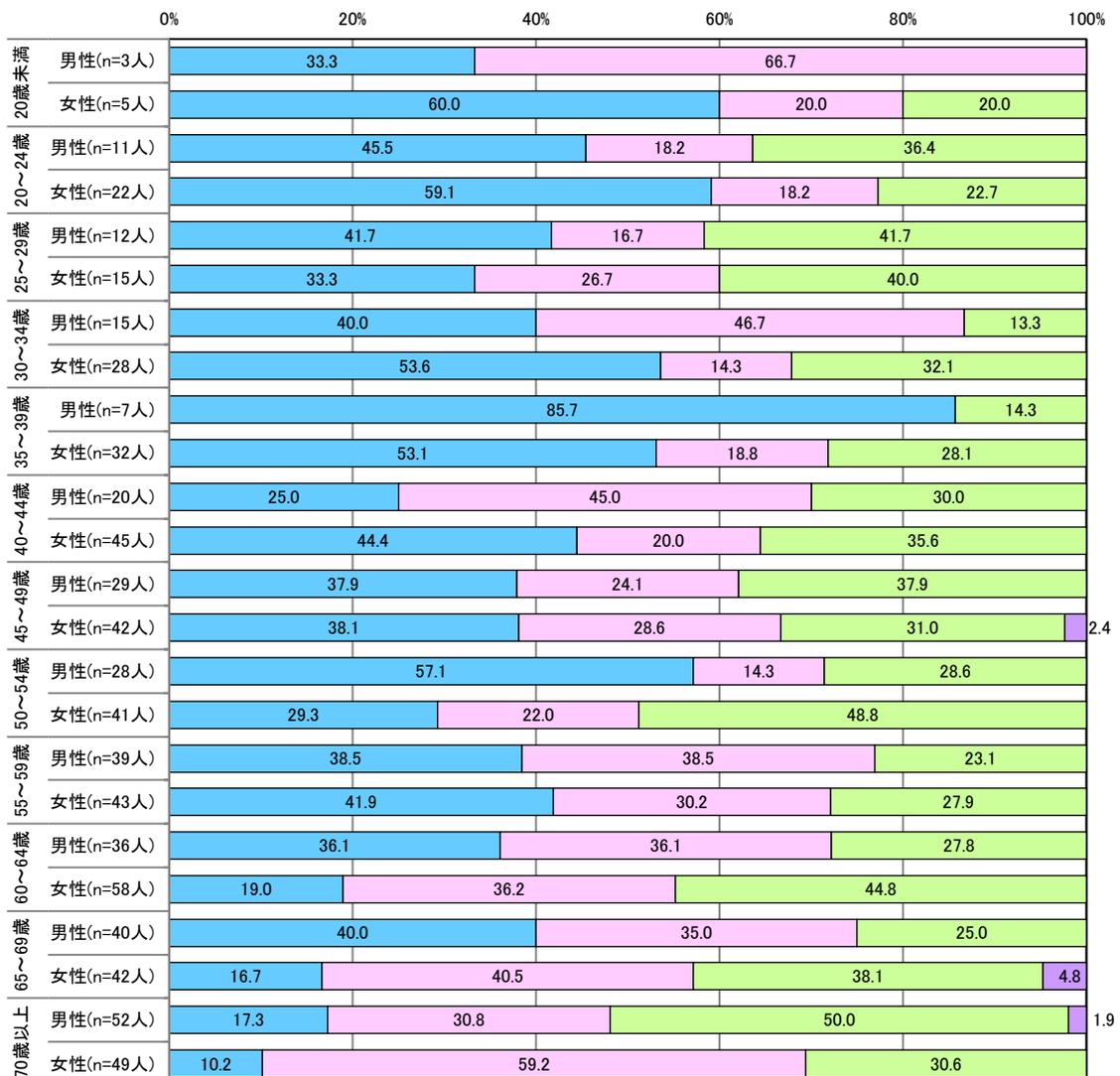
問 16 あなたは、「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」という言葉をご存知ですか。次の中から1つお選びください。

- ・性別でみると、男性では、「言葉も内容も知っている」という回答が最も多く、4割(37.0%)であるのに対し、女性では「知らない」が約4割(35.0%)となっている。「言葉も内容も知っている」という回答は、男性が37.0%、女性が33.8%で、男性の方が女性より回答割合がやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の女性、30歳～34歳の女性、35歳～39歳の男女、50歳～54歳の男性で、「言葉も内容も知っている」という回答割合が5割以上となっている。

【性別】



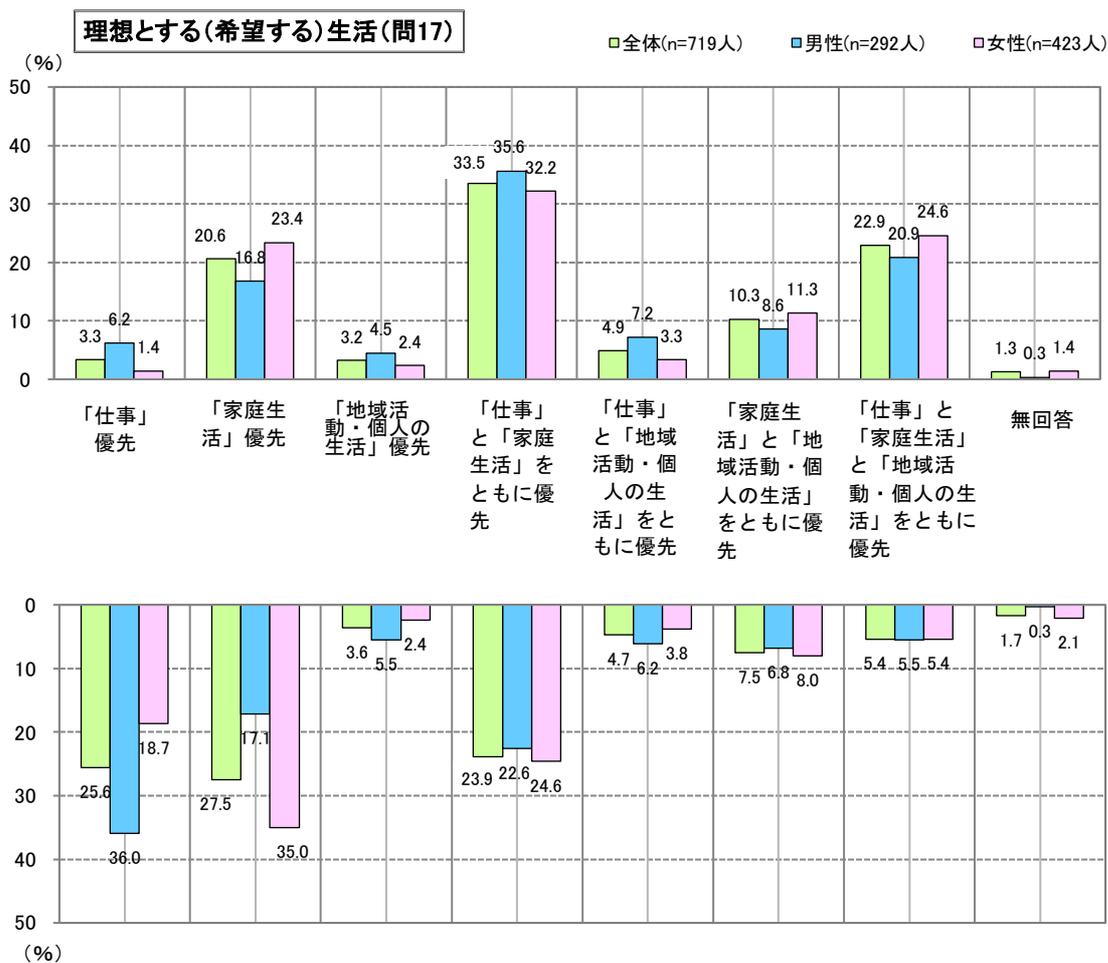
【世代別性別】



問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたが理想とする（希望する）生活に最も近いものを1つお選びください。

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活（学習、趣味、付き合い等）」の優先度についてあなたの現実（現状）の生活に最も近いものを1つお選びください。

- ・全体でみると、問17の理想とする生活については『仕事』と『家庭生活』をともに優先」という回答が最も多く、約3割（33.5%）となっている。次に、『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」（22.9%）、『家庭生活』優先」（20.6%）の順に続いている。
- ・一方、問18の現実の生活では、『家庭生活』優先」（27.5%）という回答が最も多く、次いで、『仕事』優先」（25.6%）、『仕事』と『家庭生活』をともに優先」（23.9%）、となっている。
- ・理想の生活では1番目であった『仕事』と『家庭生活』をともに優先」が、現実の生活では2番目となっている。また、理想の生活で3番目に多かった『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、現実の生活では5番目となっている。
- ・性別でみると、理想の生活においては『家庭生活』優先」以外男女の回答に大きな差は見られないが、現実の生活においては、男性は『仕事』優先」、女性は『家庭生活』優先」が最も多い回答となり、理想の生活と現実の生活に差があることがうかがえる。

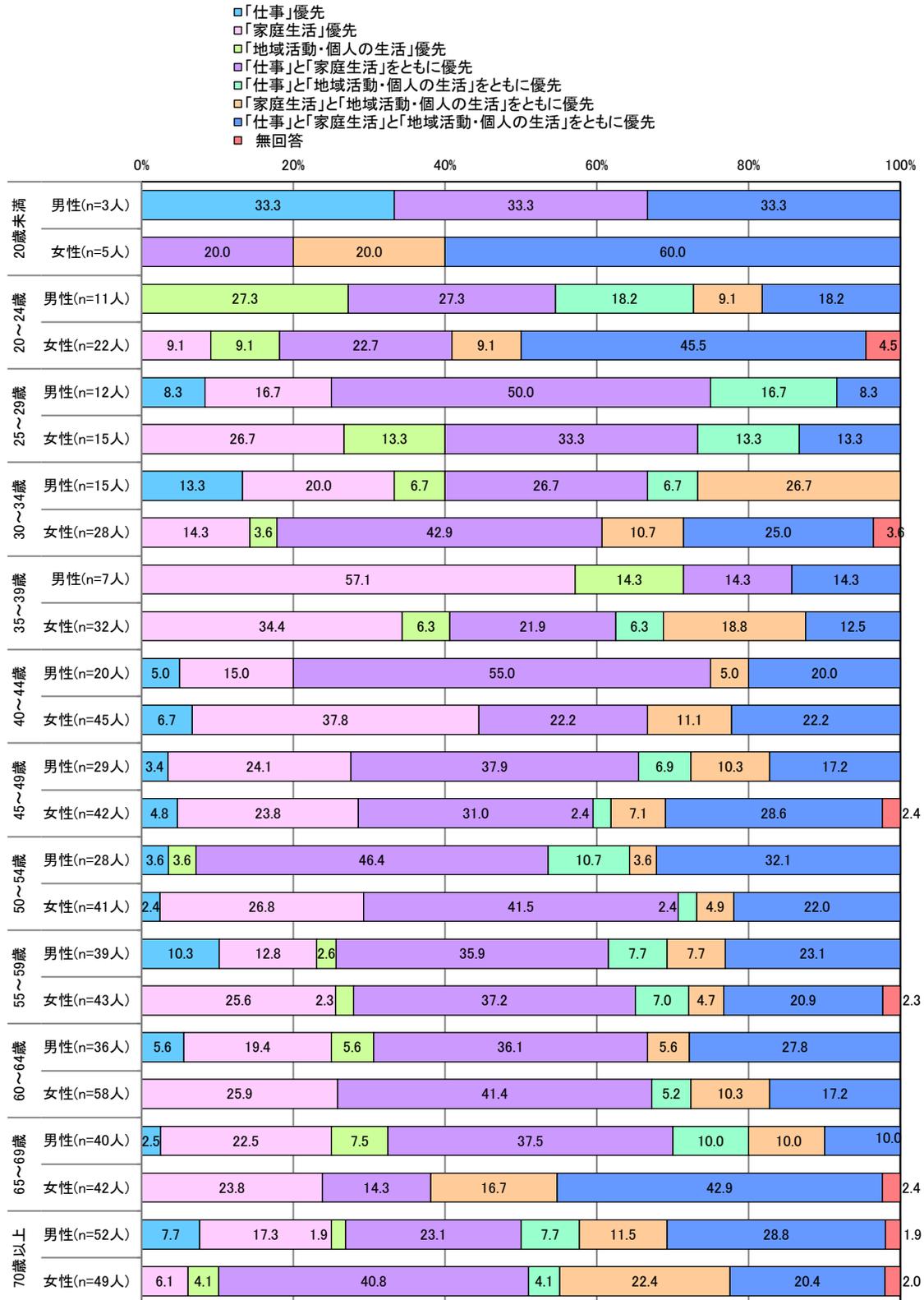


現実(現状)の生活(問18)

問 17 理想とする（希望する）生活 世代別性別

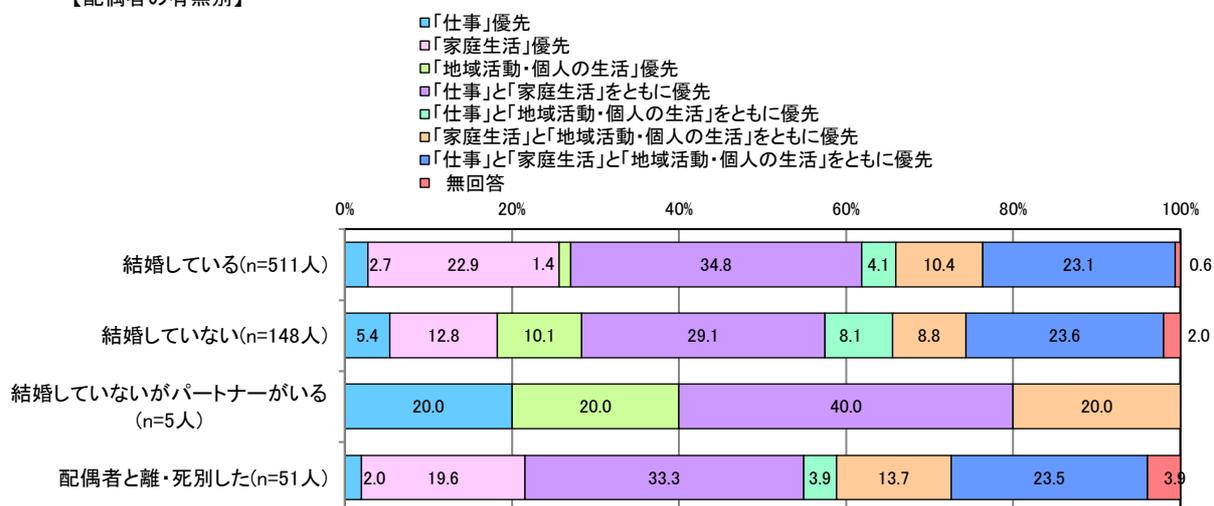
・世代別性別でみると、25歳～29歳の男性、30歳～34歳の女性、40歳～44歳の男性、50歳～54歳の男女、60歳～64歳の女性、70歳以上の女性の年代で、「『仕事』と『家庭生活』とともに優先」という回答が4割を超えている。一方、35歳～39歳の男女、40歳～44歳の女性では、「『家庭生活』優先」という回答が3割を超え、最も多くなっている。

【世代別性別】

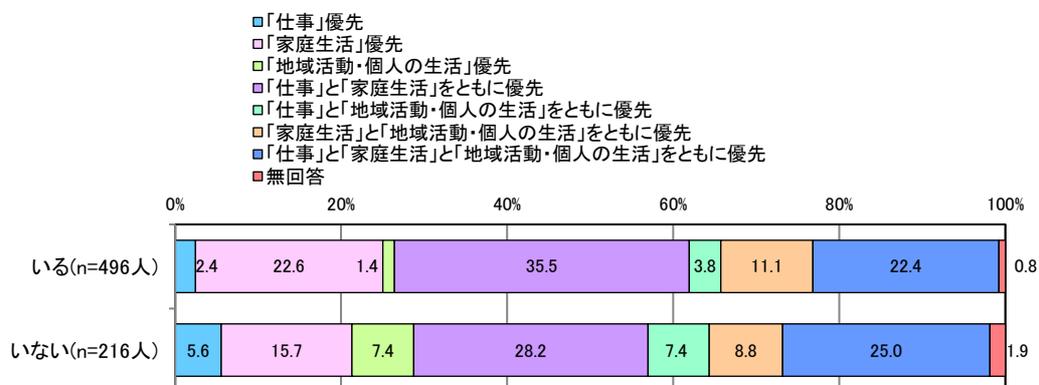


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(34.8%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(23.1%)、「『家庭生活』優先」(22.9%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(29.1%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(23.6%)、「『家庭生活』優先」が(12.8%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(40.0%)が最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(33.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(23.5%)、「『家庭生活』優先」(19.6%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(35.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(22.4%)、「『家庭生活』優先」(22.6%)となっている。「いない」では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(28.2%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」(25.0%)、「『家庭生活』優先」(15.7%)となっている。

【配偶者の有無別】



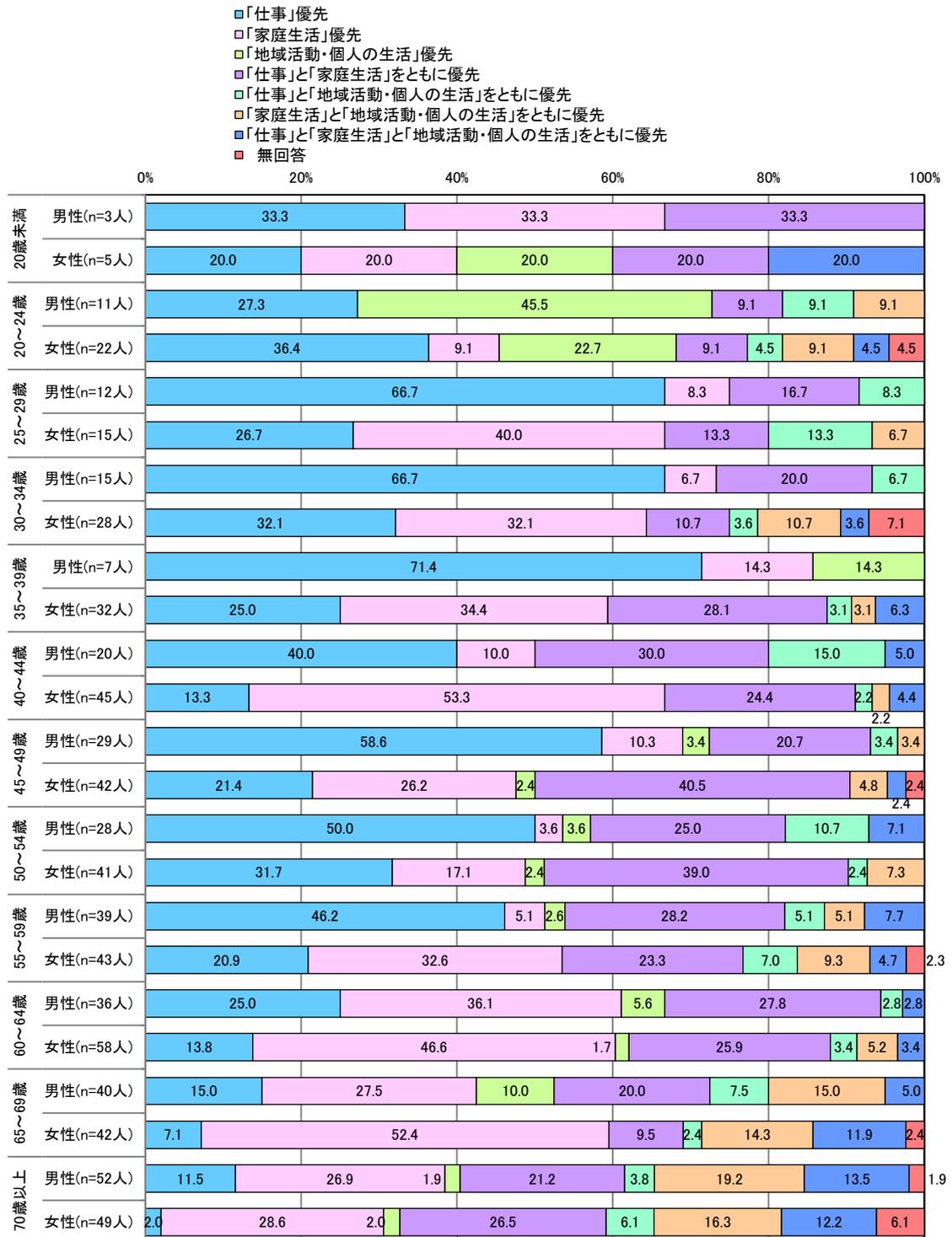
【子の有無別】



問 18 現実（現状）の生活 世代別性別

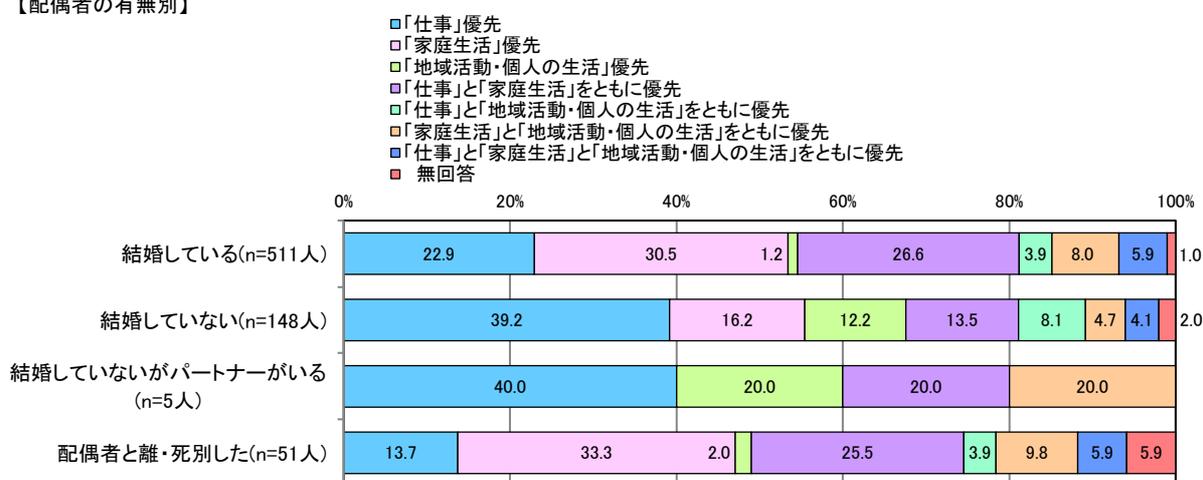
- ・世代別性別でみると、25歳～39歳の男性、45歳～54歳の男性では、「『仕事』優先」という回答が5割を超え最も多くなっている。一方、25歳～29歳の女性、35歳～44歳の女性、60歳～64歳の男女、65歳～69歳の女性で「『家庭生活』優先」という回答が最も多くなっている。
- ・「『家庭生活』と『地域活動・個人の生活』をともに優先」という回答は、30歳～34歳の女性、65歳以上の男女で1割を超えている。

【世代別性別】

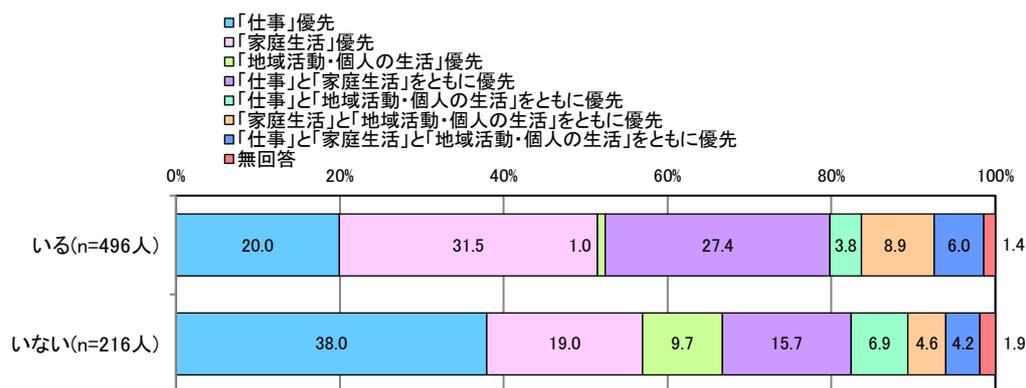


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「『家庭生活』優先」(30.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(26.6%)、「『仕事』優先」(22.9%)となっている。「結婚していない」では、「『仕事』優先」(39.2%)が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」(16.2%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(13.5%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「『仕事』優先」(40.0%)が最も多い回答となっている。「配偶者と離・死別した」では、「『家庭生活』優先」(33.3%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(25.5%)、「『仕事』優先」(13.7%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「『家庭生活』優先」(31.5%)が最も多い回答となっており、次いで「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(27.4%)、「『仕事』優先」(20.0%)となっている。「いない」では、「『仕事』優先」(38.0%)が最も多い回答となっており、次いで「『家庭生活』優先」(19.0%)、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先」(15.7%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】



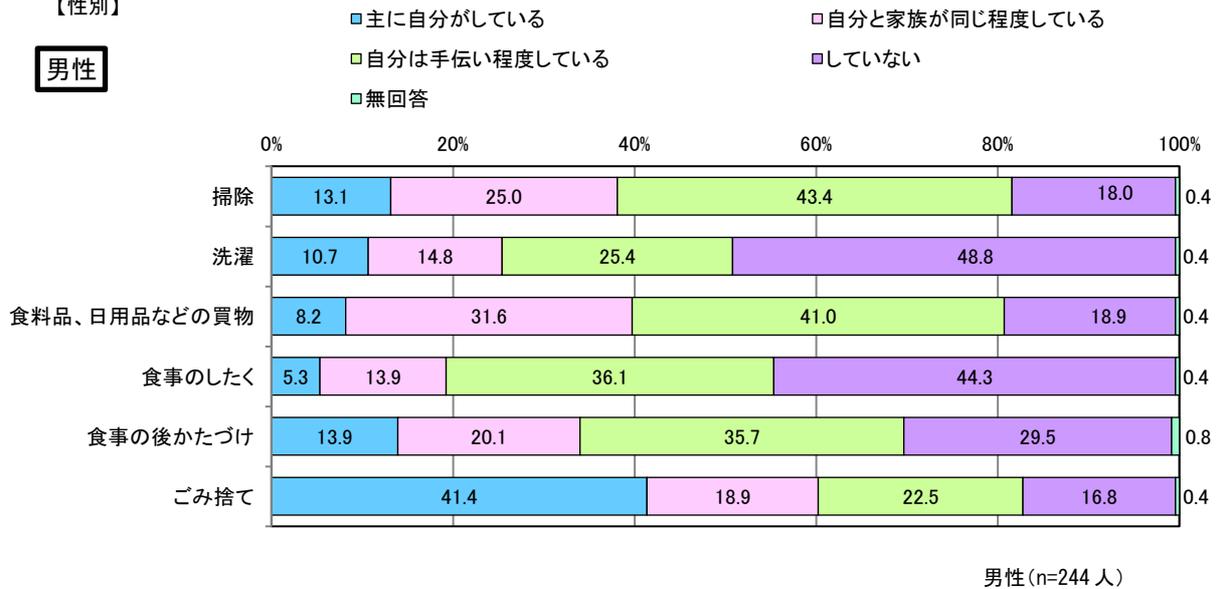
問 19 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

(※集計対象は世帯構成で、「単身世帯」、「その他」、「無回答」を除く 622 人とする)

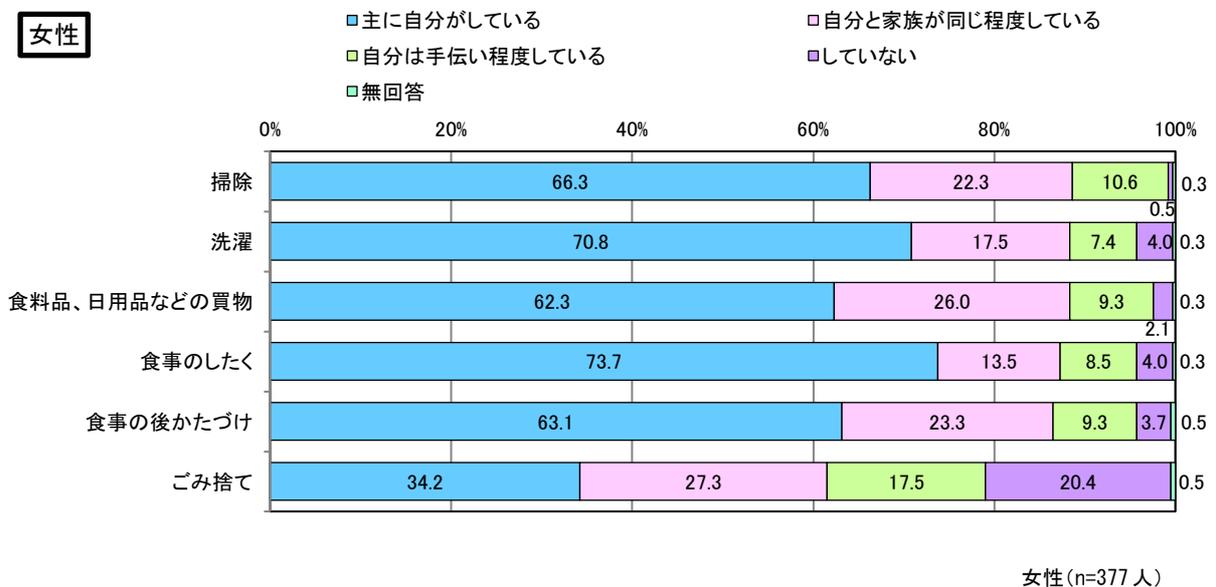
- ・全分野では、男性は、「主に自分がしている」という回答は、「ごみ捨て」が最も多く、約4割(41.4%)となっている。次いで、「食事の後かたづけ」(13.9%)、「掃除」(13.1%)と続いている。
- ・女性は、「主に自分がしている」という回答は、「食事のしたく」が最も多く、7割(73.7%)となっている。次いで、「洗濯」(70.8%)、「掃除」(66.3%)となっている。

【性別】

男性



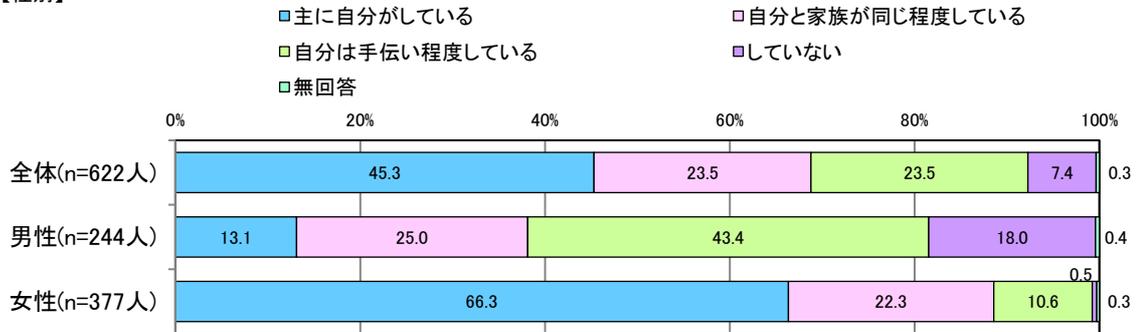
女性



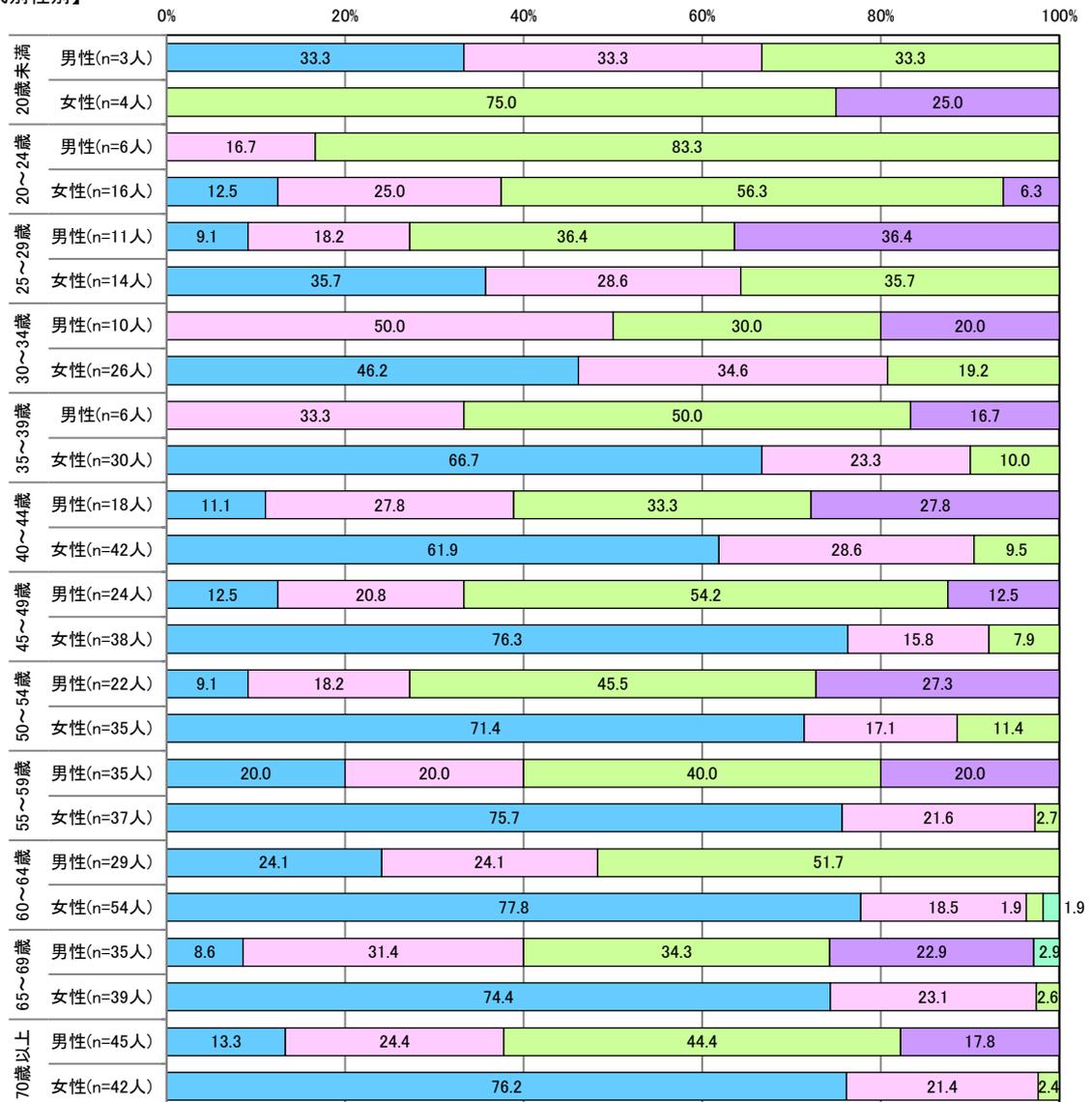
1 掃除

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(66.3%)という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(43.4%)という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、「していない」という回答が2割以上となる世代は、20歳未満の女性、25歳～34歳の男性、40歳～44歳の男性、50歳～59歳の男性、65歳～69歳の男性となっている。

【性別】

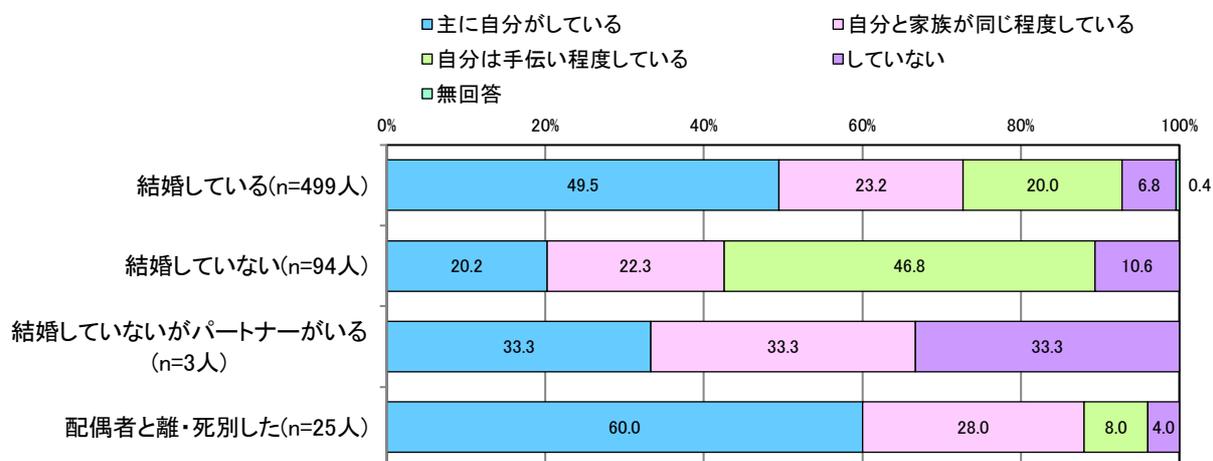


【世代別性別】

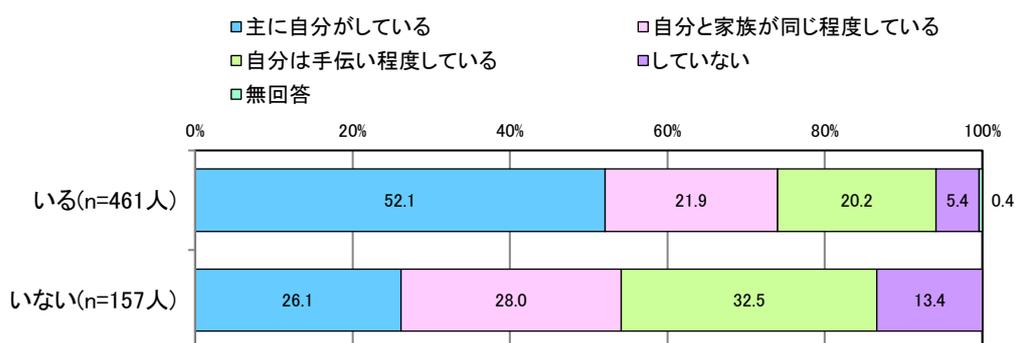


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(49.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(23.2%)、「自分は手伝い程度している」(20.0%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(46.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.3%)、「主に自分がしている」(20.2%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、回答が別れている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(60.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.0%)、「自分は手伝い程度している」(8.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(52.1%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(21.9%)、「自分は手伝い程度している」(20.2%)となっている。「いない」では、「自分は手伝い程度している」(32.5%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.0%)、「主に自分がしている」(26.1%)となっている。

【配偶者の有無別】

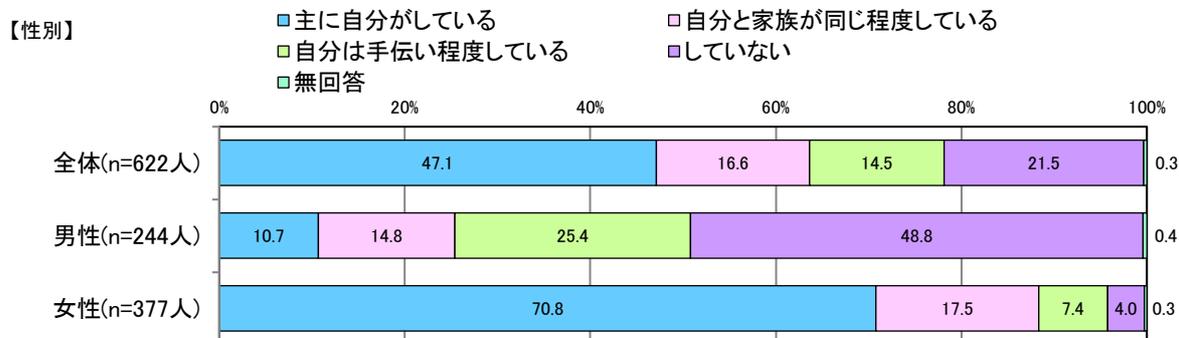


【子の有無別】

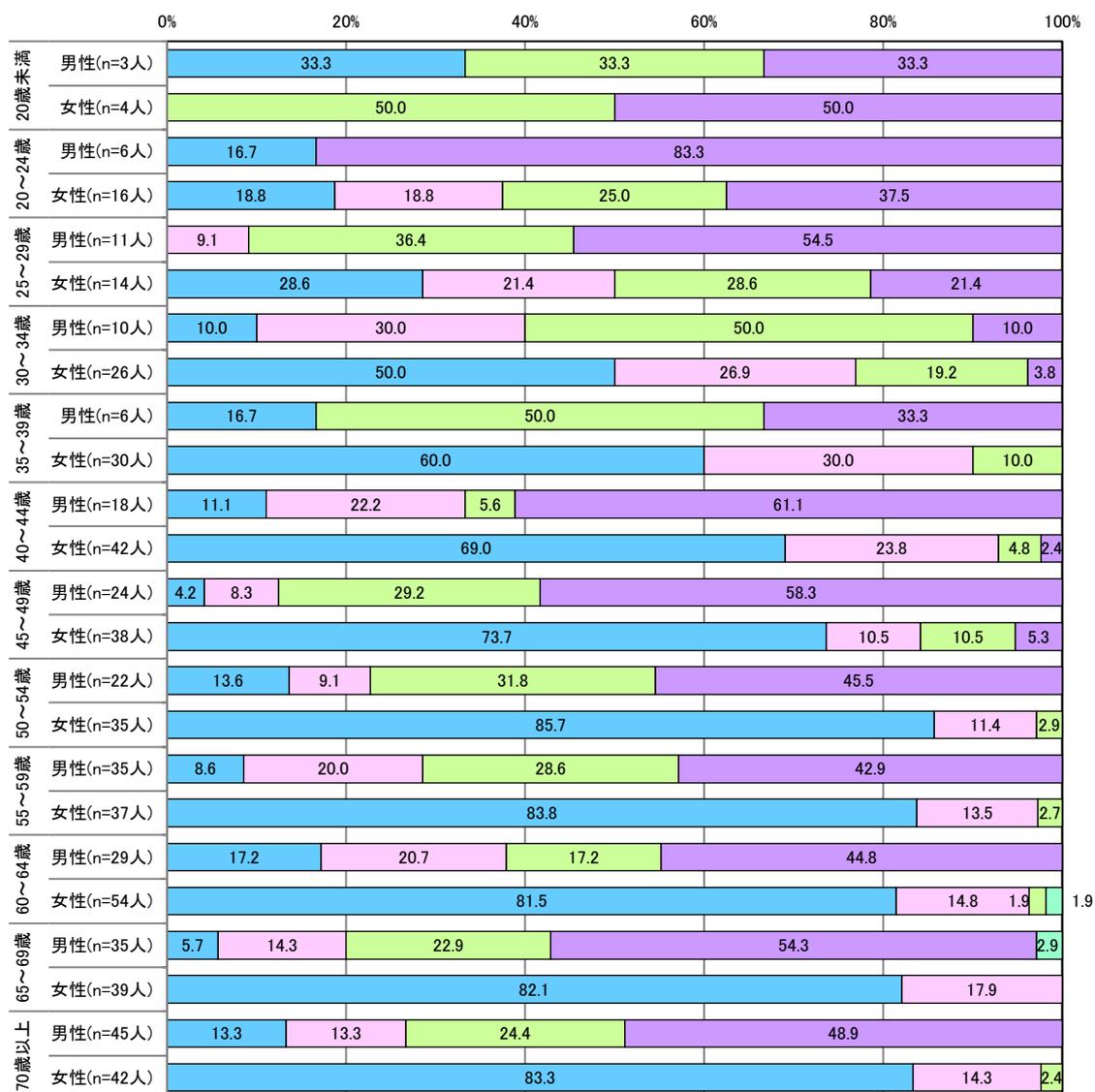


2 洗濯

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(70.8%) という回答が最も多く、男性は「していない」(48.8%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～29歳、40歳以上の男性では、「していない」という回答割合が4割以上となっている。

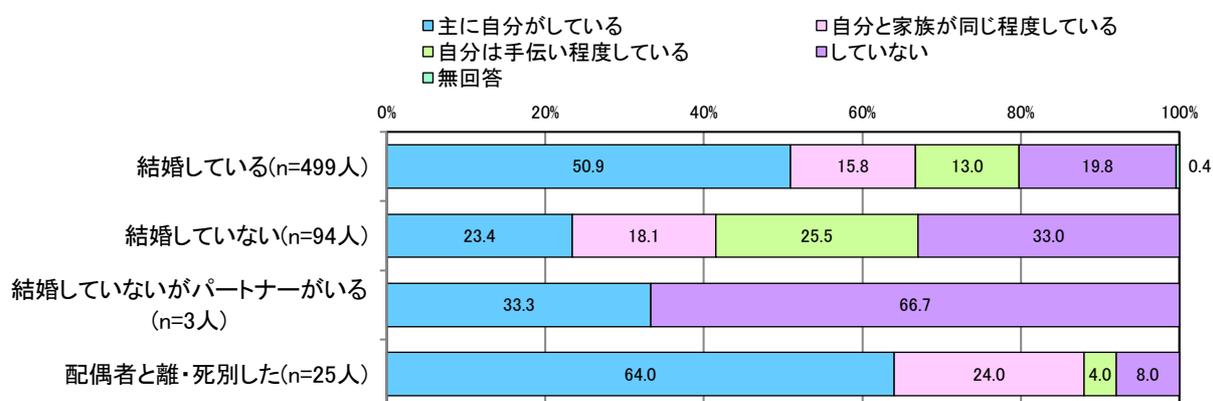


【世代別性別】

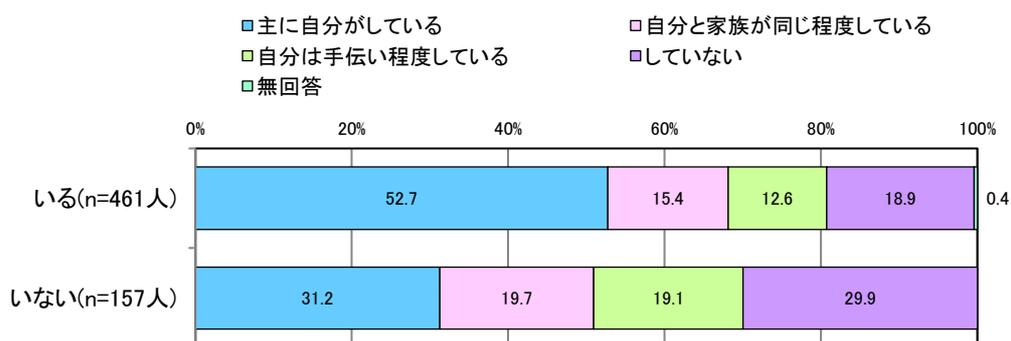


- ・配偶者別の有無でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(50.9%)という回答が最も多く、次いで「していない」(19.8%)、「自分と家族が同じ程度している」(15.8%)と続いている。「結婚していない」では、「していない」(33.0%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(25.5%)、「主に自分がしている」(23.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「していない」(66.7%)という回答が最も多くとなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(64.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.0%)、「していない」(8.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(52.7%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(15.4%)、「自分は手伝い程度している」(12.6%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(31.2%)という回答が最も多く、次いで「していない」(29.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.7%)、「自分は手伝い程度している」(19.1%)となっている。

【配偶者の有無別】

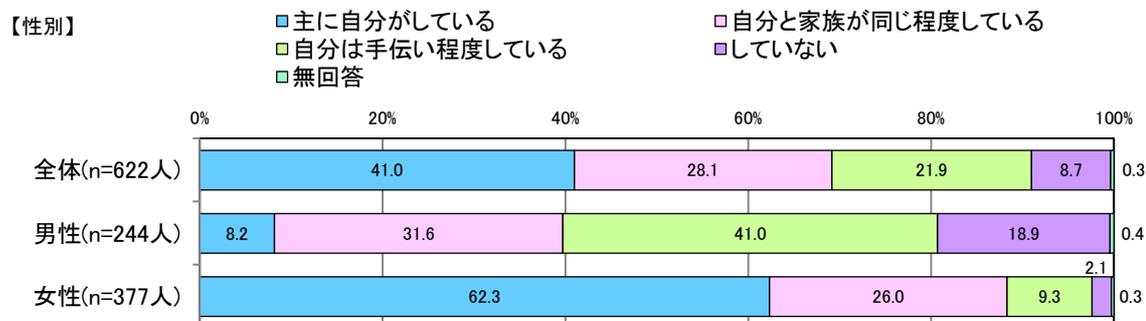


【子の有無別】

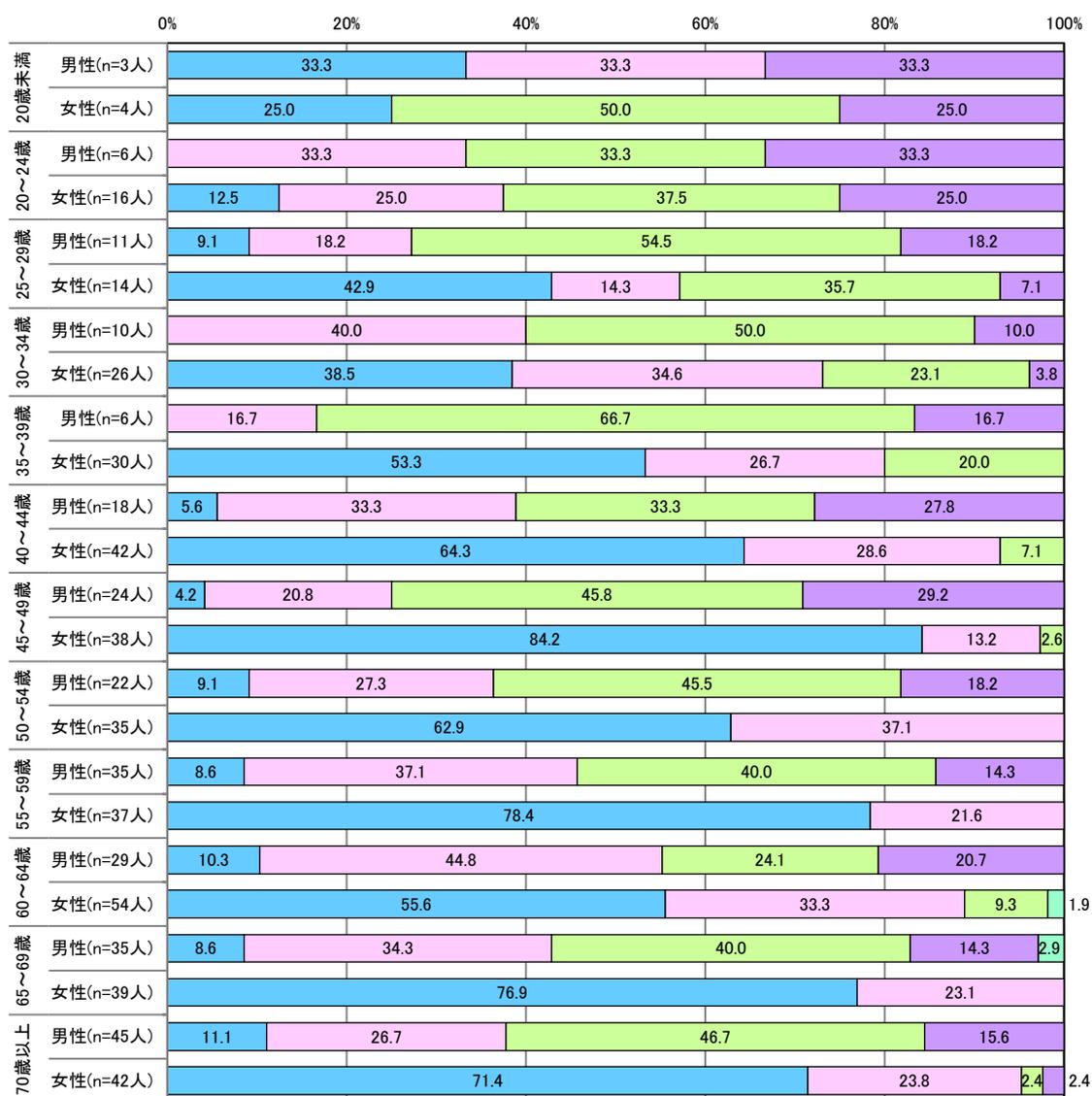


3 食料品、日用品などの買物

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(62.3%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(41.0%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、25歳～39歳の男性では、「自分は手伝い程度している」という回答が5割以上となっている。一方25歳以上の女性では、「主に自分がしている」という回答が最も多く、30歳～34歳を除き、4割以上となっている。

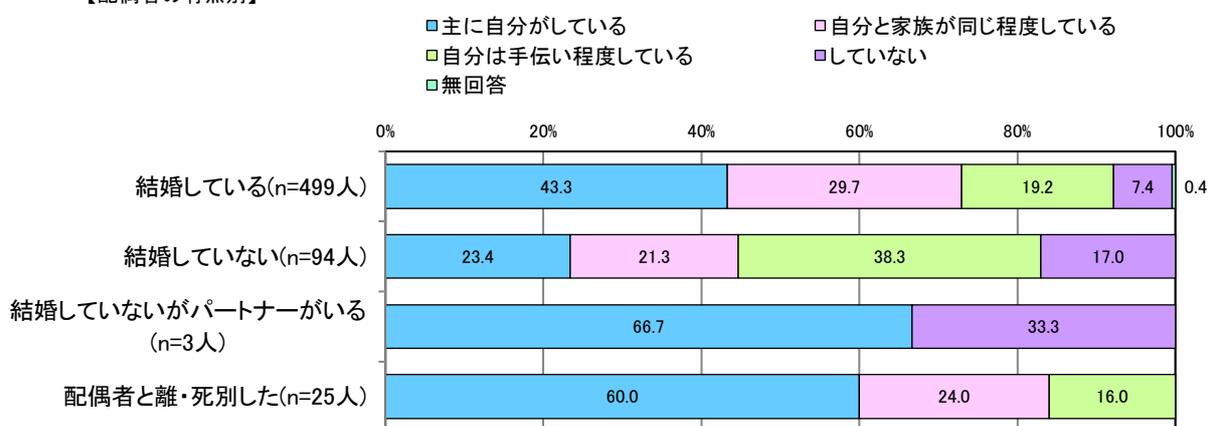


【世代別性別】

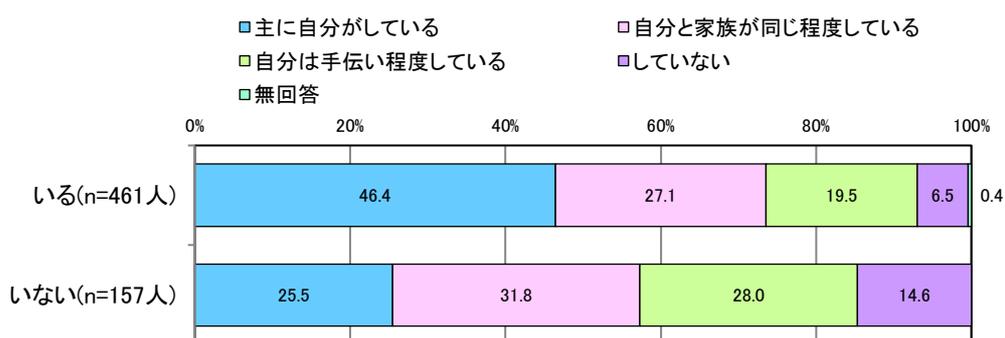


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(43.3%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(29.7%)、「自分は手伝い程度している」(19.2%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(38.3%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(23.4%)、「自分と家族が同じ程度している」(21.3%)、「していない」(17.0%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「主に自分がしている」(66.7%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(60.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.0%)、「自分は手伝い程度している」(16.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(46.4%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(27.1%)、「自分は手伝い程度している」(19.5%)となっている。「いない」では、「自分と家族が同じ程度している」(31.8%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(28.0%)、「主に自分がしている」(25.5%)となっている。

【配偶者の有無別】



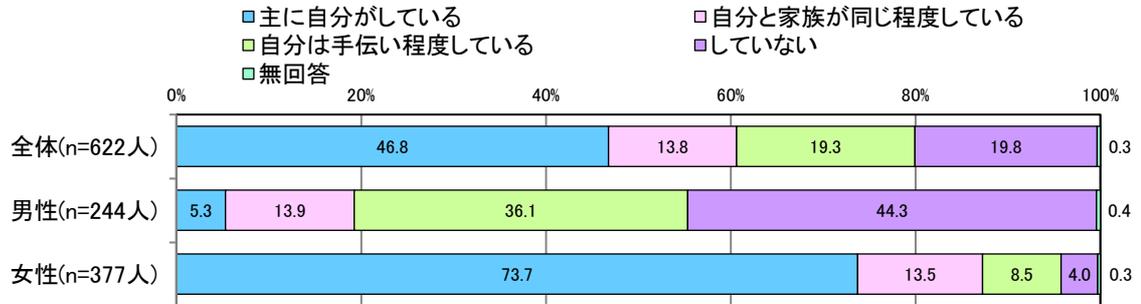
【子の有無別】



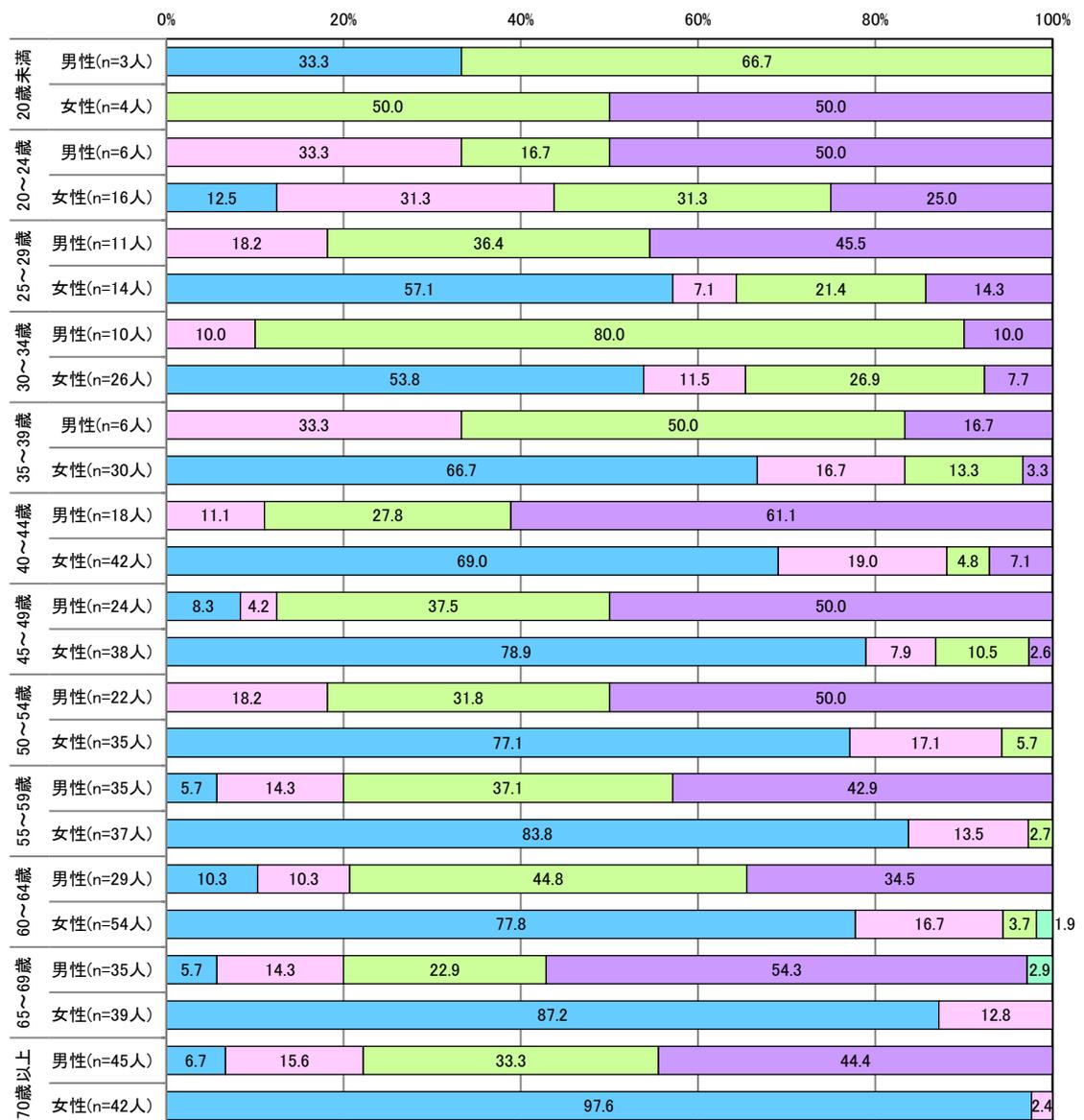
4 食事のしたく

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(73.7%) という回答が最も多く、男性は「していない」(44.3%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男性、40歳～59歳の男性、65歳以上の男性で、「していない」という回答が、同率も含め、最も多くなっている。

【性別】

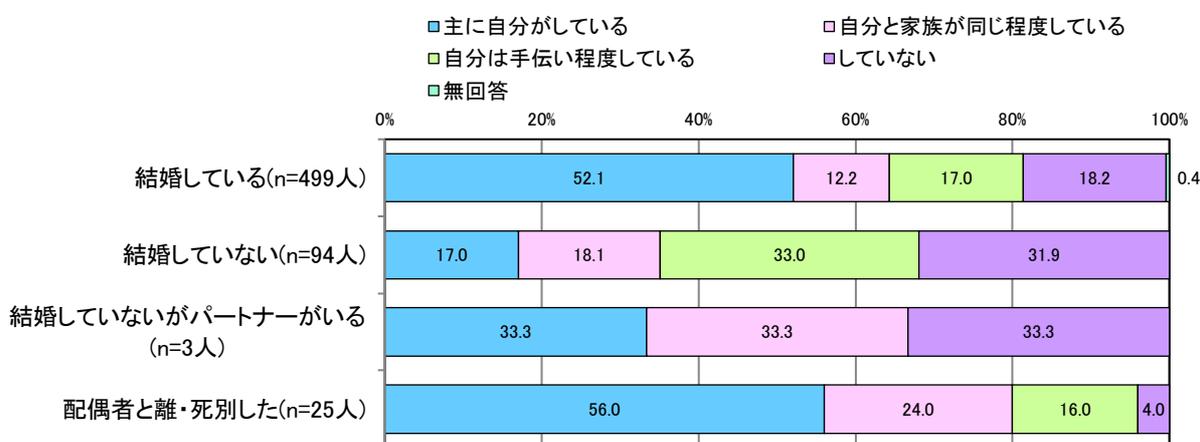


【世代別性別】

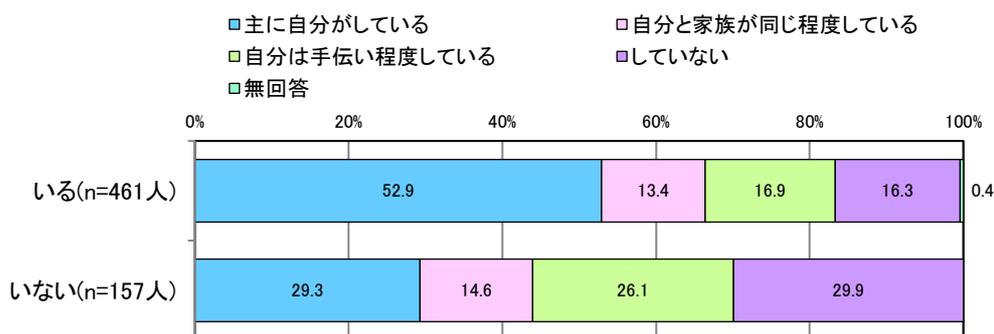


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(52.1%)という回答が最も多く、次いで「していない」(18.2%)、「自分は手伝い程度している」(17.0%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(33.0%)という回答が最も多く、次いで、「していない」(31.9%)、「自分と家族が同じ程度している」(18.1%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、回答が別れている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(56.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(24.0%)、「自分は手伝い程度している」(16.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(52.9%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(16.9%)、「していない」(16.3%)となっている。「いない」では、「していない」(29.9%)という回答が最も多く、次いで、「主に自分がしている」(29.3%)、「自分は手伝い程度している」(26.1%)となっている。

【配偶者の有無別】



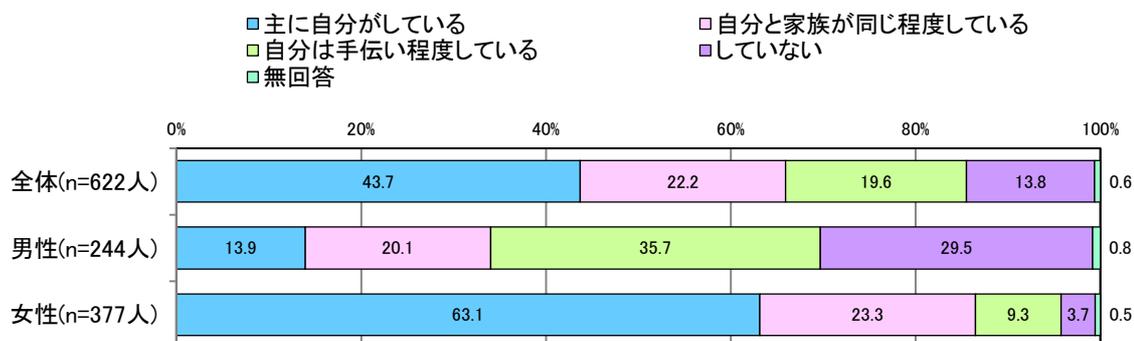
【子の有無別】



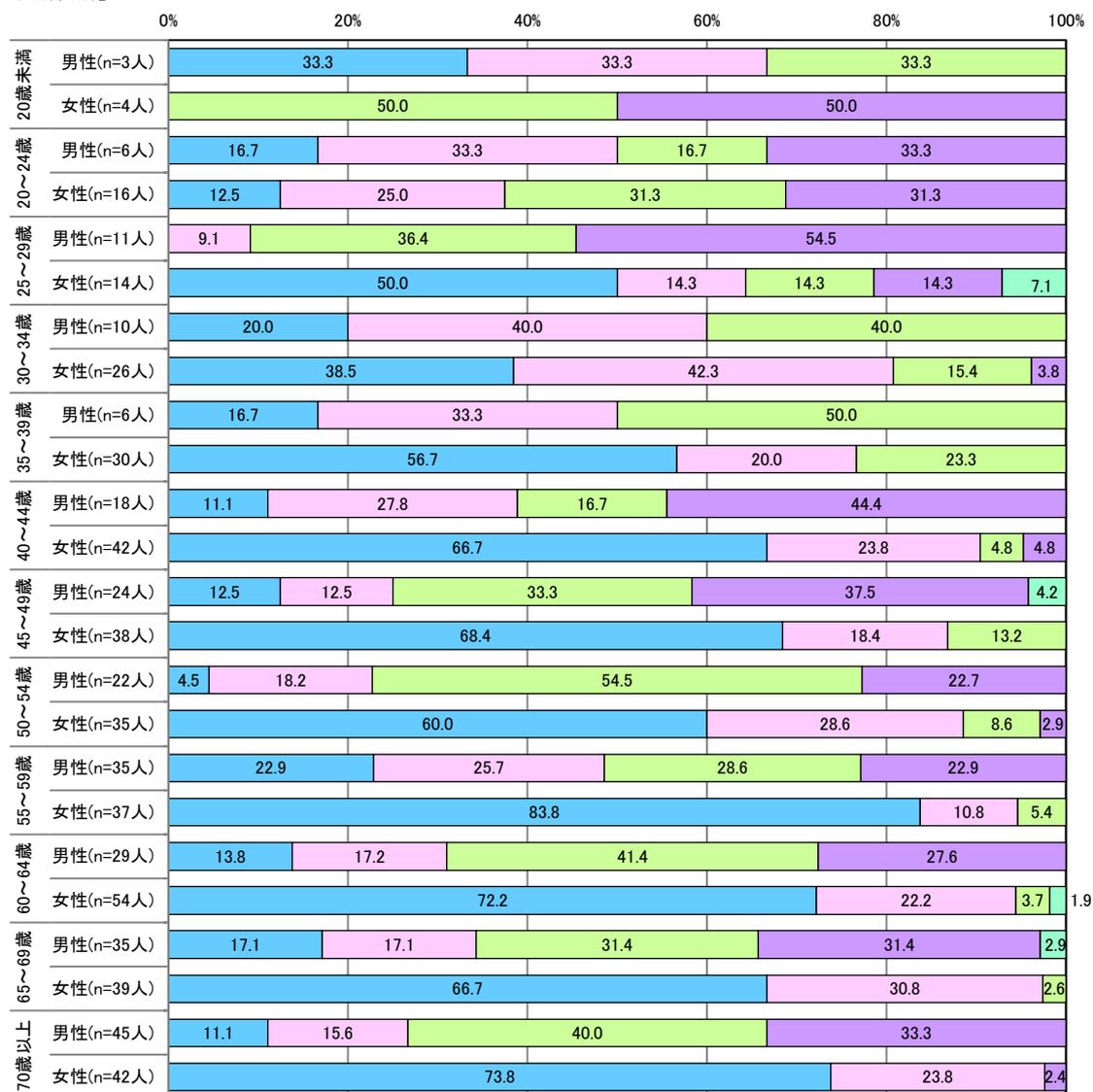
5 食事の後かたづけ

- ・性別でみると、女性は「主に自分がしている」(63.1%) という回答が最も多く、男性は「自分は手伝い程度している」(35.7%) という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、25歳～29歳の男性で「主に自分がしている」という回答がなしとなっている。

【性別】

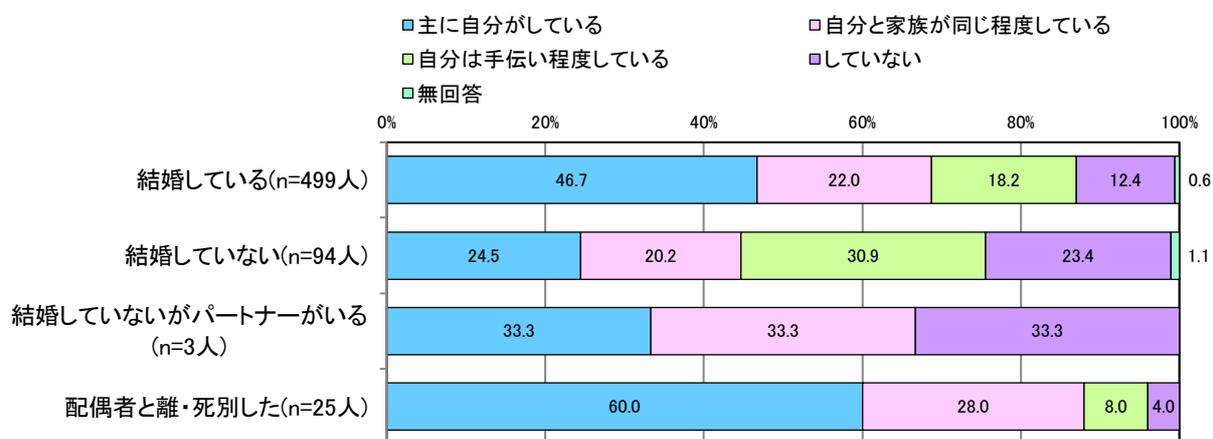


【世代別性別】

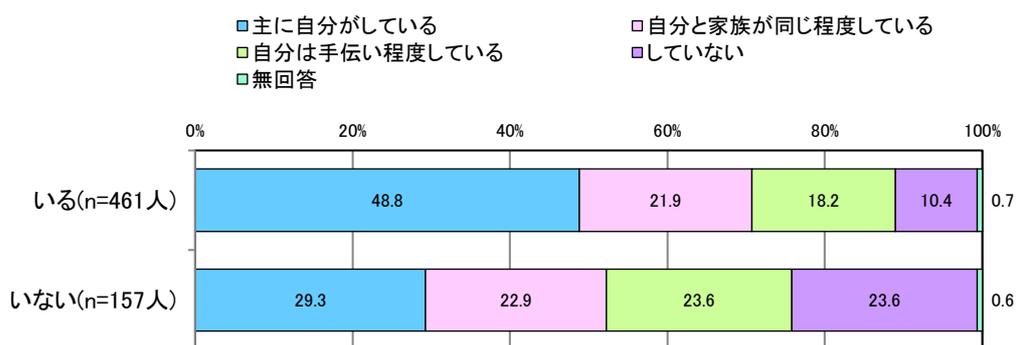


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(46.7%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(22.0%)、「自分は手伝い程度している」(18.2%)となっている。「結婚していない」では、「自分は手伝い程度している」(30.9%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(24.5%)、「していない」(23.4%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、回答が別れている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(60.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(28.0%)と「自分は手伝い程度している」(8.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(48.8%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(21.9%)、「自分は手伝い程度している」(18.2%)となっている。「いない」では、「主に自分がしている」(29.3%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(23.6%)、「していない」(23.6%)が同率となっている。

【配偶者の有無別】

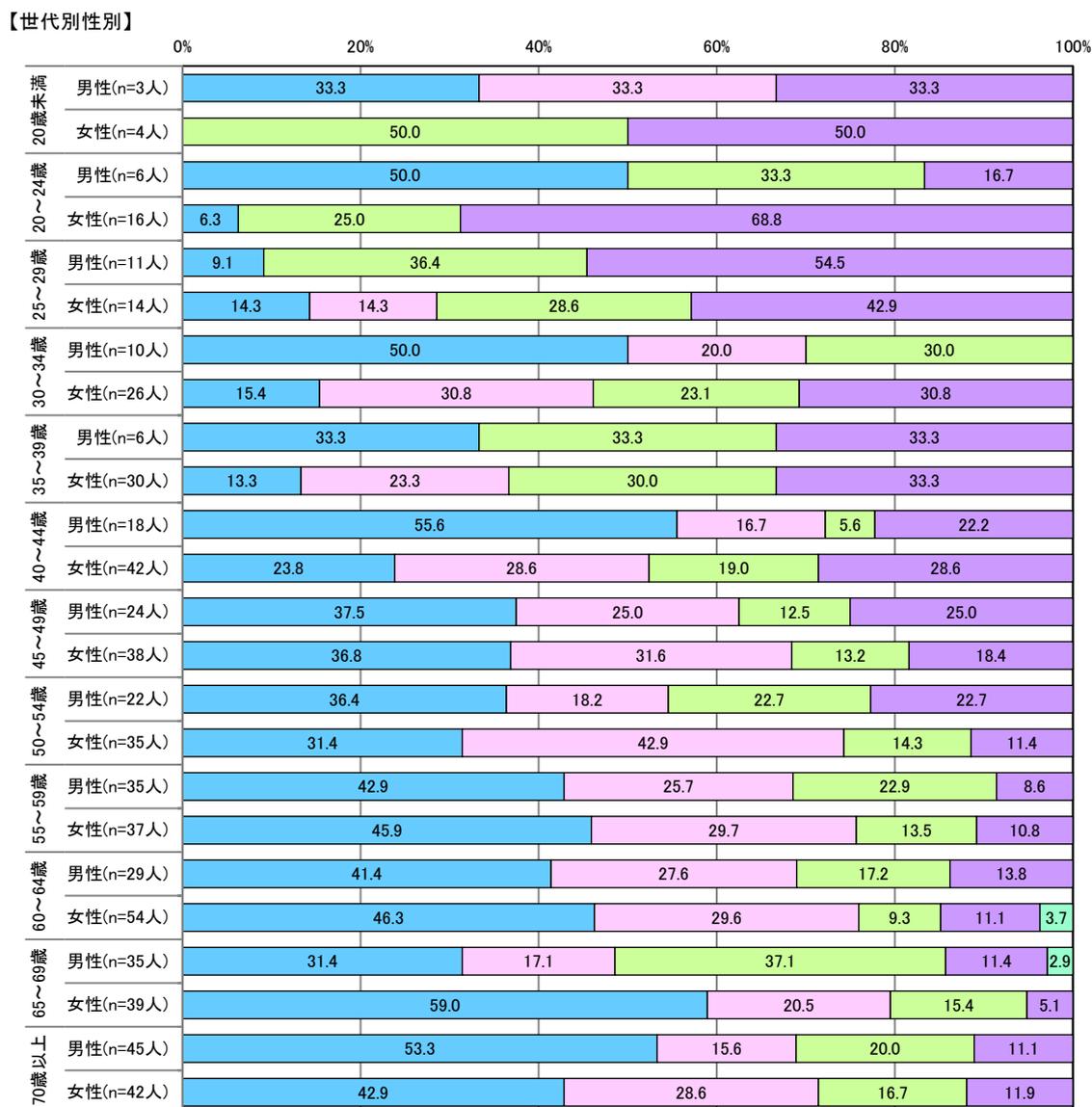
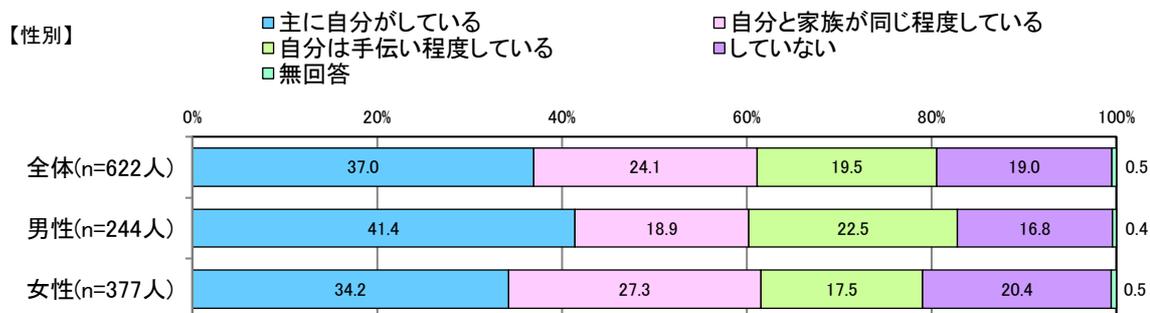


【子の有無別】



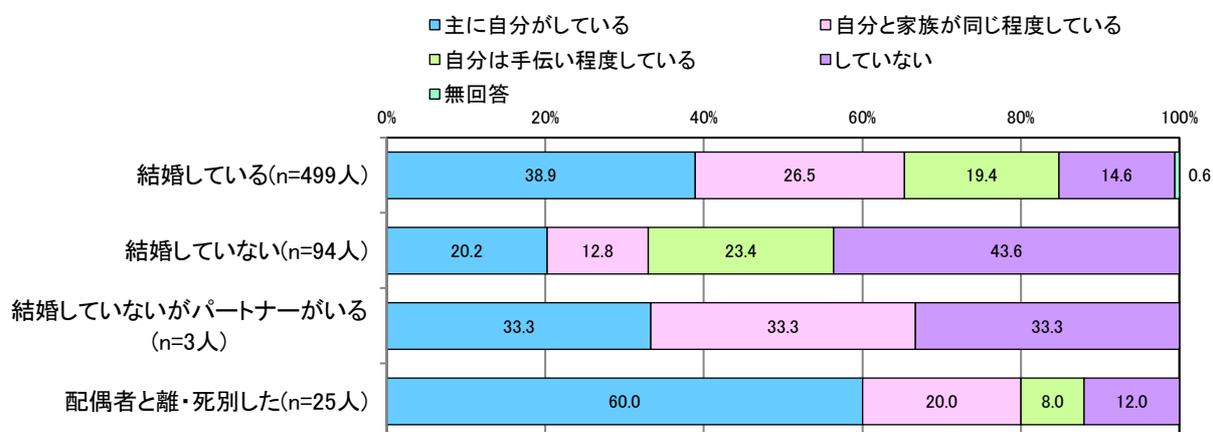
6 ごみ捨て

- ・性別でみると、男女ともに「主に自分がしている」という回答が最も多く、女性は34.2%、男性は41.4%となっている。
- ・世代別性別でみると、44歳以下の女性、25歳～29歳の男性では、「主に自分がしている」という回答が3割未満と、他よりも少ない傾向にある。

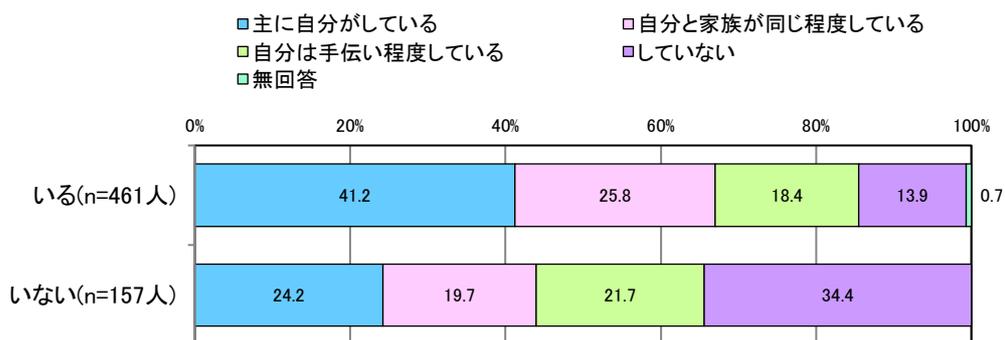


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「主に自分がしている」(38.9%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(26.5%)、「自分は手伝い程度している」(19.4%)となっている。「結婚していない」では、「していない」(43.6%)という回答が最も多く、次いで「自分は手伝い程度している」(23.4%)、「主に自分がしている」(20.2%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、回答が別れている。「配偶者と離・死別した」では、「主に自分がしている」(60.0%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(20.0%)、「していない」(12.0%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「主に自分がしている」(41.2%)という回答が最も多く、次いで「自分と家族が同じ程度している」(25.8%)、「自分は手伝い程度している」(18.4%)となっている。「いない」では、「していない」(34.4%)という回答が最も多く、次いで「主に自分がしている」(24.2%)となり、次に「自分は手伝い程度している」(21.7%)、「自分と家族が同じ程度している」(19.7%)となっている。

【配偶者の有無別】



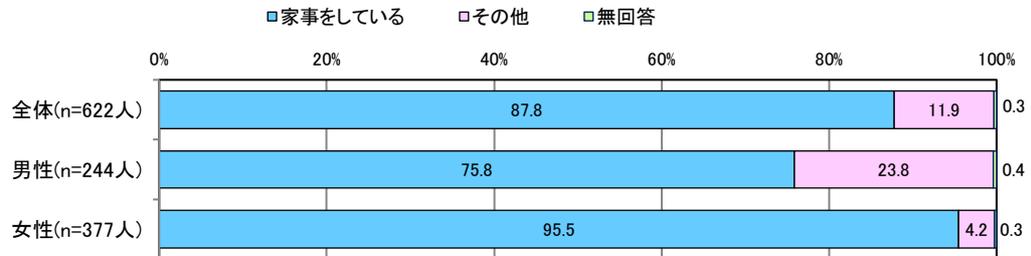
【子の有無別】



<家事への参画度>

- ・問 19 の 1 ～ 6 の家事について、いずれか 1 つでも「主に自分がしている」、「自分と家族が同じ程度している」と回答した方を「家事をしている」とすると、全体の 87.8% がいずれかの「家事をしている」となっている。
- ・性別でみると、男性では 75.8%、女性は 95.5% の方が「家事をしている」となっており、男性は女性よりも「家事をしている」の回答割合が約 2 割低くなっている。

【性別】



【男性世代別（単身世帯以外）】



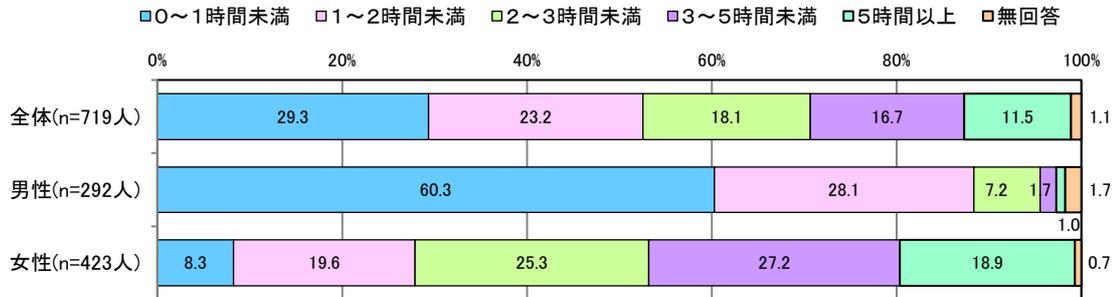
【女性世代別（単身世帯以外）】



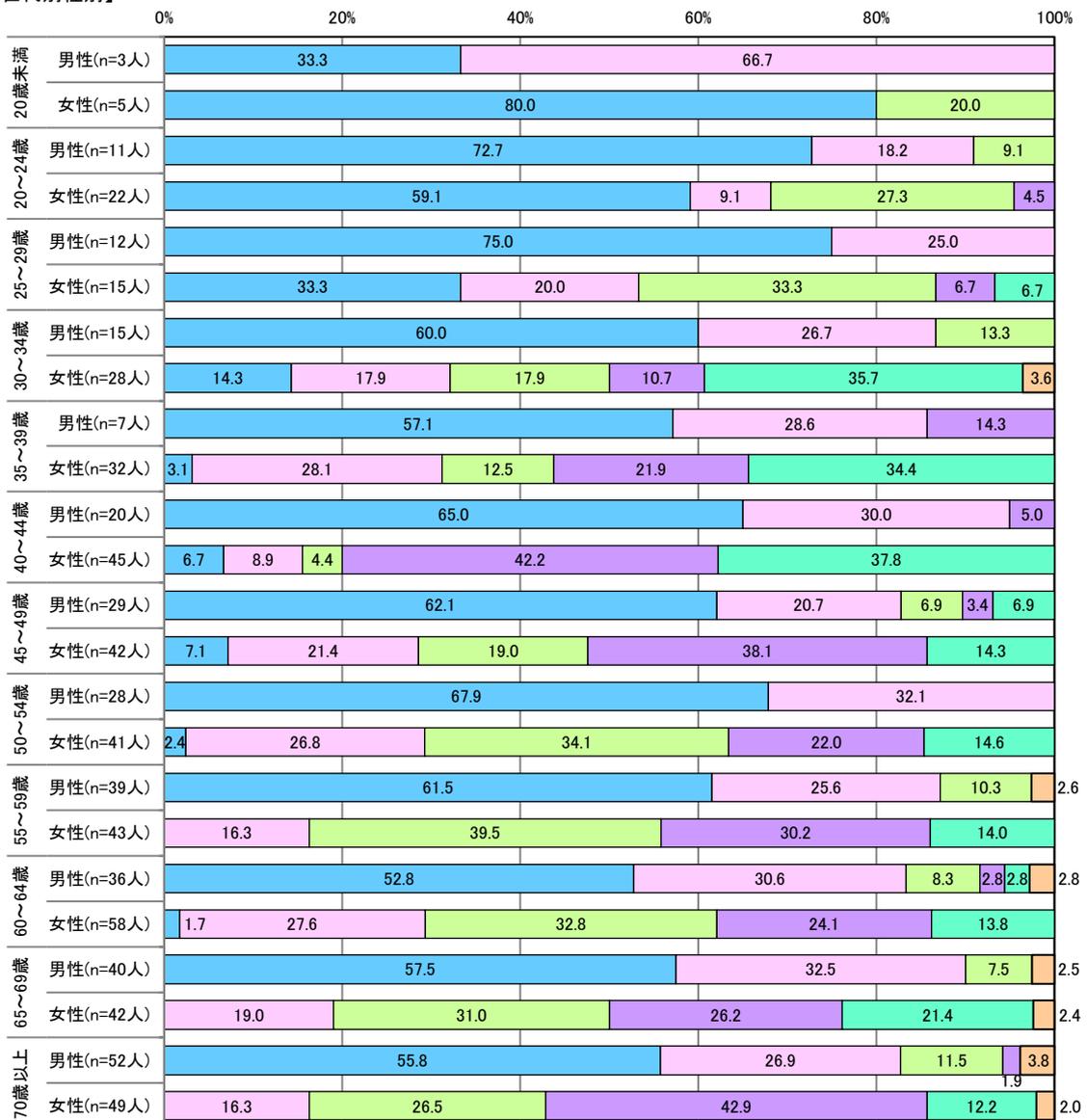
問 20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 当てはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（60.3%）という回答が最も多くなっている。一方、女性の「0～1時間未満」という回答は8.3%となっており、男女で大きな差がある。
- ・世代別性別でみると、20歳以上の男性と24歳以下の女性の世代で「0～1時間未満」という回答が5割を超えている。

【性別】

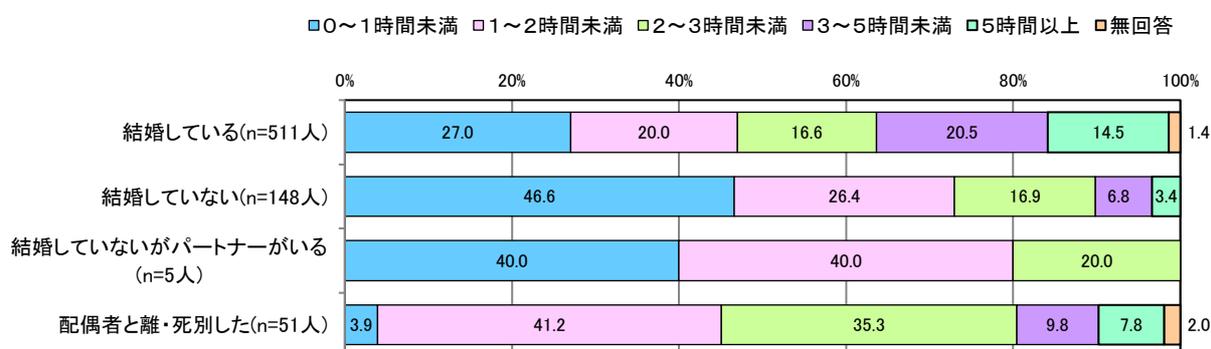


【世代別性別】

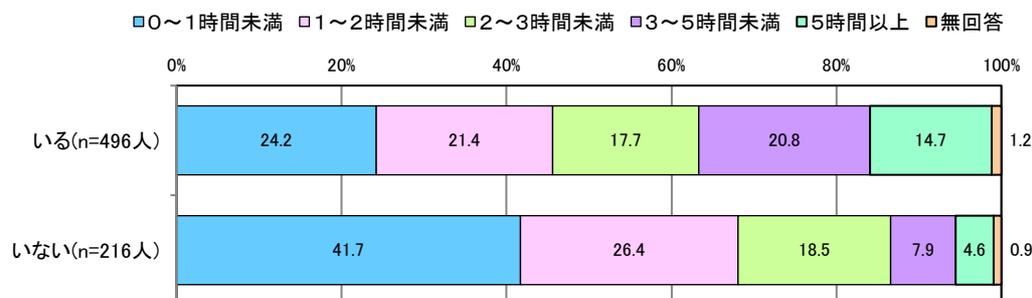


- ・配偶者の有無別でみると、「結婚している」では、「0～1時間未満」(27.0%)という回答が最も多く、次いで「3～5時間未満」(20.5%)、「2～3時間未満」(20.0%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(46.6%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(26.4%)、「2～3時間未満」(16.9%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「0～1時間未満」(40.0%)と「1～2時間未満」(40.0%)という回答が同率で最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「1～2時間未満」(41.2%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(35.3%)となっている。
- ・子の有無別でみると、「いる」では、「0～1時間未満」(24.2%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(21.4%)、「3～5時間未満」(20.8%)、「2～3時間未満」(17.7%)となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(41.7%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(26.4%)、「2～3時間未満」(18.5%)となっている。

【配偶者の有無別】



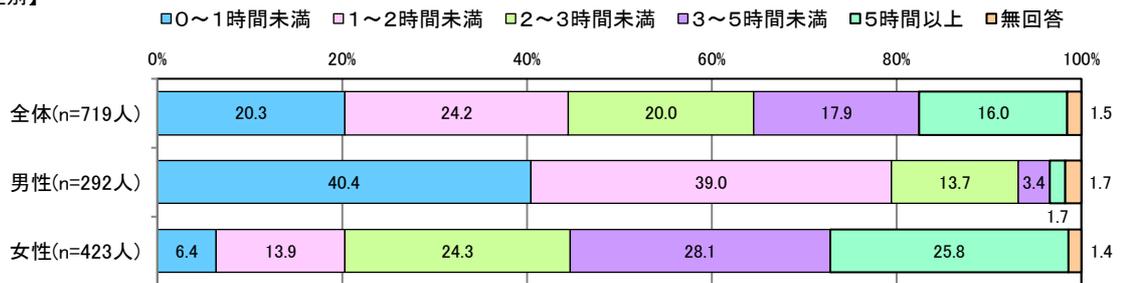
【子の有無別】



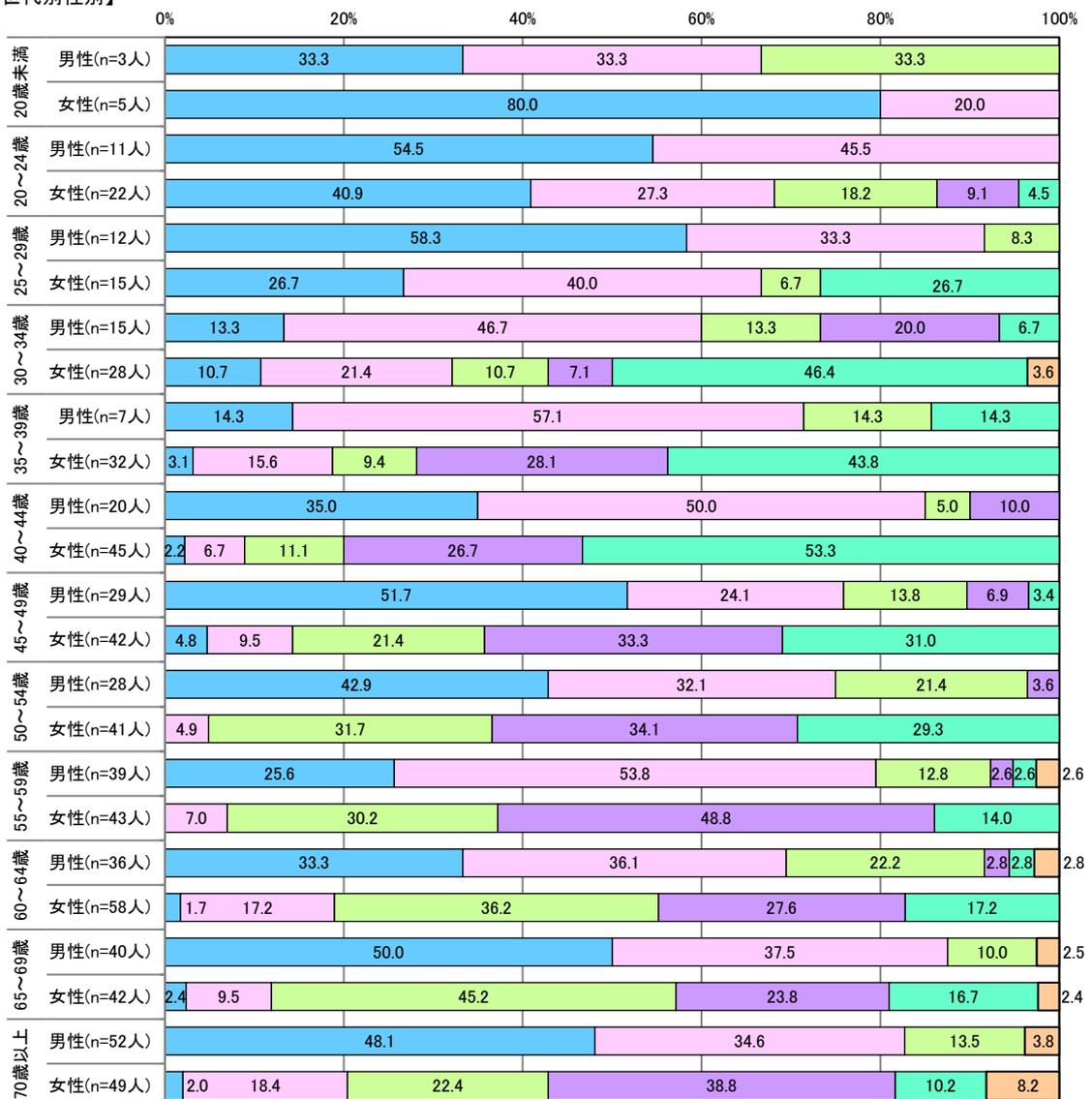
問 21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つお選びください。

- ・性別でみると、男性は「0～1時間未満」（40.4%）という回答が最も多く、次に「1～2時間未満」（39.0%）となっている。女性は「3～5時間未満」（28.1%）という回答が最も多く、次に「5時間以上」（25.8%）、「2～3時間未満」（24.3%）となっている。
- ・世代別性別でみると、24歳以下の女性、20歳～29歳の男性、45歳～54歳と65歳以上の男性で、「0～1時間未満」という回答が4割を超えている。一方、45歳～59歳と70歳以上の女性で、「3～5時間未満」という回答が3割を超えている。

【性別】

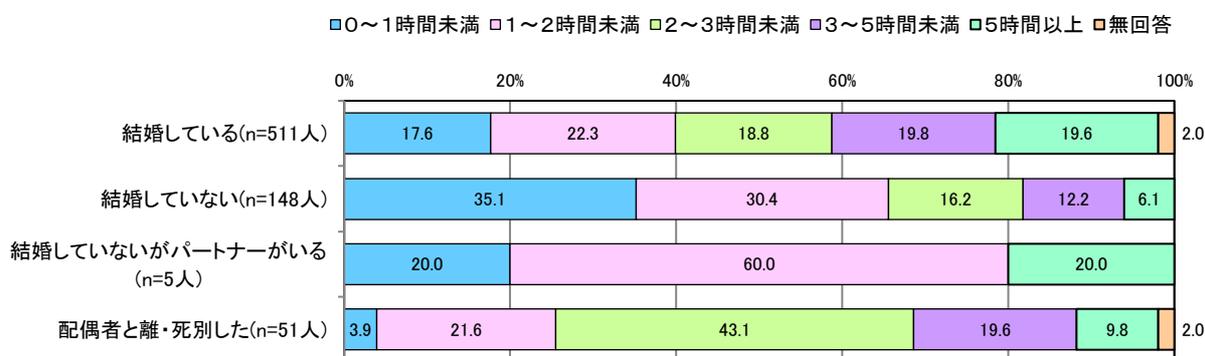


【世代別性別】

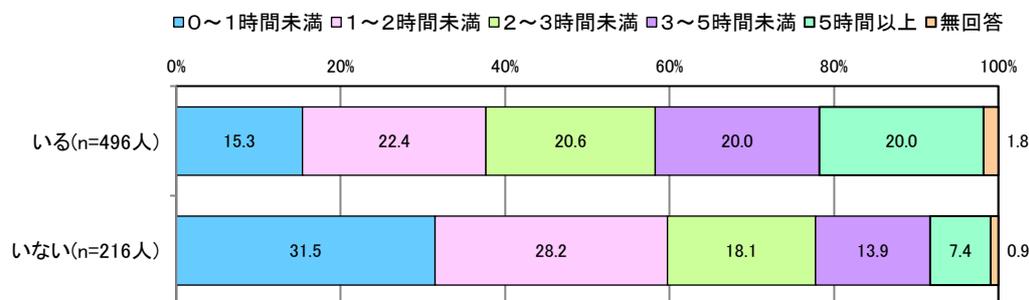


- ・配偶者の有無別で見ると、「結婚している」では、「1～2時間未満」(22.3%)という回答が最も多く、次いで、「3～5時間未満」(19.8%)、「5時間以上」(19.6%)、「2～3時間未満」(18.8%)となっている。「結婚していない」では、「0～1時間未満」(35.1%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(30.4%)、「2～3時間未満」(16.2%)となっている。「結婚していないがパートナーがいる」では、「1～2時間未満」(60.0%)という回答が最も多くなっている。「配偶者と離・死別した」では、「2～3時間未満」(43.1%)という回答が最も多く、次いで「1～2時間未満」(21.6%)、「3～5時間未満」(19.6%)となっている。
- ・子の有無別で見ると、「いる」では、「1～2時間未満」(22.4%)という回答が最も多く、次いで「2～3時間未満」(20.6%)、「3～5時間未満」(20.0%)、「5時間以上」(20.0%)、となっている。「いない」では、「0～1時間未満」(31.5%)という回答が最も多く、次いで、「1～2時間未満」(28.2%)、「2～3時間未満」(18.1%)となっている。

【配偶者の有無別】



【子の有無別】

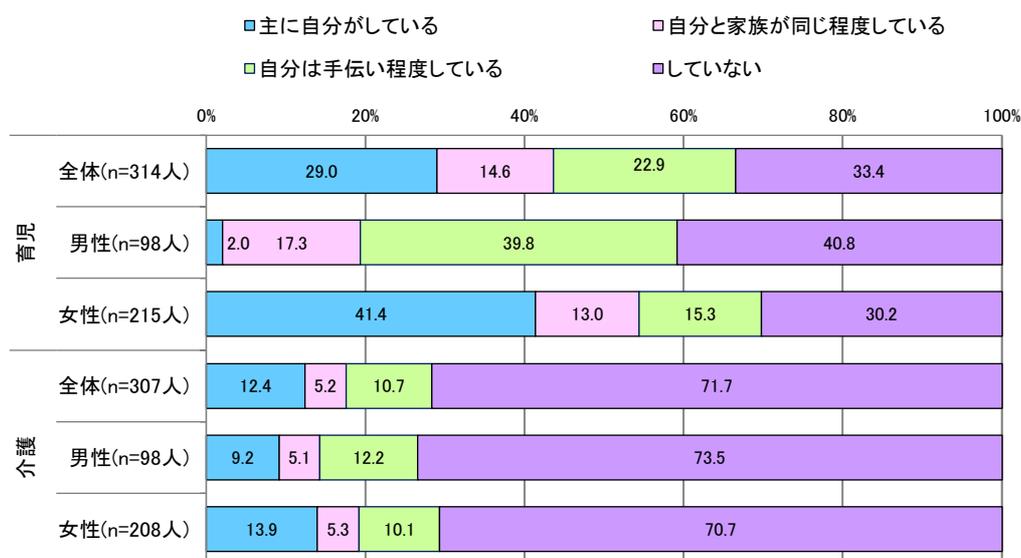


身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問 22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

- ・育児では、「主に自分がしている」という女性の回答が約4割（41.4%）で、男性の2.0%と比べ大きな差がある。
 - ・介護では、男性は、「自分は手伝い程度している」（12.2%）が1割を超えている。一方、女性は「自分が主にしている」（13.9%）が1割を超えている。また、男性の「自分が主にしている」は9.2%となり、女性が男性よりやや高い割合となっている。
- （※無回答は、育児、介護の必要な家族がいない方として集計している）。

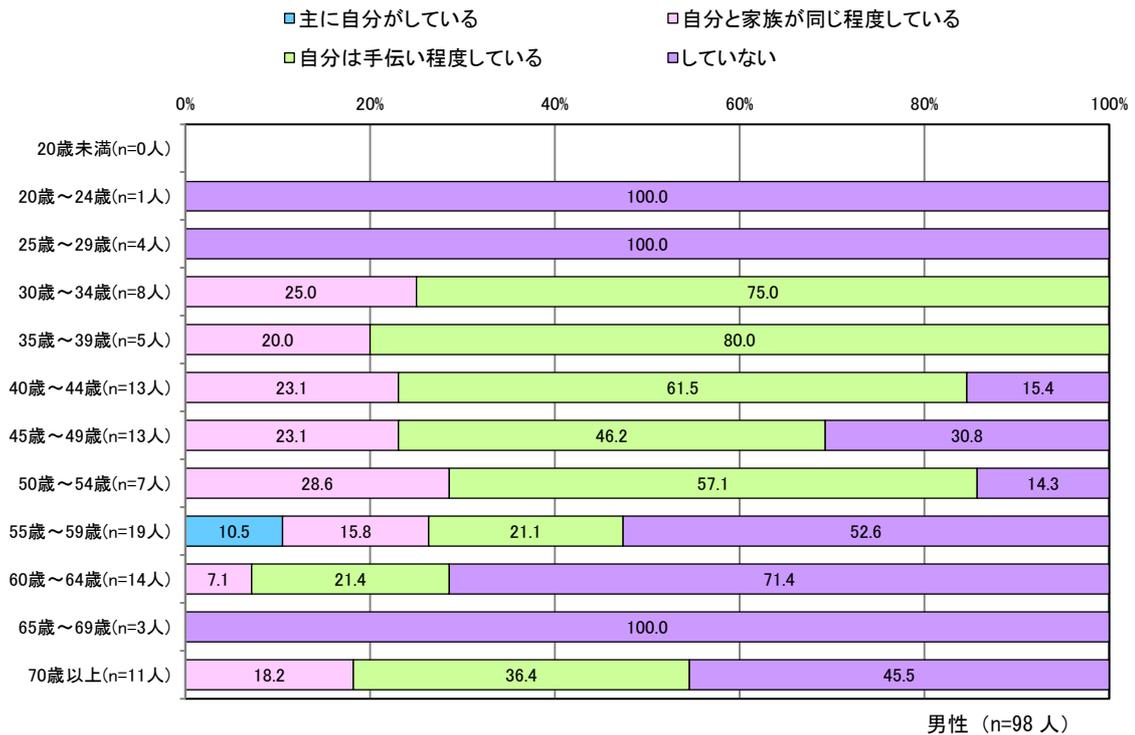
【全分野】



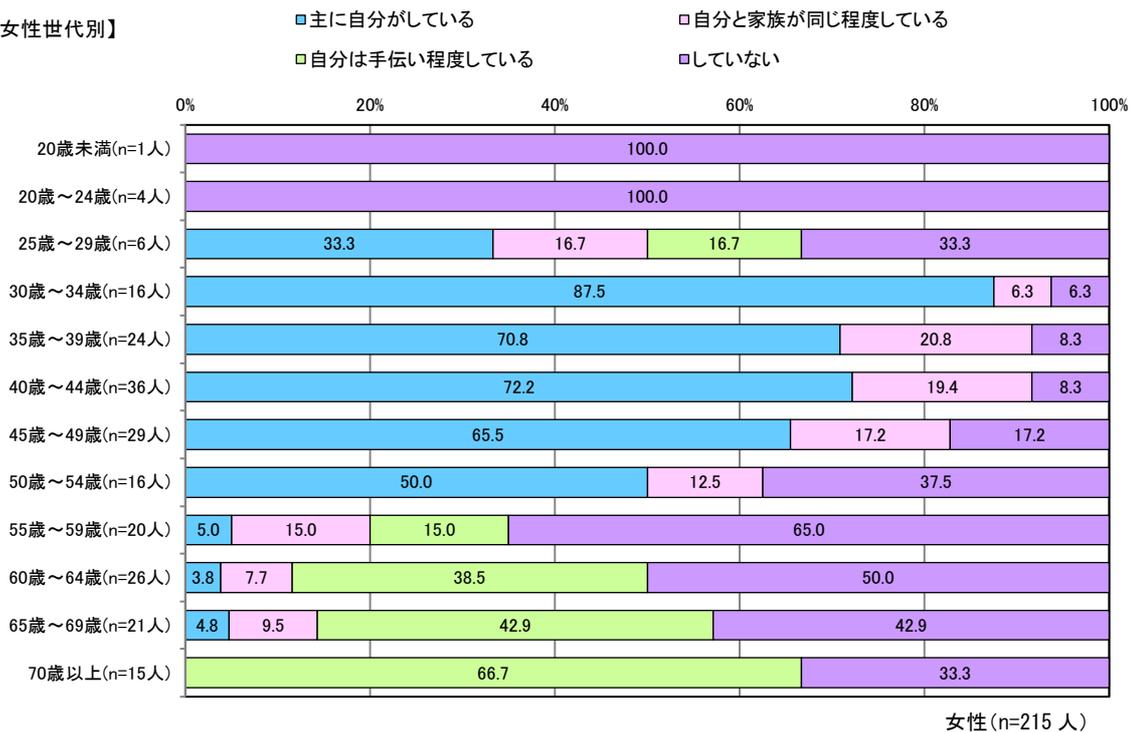
1 育児（お孫さんを含む）

- ・男性では「自分と家族が同じ程度している」という回答割合が、30歳～54歳では2割を超えている。また、55歳～59歳と70歳以上で約2割となっている。「主に自分がしている」という回答は、55歳～59歳で約1割となるものの、他の世代ではなしとなっている。
- ・一方、女性では30歳～34歳で、「主に自分がしている」という回答割合が約9割となる。35歳～49歳では約7割、50歳～54歳で5割となっている。「していない」という回答割合は、24歳以下、55歳～64歳で、5割以上となっている。

【男性世代別】



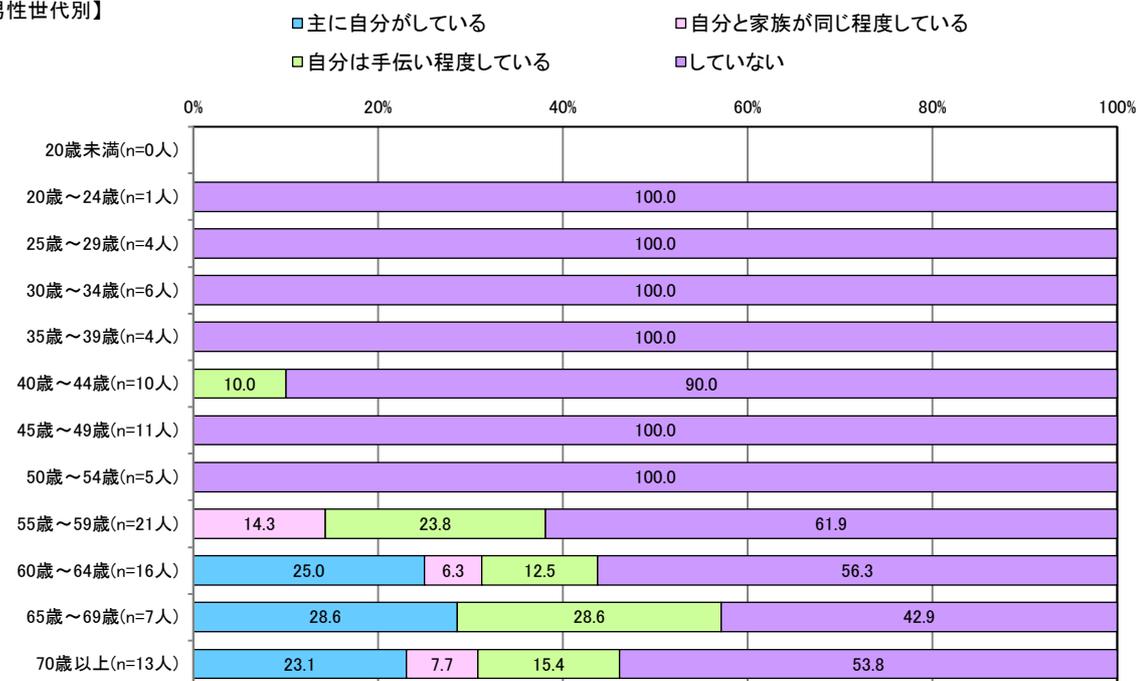
【女性世代別】



2 介護

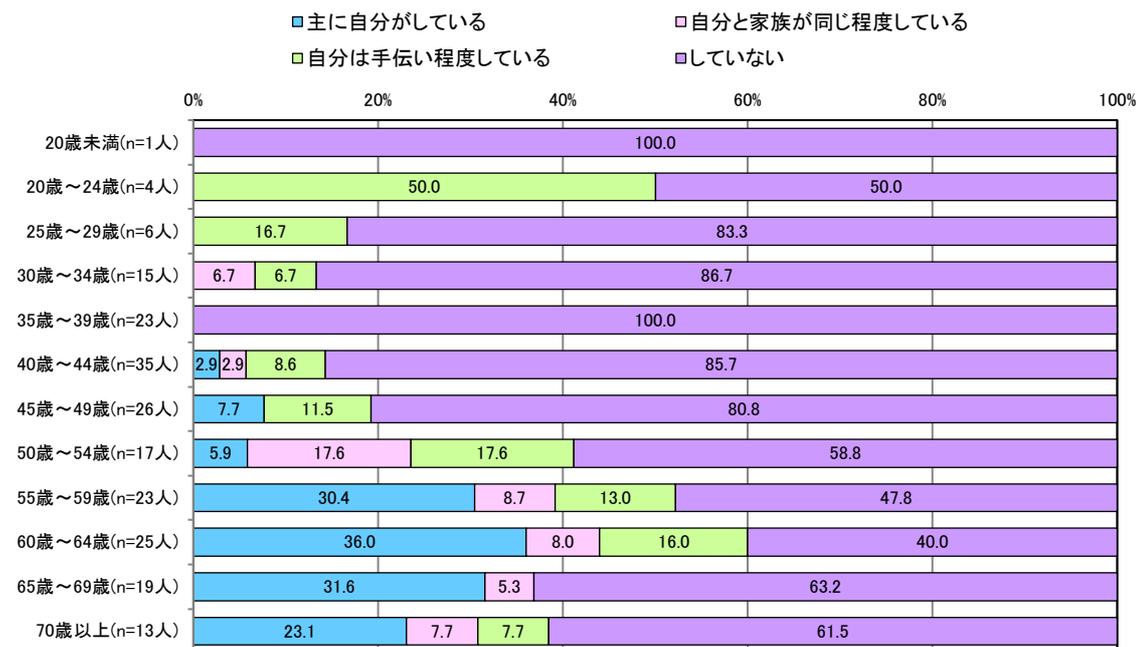
- ・性別でみると、男性では、40歳～44歳と55歳以上で、介護に関わっている。
- ・女性では、35歳～39歳を除き、20歳以上で介護に関わっている。40歳以上の年代から介護に関わる人の割合が多くなっている。
- ・「主に自分がしている」という回答は、40歳～59歳では、女性の回答のみとなっている。一方、60歳代では男女の回答割合がほぼ同じとなり、2割を超えている。

【男性世代別】



男性 (n=98人)

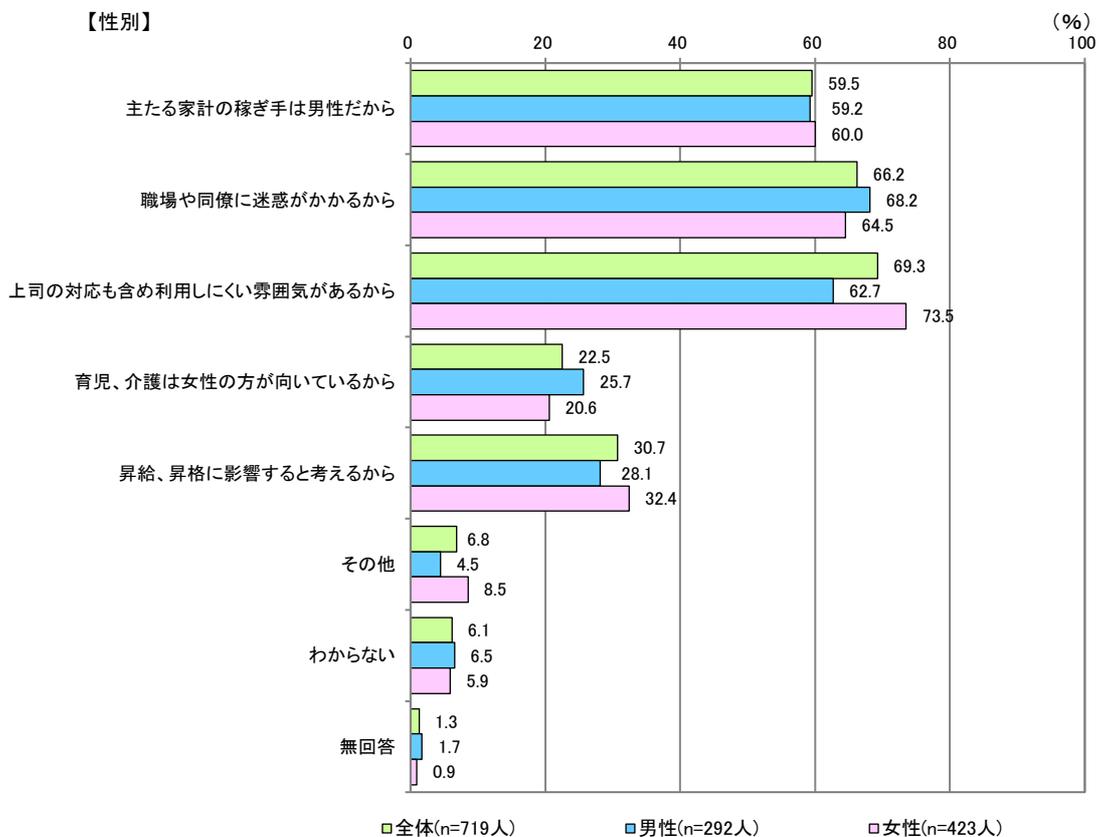
【女性世代別】



女性 (n=208人)

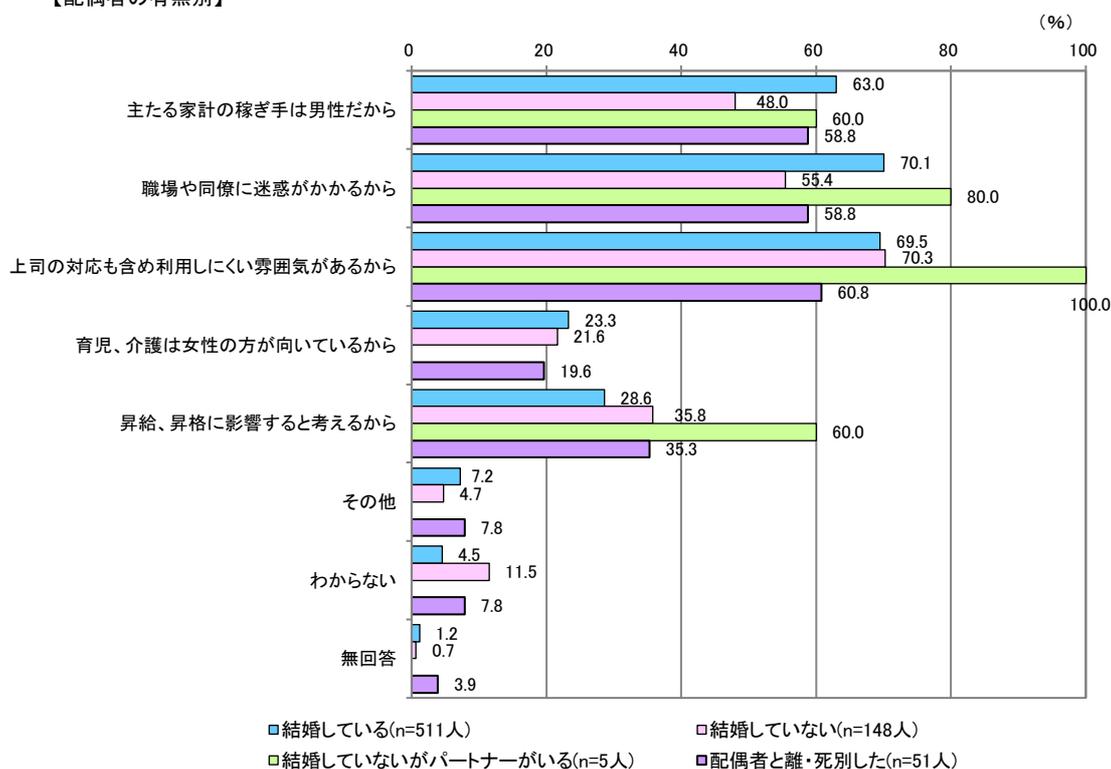
問 23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

- ・全体でみると、最も回答が多いのは、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(69.3%)で、約7割となっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(66.2%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(59.5%)となっている。
- ・性別でみると、男性では「職場や同僚に迷惑がかかるから」(68.2%)、次いで「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(62.7%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(59.2%)となっている。
- ・女性では、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」(73.5%)が最も多くなっている。次いで、「職場や同僚に迷惑がかかるから」(64.5%)、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」(60.0%)となっている。

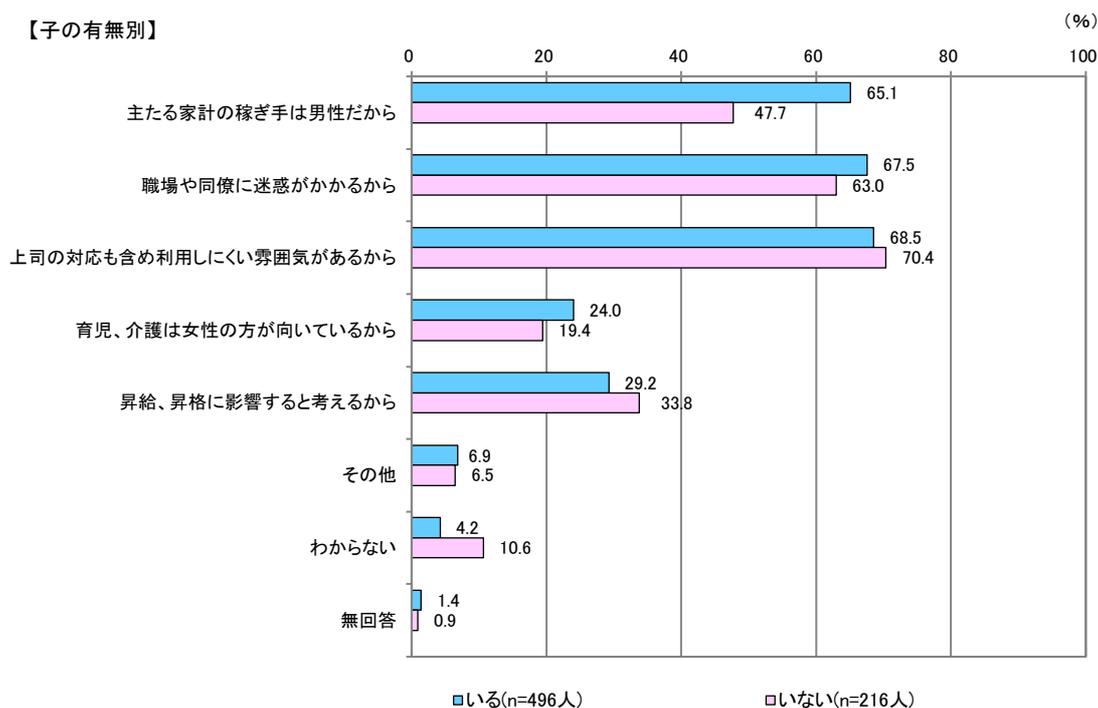


- ・配偶者の有無別でみると、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」では、「結婚していない」で48.0%と回答割合が低くなっている。「職場や同僚に迷惑がかかるから」では、「結婚している」、「結婚していないがパートナーがいる」で、それぞれ70.1%、80.0%と回答割合が高くなっている。また、「上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから」では、「配偶者と離・死別した」で60.8%と回答割合が低くなっている。
- ・子の有無別でみると、「主たる家計の稼ぎ手は男性だから」では、「いる」が65.1%となり、「いない」の47.7%と比べると、回答割合が高くなっている。

【配偶者の有無別】



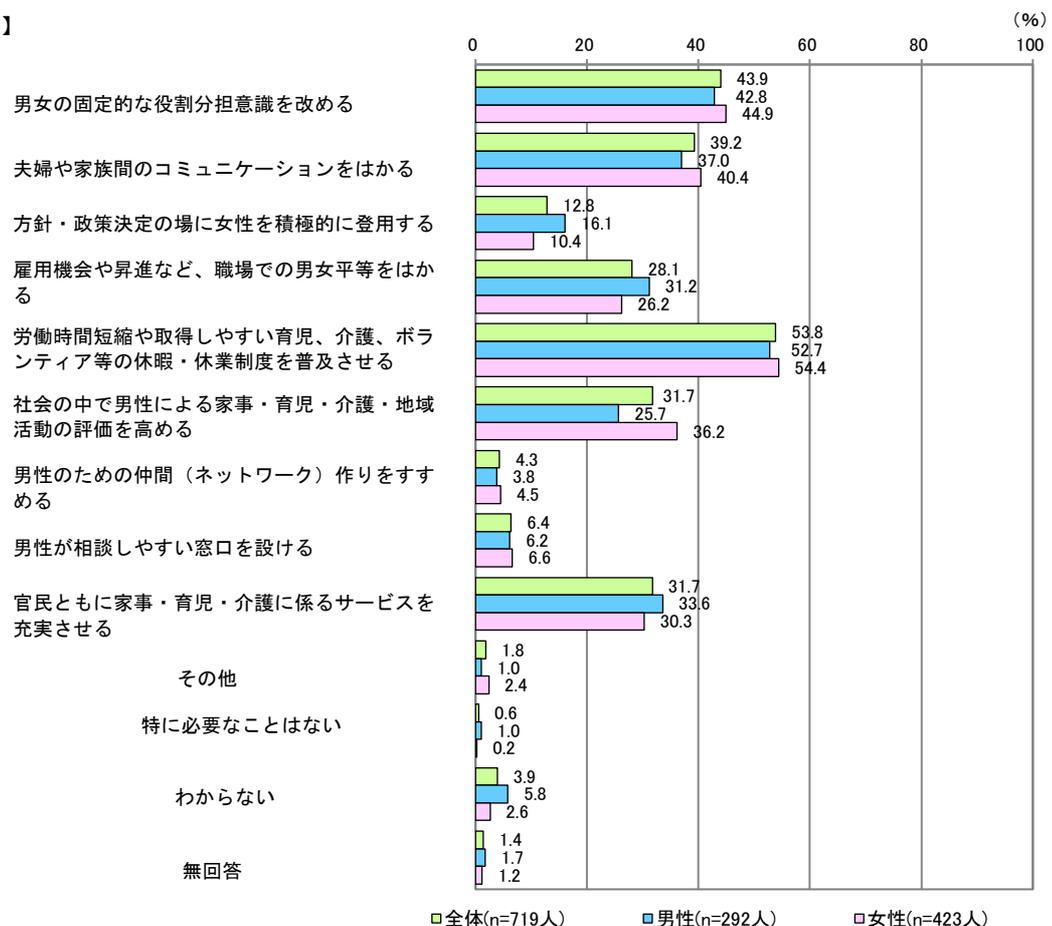
【子の有無別】



問 24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

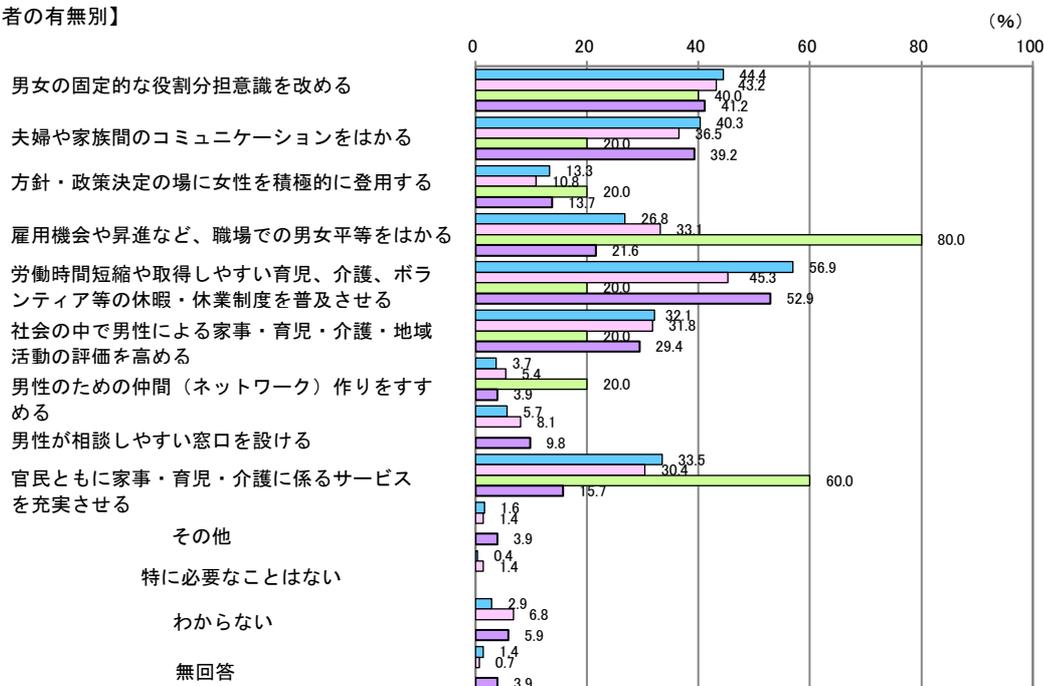
- ・全体では、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(53.8%)が最も多く、約5割となっている。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(43.9%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(39.2%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(31.7%)と「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(31.7%)と同率の順で続いている。
- ・性別でみると、男性は、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(52.7%)が最も多く、約5割となっている。次いで、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(42.8%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(37.0%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(33.6%)、「雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる」(31.2%)の順となる。女性も、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」(54.4%)という回答が最も多い。次に、「男女の固定的な役割分担意識を改める」(44.9%)、「夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる」(40.4%)、「社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める」(36.2%)、「官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる」(30.3%)の順となっている。

【性別】



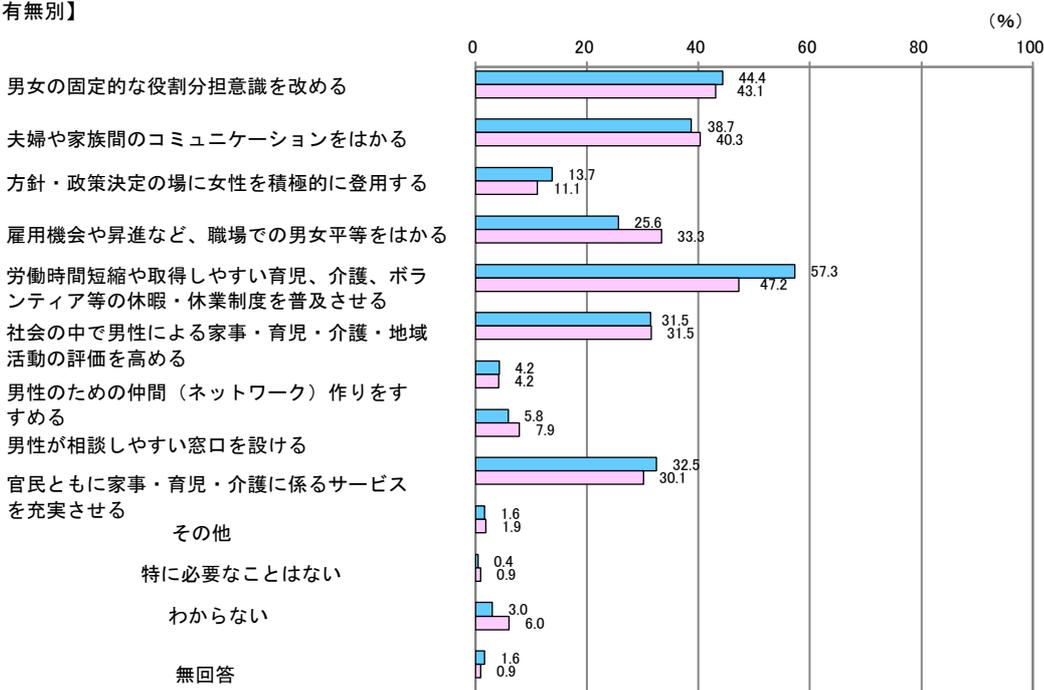
- ・配偶者の有無別でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答が、「結婚している」、「配偶者と離・死別した」で5割を超えている。「雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる」という回答は、「結婚していないがパートナーがいる」で8割と、高い回答割合となっている。
- ・子の有無別でみると、「労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる」という回答は、「いる」で約6割となり、「いない」よりも、高い回答割合となっている。

【配偶者の有無別】



■結婚している(n=511人) □結婚していない(n=148人) □結婚していないがパートナーがいる(n=5人) □配偶者と離・死別した(n=51人)

【子の有無別】



■いる(n=496人)

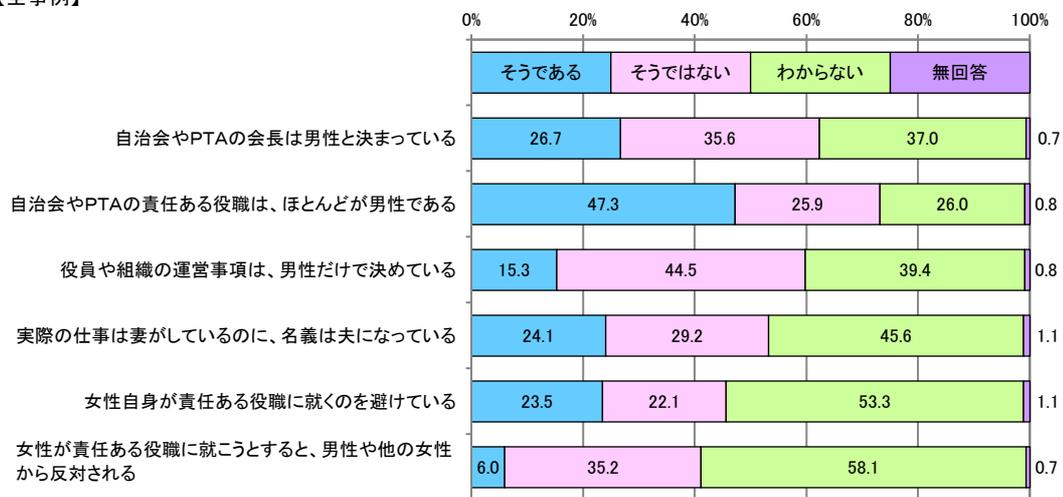
□いない(n=216人)

地域社会に関することについて

問 25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「そうである」という回答でみると、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」が最も多く、約5割（47.3%）となっている。次いで「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（26.7%）、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」（24.1%）と続いている。
- ・一方、「そうではない」という回答は、「役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている」（44.5%）が最も多く、約4割となっている。次いで、「自治会やPTAの会長は男性と決まっている」（35.6%）、「女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される」（35.2%）と続いている。

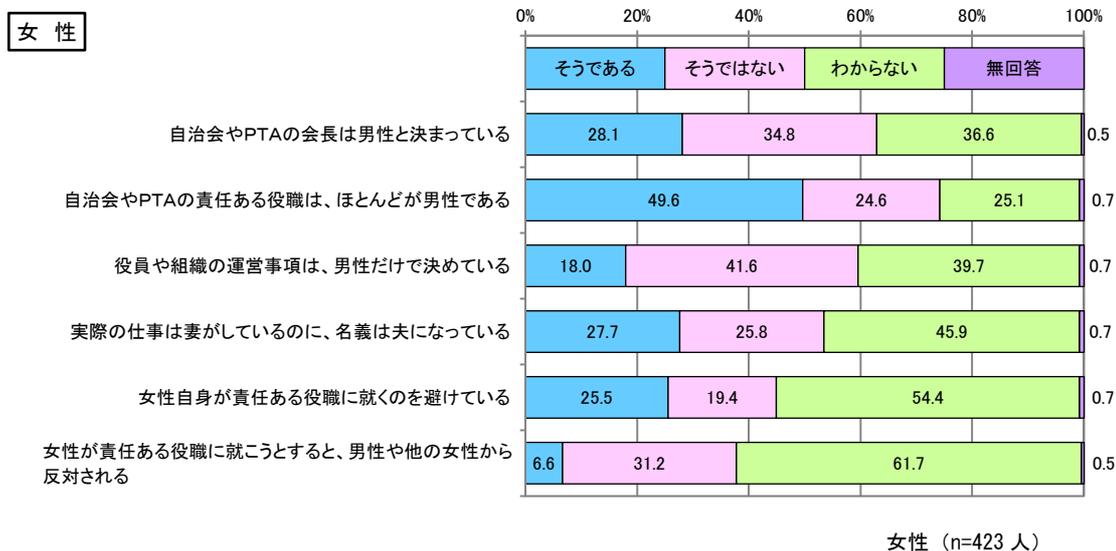
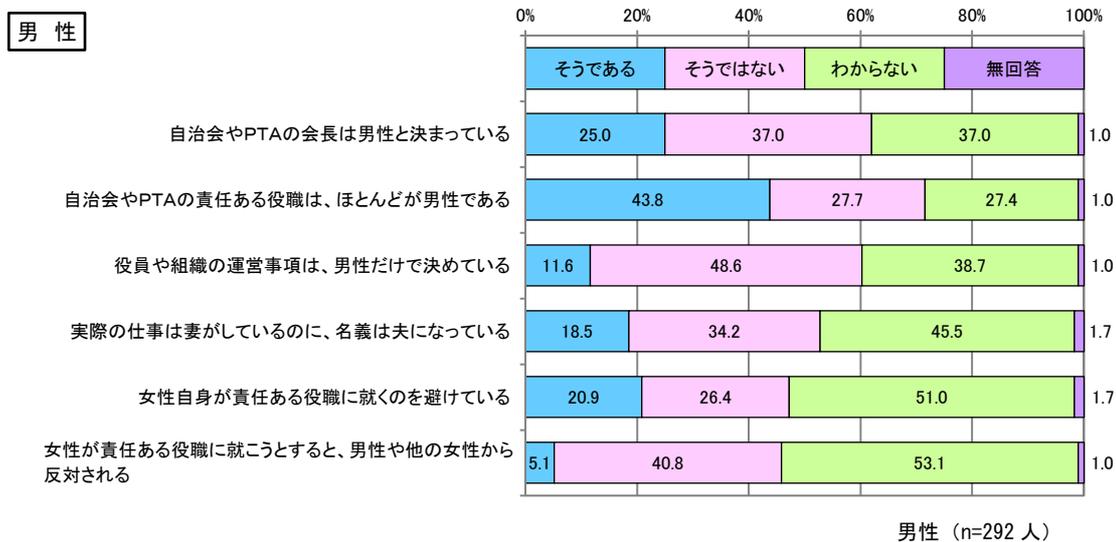
【全事例】



全体 (n=719 人)

- 性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっているものの、「そうである」という回答でみると、「実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている」では、女性の回答割合 27.7%が男性の 18.5%よりもやや高い。また、「自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である」でも、女性の回答割合 49.6%が男性の 43.8%とよりもやや高くなっている。

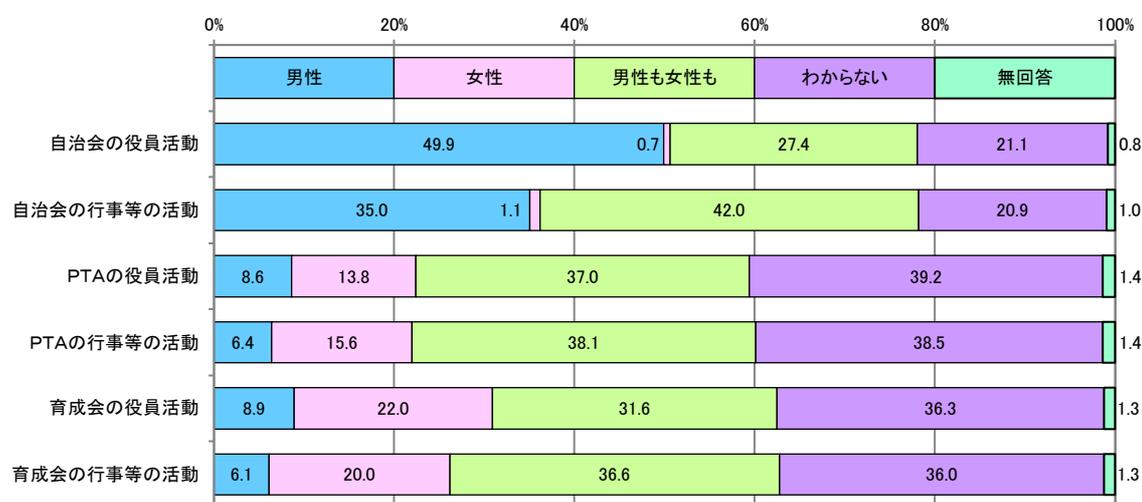
【性別】



問 26 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

- ・「男性」という回答でみると、「自治会の役員活動」が最も多く、約5割（49.9%）となっている。次に、「自治会の行事等の活動」（35.0%）、「育成会の役員活動」（8.9%）と続いている。
- ・一方、「女性」という回答は、「育成会の役員活動」（22.0%）が最も多く、約2割となっている。次いで「育成会の行事等の活動」（20.0%）、「PTAの行事等の活動」（15.6%）と続いている。
- ・「男性も女性も」という回答でみると、「自治会の行事等の活動」（42.0%）が最も多く、約4割となっている。次に「PTAの行事等の活動」（38.1%）、「PTAの役員活動」（37.0%）、「育成会の行事等の活動」（36.6%）と続いている。

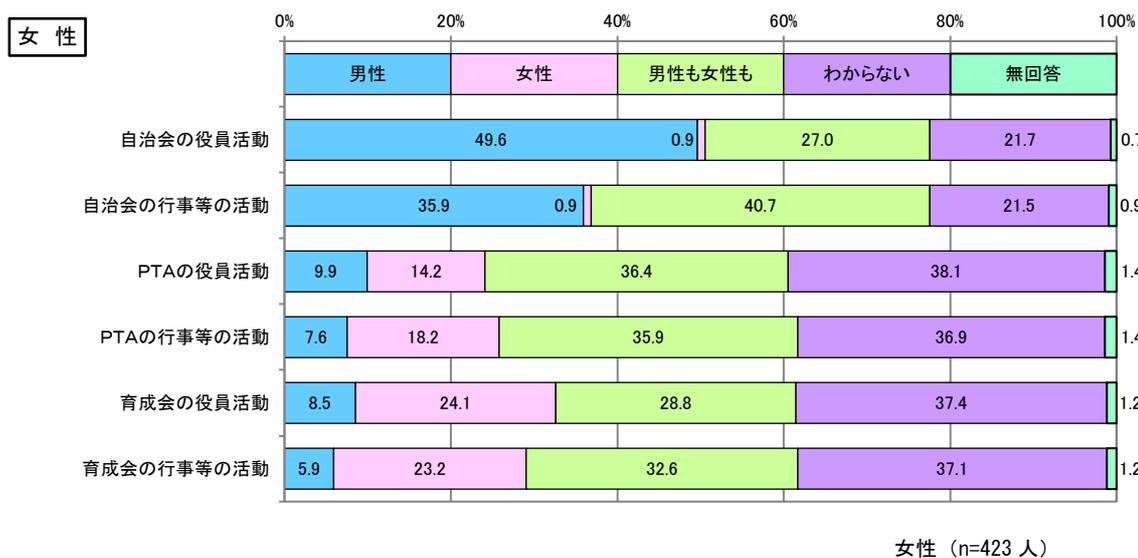
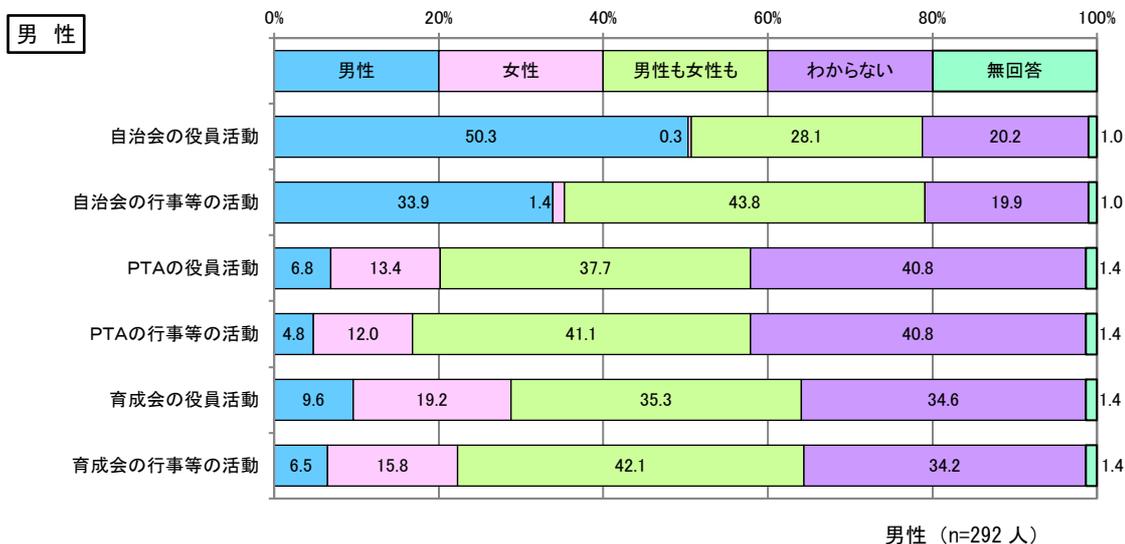
【全事例】



全体 (n=719 人)

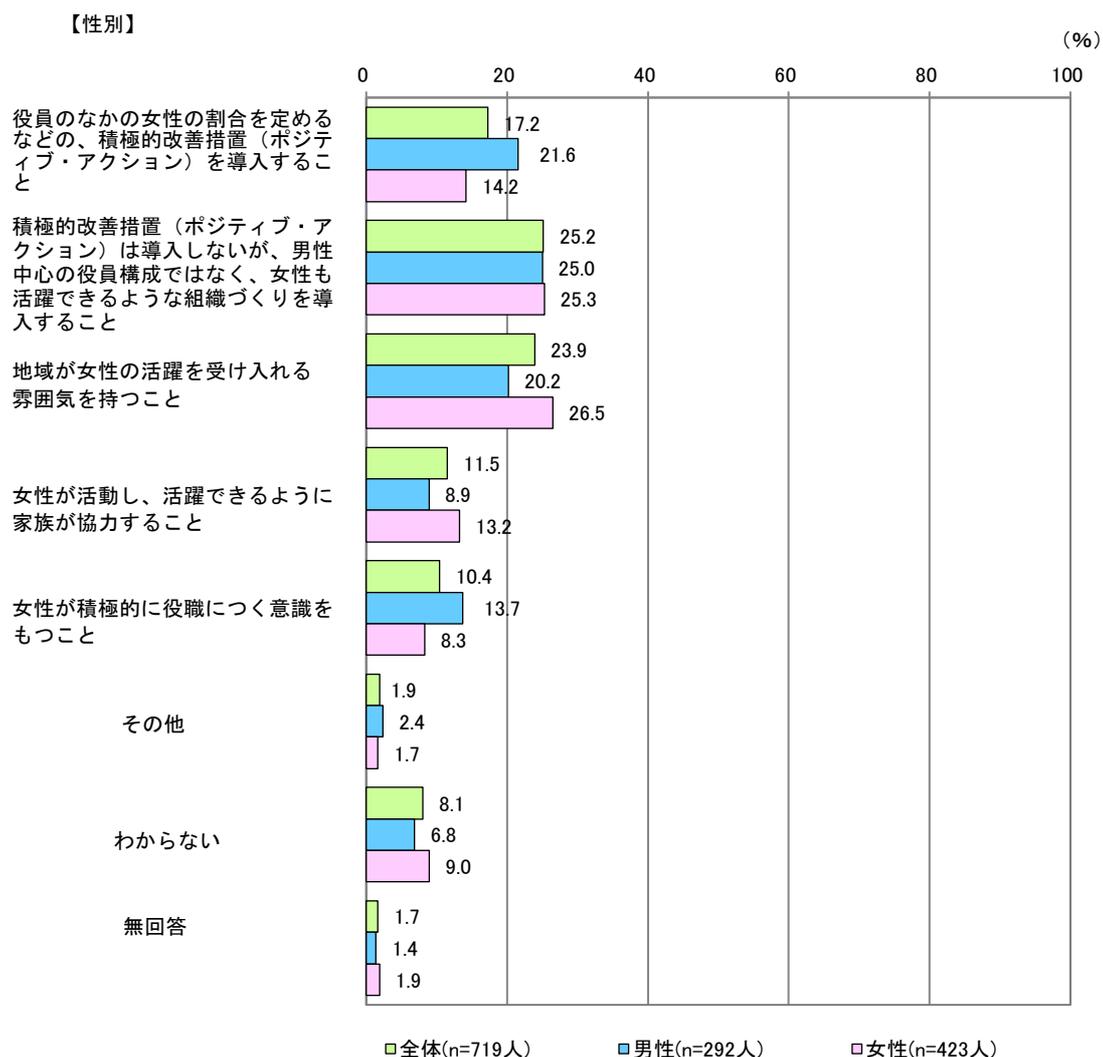
- ・性別でみると、男女ともいずれの事例においても同じような傾向になっており、男女による大きな差異はみられない。

【性別】



問 27 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。
 あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」（25.2%）が最も多く、約3割となっている。次に、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」（23.9%）、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」（17.2%）、「女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること」（11.5%）と続いている。
- ・性別でみると、男性では、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」が最も多くなっている。次いで、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」となっている。一方、女性では、「地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと」が最も多くなっている。次いで、「積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること」、「役員の中の女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）を導入すること」となっている。

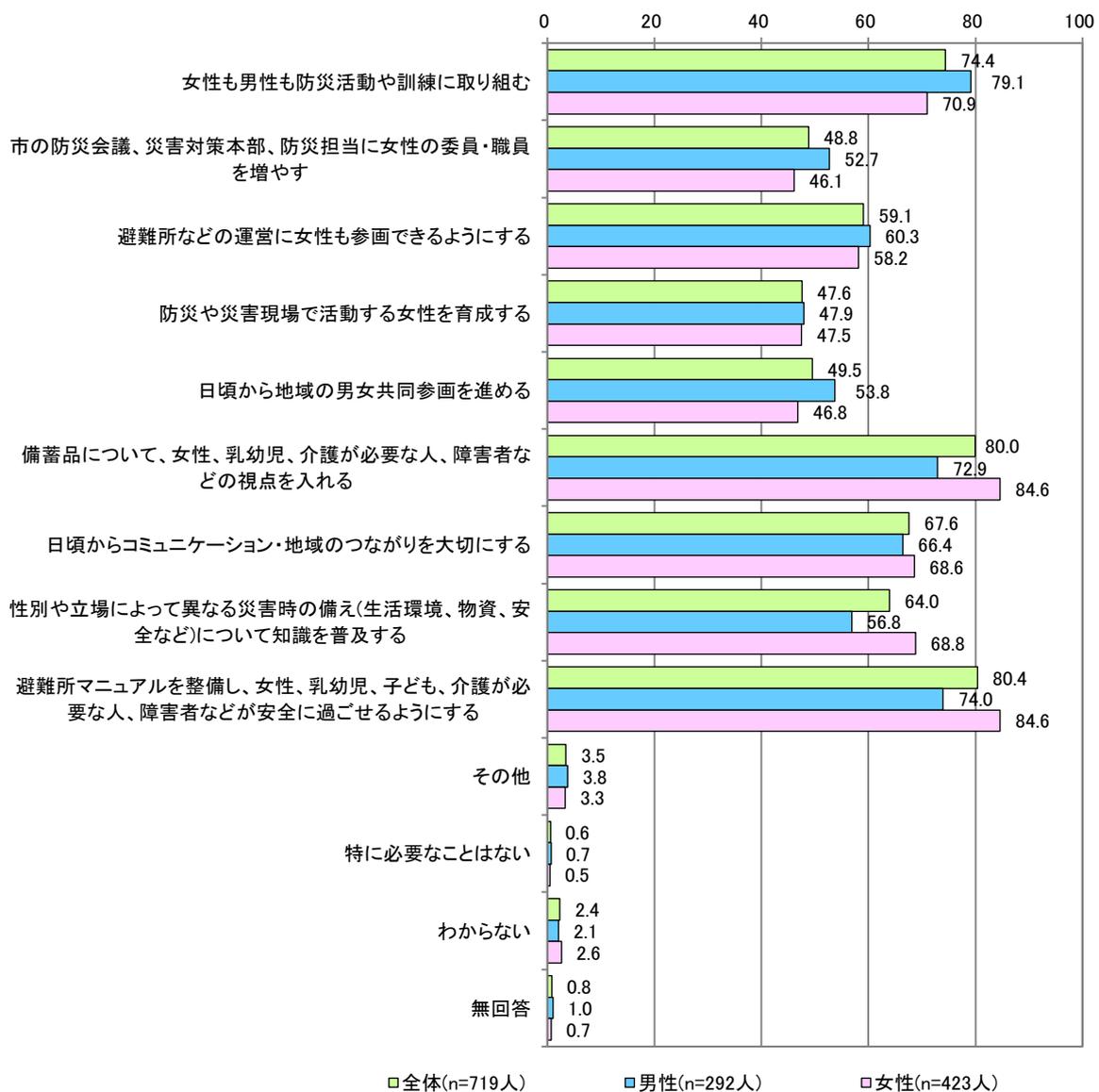


問 28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。

災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてお選びください。

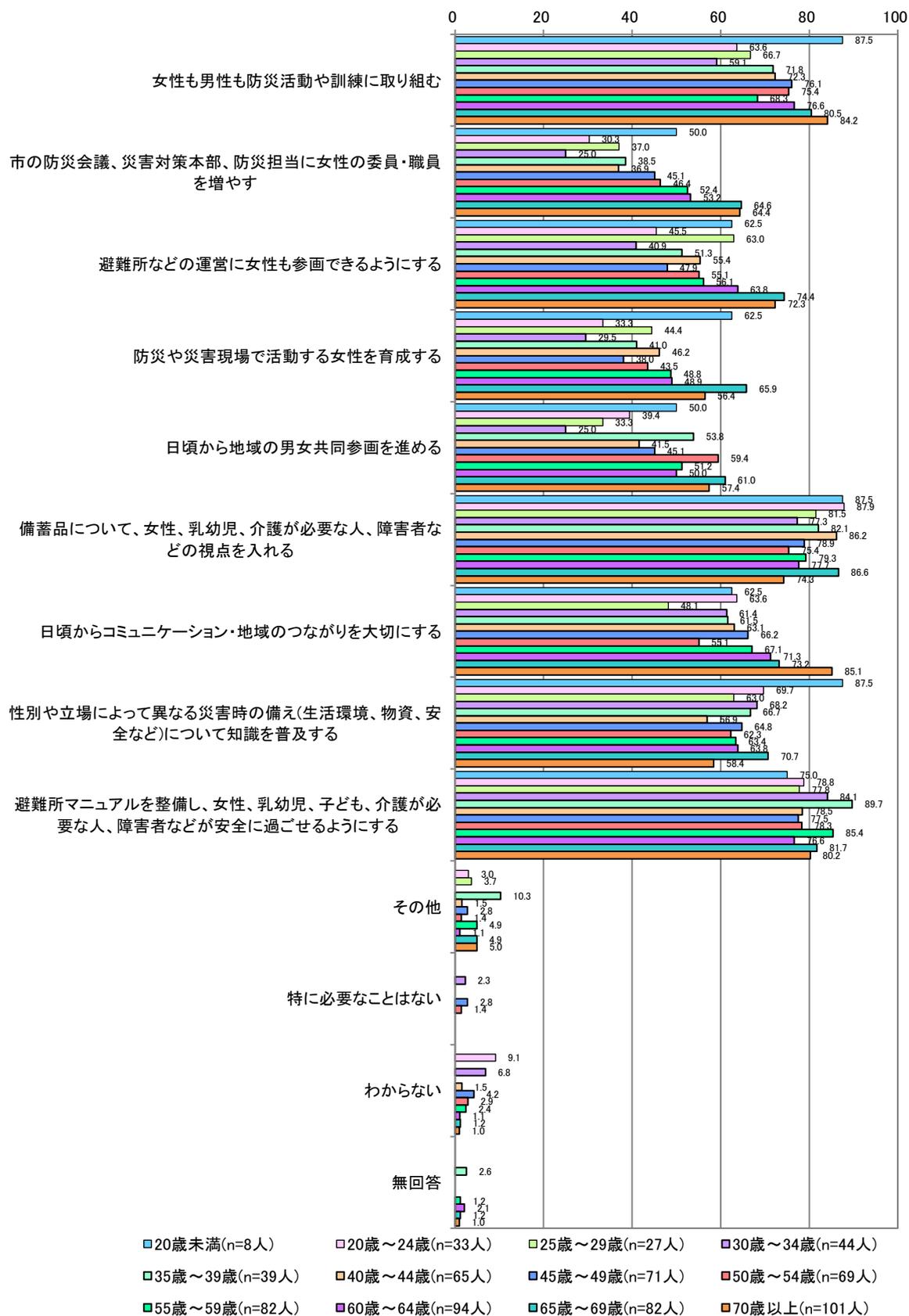
- ・全体でみると、「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」(80.4%)、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」(80.0%)が8割以上となっている。次に、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」(74.4%)と続いている。
- ・性別でみると、男性は、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」が最も多くなっている。一方、女性は、「備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる」と「避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする」が同率で最も多くなっている。

【性別】



- ・年代別でみると、「女性も男性も防災活動や訓練に取り組む」、「市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす」、「避難所などの運営に女性も参画できるようにする」、「日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする」という回答で、年代が高くなるにつれ、回答割合も高くなる傾向となっている。

【年代別】

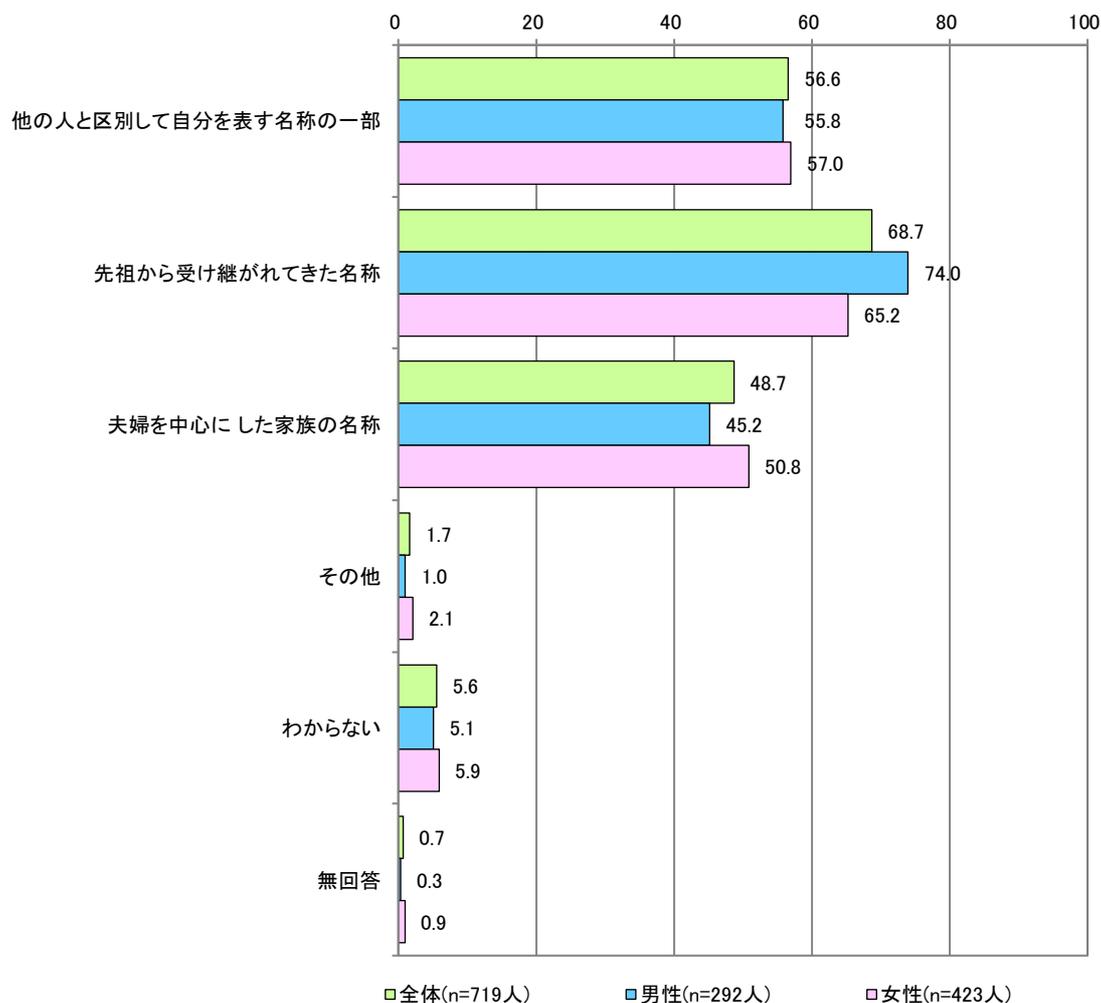


選択的夫婦別姓制度に関することについて

問 29 あなたは、名字（姓）とは、どういうものだと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

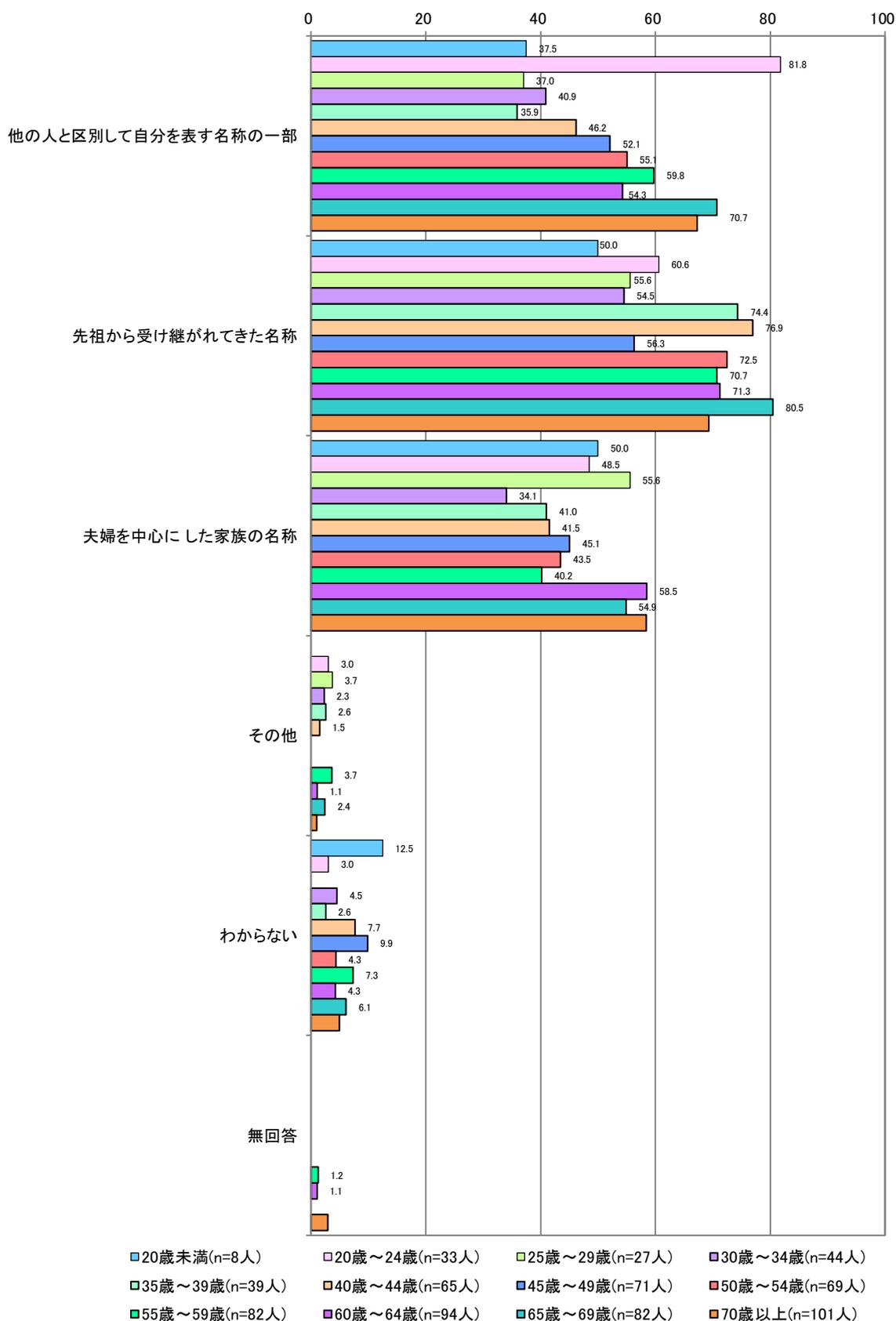
- ・全体でみると、「先祖から受け継がれてきた名称」（68.7%）が約7割と、最も多くなっている。次に、「他の人と区別して自分を表す名称の一部」（56.6%）、「夫婦を中心にした家族の名称」（48.7%）と続いている。
- ・性別でみると、男女の回答順位は変わらない。「先祖から受け継がれてきた名称」という回答では、男性の回答割合が、女性よりもやや高くなっている。

【性別】



- ・世代別でみると、「先祖から受け継がれてきた名称」、「他の人と区別して自分を表す名称の一部」、「夫婦を中心にした家族の名称」、いずれも年代が高くなると回答割合が高くなる傾向になっている。

【年代別】

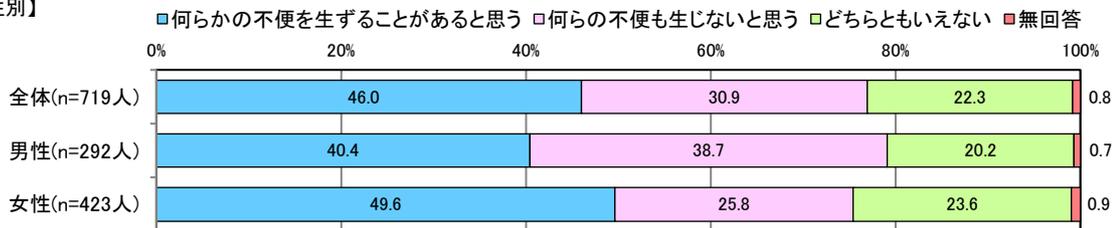


問 30 現在の法律では、婚姻によって、夫婦のいずれかが必ず名字（姓）を変えなければならないことになっています。

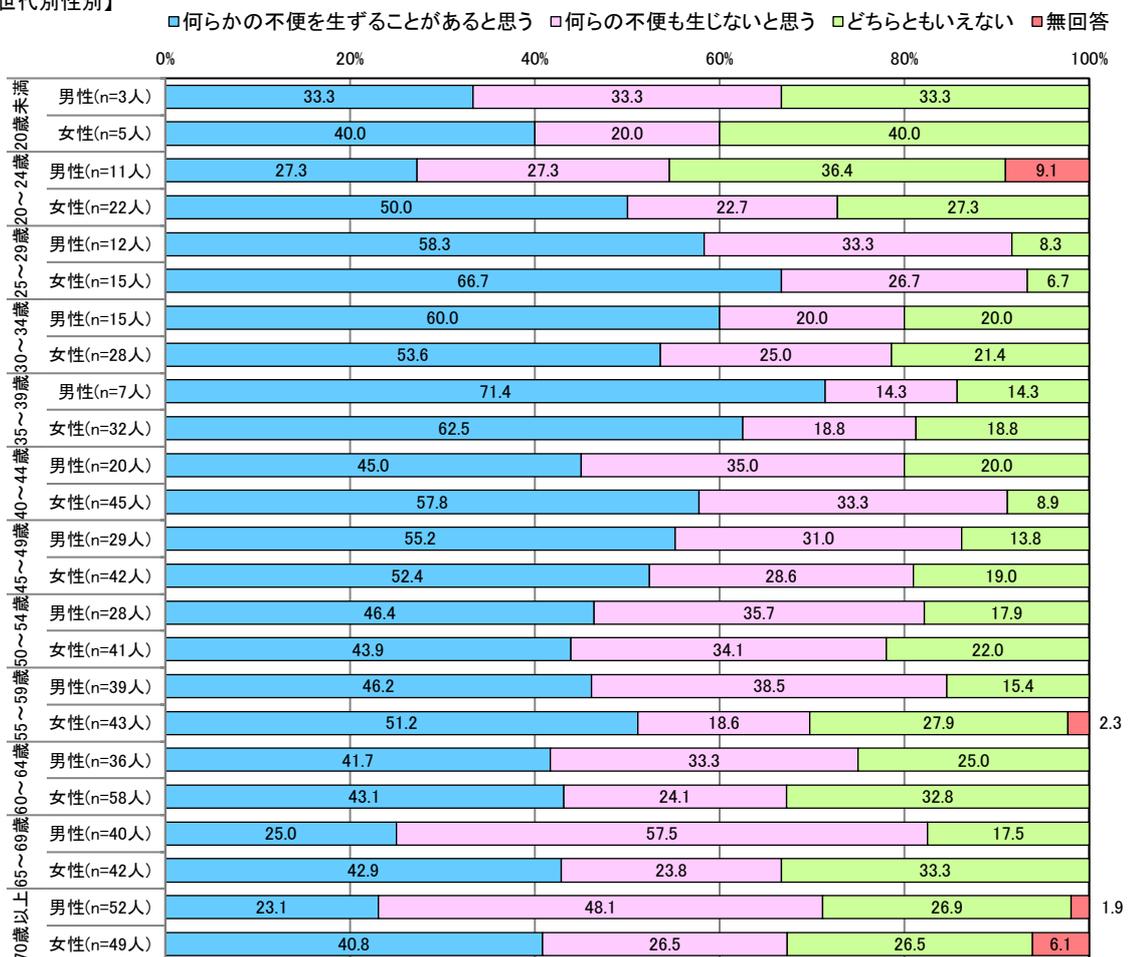
あなたは、婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字（姓）を変えると、仕事の上で何らかの不便を生ずることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「何らかの不便を生ずることがあると思う」(46.0%)が最も多く、約5割となっている。次に、「何らの不便も生じないと思う」(30.9%)、「どちらともいえない」(22.3%)と続いている。
- ・性別でみると、「何らかの不便を生ずることがあると思う」という回答では、女性が男性よりも回答割合がやや高くなっている。一方、「何らの不便も生じないと思う」という回答では、男性が女性よりも回答割合が高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳～49歳の女性、25歳～39歳の男性、45歳～49歳の男性、55歳～59歳の女性の世代で「何らかの不便を生ずることがあると思う」という回答が5割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

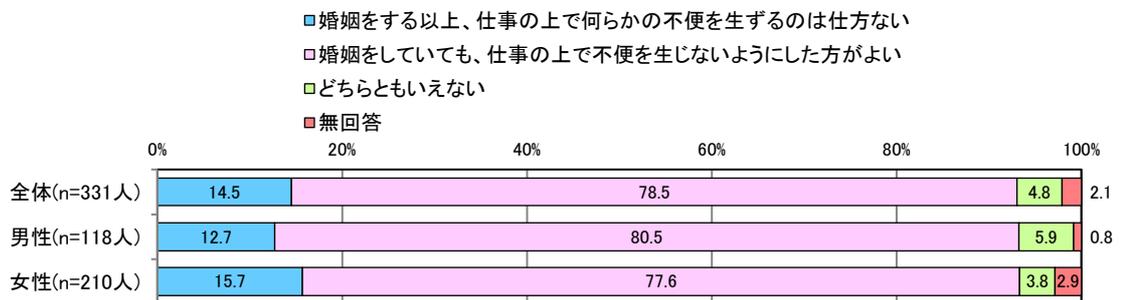


問 31 問 30 で「1」を選ばれた方におたずねします。

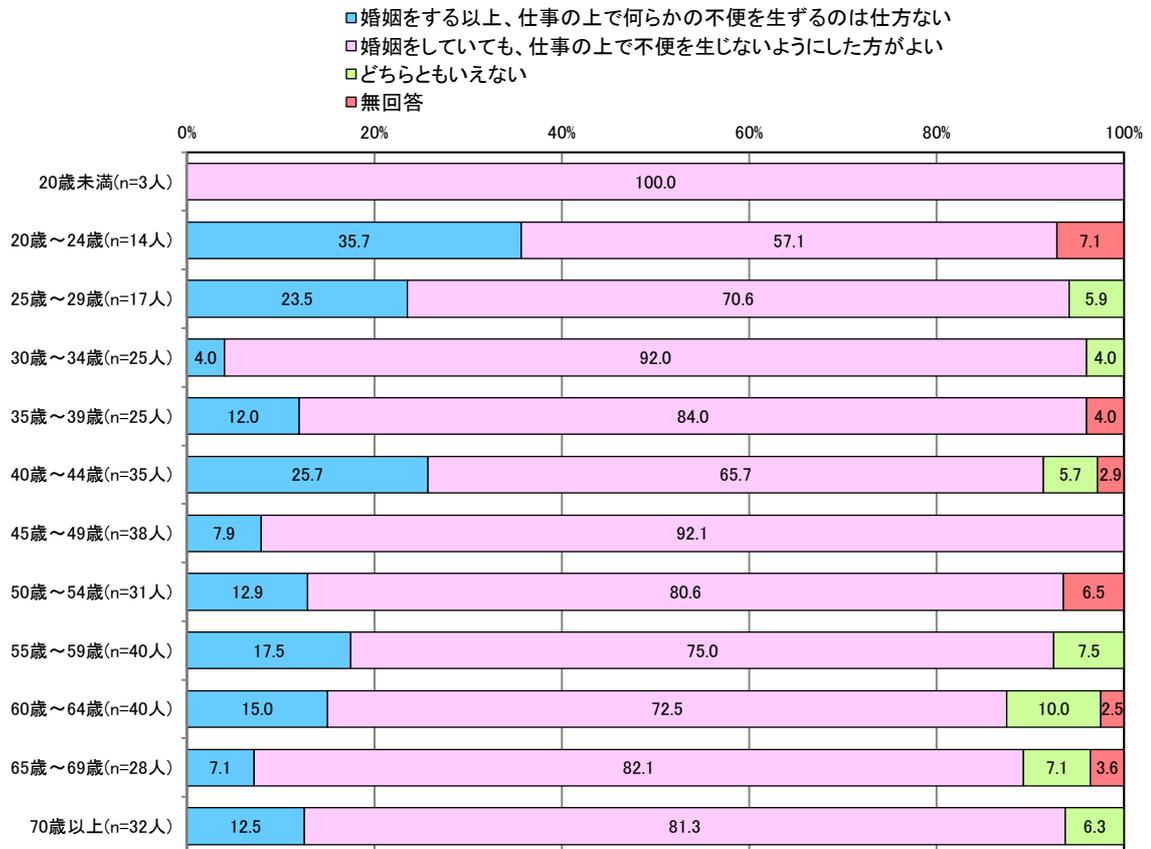
婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字（姓）を変えらると、仕事の上で何らかの不便が生ずることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「婚姻をしていても、仕事の上で不便を生じないようにした方がよい」（78.5%）が最も多く、約8割となっている。次に、「婚姻をする以上、仕事の上で何らかの不便を生ずるのは仕方ない」（14.5%）、「どちらともいえない」（4.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男女の差は少ないといえる。
- ・世代別でみると、20歳～29歳、40歳～44歳の世代で「婚姻をする以上、仕事の上で何らかの不便を生ずるのは仕方ない」という回答が2割を超えている。

【性別】



【世代別】

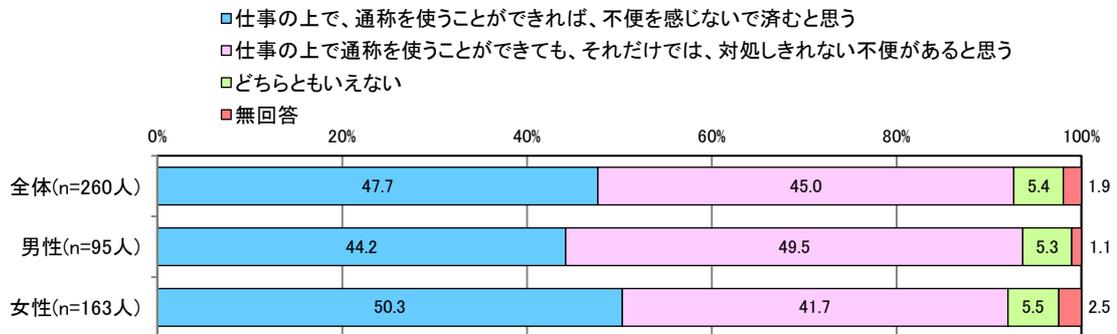


問 32 問 31 で「2」を選ばれた方におたずねします。

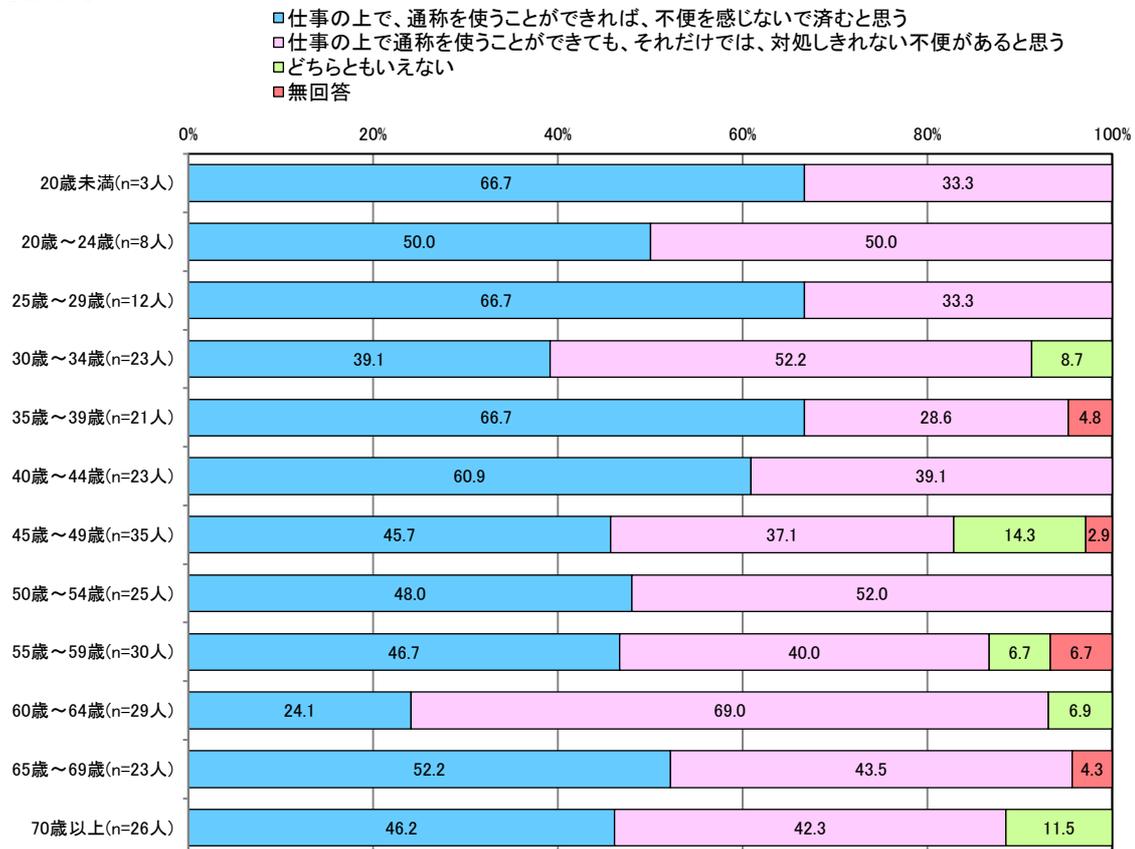
婚姻をして名字（姓）を変えても、仕事の上で不便を生じないようにするため、婚姻前の名字（姓）を通称として使えばよいという考え方がありますが、あなたは、このような考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「仕事の上で、通称を使うことができれば、不便を感じないで済むと思う」（47.7%）、「仕事の上で通称を使うことができて、それだけでは、対処しきれない不便があると思う」（45.0%）が4割を超え拮抗している。
- ・性別でみると、男性では「仕事の上で通称を使うことができて、それだけでは、対処しきれない不便があると思う」が、女性では「仕事の上で、通称を使うことができれば、不便を感じないで済むと思う」が、最も多くなっている。
- ・世代別でみると、20歳未満、25歳～29歳、35歳～44歳の世代で「仕事の上で、通称を使うことができれば、不便を感じないで済むと思う」という回答が6割を超えている。

【性別】



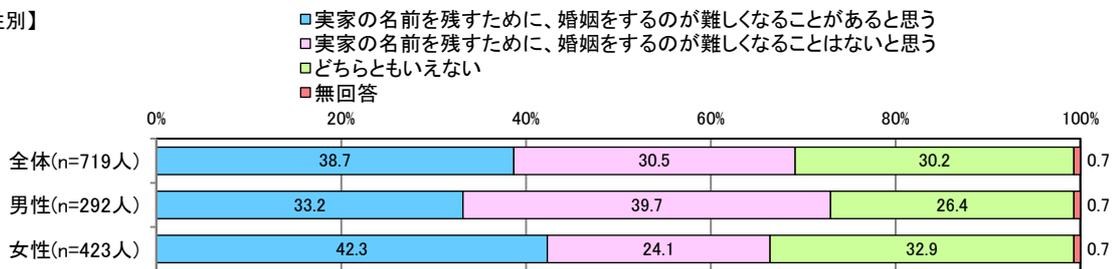
【世代別】



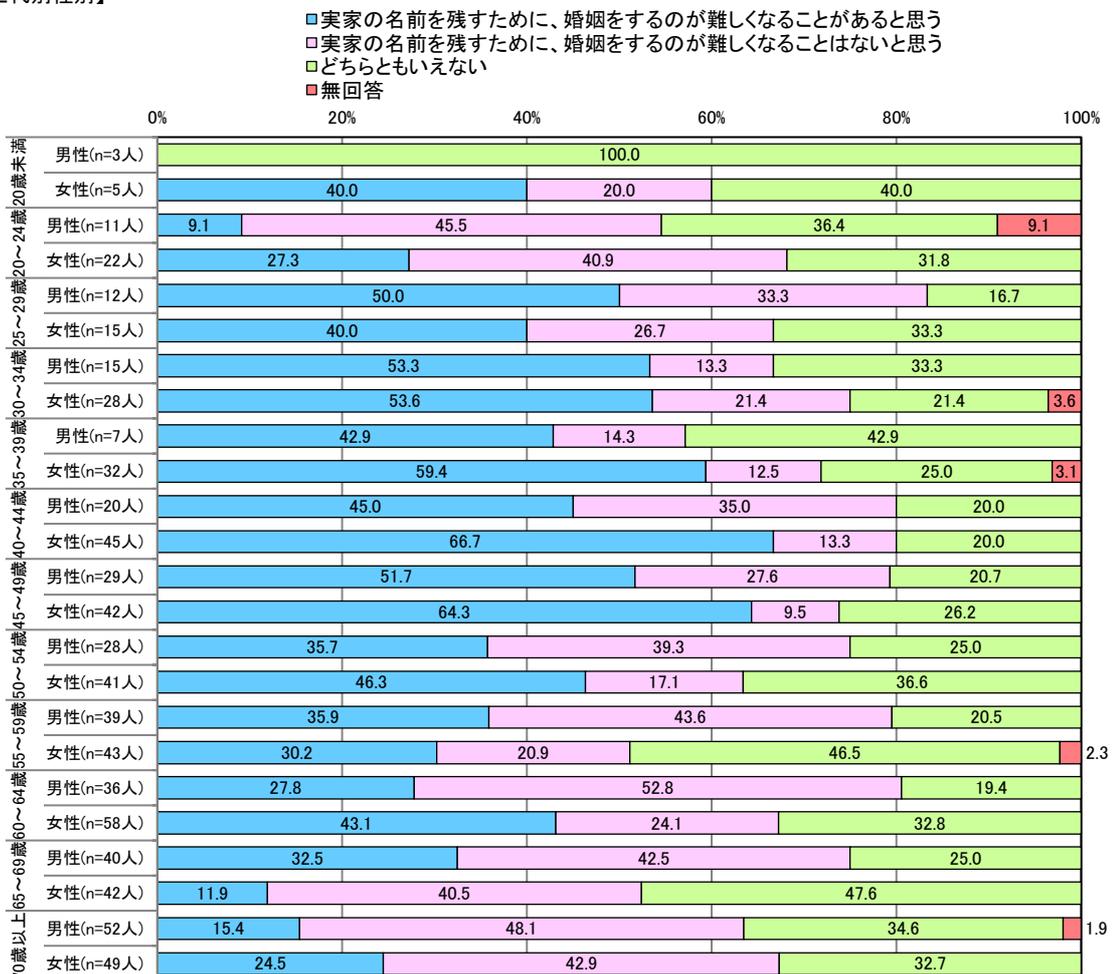
問 33 あなたは、例えば、男性の兄弟のいない女性が、名字（姓）を変えると、実家の名字（姓）がなくなってしまうなどの理由で、婚姻をするのが難しくなることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることがあると思う」（38.7%）が最も多く、約4割となっている。次に、「実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることはないと思う」（30.5%）、「どちらともいえない」（30.2%）と続いている。
- ・性別でみると、男性では「実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることはないと思う」が、女性では「実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることがあると思う」が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～34歳の男性、30歳～49歳の女性、45歳～49歳の男性の世代で、「実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることがあると思う」という回答が5割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

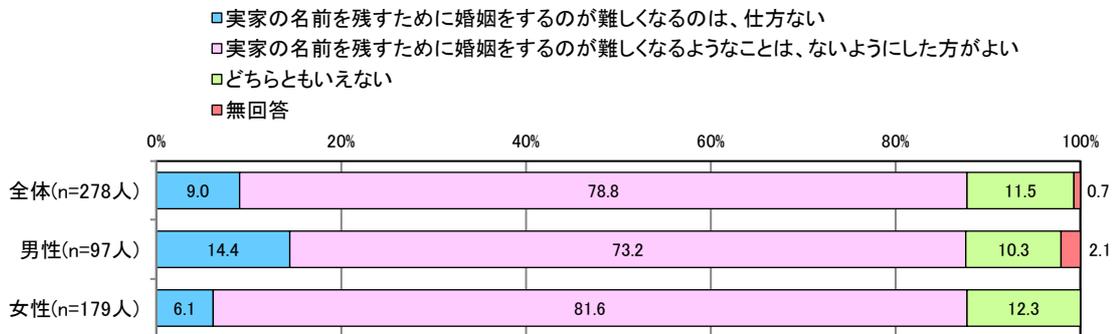


問 34 問 33 で「1」を選ばれた方におたずねします。

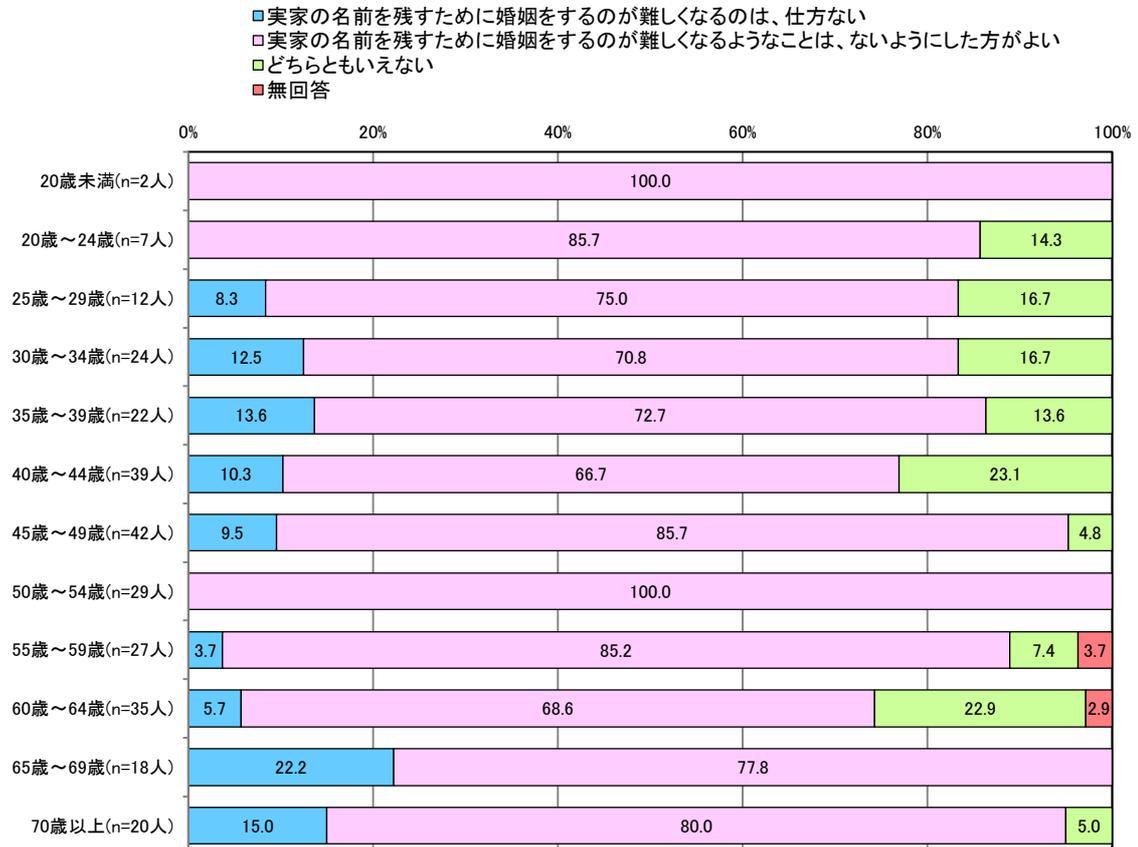
実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるようなことは、ないようにした方がよい」(78.8%) が最も多く、約8割となっている。次に、「どちらともいえない」(11.5%)、「実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるのは、仕方ない」(9.0%) と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるようなことは、ないようにした方がよい」が最も多い。一方、「実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるのは、仕方ない」では、男性の回答割合が、女性よりもやや高くなっている。
- ・世代別でみると、65歳以上の世代で「実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるのは、仕方ない」という回答が約2割となっている。

【性別】



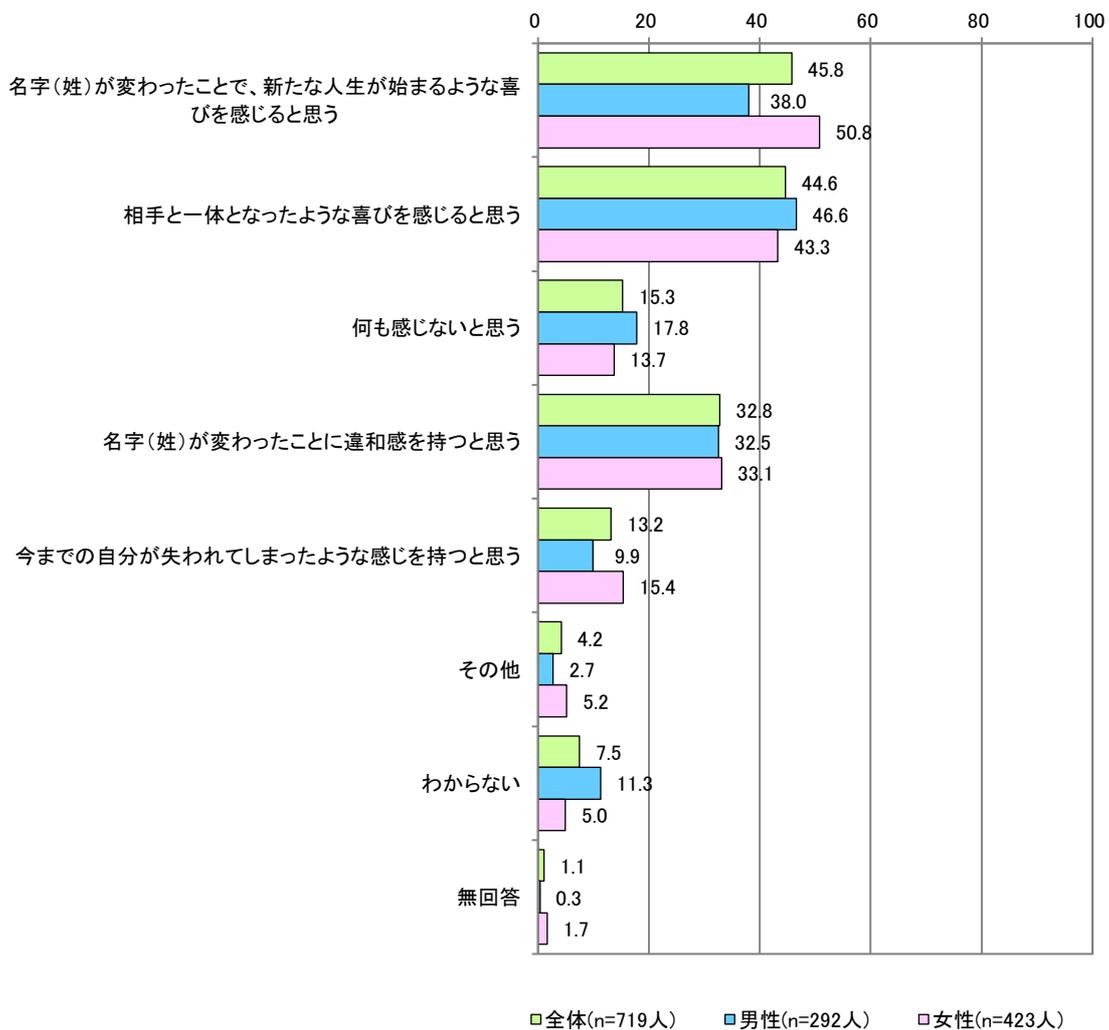
【世代別】



問 35 あなたは、婚姻によって、ご自分の名字（姓）が相手の名字（姓）に変わったとした場合、そのことについて、どのような感じを持つと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

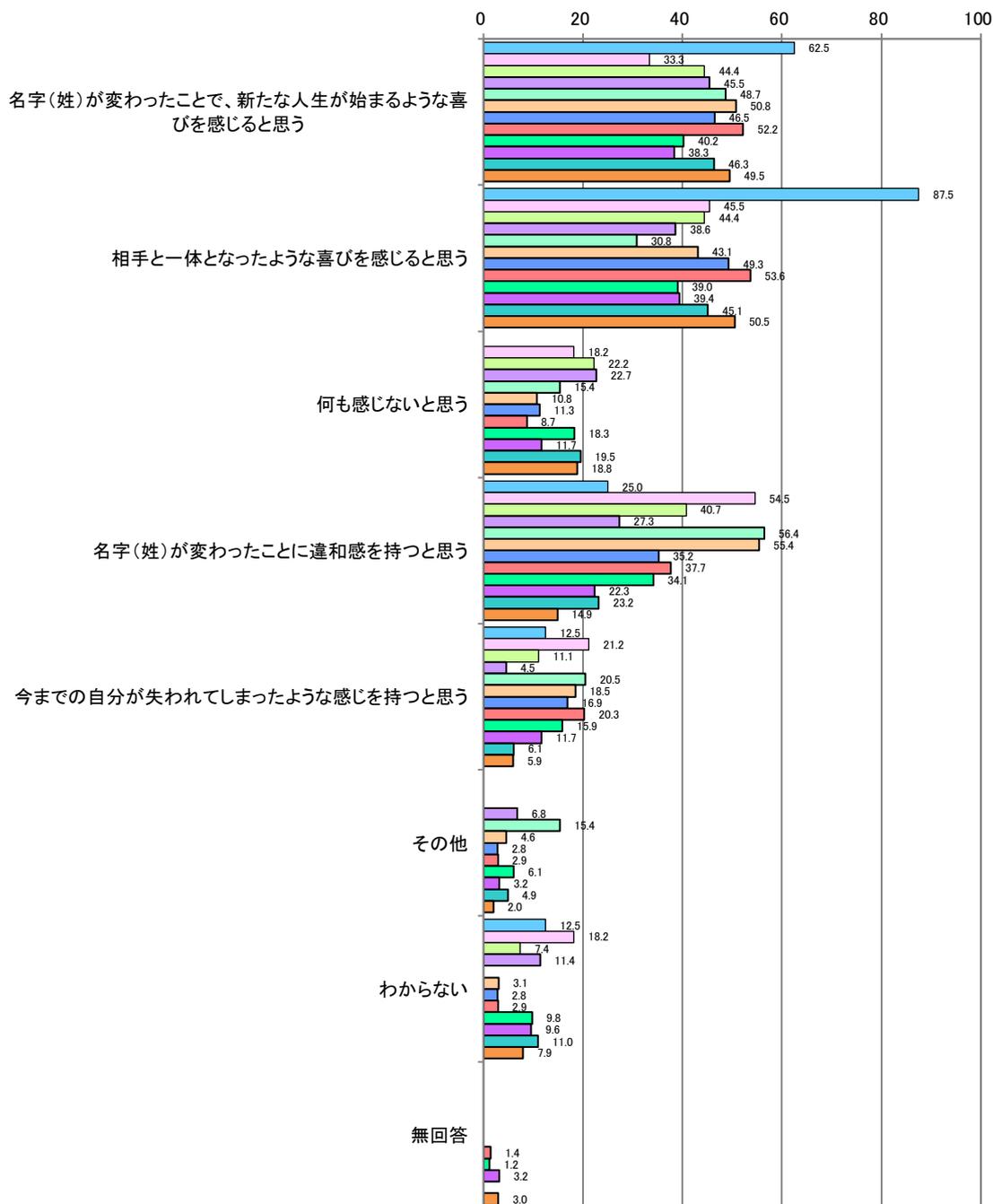
- ・全体でみると、「名字（姓）が変わったことで、新たな人生が始まるような喜びを感じると思う」（45.8%）、「相手と一体となったような喜びを感じると思う」（44.6%）が4割を超えている。次に、「名字（姓）が変わったことに違和感を持つと思う」（32.8%）、「何も感じないと思う」（15.3%）、「今までの自分が失われてしまったような感じを持つと思う」（13.2%）と続いている。
- ・性別でみると、男性では「相手と一体となったような喜びを感じると思う」が、女性では「名字（姓）が変わったことで、新たな人生が始まるような喜びを感じると思う」という回答が最も多くなっている。

【性別】



・世代別でみると、「名字（姓）が変わったことに違和感を持つと思う」という回答で、20歳～24歳、35歳～44歳の世代で回答割合が5割を超え、他の世代よりも高くなっている。

【年代別】

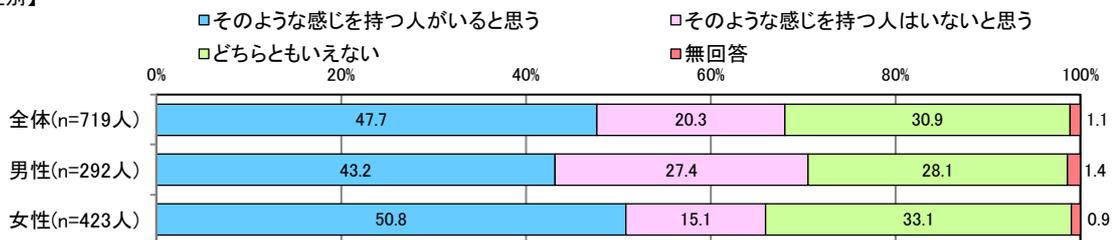


- 20歳未満(n=8人) ■ 20歳～24歳(n=33人) ■ 25歳～29歳(n=27人) ■ 30歳～34歳(n=44人)
- 35歳～39歳(n=39人) ■ 40歳～44歳(n=65人) ■ 45歳～49歳(n=71人) ■ 50歳～54歳(n=69人)
- 55歳～59歳(n=82人) ■ 60歳～64歳(n=94人) ■ 65歳～69歳(n=82人) ■ 70歳以上(n=101人)

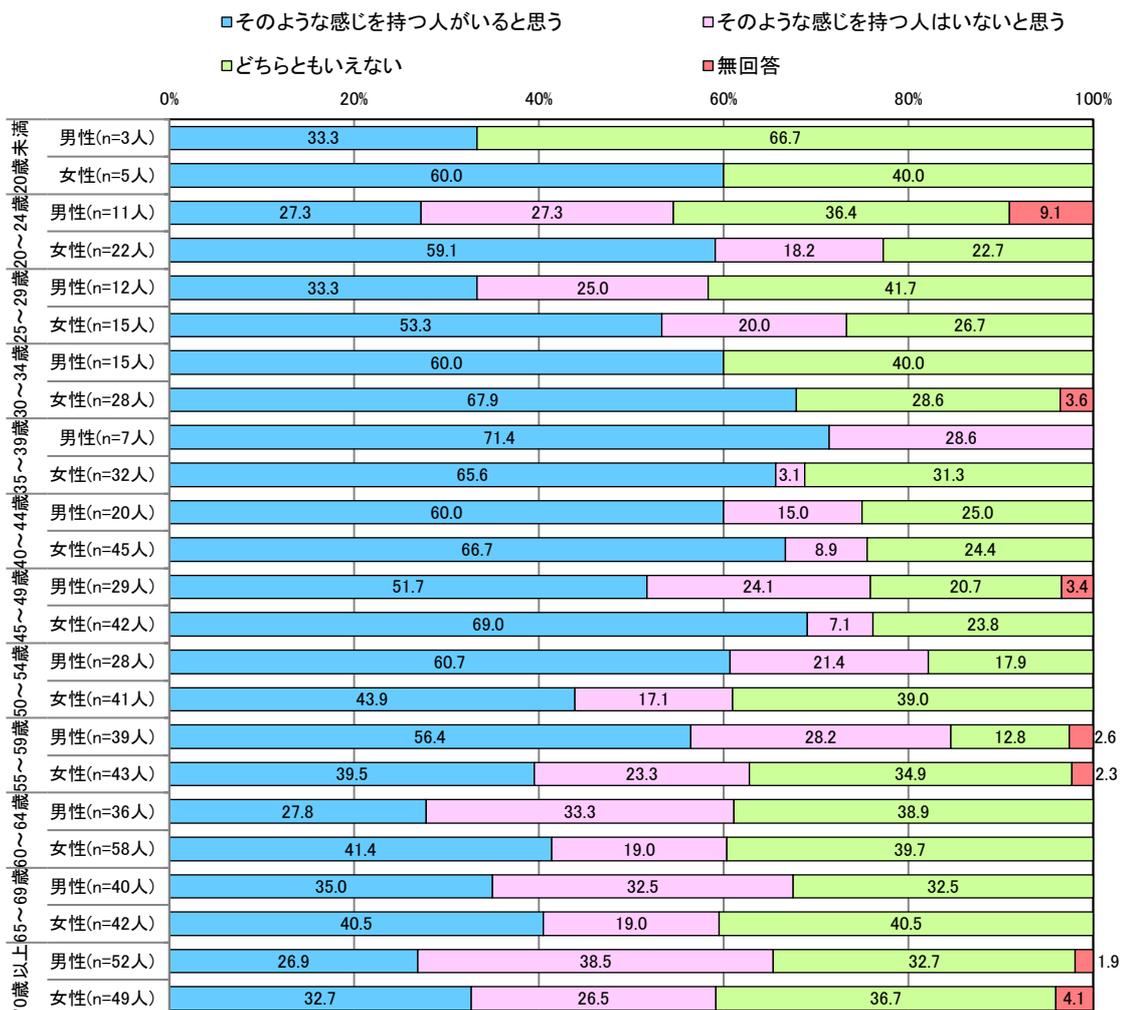
問 36 あなたは、あなた以外の人の中には、婚姻によって名字（姓）を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「そのような感じを持つ人がいると思う」（47.7%）が最も多く、約5割となっている。次に、「どちらともいえない」（30.9%）、「そのような感じを持つ人はいないと思う」（20.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「そのような感じを持つ人がいると思う」という回答が最も多いものの、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、30歳～44歳の男女、45歳～49歳の女性、50歳～54歳の男性の世代で「そのような感じを持つ人がいると思う」という回答が6割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】

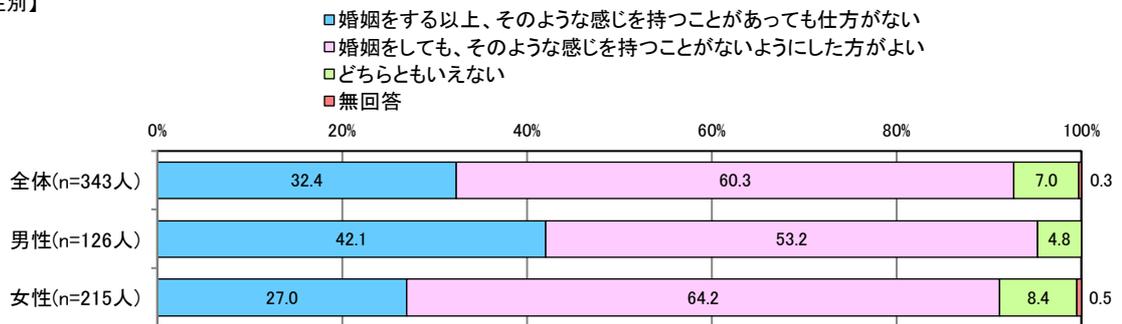


問 37 問 36 で「1」を選ばれた方におたずねします。

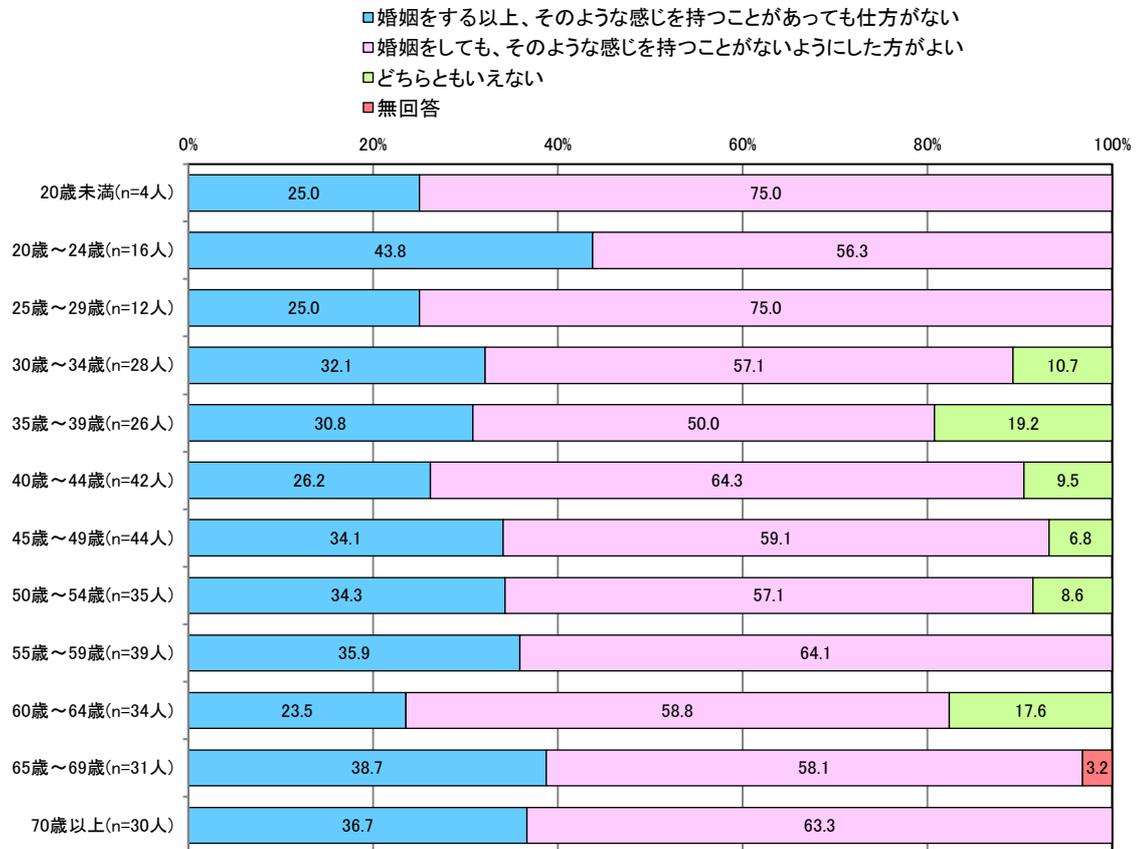
婚姻によって名字（姓）を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「婚姻をしても、そのような感じを持つことがないようにした方がよい」（60.3%）が最も多く、約6割となっている。次に、「婚姻をする以上、そのような感じを持つことがあっても仕方がない」（32.4%）、「どちらともいえない」（7.0%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「婚姻をしても、そのような感じを持つことがないようにした方がよい」という回答が最も多いものの、女性の回答割合が、男性よりもやや高くなっている。
- ・世代別でみると、各世代の傾向に差は少ないものの、30歳～54歳、60歳～64歳の世代で、「どちらともいえない」という回答がある。

【性別】



【世代別】

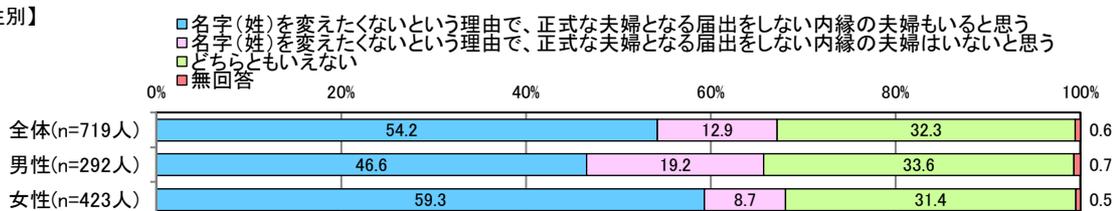


問 38 世間には、正式に結婚している夫婦と全く同じ生活をしているけれども、正式な夫婦となる届出をしていないという男女（内縁の夫婦）がいます。

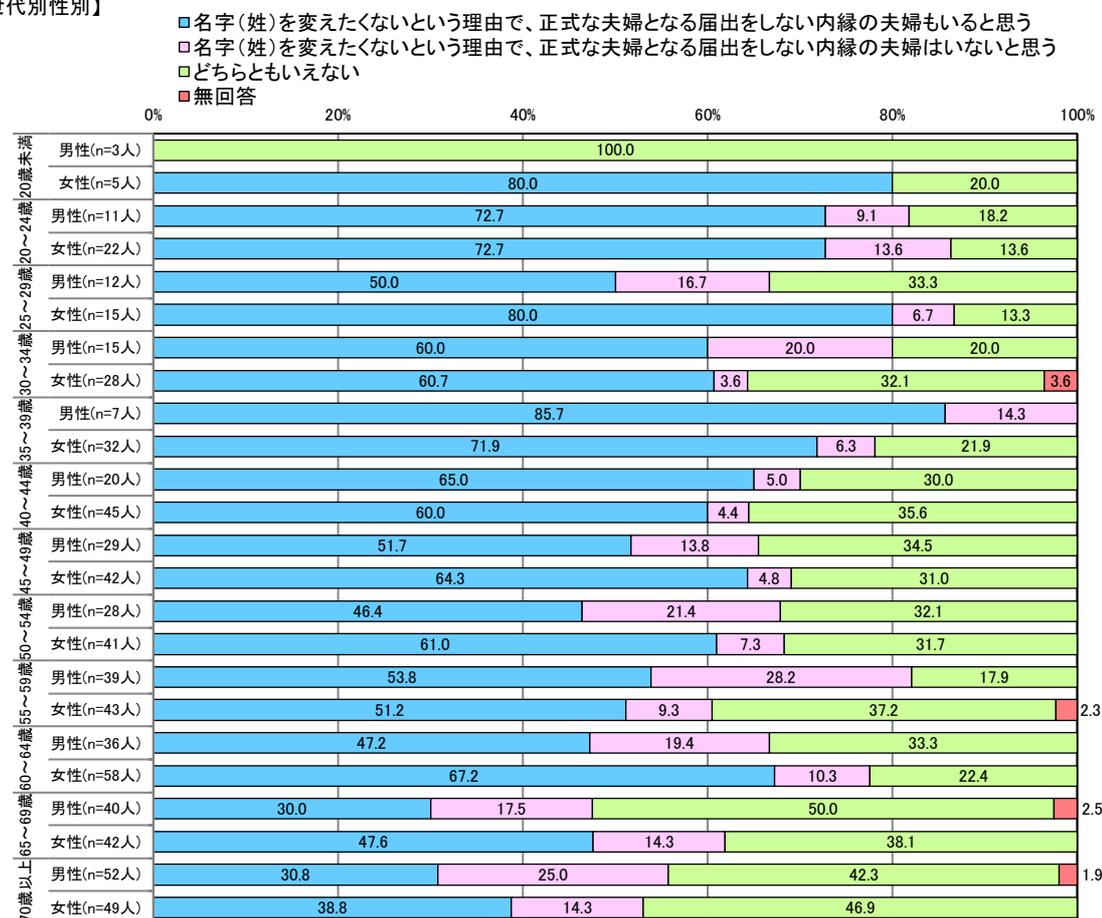
あなたは、そのような内縁の夫婦の中に、双方がともに名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦もいると思う」（54.2%）が最も多く、約5割となっている。次に、「どちらともいえない」（32.3%）、「名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦はいないと思う」（12.9%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦もいると思う」が最も多くなっている。一方、「名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦はいないと思う」という回答では、男性の回答割合が、女性よりも高くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の女性、20歳～24歳の男女、25歳～29歳の女性、35歳～39歳の男女の世代で「名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦もいると思う」という回答が7割を超えている。

【性別】



【世代別性別】



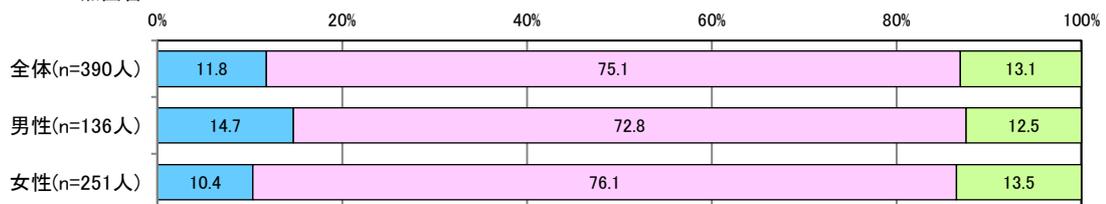
問 39 問 38 で「1」を選ばれた方におたずねします。

そのような内縁の夫婦は、法律（民法）上は正式な夫婦として認められませんが、あなたは、そのような男女についてどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「同じ名字（姓）を名乗っていないなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う」（75.1%）が最も多く、約8割となっている。次に、「どちらともいえない」（13.1%）、「同じ名字（姓）を名乗らない以上、正式な夫婦とは違うと思う」（11.8%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「同じ名字（姓）を名乗っていないなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別でみると、いずれの世代も、「同じ名字（姓）を名乗っていないなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う」という回答が最も多くなっている。しかし、30歳～44歳の世代では、7割未満となり、他の世代よりもやや低い回答割合となっている。

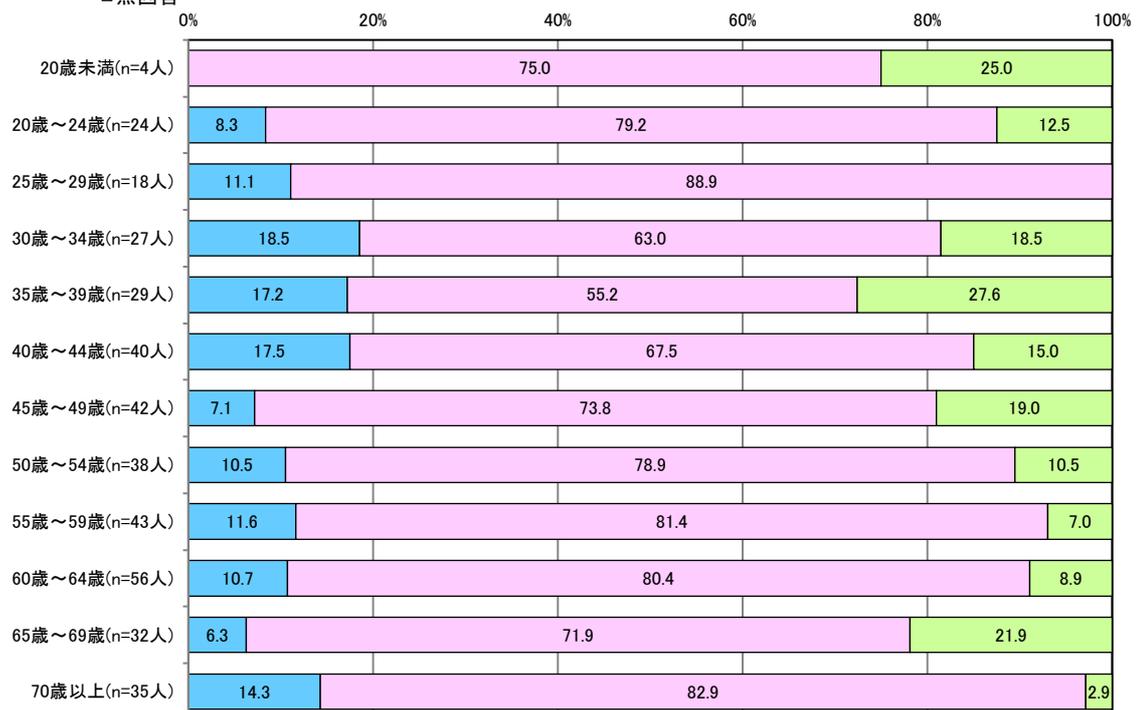
【性別】

- 同じ名字（姓）を名乗らない以上、正式な夫婦とは違うと思う
- 同じ名字（姓）を名乗っていないなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う
- どちらともいえない
- 無回答



【世代別】

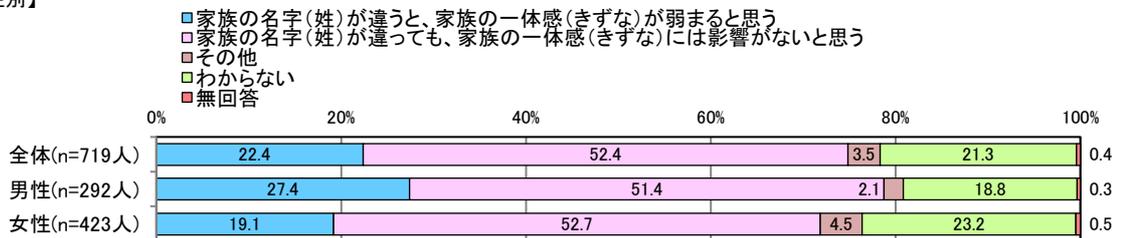
- 同じ名字（姓）を名乗らない以上、正式な夫婦とは違うと思う
- 同じ名字（姓）を名乗っていないなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う
- どちらともいえない
- 無回答



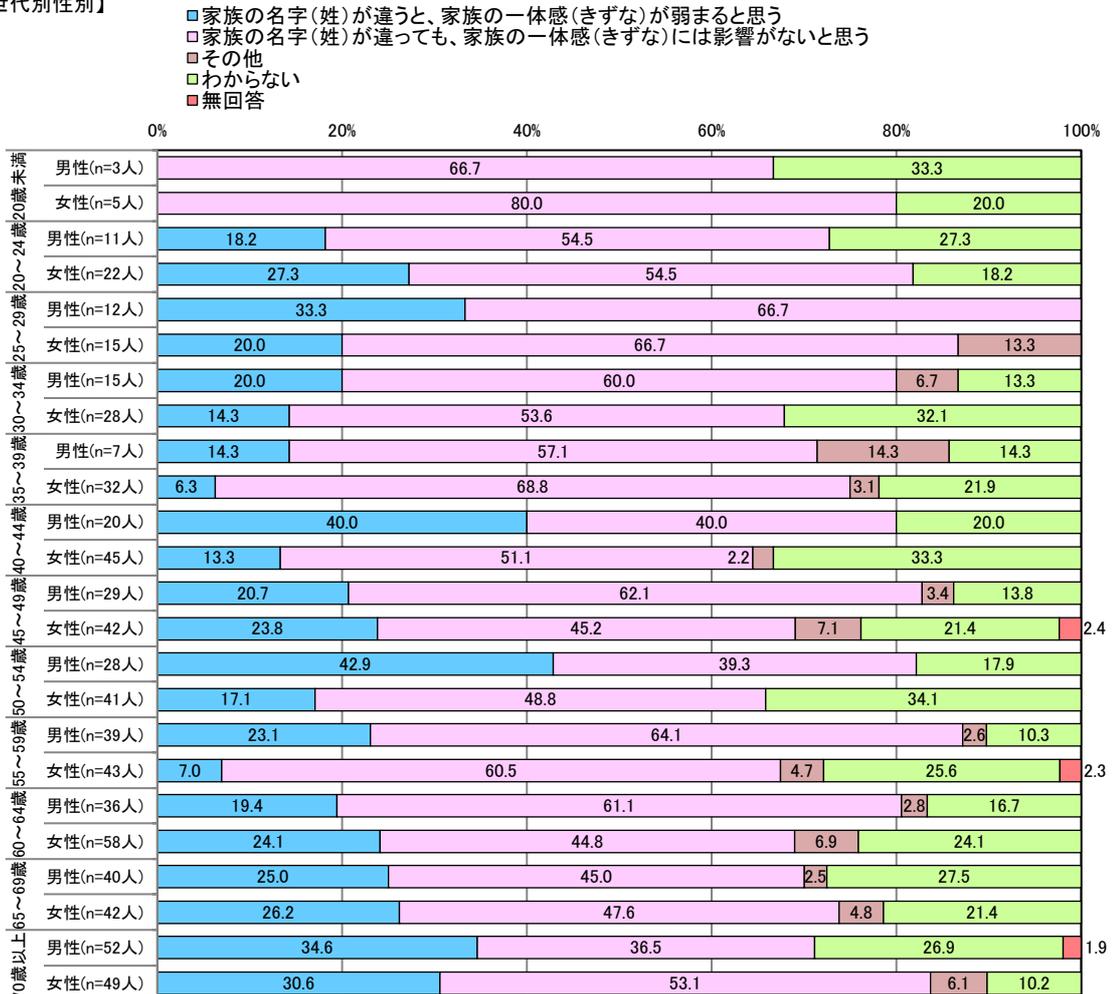
問 40 あなたは、夫婦・親子の名字（姓）が違うと、夫婦を中心とする家族の一体感（きずな）に、何か影響が出てくるとお考えですか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「家族の名字（姓）が違ってても、家族の一体感（きずな）には影響がないと思う」（52.4%）が最も多く、約5割となっている。次に、「家族の名字（姓）が違うと、家族の一体感（きずな）が弱まると思う」（22.4%）、「わからない」（21.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「家族の名字（姓）が違ってても、家族の一体感（きずな）には影響がないと思う」が最も多くなっている。次に、男性では「家族の名字（姓）が違うと、家族の一体感（きずな）が弱まると思う」が、女性では「わからない」となっている。
- ・世代別性別でみると、40歳～44歳の男性、50歳～54歳の男性の世代を除き、いずれの世代でも「家族の名字（姓）が違ってても、家族の一体感（きずな）には影響がないと思う」という回答が最も多くなっている。一方、40歳～44歳の男性、50歳～54歳の男性の世代では、「家族の名字（姓）が違うと、家族の一体感（きずな）が弱まると思う」という回答は4割以上となっている。

【性別】



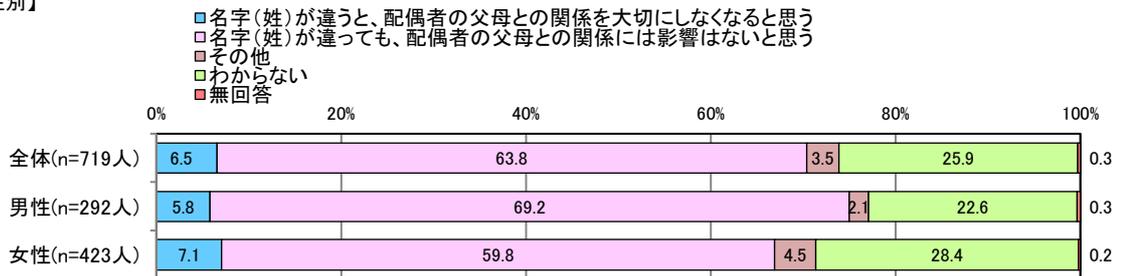
【世代別性別】



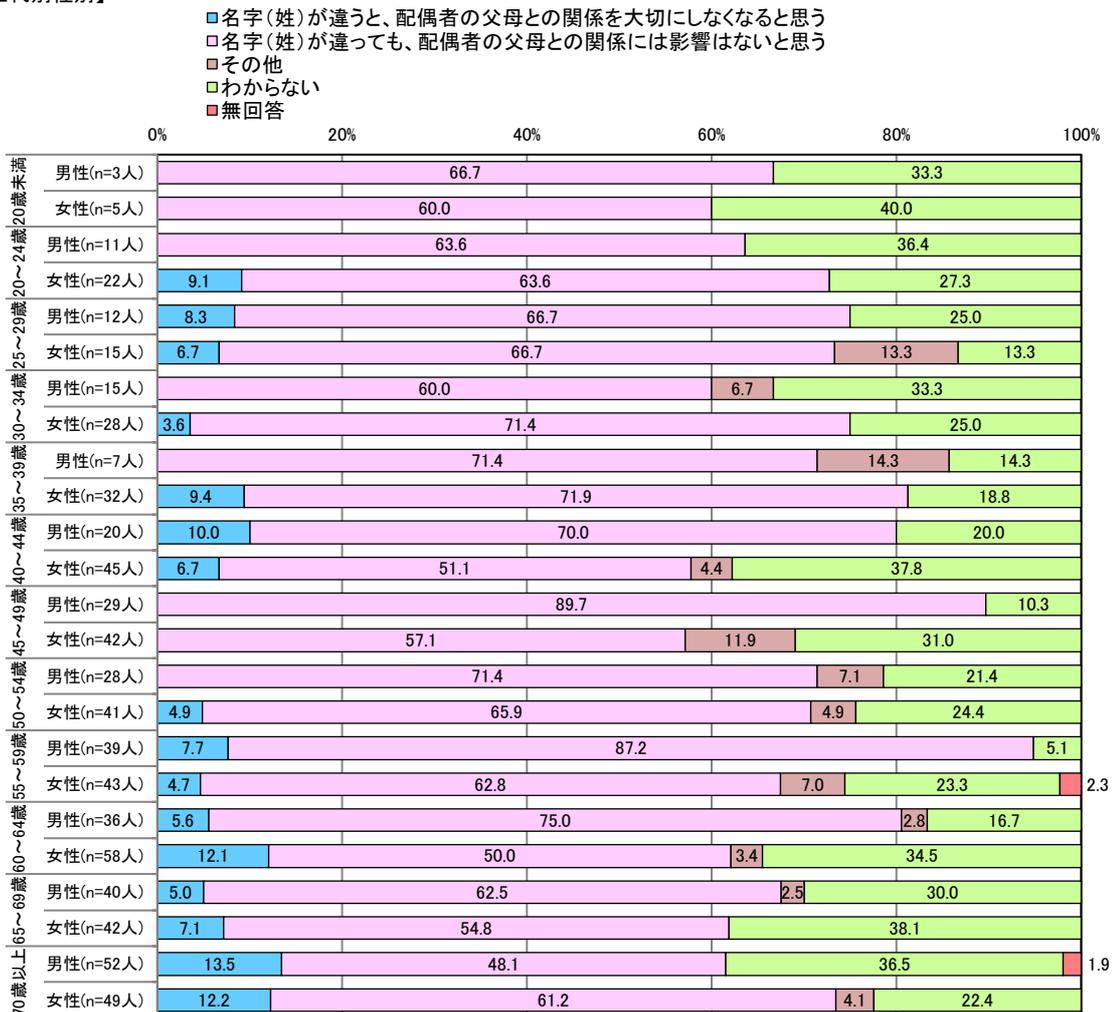
問 41 あなたは、夫婦の名字（姓）が違くと、自分と違う名字（姓）の配偶者の父母との関係に何か影響が出てくるとお思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「名字（姓）が違ってても、配偶者の父母との関係には影響はないと思う」（63.8%）が最も多く、約6割となっている。次に、「わからない」（25.9%）、「名字（姓）が違くと、配偶者の父母との関係を大切にしないと思う」（6.5%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「名字（姓）が違ってても、配偶者の父母との関係には影響はないと思う」という回答が最も多い。
- ・世代別性別でみると、いずれの世代でも、「名字（姓）が違ってても、配偶者の父母との関係には影響はないと思う」という回答が最も多くなっている。一方、40歳～44歳の男性、60歳～64歳の女性、70歳以上の世代では、「名字（姓）が違くと、配偶者の父母との関係を大切にしないと思う」という回答が1割以上となっている。

【性別】



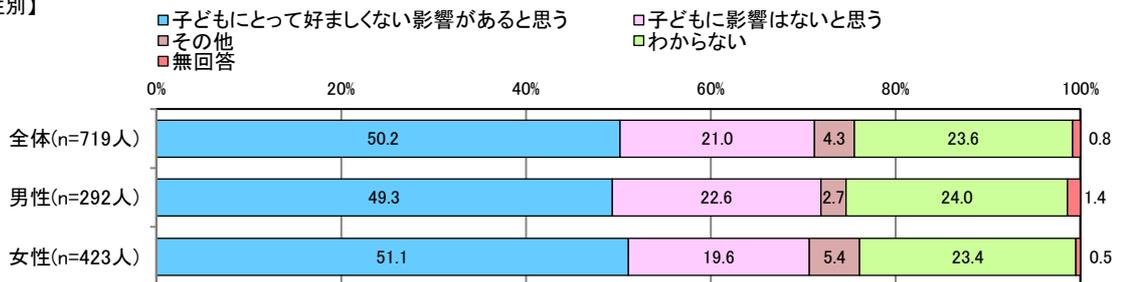
【世代別性別】



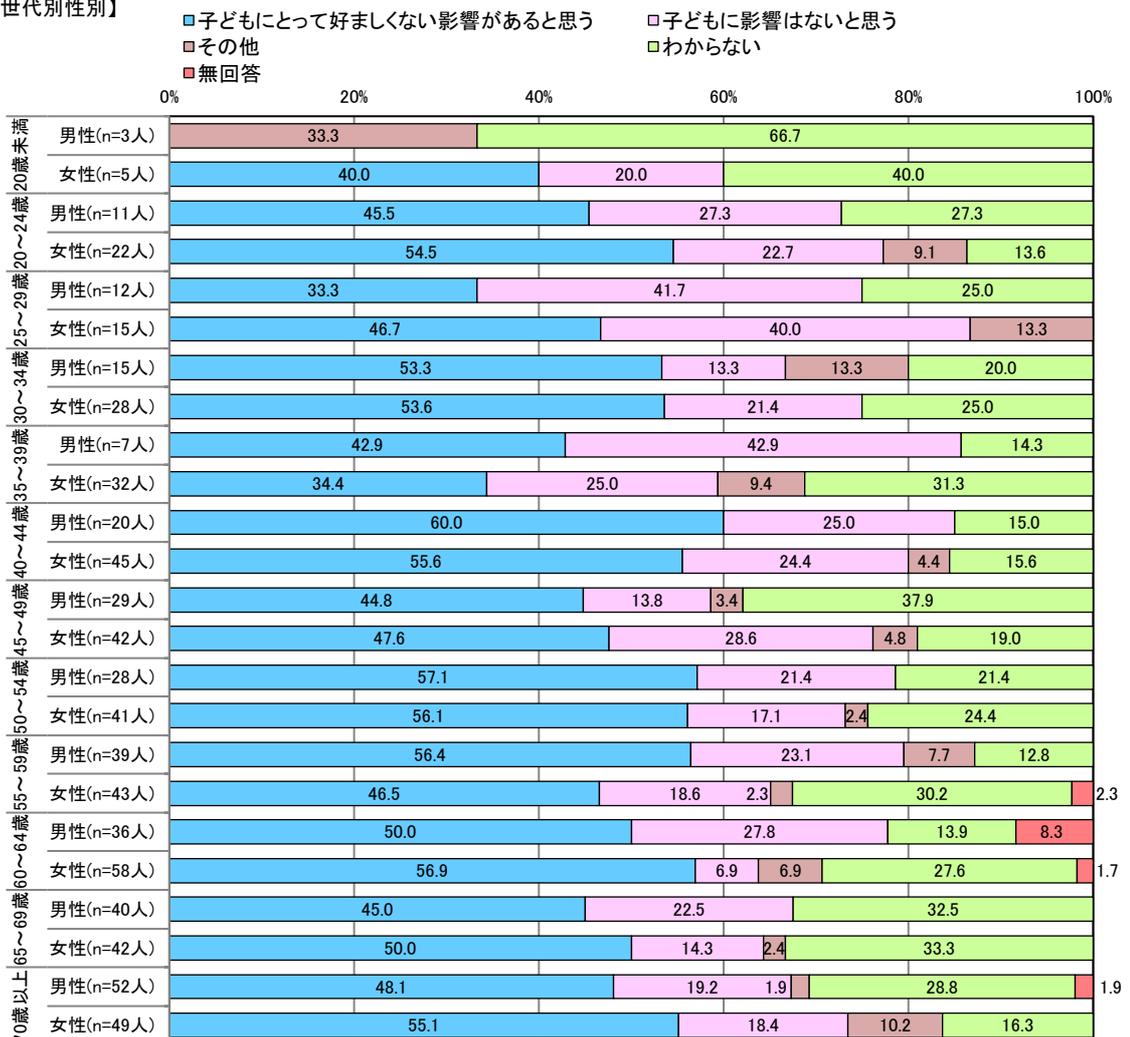
問 42 あなたは、夫婦の名字（姓）が違うと、夫婦間の子どもに何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「子どもにとって好ましくない影響があると思う」(50.2%)が最も多く、約5割となっている。次に、「わからない」(23.6%)、「子どもに影響はないと思う」(21.0%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子どもにとって好ましくない影響があると思う」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性、25歳～29歳の男性、35歳～39歳の男性を除き、いずれの世代でも、「子どもにとって好ましくない影響があると思う」という回答が最も多くなっている。一方、25歳～29歳の男女、35歳～39歳の男性の世代で、「子どもに影響はないと思う」という回答が4割以上となっている。

【性別】



【世代別性別】



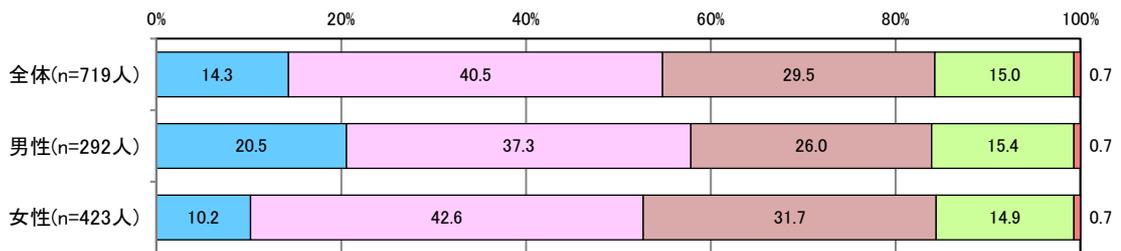
問 43 現在は、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗らなければならないことになっていますが、「現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が希望する場合には、同じ名字（姓）ではなく、それぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めた方がよい。」という意見があります。

このような意見について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- 全体でみると、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない」（40.5%）が最も多く、約4割となっている。次に、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない」（29.5%）、「わからない」（15.0%）、「婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない」（14.3%）と続いている。
- 性別でみると、男女とも「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない」という回答が最も多くなっている。次に、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない」となっている。「婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない」という回答は、男性の回答割合が約2割と、女性よりも高くなっている。

【性別】

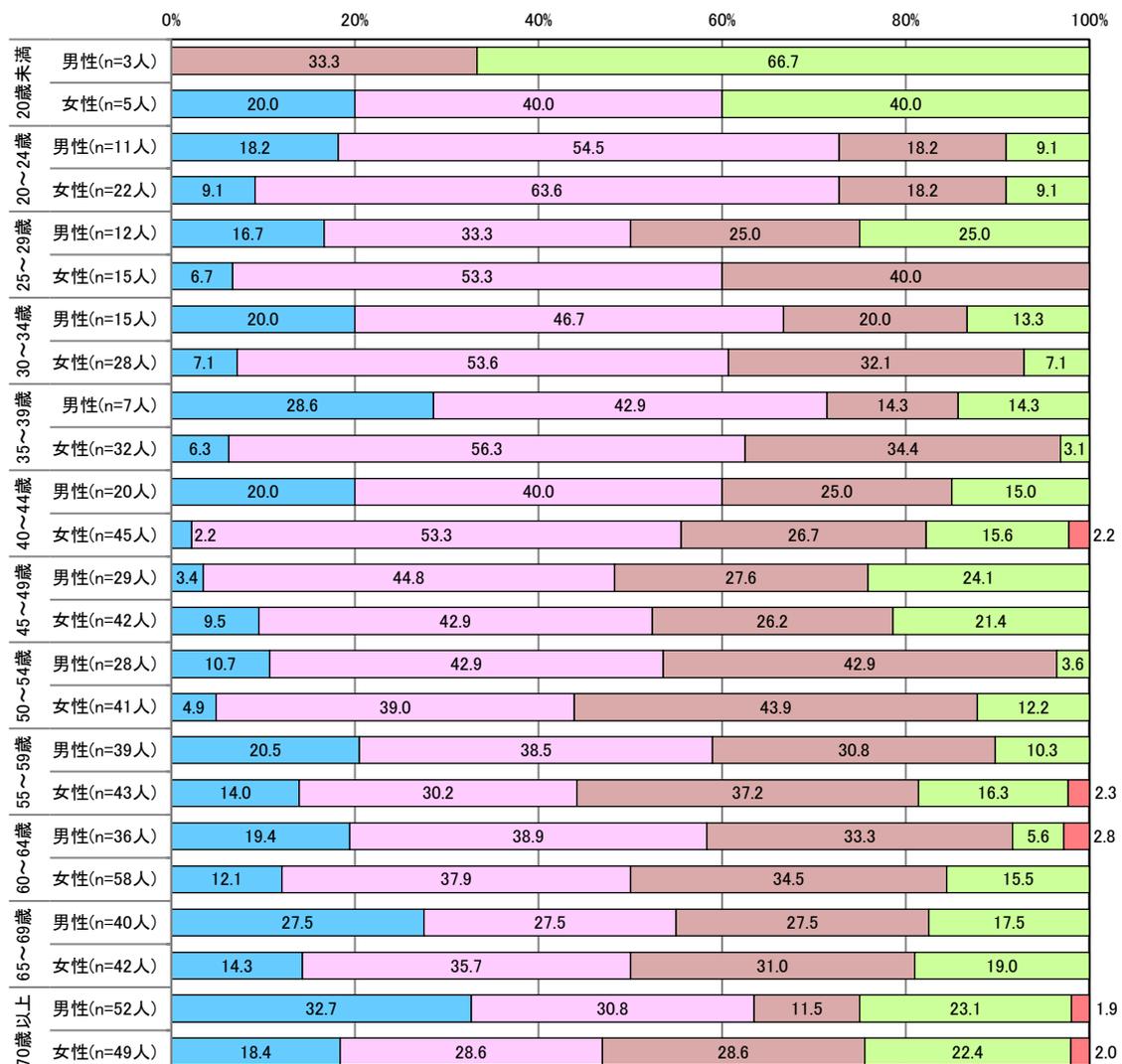
- 婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない
- 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない
- 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない
- わからない
- 無回答



- ・世代別性別でみると、20歳未満の男性の世代は、「わからない」という回答が、50歳～59歳の女性の世代は、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない」という回答がもっと多くなっている。また、65歳～69歳の男性、70歳以上の女性は、意見が別れている。70歳以上の男性は、「婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない」という回答が最も多くなっている。それ以外の世代では、「夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない」という回答が最も多くなっている。

【世代別性別】

- 婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない
- 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない
- 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない
- わからない
- 無回答



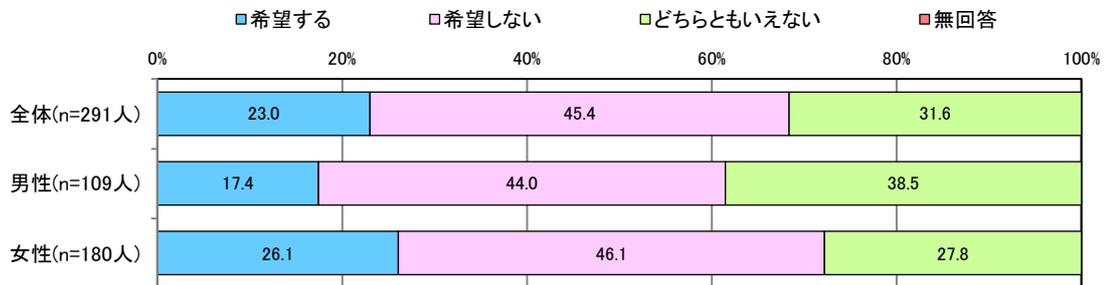
問 44 問 43 で「2」を選ばれた方におたずねします。

希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗れるように法律が変わった場合、あなたは、夫婦でそれぞれの名字（姓）を名乗ることを希望しますか。

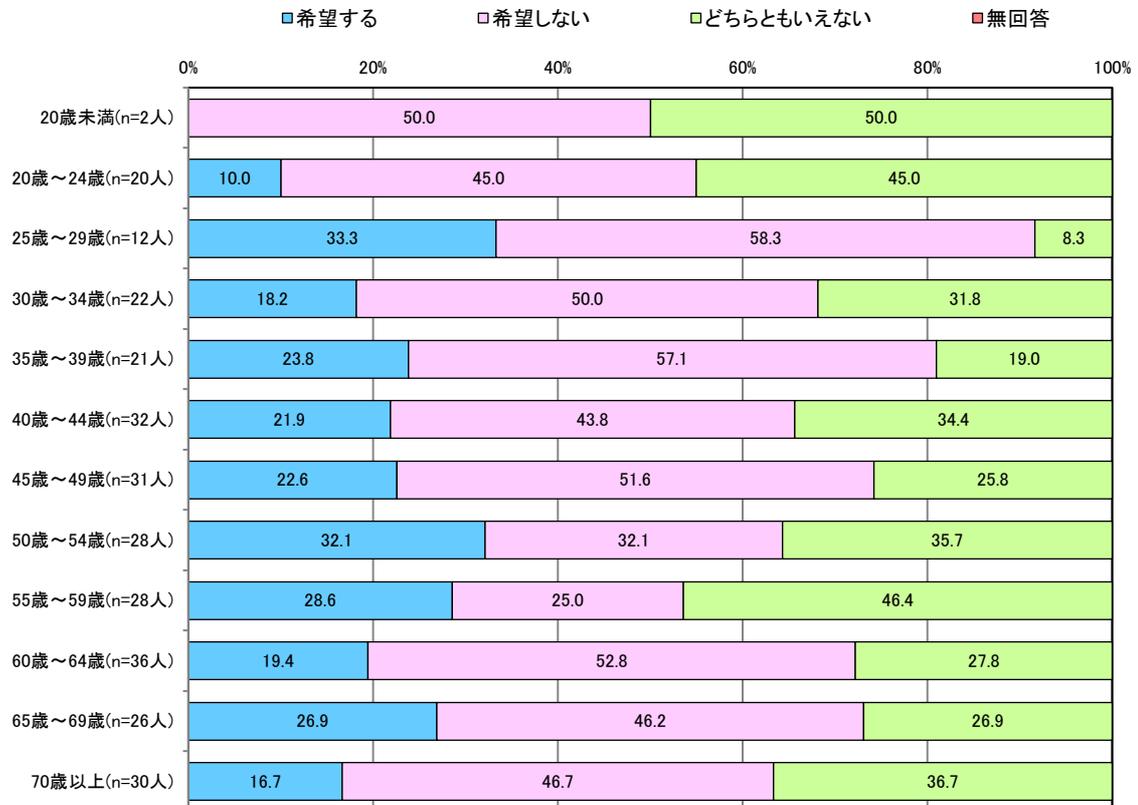
あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず、あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「希望しない」(45.4%)が最も多く、約5割となっている。次に、「どちらともいえない」(31.6%)、「希望する」(23.0%)と続いている。
- ・性別でみると、男女とも「希望しない」という回答が最も多くなっている。一方、「希望する」という回答では、女性の回答割合が、男性よりも高くなっている。
- ・世代別でみると、20歳～49歳、60歳以上で、「希望しない」という回答が4割を超えている。一方、25歳～29歳、50歳～54歳で、「希望する」という回答が3割を超えている。

【性別】



【世代別】

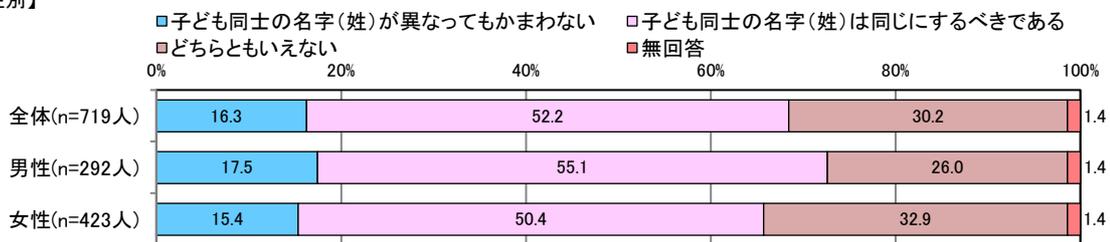


問 45 希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗れるように法律が変わった場合を想定してお答えください。

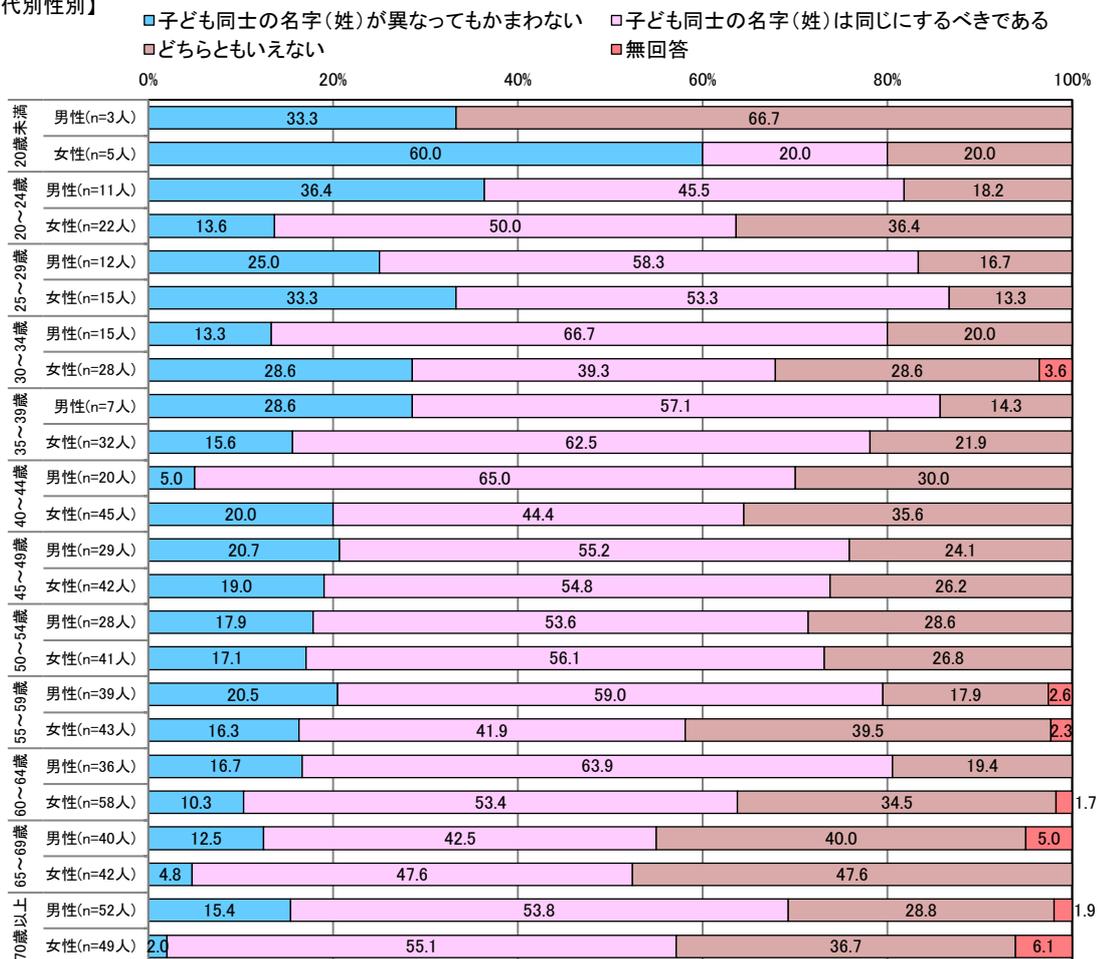
それぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗っている夫婦に二人以上の子どもがある場合、子ども同士（兄弟・姉妹）の名字（姓）が異なってもよいという考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「子ども同士の名字（姓）は同じにするべきである」（52.2%）が最も多く、約5割となっている。次に、「どちらともいえない」（30.2%）、「子ども同士の名字（姓）が異なってもかまわない」（16.3%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「子ども同士の名字（姓）は同じにするべきである」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、20歳以上の男女の世代で、「子ども同士の名字（姓）は同じにするべきである」という回答が最も多くなっている。一方、「子ども同士の名字（姓）が異なってもかまわない」という回答は、20歳未満男女、20歳～24歳の男性、25歳～29歳の女性で、3割を超えている。

【性別】



【世代別性別】

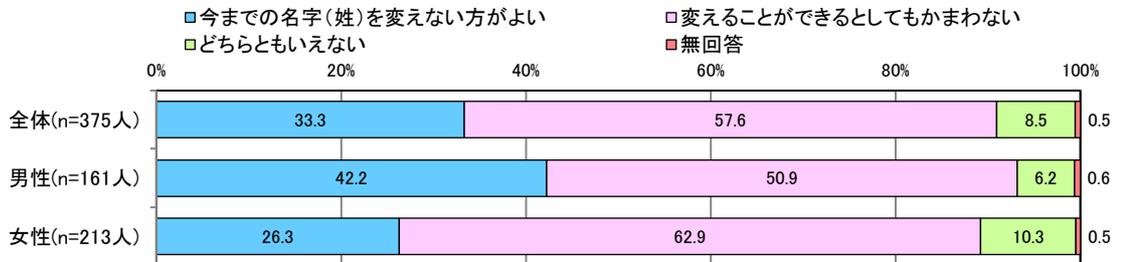


問 46 問 45 で「2」を選ばれた方におたずねします。

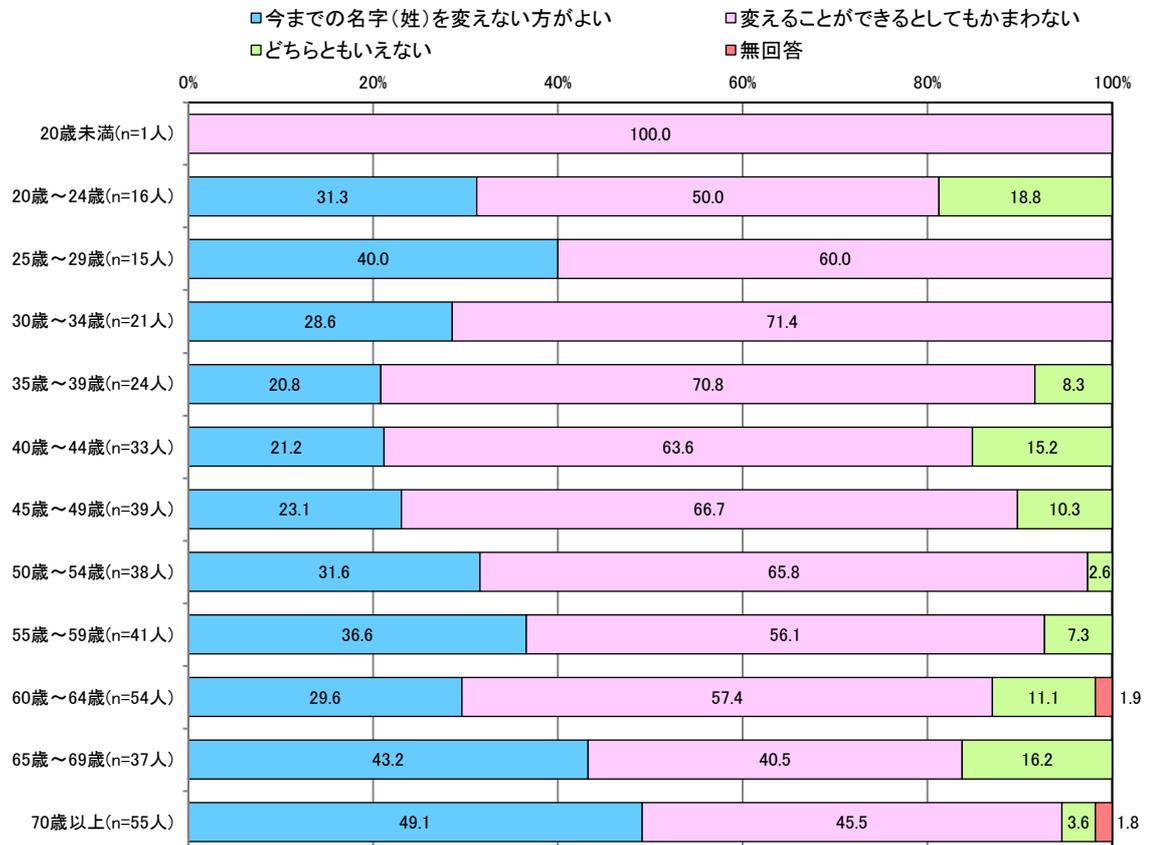
子ども同士は同一の名字（姓）を名乗るべきであるとして、それぞれの子どもが成年に達した時には、それまでと異なる父または母の名字（姓）に変えることができるという考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「変えることができるとしてもかまわない」（57.6%）という回答が最も多く、約6割となっている。次に、「今までの名字（姓）を変えない方がよい」（33.3%）、「どちらともいえない」（8.5%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「変えることができるとしてもかまわない」という回答が最も多くなっている。一方、「今までの名字（姓）を変えない方がよい」という回答では、男性の回答割合が4割を超え、女性よりも高くなっている。
- ・世代別でみると、64歳以下の世代では、「変えることができるとしてもかまわない」という回答が最も多くなっている。一方、65歳以上の世代では、「今までの名字（姓）を変えない方がよい」という回答が最も多くなっている。

【性別】



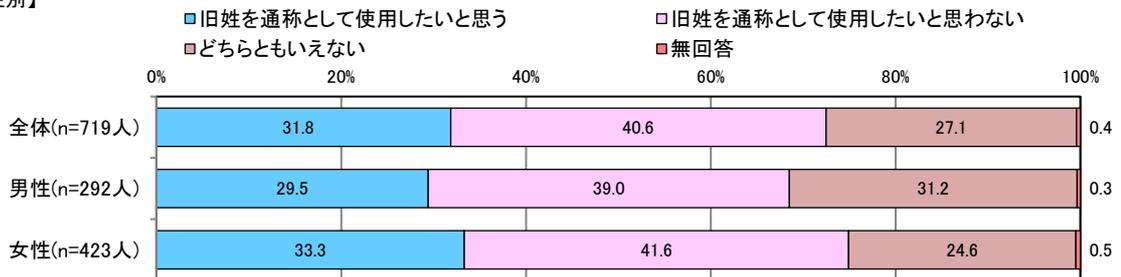
【世代別】



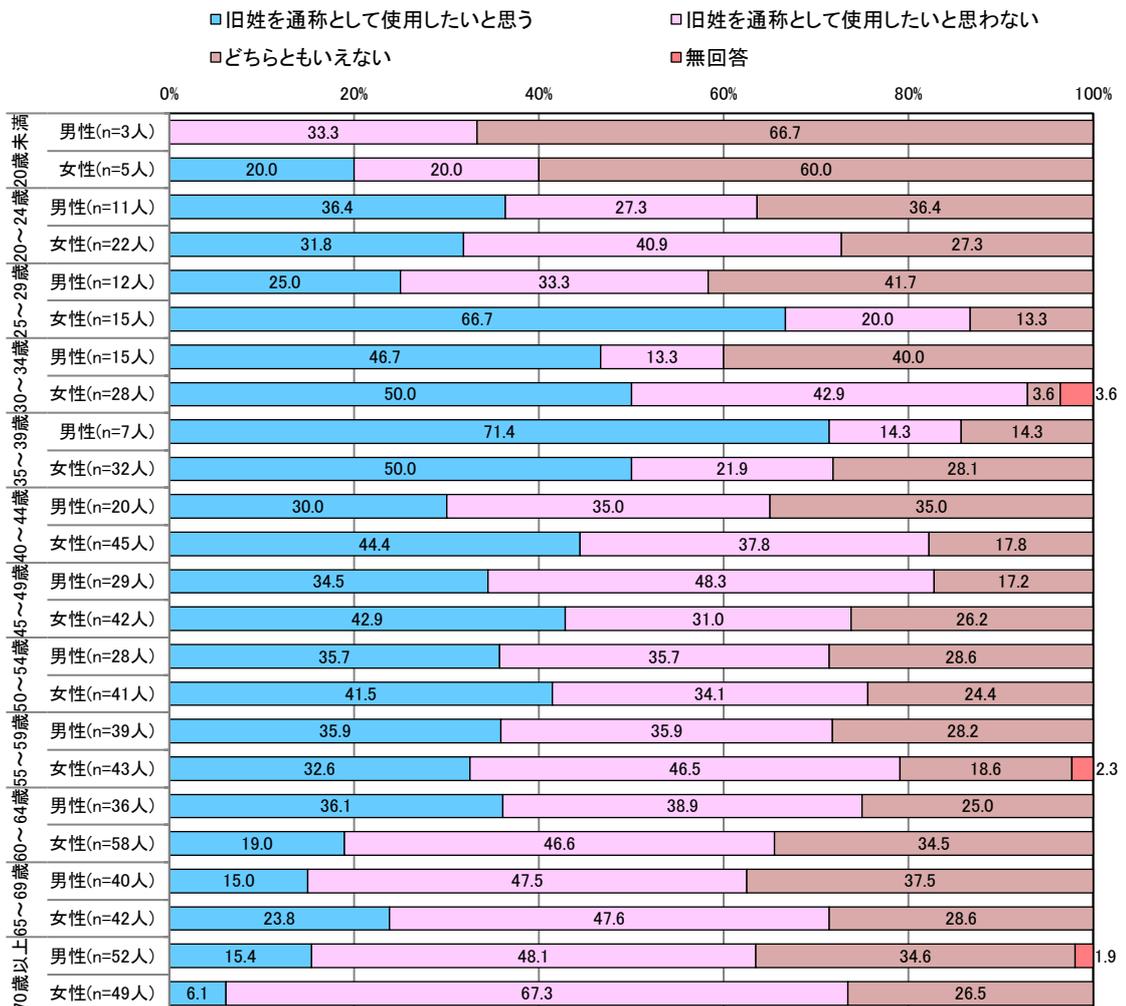
問 47 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。
 あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず。あてはまる番号を1つお選びください。

- ・全体でみると、「旧姓を通称として使用したいと思わない」（40.6%）という回答が最も多く、約4割となっている。次に、「旧姓を通称として使用したいと思う」（31.8%）、「どちらともいえない」（27.1%）と続いている。
- ・性別でみると、男女とも、「旧姓を通称として使用したいと思わない」という回答が最も多くなっている。
- ・世代別性別でみると、25歳～29歳の女性、30歳～39歳の男女、40歳～54歳の女性の世代では、「旧姓を通称として使用したいと思う」という回答が4割を超えている。

【性別】



【世代別性別】



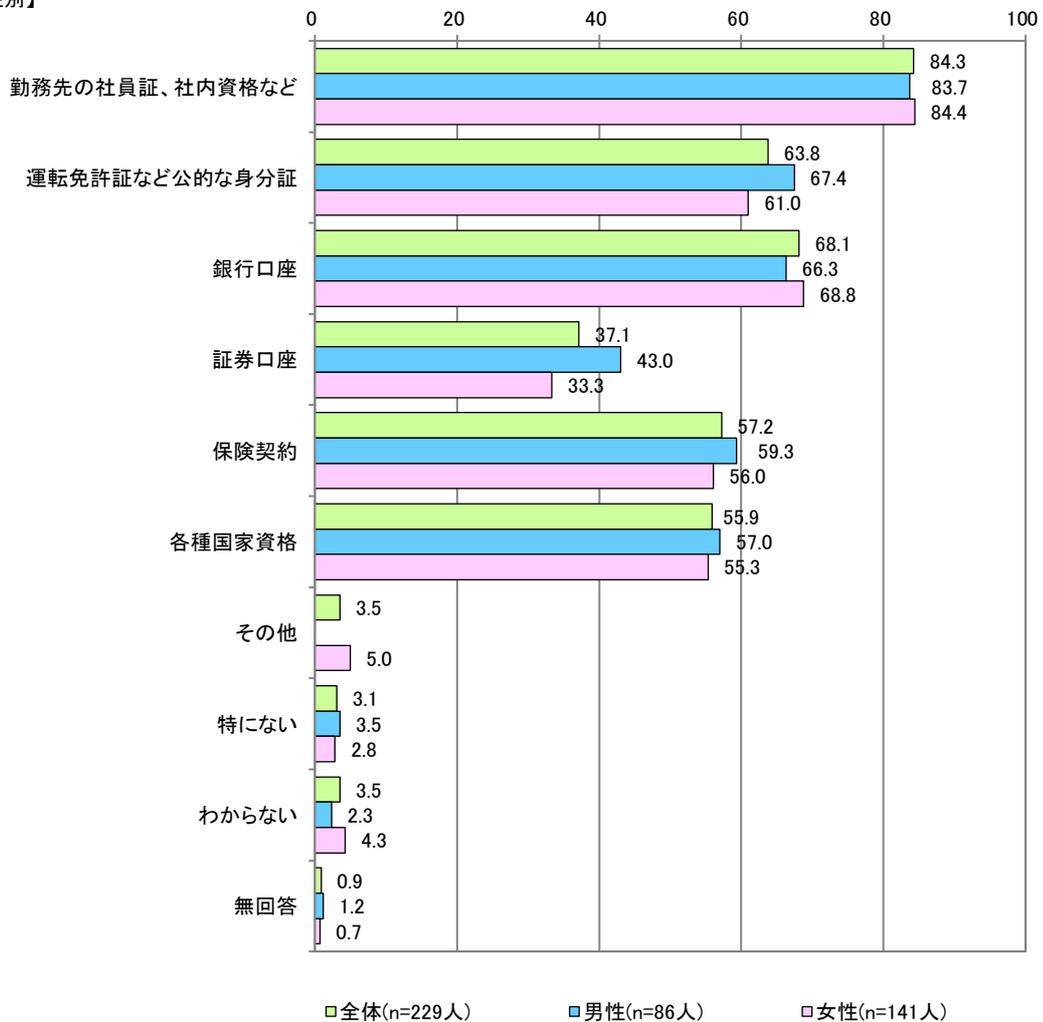
問 48 問 47 で「1」を選ばれた方におたずねします。

住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、あなたが旧姓を通称として使用するときに、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

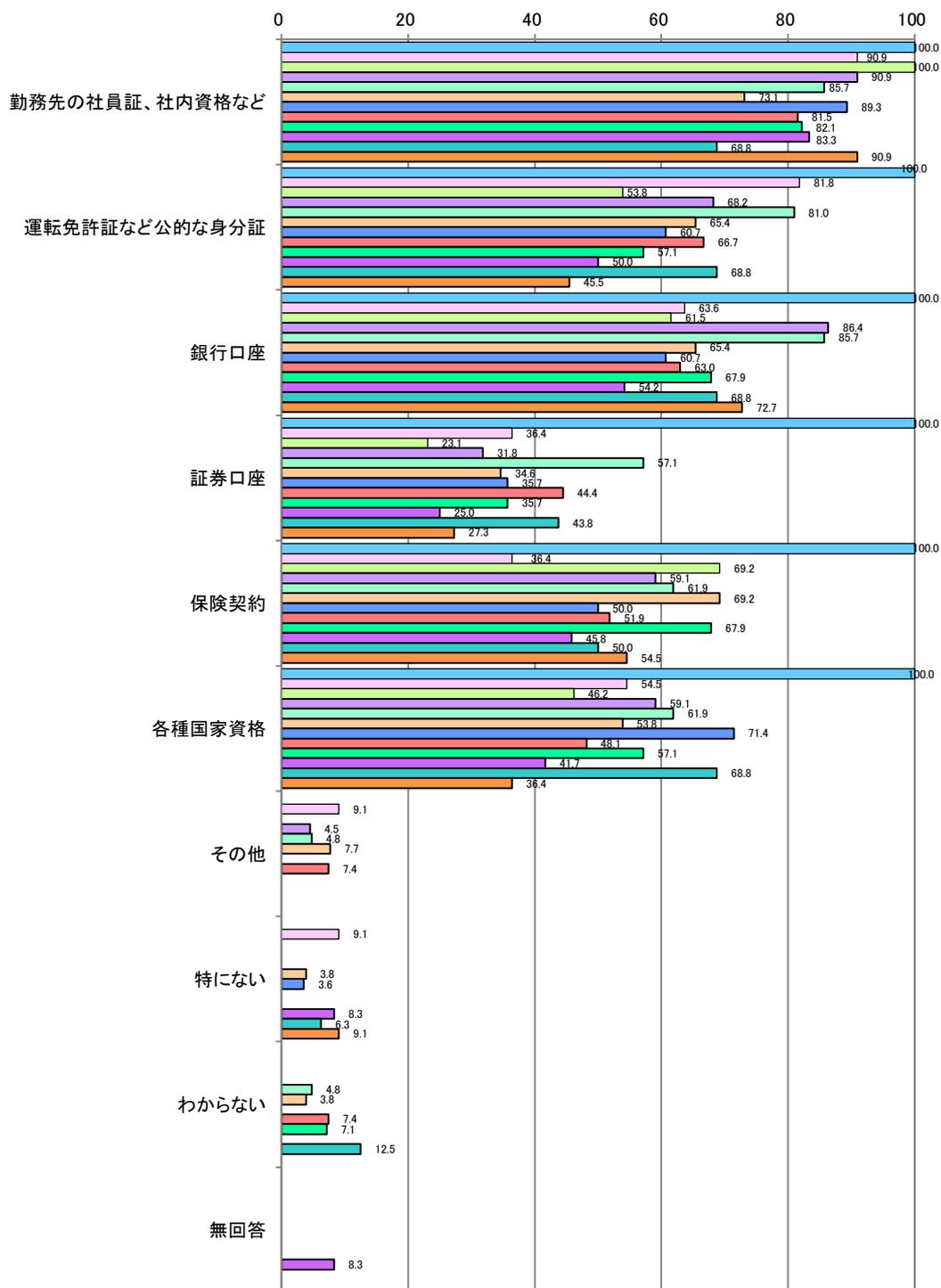
- 全体でみると、「勤務先の社員証、社内資格など」(84.3%) が最も多く、約 8 割となっている。次に、「銀行口座」(68.1%)、「運転免許証など公的な身分証」(63.8%)、「保険契約」(57.2%) と続いている。
- 性別でみると、「運転免許証など公的な身分証」、「証券口座」、「保険契約」、「各種国家資格」では、男性の回答割合が女性よりもやや高くなっている。一方、「銀行口座」では、女性の回答割合が男性よりもやや高くなっている。

【性別】



- ・年代別でみると、各世代の回答数が限られていることから、世代による傾向をみることは難しい。

【年代別】

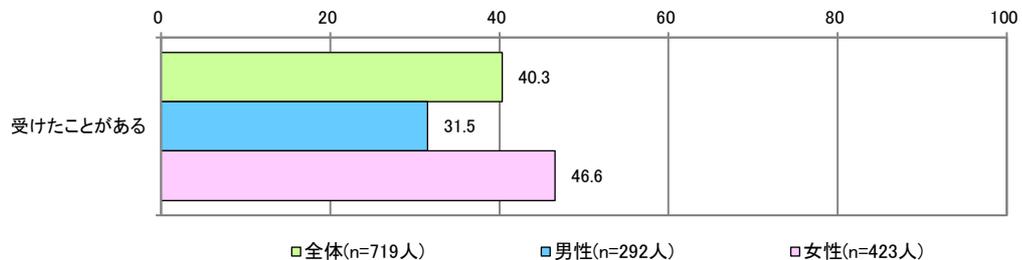


- 20歳未満(n=1人)
- 20歳～24歳(n=11人)
- 25歳～29歳(n=13人)
- 30歳～34歳(n=22人)
- 35歳～39歳(n=21人)
- 40歳～44歳(n=26人)
- 45歳～49歳(n=28人)
- 50歳～54歳(n=27人)
- 55歳～59歳(n=28人)
- 60歳～64歳(n=24人)
- 65歳～69歳(n=16人)
- 70歳以上(n=11人)

男女の人権に関することについて

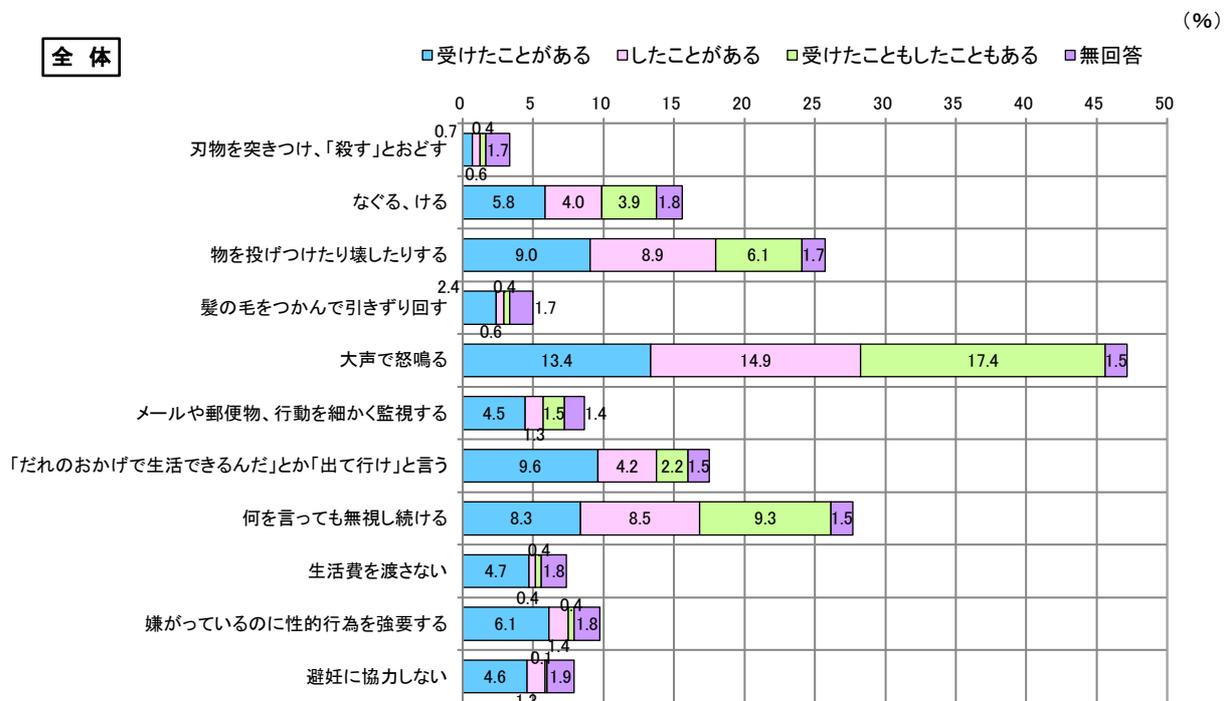
問 49 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

- ・いずれかを「受けたことがある」という回答は、全体では40.3%となっている。
- ・性別でみると、男性では31.5%、女性では46.6%となっている。



- ・具体的な内容としては、全体でみると、「受けたことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(13.4%)が最も多くなっており、次いで『だれのおかげで生活できるんだ』とか『出て行け』と言う(9.6%)、「物を投げつけたり壊したりする」(9.0%)と続いている。「したことがある」という回答では、「大声で怒鳴る」(14.9%)が最も多くなっており、次いで「物を投げつけたり壊したりする」(8.9%)、「何を言っても無視し続ける」(8.5%)と続いている。「受けたこともしたこともない」という回答では、「大声で怒鳴る」(17.4%)が最も多くなっており、次いで「何を言っても無視し続ける」(9.3%)、「物を投げつけたり壊したりする」(6.1%)と続いている。

全体



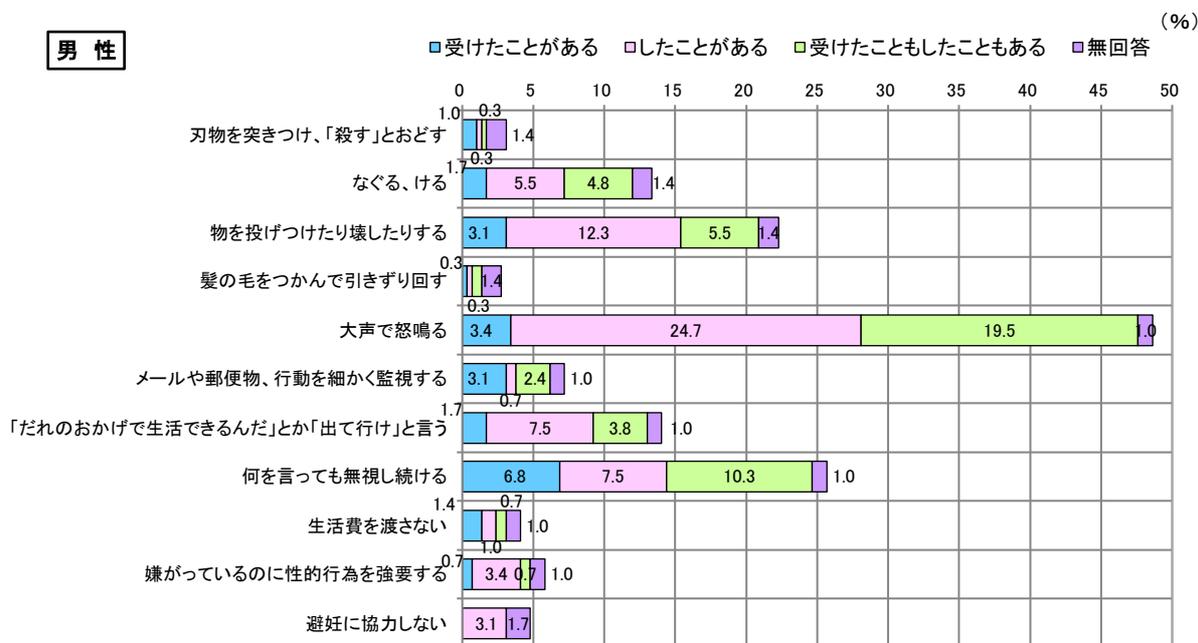
全体 (n=719人)

※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

- ・性別でみると、「受けたこともしたこともない」という回答がほとんどの項目で大多数となっている。
- ・「受けたことがある」という回答については女性が多く、反対に「したことがある」という回答については、男性の回答が多くなっている。「何を言っても無視し続ける」については、回答の傾向が、男性よりも女性がやや多くなっている。

【性別】

男性



男性 (n=292 人)

女性



女性 (n=423 人)

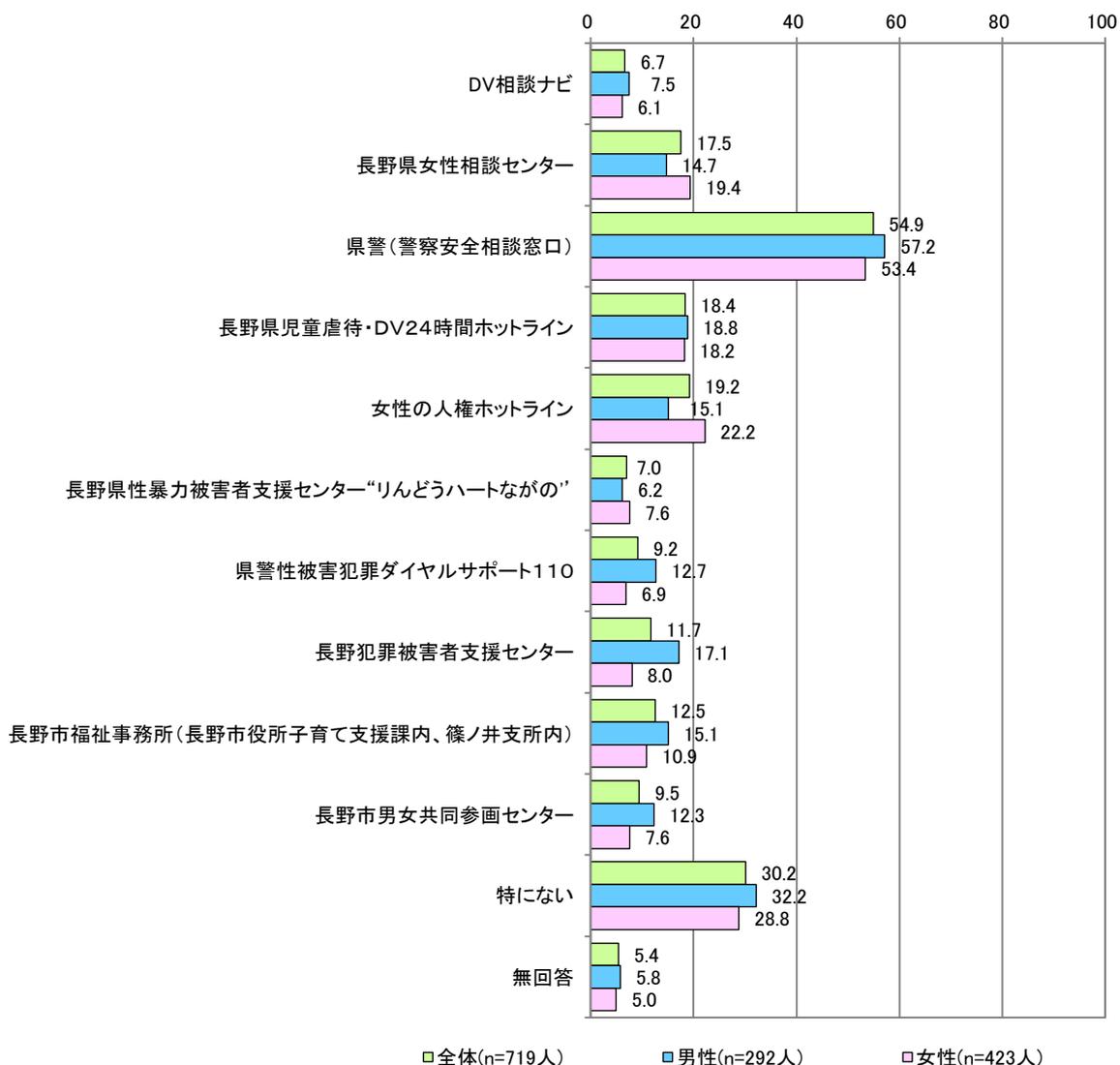
※残りの回答は「受けたこともしたこともない」

問 50 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口すべてお選びください。

- ・全体で見ると、最も回答が多かったのは「県警（警察安全相談窓口）」（54.9%）で、約5割となっている。次いで、「特にない」（30.2%）、「女性の人権ホットライン」（19.2%）、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（18.4%）、「長野県女性相談センター」（17.5%）、「長野市福祉事務所」（12.5%）と続いている。
- ・性別で見ると、男性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（57.2%）が5割を超えて最も多くなっている。次に、「特にない」（32.2%）、「長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン」（18.8%）、「長野犯罪被害者支援センター」（17.1%）の順となっている。
- ・一方、女性においては、「県警（警察安全相談窓口）」（53.4%）が最も多く、次に、「特にない」（28.8%）、「女性の人権ホットライン」（22.2%）、「長野県女性相談センター」（19.4%）となっており、上位3番目、4番目が男性とは異なる回答となり、男女の認知度に差がある。

【性別】

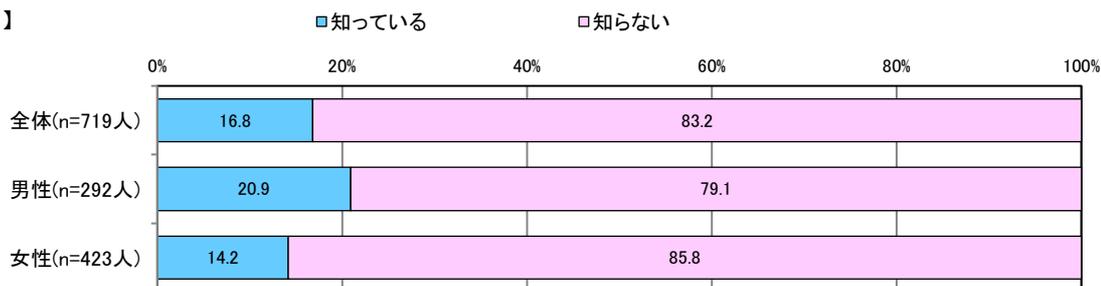
(%)



<DV被害に対する市の対応窓口の認知度>

- ・問 50 において、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、約 2 割（16.8%）となっている。
- ・性別でみると、「長野市福祉事務所」及び「長野市男女共同参画センター」のいずれかを「知っている」回答割合は、「男性」（20.9%）の方が「女性」（14.2%）よりやや高くなっている。
- ・世代別性別でみると、60 歳以上の男性の世代で、「知っている」回答割合が 3 割を超えている。

【性別】



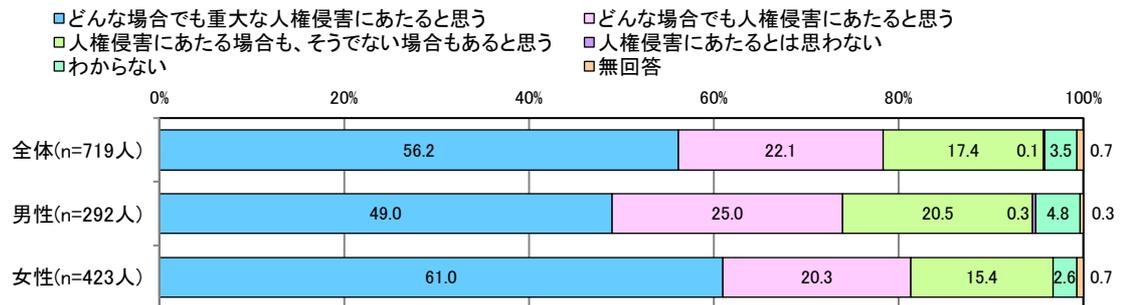
【世代別性別】



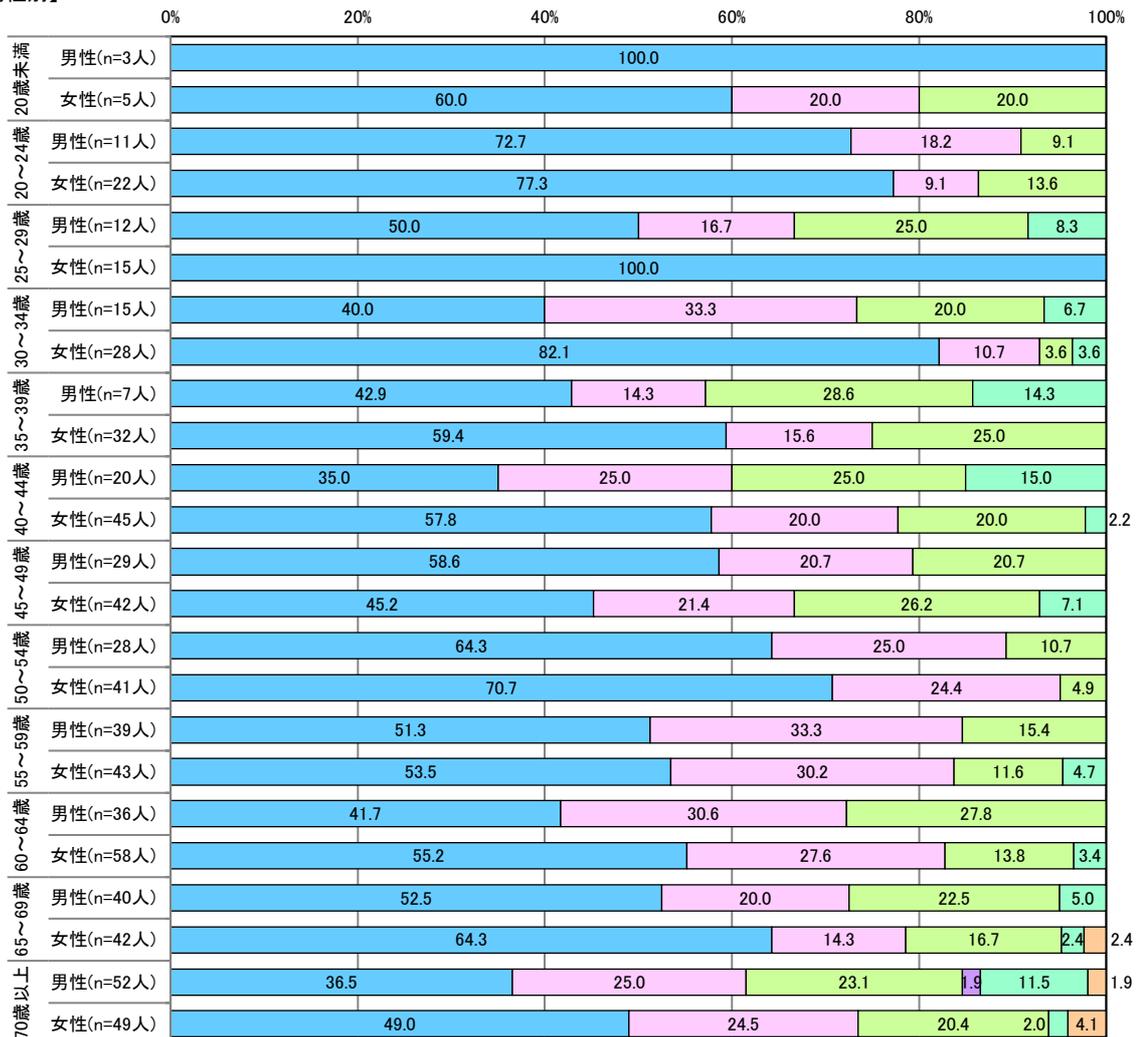
問 51 DV（ドメスティック・バイオレンス）についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。次の中から1つお選びください。

- ・全体でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」(56.2%) が最も多い回答となっており、約6割となる。次いで、「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」(22.1%)、「人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う」(17.4%) と続いている。
- ・性別でみると、男女とも最も多い回答が、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたる」となり、次に「どんな場合でも人権侵害にあたると思う」が2番目に多い回答になっている。
- ・世代別性別でみると、「どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う」という回答は、40歳～44歳の男性、70歳以上の男性を除き、いずれの年代でも4割以上と最も多い回答となっている。

【性別】

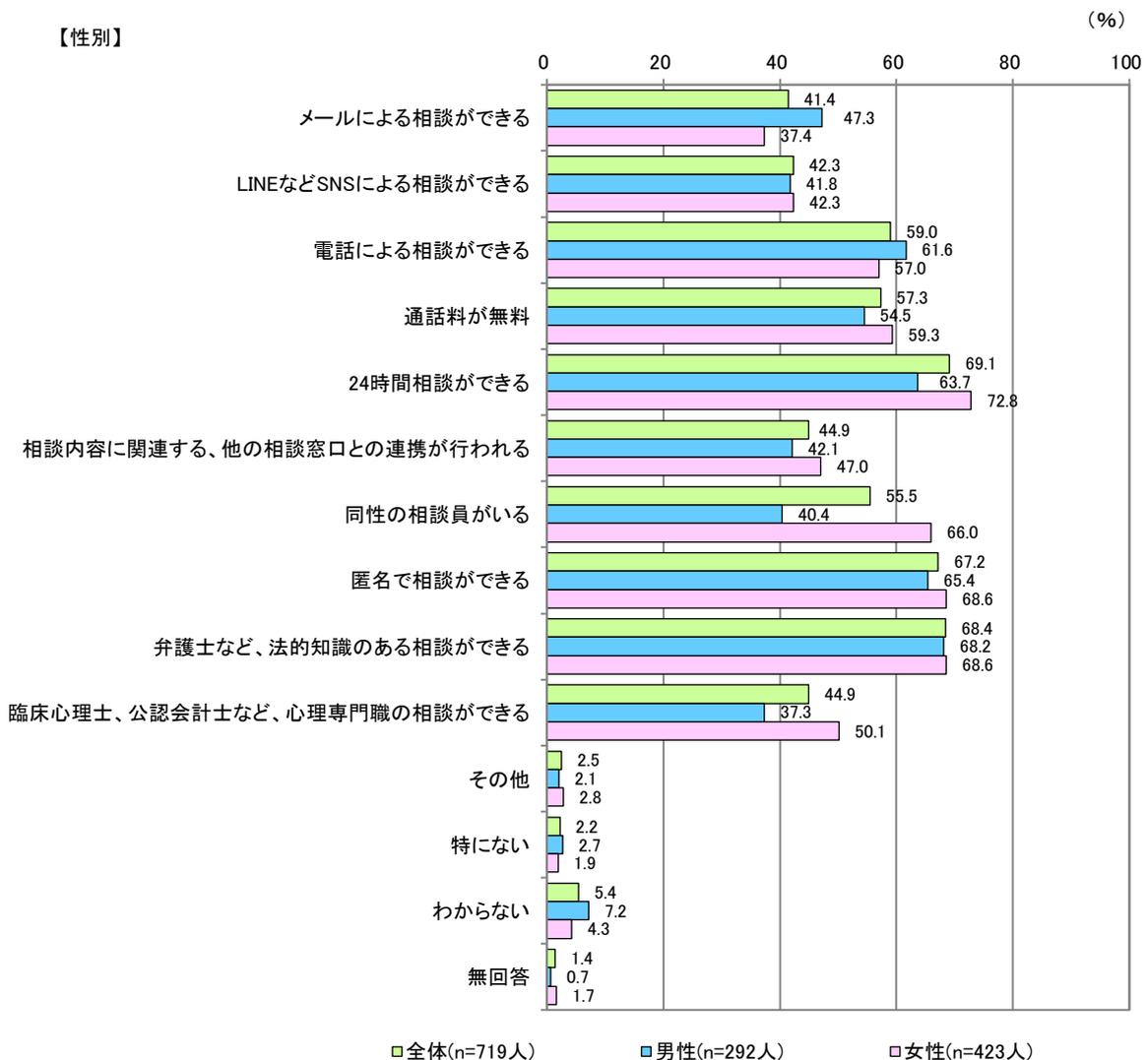


【世代別性別】



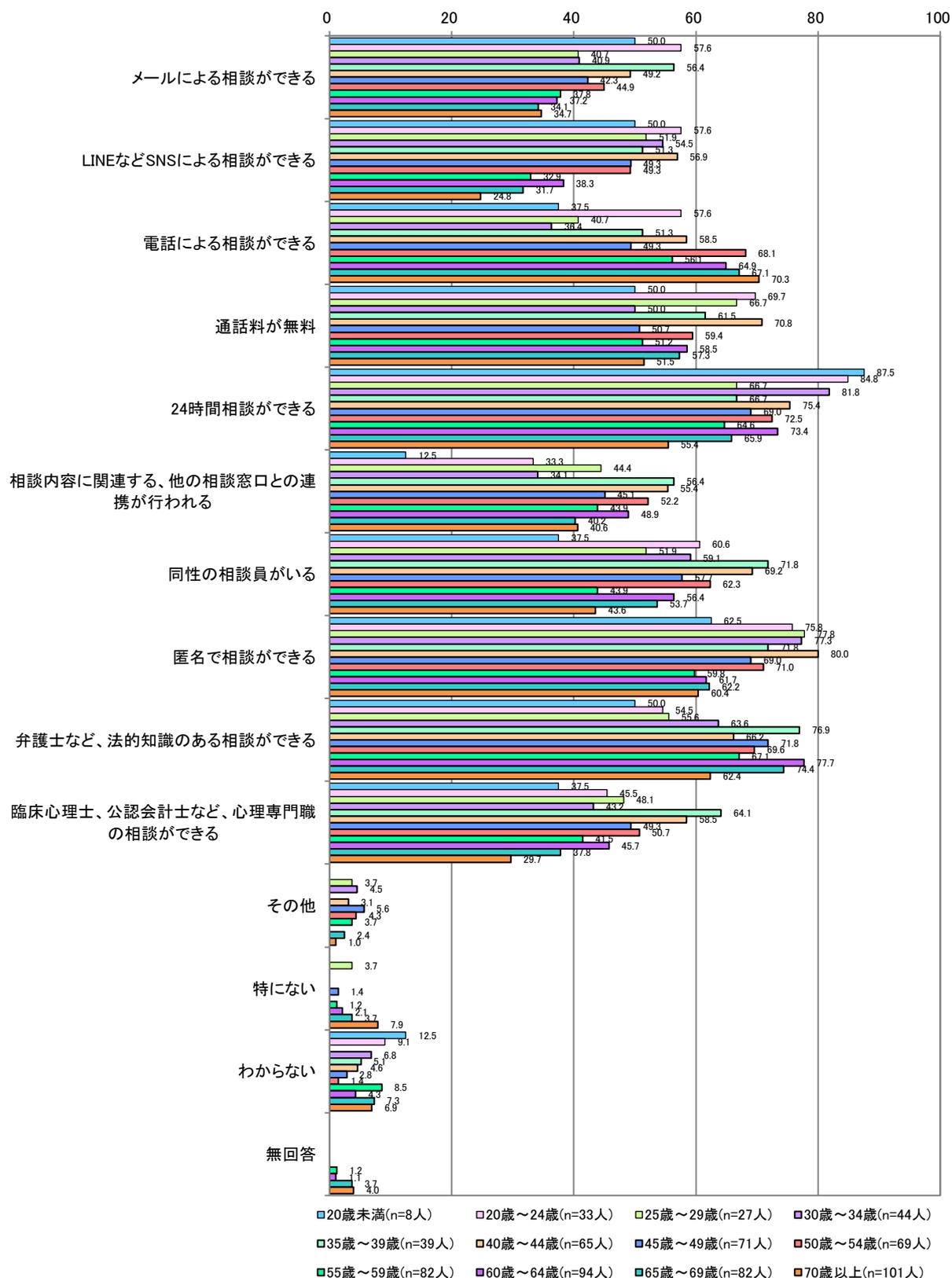
問 52 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。あてはまる番号をすべてお選びください。

- 全体で見ると、最も回答が多かったのは「24時間相談ができる」(69.1%)で、約7割となっている。次いで、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(68.4%)、「匿名で相談ができる」(67.2%)、「電話による相談ができる」(59.0%)、「通話料が無料」(57.3%)、「同性の相談員がいる」(55.5%)と続いている。
- 性別で見ると、男性においては、「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(68.2%)が約7割と、最も多くなっている。次に、「匿名で相談ができる」(65.4%)、「24時間相談ができる」(63.7%)の順となる。
- 一方、女性においては、「24時間相談ができる」(72.8%)が最も多く、次に、「匿名で相談ができる」(68.6%)、と「弁護士など、法的知識のある相談ができる」(68.6%)が同率で続いている。
- 「同性の相談員がいる」という回答では、女性の回答割合が約7割と、男性よりも高くなっている。また、「メールによる相談ができる」、「LINEなどSNSによる相談ができる」という回答は、男女とも、約4割となっている。



- ・年代別で見ると、「24時間相談ができる」では、24歳未満、30歳～34歳の世代で8割を超える回答割合となり、他の世代よりも高くなっている。「匿名で相談ができる」という回答については、20歳～54歳の世代で約7割以上となり、55歳以上よりもやや高い回答割合となっている。「LINEなどSNSによる相談ができる」という回答については、54歳以下の世代で約5割以上となり、55歳以上のよりも高い回答割合となっている。

【年代別】



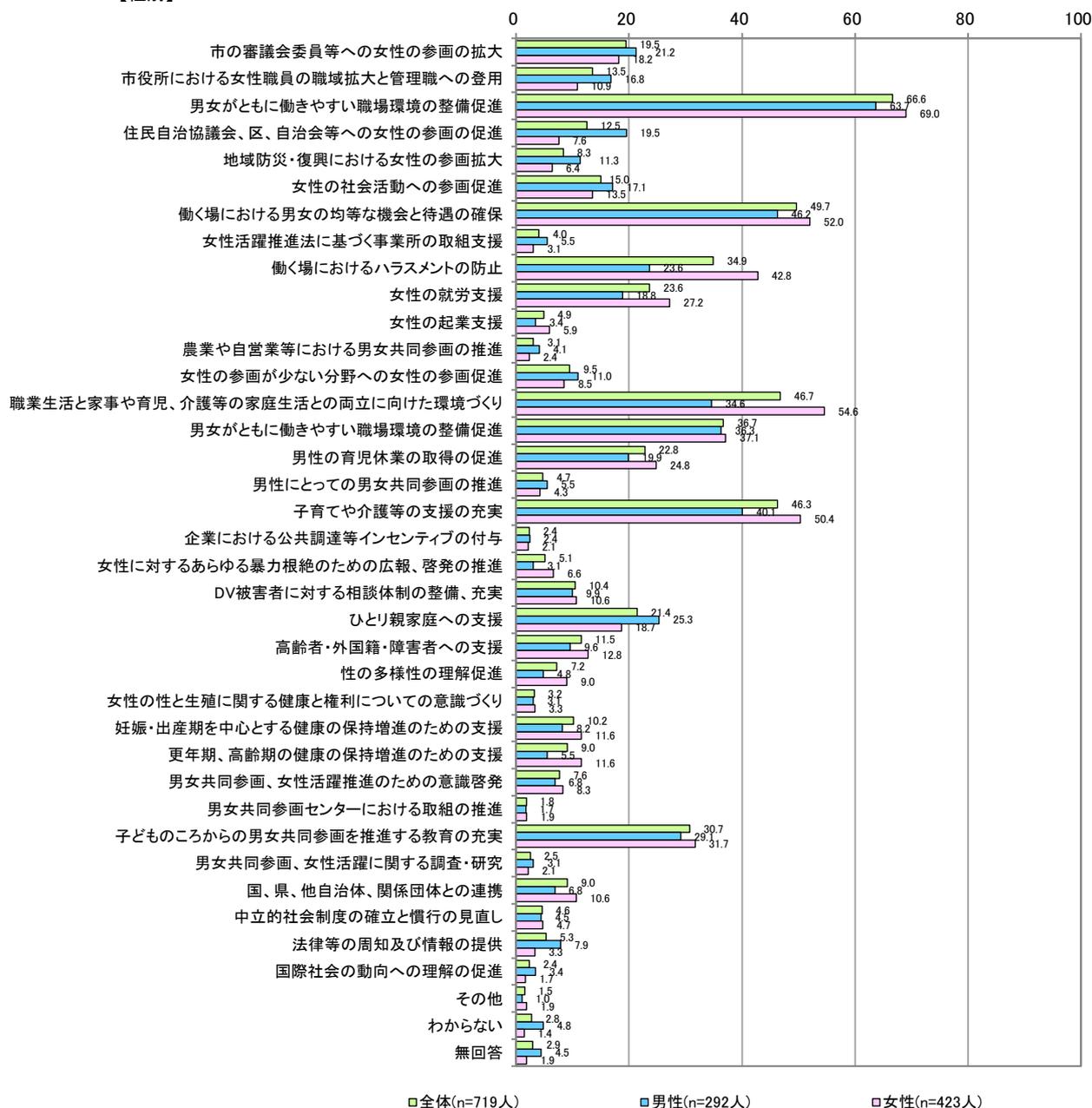
男女共同参画施策に関するについて

問 53 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。

あなたが特に重要だと思うものを7つまでお選びください。

- ・全体でみると、「男女がともに働きやすい職場環境の整備促進」(66.6%)が最も多く、約7割となっている。次いで、「働く場における男女の均等な機会と待遇の確保」(49.7%)、「職業生活と家事や育児、介護等の家庭生活との両立に向けた環境づくり」(46.7%)となっている。
- ・性別でみると、男女とも、「男女がともに働きやすい職場環境の整備促進」が最も多くなっている。次に、男性では、「働く場における男女の均等な機会と待遇の確保」(46.2%)、「子育てや介護等の支援の充実」(40.1%)と続いている。一方、女性では、「職業生活と家事や育児、介護等の家庭生活との両立に向けた環境づくり」(54.6%)、「働く場における男女の均等な機会と待遇の確保」(52.0%)と続いている。

【性別】



資 料

単純集計

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」

アンケート回答数

送付数	回答数	回収率
2,000	719	36.0%

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①男性	292	40.6%
②女性	423	58.8%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

B あなたの年齢について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①20歳未満	8	1.1%
②20歳～24歳	33	4.6%
③25歳～29歳	27	3.8%
④30歳～34歳	44	6.1%
⑤35歳～39歳	39	5.4%
⑥40歳～44歳	65	9.0%
⑦45歳～49歳	71	9.9%
⑧50歳～54歳	69	9.6%
⑨55歳～59歳	82	11.4%
⑩60歳～64歳	94	13.1%
⑪65歳～69歳	82	11.4%
⑫70歳以上	101	14.0%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

C あなたの職業を教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①農林漁業の自営業主・家族従業者	17	2.4%
②農林漁業以外の自営業主・家族従業者	22	3.1%
③自由業(開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など)	8	1.1%
④会社役員・経営者	44	6.1%
⑤正社員・正職員などの正規雇用者	220	30.6%
⑥パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者	180	25.0%
⑦家事専業者	92	12.8%
⑧学生	17	2.4%
⑨無職	95	13.2%
⑩その他	21	2.9%
無回答	3	0.4%
合計	719	100.0%

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

選択肢	回答数	回答割合
①単身世帯(含単身赴任)	80	11.1%
②一世代世帯(夫婦・カップルだけ)	188	26.1%
③二世帯世帯(親と子)	362	50.3%
④三世帯世帯(親と子と孫)	72	10.0%
⑤その他	12	1.7%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

E あなたは現在、結婚していますか。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚している	511	71.1%
②結婚していない	148	20.6%
③結婚していないがパートナーがいる	5	0.7%
④配偶者と離・死別した	51	7.1%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる	496	69.0%
②いない	216	30.0%
無回答	7	1.0%
合計	719	100.0%

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

選択肢	回答数	回答割合
①いる(正規社員)	202	39.1%
②いる(非正規:勤務時間は正規社員と同じ)	29	5.6%
③いる(非正規:パート)	110	21.3%
④いない	144	27.9%
⑤その他	30	5.8%
無回答	1	0.2%
合計	516	100.0%

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 家庭では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	86	12.0%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	307	42.7%
③平等である	230	32.0%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	31	4.3%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	55	7.6%
無回答	6	0.8%
無回答	719	100.0%

2 学校教育の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	14	1.9%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	115	16.0%
③平等である	408	56.7%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	21	2.9%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.4%
⑥わからない	151	21.0%
無回答	7	1.0%
合計	719	100.0%

3 地域社会では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	76	10.6%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	329	45.8%
③平等である	186	25.9%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	44	6.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	77	10.7%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

4 職場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	84	11.7%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	310	43.1%
③平等である	214	29.8%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	29	4.0%
⑤女性の方が非常に優遇されている	4	0.6%
⑥わからない	68	9.5%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

5 法律や制度の上では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	77	10.7%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	274	38.1%
③平等である	230	32.0%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	25	3.5%
⑤女性の方が非常に優遇されている	7	1.0%
⑥わからない	102	14.2%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

6 慣習・しきたりでは

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	193	26.8%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	388	54.0%
③平等である	73	10.2%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	8	1.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.1%
⑥わからない	50	7.0%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

7 政治の場では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	289	40.2%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	297	41.3%
③平等である	57	7.9%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	9	1.3%
⑤女性の方が非常に優遇されている	2	0.3%
⑥わからない	57	7.9%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

8 社会全体では

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	116	16.1%
②どちらかといえば、男性の方が優遇されている	440	61.2%
③平等である	84	11.7%
④どちらかといえば、女性の方が優遇されている	15	2.1%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.4%
⑥わからない	55	7.6%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

問2 次の言葉やことについて、知っているか、または聞いたことがありますか。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 男女共同参画社会

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	314	43.7%
②聞いたことがある	286	39.8%
③知らない	115	16.0%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

2 女性差別撤廃条約

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	114	15.9%
②聞いたことがある	259	36.0%
③知らない	341	47.4%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

3 ポジティブ・アクション(積極的改善措置)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	78	10.8%
②聞いたことがある	203	28.2%
③知らない	433	60.2%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

4 ジェンダー(社会的・文化的に形成された性別)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	462	64.3%
②聞いたことがある	180	25.0%
③知らない	69	9.6%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

5 女性活躍推進法(女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	165	22.9%
②聞いたことがある	253	35.2%
③知らない	295	41.0%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

6 候補者男女均等法(政治分野における男女共同参画の推進に関する法律)

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	115	16.0%
②聞いたことがある	200	27.8%
③知らない	399	55.5%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

7 長野市男女共同参画推進条例

選択肢	回答数	回答割合
①知っている	65	9.0%
②聞いたことがある	244	33.9%
③知らない	405	56.3%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方についてどう思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①賛成	13	1.8%
②どちらかといえば賛成	152	21.1%
③どちらかといえば反対	250	34.8%
④反対	229	31.8%
⑤わからない	71	9.9%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性は職業をもたない方がよい	3	0.4%
②結婚するまでは職業をもつ方がよい	10	1.4%
③子どもができるまでは、職業をもつ方がよい	24	3.3%
④子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい	377	52.4%
⑤子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい	157	21.8%
⑥その他	103	14.3%
⑦わからない	38	5.3%
無回答	7	1.0%
合計	719	100.0%

女性活躍推進法に基づく女性活躍と「就労」に関することでおたずねします。

問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①必要だと思う	462	64.3%
②どちらかといえば必要だと思う	234	32.5%
③必要ないと思う	13	1.8%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問6 あなたの職場では次のことについて、男女は平等になっていると思いますか(次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか)。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 賃金

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	66	13.4%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	114	23.2%
③平等である	239	48.7%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	2	0.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	52	10.6%
無回答	18	3.7%
合計	491	100.0%

2 昇進や昇格

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	78	15.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	179	36.5%
③平等である	167	34.0%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	6	1.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	1	0.2%
⑥わからない	42	8.6%
無回答	18	3.7%
合計	491	100.0%

3 仕事の内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	32	6.5%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	118	24.0%
③平等である	232	47.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	45	9.2%
⑤女性の方が非常に優遇されている	3	0.6%
⑥わからない	43	8.8%
無回答	18	3.7%
合計	491	100.0%

4 研修の機会や内容

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	29	5.9%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	86	17.5%
③平等である	306	62.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	7	1.4%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	46	9.4%
無回答	17	3.5%
合計	491	100.0%

5 経験や能力を発揮する機会

選択肢	回答数	回答割合
①男性の方が非常に優遇されている	41	8.4%
②どちらかといえば男性の方が優遇されている	137	27.9%
③平等である	247	50.3%
④どちらかといえば女性の方が優遇されている	8	1.6%
⑤女性の方が非常に優遇されている	0	0.0%
⑥わからない	40	8.1%
無回答	18	3.7%
合計	491	100.0%

問7 あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①積極的に推進している	135	27.5%
②積極的とは言えないが推進している	256	52.1%
③推進しているとは言えない	73	14.9%
無回答	27	5.5%
合計	491	100.0%

問8 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 あなた自身は活躍したい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	75	26.9%
②やや思う	100	35.8%
③あまり思わない	61	21.9%
④思わない	26	9.3%
⑤わからない	7	2.5%
無回答	10	3.6%
合計	279	100.0%

2 現在の生活や仕事に満足している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	54	19.4%
②やや思う	121	43.4%
③あまり思わない	44	15.8%
④思わない	48	17.2%
⑤わからない	3	1.1%
無回答	9	3.2%
合計	279	100.0%

3 女性が社会で働くには不利な点が多い

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	90	32.3%
②やや思う	120	43.0%
③あまり思わない	40	14.3%
④思わない	15	5.4%
⑤わからない	5	1.8%
無回答	9	3.2%
合計	279	100.0%

4 仕事を続けキャリアを積んでいきたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	90	32.3%
②やや思う	76	27.2%
③あまり思わない	63	22.6%
④思わない	30	10.8%
⑤わからない	11	3.9%
無回答	9	3.2%
合計	279	100.0%

5 管理職への打診があれば受けてみたい

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	45	16.1%
②やや思う	36	12.9%
③あまり思わない	79	28.3%
④思わない	93	33.3%
⑤わからない	15	5.4%
無回答	11	3.9%
合計	279	100.0%

6 退職して仕事に就かない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	16	5.7%
②やや思う	27	9.7%
③あまり思わない	49	17.6%
④思わない	124	44.4%
⑤わからない	50	17.9%
無回答	13	4.7%
合計	279	100.0%

7 女性も管理職として活躍している

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	82	29.4%
②やや思う	94	33.7%
③あまり思わない	37	13.3%
④思わない	36	12.9%
⑤わからない	18	6.5%
無回答	12	4.3%
合計	279	100.0%

8 女性の管理職の部下には、なりたくない

選択肢	回答数	回答割合
①そう思う	10	3.6%
②やや思う	27	9.7%
③あまり思わない	55	19.7%
④思わない	155	55.6%
⑤わからない	21	7.5%
無回答	11	3.9%
合計	279	100.0%

現在職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんでしょうか。

あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 女性を管理職へ積極的に登用する

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	230	32.9%
②まあ重要だと思う	310	44.3%
③重要だと思わない	63	9.0%
④わからない	46	6.6%
無回答	50	7.2%
合計	699	100.0%

2 女性職員の採用拡大

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	248	35.5%
②まあ重要だと思う	309	44.2%
③重要だと思わない	50	7.2%
④わからない	43	6.2%
無回答	49	7.0%
合計	699	100.0%

3 非正規労働者の正社員転換・待遇改善

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	335	47.9%
②まあ重要だと思う	224	32.0%
③重要だと思わない	49	7.0%
④わからない	40	5.7%
無回答	51	7.3%
合計	699	100.0%

4 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	381	54.5%
②まあ重要だと思う	198	28.3%
③重要だと思わない	33	4.7%
④わからない	36	5.2%
無回答	51	7.3%
合計	699	100.0%

5 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	440	62.9%
②まあ重要だと思う	172	24.6%
③重要だと思わない	16	2.3%
④わからない	21	3.0%
無回答	50	7.2%
合計	699	100.0%

6 企業内託児所や学童保育所などの設置

選択肢	回答数	回答割合
①とても重要だと思う	406	58.1%
②まあ重要だと思う	194	27.8%
③重要だと思わない	23	3.3%
④わからない	26	3.7%
無回答	50	7.2%
合計	699	100.0%

離職されている女性の方におたずねします。

問10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①正規社員	32	17.1%
②非正規社員	25	13.4%
③パート社員(家に子どもがいない時間のみ等)	56	29.9%
無回答	74	39.6%
合計	187	100.0%

問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事や育児で家族の協力や理解が得られないから	11	13.6%
②正規社員で雇用する企業が少ないから	12	14.8%
③仕事より家庭生活を優先したいから	48	59.3%
④時間外勤務や休日出勤を避けたいから	24	29.6%
⑤配偶者(特別)控除の範囲内で働きたいから	24	29.6%
⑥積極的に仕事に就くつもりがないから	26	32.1%
⑦その他	9	11.1%
無回答	0	0.0%
対象数	81	-

離職経験のある方におたずねします。

問12 離職の原因(理由)としてあてはまるものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①結婚	138	32.5%
②出産	119	28.0%
③育児	80	18.8%
④看護	12	2.8%
⑤介護	45	10.6%
⑥転職・起業	93	21.9%
⑦配偶者の転勤	49	11.5%
⑧健康上の理由	83	19.5%
⑨給料が少ない	61	14.4%
⑩定年退職	70	16.5%
⑪解雇等職場の都合	67	15.8%
⑫特に理由はない	19	4.5%
⑬その他	70	16.5%
対象数	425	-

問13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家事・育児と仕事の両立が難しい	607	84.4%
②女性が就ける仕事に限られている	146	20.3%
③活躍したいと思える仕事がない	39	5.4%
④活躍を望む女性が少ない	130	18.1%
⑤お手本となる「活躍する女性」が身近にいない	90	12.5%
⑥結婚・出産で退職する(退職せざるを得ない)女性が多い	399	55.5%
⑦上司・同僚の男性の認識、理解が不十分	334	46.5%
⑧家族の理解が不十分	157	21.8%
⑨その他	34	4.7%
⑩わからない	19	2.6%
無回答	6	0.8%
対象数	719	-

問14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が重要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性の積極的登用	125	17.4%
②能力開発、自己啓発	112	15.6%
③働き方改革の推進	232	32.3%
④福利厚生の充実	191	26.6%
⑤賃金の男女平等	186	25.9%
⑥非常勤職員の正規職員化	101	14.0%
⑦家族の理解や協力	223	31.0%
⑧職場の理解や協力	293	40.8%
⑨経営者・管理職の意識改革	157	21.8%
⑩女性自身の意識改革	135	18.8%
⑪育児・介護に関する制度の充実	273	38.0%
⑫ロールモデル(自分が目指したい事を実践している手本となる人)	23	3.2%
⑬その他	10	1.4%
⑭わからない	8	1.1%
無回答	4	0.6%
対象数	719	-

問15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。
あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①離職しても同一企業に再雇用されるようにすること	443	61.6%
②求人情報や就職ガイダンスの充実	94	13.1%
③就職に関する相談体制の充実	225	31.3%
④再就職のための講座やセミナーの充実	84	11.7%
⑤子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備	645	89.7%
⑥保育所などの保育施設の充実	477	66.3%
⑦その他	19	2.6%
⑧わからない	17	2.4%
無回答	5	0.7%
対象数	719	-

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問16 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。

次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①言葉も内容も知っている	253	35.2%
②言葉は聞いたことがあるが内容は知らない	220	30.6%
③知らない	241	33.5%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について

あなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	24	3.3%
②「家庭生活」優先	148	20.6%
③「地域活動・個人の生活」優先	23	3.2%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	241	33.5%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	35	4.9%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	74	10.3%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	165	22.9%
無回答	9	1.3%
合計	719	100.0%

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度について

あなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①「仕事」優先	184	25.6%
②「家庭生活」優先	198	27.5%
③「地域活動・個人の生活」優先	26	3.6%
④「仕事」と「家庭生活」をともに優先	172	23.9%
⑤「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	34	4.7%
⑥「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	54	7.5%
⑦「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先	39	5.4%
無回答	12	1.7%
合計	719	100.0%

問19 あなたは次にあげる家事をしていますか。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 掃除

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	282	45.3%
②自分と家族が同じ程度している	146	23.5%
③自分は手伝い程度している	146	23.5%
④していない	46	7.4%
無回答	2	0.3%
合計	622	100.0%

2 洗濯

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	293	47.1%
②自分と家族が同じ程度している	103	16.6%
③自分は手伝い程度している	90	14.5%
④していない	134	21.5%
無回答	2	0.3%
合計	622	100.0%

3 食料品、日用品などの買物

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	255	41.0%
②自分と家族が同じ程度している	175	28.1%
③自分は手伝い程度している	136	21.9%
④していない	54	8.7%
無回答	2	0.3%
合計	622	100.0%

4 食事のしたく

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	291	46.8%
②自分と家族が同じ程度している	86	13.8%
③自分は手伝い程度している	120	19.3%
④していない	123	19.8%
無回答	2	0.3%
合計	622	100.0%

5 食事の後かたづけ

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	272	43.7%
②自分と家族が同じ程度している	138	22.2%
③自分は手伝い程度している	122	19.6%
④していない	86	13.8%
無回答	4	0.6%
合計	622	100.0%

6 ごみ捨て

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	230	37.0%
②自分と家族が同じ程度している	150	24.1%
③自分は手伝い程度している	121	19.5%
④していない	118	19.0%
無回答	3	0.5%
合計	622	100.0%

問20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	211	29.3%
②1～2時間未満	167	23.2%
③2～3時間未満	130	18.1%
④3～5時間未満	120	16.7%
⑤5時間以上	83	11.5%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

問21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間(家事・育児・介護)はどの程度ですか。
 あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①0～1時間未満	146	20.3%
②1～2時間未満	174	24.2%
③2～3時間未満	144	20.0%
④3～5時間未満	129	17.9%
⑤5時間以上	115	16.0%
無回答	11	1.5%
合計	719	100.0%

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。
 あてはまる番号を1つずつお選びください。

1 育児(お孫さんを含む)

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	91	29.0%
②自分と家族が同じ程度している	46	14.6%
③自分は手伝い程度している	72	22.9%
④していない	105	33.4%
合計	314	100.0%

2 介護

選択肢	回答数	回答割合
①主に自分がしている	38	12.4%
②自分と家族が同じ程度している	16	5.2%
③自分は手伝い程度している	33	10.7%
④していない	220	71.7%
合計	307	100.0%

問23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。
 あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①主たる家計の稼ぎ手は男性だから	428	59.5%
②職場や同僚に迷惑がかかるから	476	66.2%
③上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから	498	69.3%
④育児、介護は女性の方が向いているから	162	22.5%
⑤昇給、昇格に影響すると考えるから	221	30.7%
⑥その他	49	6.8%
⑦わからない	44	6.1%
無回答	9	1.3%
対象数	719	-

問24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、
どのようなことが重要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①男女の固定的な役割分担意識を改める	316	43.9%
②夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる	282	39.2%
③方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する	92	12.8%
④雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる	202	28.1%
⑤労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる	387	53.8%
⑥社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める	228	31.7%
⑦男性のための仲間(ネットワーク)作りをすすめる	31	4.3%
⑧男性が相談しやすい窓口を設ける	46	6.4%
⑨官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる	228	31.7%
⑩その他	13	1.8%
⑪特に必要なことはない	4	0.6%
⑫わからない	28	3.9%
無回答	10	1.4%
対象数	719	-

「地域社会」に関することでおたずねします。

問25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において
次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 自治会やPTAの会長は男性と決まっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	192	26.7%
②そうではない	256	35.6%
③わからない	266	37.0%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

2 自治会やPTAの責任ある役職はほとんどが男性である

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	340	47.3%
②そうではない	186	25.9%
③わからない	187	26.0%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

3 役員や組織の運営事項は男性だけで決めている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	110	15.3%
②そうではない	320	44.5%
③わからない	283	39.4%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

4 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	173	24.1%
②そうではない	210	29.2%
③わからない	328	45.6%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

5 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	169	23.5%
②そうではない	159	22.1%
③わからない	383	53.3%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

6 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される

選択肢	回答数	回答割合
①そうである	43	6.0%
②そうではない	253	35.2%
③わからない	418	58.1%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問26 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。
あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

1 自治会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	359	49.9%
②女性	5	0.7%
③男性も女性も	197	27.4%
④わからない	152	21.1%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

2 自治会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	252	35.0%
②女性	8	1.1%
③男性も女性も	302	42.0%
④わからない	150	20.9%
無回答	7	1.0%
合計	719	100.0%

3 PTAの役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	62	8.6%
②女性	99	13.8%
③男性も女性も	266	37.0%
④わからない	282	39.2%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

4 PTAの行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	46	6.4%
②女性	112	15.6%
③男性も女性も	274	38.1%
④わからない	277	38.5%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

5 育成会の役員活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	64	8.9%
②女性	158	22.0%
③男性も女性も	227	31.6%
④わからない	261	36.3%
無回答	9	1.3%
合計	719	100.0%

6 育成会の行事等の活動

選択肢	回答数	回答割合
①男性	44	6.1%
②女性	144	20.0%
③男性も女性も	263	36.6%
④わからない	259	36.0%
無回答	9	1.3%
合計	719	100.0%

問27 女性も地域の重要な方針決定の場に出させていただく必要があります。あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①役員のなかの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置(ポジティブ・アクション)を導入すること	124	17.2%
②積極的改善措置(ポジティブ・アクション)は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること	181	25.2%
③地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと	172	23.9%
④女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること	83	11.5%
⑤女性が積極的に役職につく意識をもつこと	75	10.4%
⑥その他	14	1.9%
⑦わからない	58	8.1%
無回答	12	1.7%
合計	719	100.0%

問28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①女性も男性も防災活動や訓練に取り組む	535	74.4%
②市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす	351	48.8%
③避難所などの運営に女性も参画できるようにする	425	59.1%
④防災や災害現場で活動する女性を育成する	342	47.6%
⑤日頃から地域の男女共同参画を進める	356	49.5%
⑥備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障がい者などの視点を入れる	575	80.0%
⑦日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする	486	67.6%
⑧性別や立場によって異なる災害時の備え(生活環境、物資、安全など)について知識を普及する	460	64.0%
⑨避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障がい者などが安全に過ごせるようにする	578	80.4%
⑩その他	25	3.5%
⑪特に必要ない	4	0.6%
⑫わからない	17	2.4%
無回答	6	0.8%
対象数	719	-

「旧姓使用」に関することでおたずねします。

問29 あなたは、名字(姓)とは、どういうものだと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①他の人と区別して自分を表す名称の一部	407	56.6%
②先祖から受け継がれてきた名称	494	68.7%
③夫婦を中心にした家族の名称	350	48.7%
④その他	12	1.7%
⑤わからない	40	5.6%
無回答	5	0.7%
対象数	719	-

問30 現在の法律では、婚姻によって、夫婦のいずれかが必ず名字(姓)を変えなければならないことになっています。あなたは、婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字(姓)を変えると、仕事の上で何らかの不便を生ずることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①何らかの不便を生ずることがあると思う	331	46.0%
②何らの不便も生じないと思う	222	30.9%
③どちらともいえない	160	22.3%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

問30で「1」を選ばれた方におたずねします。

問31 婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字(姓)を変えたとすると、仕事の上で何らかの不便が生ずることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①婚姻をする以上、仕事の上で何らかの不便を生ずるのは仕方ない	48	14.5%
②婚姻をしても、仕事の上で不便を生じないようにした方がよい	260	78.5%
③どちらともいえない	16	4.8%
無回答	7	2.1%
合計	331	100.0%

問 31 で「2」を選ばれた方におたずねします。

問32 婚姻をして名字(姓)を変えても、仕事の上で不便を生じないようにするため、婚姻前の名字(姓)を通称として使えばよいという考え方がありますが、あなたは、このような考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①仕事の上で、通称を使うことができれば、不便を感じないで済むと思う	124	47.7%
②仕事の上で通称を使うことができても、それだけでは、対処しきれない不便があると思う	117	45.0%
③どちらともいえない	14	5.4%
無回答	5	1.9%
合計	260	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問33 あなたは、例えば、男性の兄弟のいない女性が、名字(姓)を変えると、実家の名字(姓)がなくなってしまうなどの理由で、婚姻をするのが難しくなることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることがあると思う	278	38.7%
②実家の名前を残すために、婚姻をするのが難しくなることはないと思う	219	30.5%
③どちらともいえない	217	30.2%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問33で「1」を選ばれた方におたずねします。

問34 実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるのは、仕方ない	25	9.0%
②実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるようなことは、ないようにした方がよい	219	78.8%
③どちらともいえない	32	11.5%
無回答	2	0.7%
合計	278	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問35 あなたは、婚姻によって、ご自分の名字(姓)が相手の名字(姓)に変わったとした場合、そのことについて、どのような感じを持つと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①名字(姓)が変わったことで、新たな人生が始まるような喜びを感じると思う	329	45.8%
②相手と一体となったような喜びを感じると思う	321	44.6%
③何も感じないと思う	110	15.3%
④名字(姓)が変わったことに違和感を持つと思う	236	32.8%
⑤今までの自分が失われてしまったような感じを持つと思う	95	13.2%
⑥その他	30	4.2%
⑦わからない	54	7.5%
無回答	8	1.1%
対象数	719	-

問36 あなたは、あなた以外の人の中には、婚姻によって名字(姓)を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①そのような感じを持つ人がいると思う	343	47.7%
②そのような感じを持つ人はいないと思う	146	20.3%
③どちらともいえない	222	30.9%
無回答	8	1.1%
合計	719	100.0%

問36で「1」を選ばれた方におたずねします。

問37 婚姻によって名字(姓)を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①婚姻をする以上、そのような感じを持つことがあっても仕方がない	111	32.4%
②婚姻をしても、そのような感じを持つことがないようにした方がよい	207	60.3%
③どちらともいえない	24	7.0%
無回答	1	0.3%
合計	343	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問38 世間には、正式に結婚している夫婦と全く同じ生活をしているけれども、正式な夫婦となる届出をしていないという男女(内縁の夫婦)がいます。

あなたは、そのような内縁の夫婦の中に、双方がともに名字(姓)を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①名字(姓)を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦もいると思う	390	54.2%
②名字(姓)を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦はいないと思う	93	12.9%
③どちらともいえない	232	32.3%
無回答	4	0.6%
合計	719	100.0%

問 38 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問39 そのような内縁の夫婦は、法律(民法)上は正式な夫婦として認められませんが、あなたは、そのような男女についてどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①同じ名字(姓)を名乗らない以上、正式な夫婦とは違うと思う	46	11.8%
②同じ名字(姓)を名乗ってなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う	293	75.1%
③どちらともいえない	51	13.1%
無回答	0	0.0%
合計	390	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問40 あなたは、夫婦・親子の名字(姓)が違くと、夫婦を中心とする家族の一体感(きずな)に、何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①家族の名字(姓)が違くと、家族の一体感(きずな)が弱まると思う	161	22.4%
②家族の名字(姓)が違ってても、家族の一体感(きずな)には影響がないと思う	377	52.4%
③その他	25	3.5%
④わからない	153	21.3%
無回答	3	0.4%
合計	719	100.0%

問41 あなたは、夫婦の名字(姓)が違うと、自分と違う名字(姓)の配偶者の父母との関係に何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①名字(姓)が違うと、配偶者の父母との関係を大切にしなくなると思う	47	6.5%
②名字(姓)が違ってても、配偶者の父母との関係には影響はないと思う	459	63.8%
③その他	25	3.5%
④わからない	186	25.9%
無回答	2	0.3%
合計	719	100.0%

問42 あなたは、夫婦の名字(姓)が違うと、夫婦間の子どもに何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①子どもにとって好ましくない影響があると思う	361	50.2%
②子どもに影響はないと思う	151	21.0%
③その他	31	4.3%
④わからない	170	23.6%
無回答	6	0.8%
合計	719	100.0%

問43 現在は、夫婦は必ず同じ名字(姓)を名乗らなければならないことになっていますが、「現行制度と同じように夫婦が同じ名字(姓)を名乗ることのほか、夫婦が希望する場合には、同じ名字(姓)ではなく、それぞれの婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるように法律を改めた方がよい。」という意見があります。このような意見について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字(姓)を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない	103	14.3%
②夫婦が婚姻前の名字(姓)を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字(姓)を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない	291	40.5%
③夫婦が婚姻前の名字(姓)を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字(姓)を名乗るべきだが、婚姻によって名字(姓)を改めた人が婚姻前の名字(姓)を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない	212	29.5%
④わからない	108	15.0%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問 43 で「2」を選ばれた方におたずねします。

問44 希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字(姓)を名乗れるように法律が変わった場合、あなたは、夫婦でそれぞれの名字(姓)を名乗ることを希望しますか。あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず、あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①希望する	67	23.0%
②希望しない	132	45.4%
③どちらともいえない	92	31.6%
合計	291	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問45 希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字(姓)を名乗れるように法律が変わった場合を想定してお答えください。

それぞれの婚姻前の名字(姓)を名乗っている夫婦に二人以上の子どもがある場合、子ども同士(兄弟・姉妹)

の名字(姓)が異なってもよいという考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①子ども同士の名字(姓)が異なってもかまわない	117	16.3%
②子ども同士の名字(姓)は同じにするべきである	375	52.2%
③どちらともいえない	217	30.2%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

問45で「2」を選ばれた方におたずねします。A1223

問46 子ども同士は同一の名字(姓)を名乗るべきであるとして、それぞれの子どもが成年に達した時には、

それまでと異なる父または母の名字(姓)に変えることができるという考え方について、あなたは、

どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①今までの名字(姓)を変えない方がよい	125	33.3%
②変えることができるとしてもかまわない	216	57.6%
③どちらともいえない	32	8.5%
無回答	2	0.5%
合計	375	100.0%

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問47 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字(姓)が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いますか。

あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず。あてはまる番号を1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①旧姓を通称として使用したいと思う	229	31.8%
②旧姓を通称として使用したいと思わない	292	40.6%
③どちらともいえない	195	27.1%
無回答	3	0.4%
合計	719	100.0%

問47で「1」を選ばれた方におたずねします。

問48 住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、

あなたが旧姓を通称として使用するときに、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いますか。

あてはまるものをすべてお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①勤務先の社員証、社内資格など	193	84.3%
②運転免許証など公的な身分証	146	63.8%
③銀行口座	156	68.1%
④証券口座	85	37.1%
⑤保険契約	131	57.2%
⑥各種国家資格	128	55.9%
⑦その他	8	3.5%
⑧特になし	7	3.1%
⑨わからない	8	3.5%
無回答	2	0.9%
対象数	229	-

ここからは、再び全員の方におたずねします。

男女の「人権」に関することにおたずねします。

問49 身近な人(夫・妻・恋人)からの暴力が、DV(ドメスティック・バイオレンス)として

問題になっています。次にあげる行為は、DVIにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。

あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

1 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	5	0.7%
② したことがある	4	0.6%
③ 受けたこともしたこともある	3	0.4%
④ 受けたこともしたこともない	695	96.7%
無回答	12	1.7%
合計	719	100.0%

2 なぐる、ける

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	42	5.8%
② したことがある	29	4.0%
③ 受けたこともしたこともある	28	3.9%
④ 受けたこともしたこともない	607	84.4%
無回答	13	1.8%
合計	719	100.0%

3 物を投げつけたり壊したりする

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	65	9.0%
② したことがある	64	8.9%
③ 受けたこともしたこともある	44	6.1%
④ 受けたこともしたこともない	534	74.3%
無回答	12	1.7%
合計	719	100.0%

4 髪の毛をつかんで引きずり回す

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	17	2.4%
② したことがある	4	0.6%
③ 受けたこともしたこともある	3	0.4%
④ 受けたこともしたこともない	683	95.0%
無回答	12	1.7%
合計	719	100.0%

5 大声で怒鳴る

選択肢	回答数	回答割合
① 受けたことがある	96	13.4%
② したことがある	107	14.9%
③ 受けたこともしたこともある	125	17.4%
④ 受けたこともしたこともない	380	52.9%
無回答	11	1.5%
合計	719	100.0%

6 メールや郵便物、行動を細かく監視する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	32	4.5%
②したことがある	9	1.3%
③受けたこともしたこともある	11	1.5%
④受けたこともしたこともない	657	91.4%
無回答	10	1.4%
合計	719	100.0%

7 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	69	9.6%
②したことがある	30	4.2%
③受けたこともしたこともある	16	2.2%
④受けたこともしたこともない	593	82.5%
無回答	11	1.5%
合計	719	100.0%

8 何を言っても無視し続ける

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	60	8.3%
②したことがある	61	8.5%
③受けたこともしたこともある	67	9.3%
④受けたこともしたこともない	520	72.3%
無回答	11	1.5%
合計	719	100.0%

9 生活費を渡さない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	34	4.7%
②したことがある	3	0.4%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	666	92.6%
無回答	13	1.8%
合計	719	100.0%

10 嫌がっているのに性的行為を強要する

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	44	6.1%
②したことがある	10	1.4%
③受けたこともしたこともある	3	0.4%
④受けたこともしたこともない	649	90.3%
無回答	13	1.8%
合計	719	100.0%

11 避妊に協力しない

選択肢	回答数	回答割合
①受けたことがある	33	4.6%
②したことがある	9	1.3%
③受けたこともしたこともある	1	0.1%
④受けたこともしたこともない	662	92.1%
無回答	14	1.9%
合計	719	100.0%

問50 あなたはDV(ドメスティック・バイオレンス)にあったとき、相談するところをご存知ですか。
知っている相談窓口すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①DV相談ナビ	48	6.7%
②長野県女性相談センター	126	17.5%
③県警(警察安全相談窓口)	395	54.9%
④長野県児童虐待・DV24時間ホットライン	132	18.4%
⑤女性の人権ホットライン	138	19.2%
⑥長野県性暴力被害者支援センター“りんどうハートながの”	50	7.0%
⑦県警性被害犯罪ダイヤルサポート110	66	9.2%
⑧長野犯罪被害者支援センター	84	11.7%
⑨長野市福祉事務所(長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内)	90	12.5%
⑩長野市男女共同参画センター	68	9.5%
⑪特にない	217	30.2%
無回答	39	5.4%
対象数	719	-

問51 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う	404	56.2%
②どんな場合でも人権侵害にあたると思う	159	22.1%
③人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う	125	17.4%
④人権侵害にあたるとは思わない	1	0.1%
⑤わからない	25	3.5%
無回答	5	0.7%
合計	719	100.0%

問52 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。
あてはまる番号すべてをお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①メールによる相談ができる	298	41.4%
②LINEなどSNSによる相談ができる	304	42.3%
③電話による相談ができる	424	59.0%
④通話料が無料	412	57.3%
⑤24時間相談ができる	497	69.1%
⑥相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる	323	44.9%
⑦同性の相談員がいる	399	55.5%
⑧匿名で相談ができる	483	67.2%
⑨弁護士など、法的知識のある相談ができる	492	68.4%
⑩臨床心理士、公認会計士など、心理専門職の相談ができる	323	44.9%
⑪その他	18	2.5%
⑫特にない	16	2.2%
⑬わからない	39	5.4%
無回答	10	1.4%
対象数	719	-

問53 女性も男性も対等なパートナーとして社会のあらゆる分野に参画していく男女共同参画社会を実現していくために、行政が重点をおいて取り組むべきと思うものは、どのようなことですか。
あなたが特に重要だと思うものを7つまでお選びください。

選択肢	回答数	回答割合
①市の審議会委員等への女性の参画の拡大	140	19.5%
②市役所における女性職員の職域拡大と管理職への登用	97	13.5%
③男女がともに働きやすい職場環境の整備促進	479	66.6%
④住民自治協議会、区、自治会等への女性の参画の促進	90	12.5%
⑤地域防災・復興における女性の参画拡大	60	8.3%
⑥女性の社会活動への参画促進	108	15.0%
⑦働く場における男女の均等な機会と待遇の確保	357	49.7%
⑧女性活躍推進法に基づく事業所の取組支援	29	4.0%
⑨働く場におけるハラスメントの防止	251	34.9%
⑩女性の就労支援	170	23.6%
⑪女性の起業支援	35	4.9%
⑫農業や自営業等における男女共同参画の推進	22	3.1%
⑬女性の参画が少ない分野への女性の参画促進	68	9.5%
⑭職業生活と家事や育児、介護等の家庭生活との両立に向けた環境づくり	336	46.7%
⑮男女がともに働きやすい職場環境の整備促進	264	36.7%
⑯男性の育児休業の取得の促進	164	22.8%
⑰男性にとっての男女共同参画の推進	34	4.7%
⑱子育てや介護等の支援の充実	333	46.3%
⑲企業における公共調達等インセンティブの付与	17	2.4%
⑳女性に対するあらゆる暴力根絶のための広報、啓発の推進	37	5.1%
㉑DV被害者に対する相談体制の整備、充実	75	10.4%
㉒ひとり親家庭への支援	154	21.4%
㉓高齢者・外国籍・障害者への支援	83	11.5%
㉔性の多様性の理解促進	52	7.2%
㉕女性の性と生殖に関する健康と権利(リプロダクティブ・ヘルス/ライツ)についての意識づくり	23	3.2%
㉖妊娠・出産期を中心とする健康の保持増進のための支援	73	10.2%
㉗更年期、高齢期の健康の保持増進のための支援	65	9.0%
㉘男女共同参画、女性活躍推進のための意識啓発	55	7.6%
㉙男女共同参画センターにおける取組の推進	13	1.8%
㉚子どものころからの男女共同参画を推進する教育の充実	221	30.7%
㉛男女共同参画、女性活躍に関する調査・研究	18	2.5%
㉜国、県、他自治体、関係団体との連携	65	9.0%
㉝中立的な社会制度の確立と慣行の見直し	33	4.6%
㉞法律等の周知及び情報の提供	38	5.3%
㉟国際社会の動向への理解の促進	17	2.4%
㊱その他	11	1.5%
㊲わからない	20	2.8%
無回答	21	2.9%
対象数	719	-

問44 「男女共同参画」及び「女性活躍推進」について、ご意見・ご要望がありましたら、ご記入ください。

選択肢	回答数	回答割合
①文章回答あり	89	12.4%
②文章回答無し	630	87.6%
合計	719	100.0%

調査票

各 位



長野市男女共同参画シンボルマーク

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」ご協力のお願い

平素から、市政にご理解とご協力をいただき、厚くお礼申し上げます。

さて、本市では、心豊かで生きがいのある社会を形成するために、男女が社会の対等な構成員として喜びと責任を共に分かちあい、個性と能力を十分に発揮し、自分らしく生きられる男女共同参画社会の実現のため、講座やセミナーの開催、推進活動の支援、相談事業などさまざまな施策を進めています。

この調査は、男女共同参画や女性活躍推進などの各種施策の基礎資料とするため、令和3年5月15日現在、市内にお住いの18歳以上75歳未満の市民の皆様から男女2,000人を年齢により、年代別に無作為によって選ばせていただいた中のお一人としてお願いするものです。

なお、この調査は無記名で行い、お答えはすべて数値に置き換え、統計的に処理した上で分析します。今後の施策推進や啓発のために使用し、集計結果として公表することはありますが、皆様にご迷惑をおかけすることは一切ございませんので、率直なご意見をお聞かせください。

お忙しいところ、大変お手数をおかけしますが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願いいたします。

令和3年6月

長野市長 加藤久雄

ご記入にあたってのお願い

- ☆ お答えは、当てはまる番号を、設問右側の回答欄へお書きください。
- ☆ 「その他」に当てはまる場合は、お手数をおかけしますが〔 〕内になるべく具体的に記入してください。
- ☆ 一部の方だけお答えいただく設問もあります。
- ☆ ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れ、切手を貼らずに令和3年7月6日(火)までにポストに投函してください。

この調査についてのお問い合わせは

長野市地域・市民生活部人権・男女共同参画課

電話：224-5428（直通）

ファクス：224-7547 担当：北澤までお願いします。

「男女共同参画に関する市民意識と実態調査」調査票

あなた自身のことについておたずねします。

A あなたの性別※を教えてください。

1. 男性

2. 女性

※戸籍上の性別とは関係なく、ご自身の主観でご記入ください。

A

B あなたの年齢について教えてください。

1. 20歳未満

2. 20歳～24歳

3. 25歳～29歳

4. 30歳～34歳

5. 35歳～39歳

6. 40歳～44歳

7. 45歳～49歳

8. 50歳～54歳

9. 55歳～59歳

10. 60歳～64歳

11. 65歳～69歳

12. 70歳以上

B

C あなたの職業を教えてください。

1. 農林漁業の自営業主・家族従業者

2. 農林漁業以外の自営業主・家族従業者

3. 自由業（開業医、弁護士、会計士、文筆業、芸術家など）

4. 会社役員・経営者

5. 正社員・正職員などの正規雇用者

6. パート・アルバイト、契約社員・嘱託社員などの非正規雇用者

7. 家事専業者

8. 学生

9. 無職

10. その他〔具体的に _____〕

C

D あなたのご家族の構成(世帯構成)について教えてください。

1. 単身世帯(含単身赴任)

2. 一世代世帯(夫婦・カップルだけ)

3. 二世帯世帯(親と子)

4. 三世帯世帯(親と子と孫)

5. その他〔具体的に _____〕

D

E あなたは現在、結婚していますか。

1. 結婚している

2. 結婚していない

3. 結婚していないがパートナーがいる

4. 配偶者と離・死別した

E

F あなたにお子さんはいらっしゃいますか。

1. いる

2. いない

F

結婚している方またはパートナーがいる方におたずねします。

G 配偶者またはパートナーは現在職業に就いていらっしゃいますか。

1. いる（正規社員）

2. いる（非正規：勤務時間は正規社員と同じ）

3. いる（非正規：パート）

4. いない

5. その他〔具体的に _____〕

G

一般的なことでおたずねします。

問1 あなたは次にあげる分野で男女は平等になっていると思いますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	男性の方が非常に 優遇されている	どちらかといえば 男性の方が優遇さ れている	平等である	どちらかといえば 女性の方が優遇さ れている	女性の方が非常に 優遇されている	わからない		問1
1. 家庭生活	1	2	3	4	5	6	→	
2. 学校教育の場	1	2	3	4	5	6	→	
3. 地域社会	1	2	3	4	5	6	→	
4. 職場	1	2	3	4	5	6	→	
5. 法律や制度の上	1	2	3	4	5	6	→	
6. 社会通念・慣習・しきたり	1	2	3	4	5	6	→	
7. 政治の場	1	2	3	4	5	6	→	
8. 社会全体	1	2	3	4	5	6	→	

問2 次の言葉やことがらについて、知っているか、または聞いたことがありますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	知っている	聞いたこと がある	知らない		問2
1. 男女共同参画社会	1	2	3	→	
2. 女子差別撤廃条約	1	2	3	→	
3. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	1	2	3	→	
4. ジェンダー（社会的・文化的に形成された性別）	1	2	3	→	
5. 女性活躍推進法 （女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	1	2	3	→	
6. 候補者男女均等法 （政治分野における男女共同参画の推進に関する法律）	1	2	3	→	
7. 長野市男女共同参画推進条例	1	2	3	→	

問3 「男性は仕事、女性は家事・育児」という、性別によって役割を固定する考え方について、どう思いますか。次の中から1つお選びください。

1. 賛成 2. どちらかといえば賛成 3. どちらかといえば反対
4. 反対 5. わからない

問3

問4 一般的に女性が職業をもつことについて、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

1. 女性は職業をもたない方がよい
2. 結婚するまでは職業をもつ方がよい
3. 子どもができるまでは、職業をもつ方がよい
4. 子どもができて、ずっと職業を続ける方がよい
5. 子どもができたなら職業をやめ、大きくなったら再び職業をもつ方がよい
6. その他〔具体的に _____〕
7. わからない

問4

職場における「女性活躍と就労」に関することでおたずねします。

問5 方針決定の場への女性の参画や女性の職域拡大等、女性活躍の必要性について、あなたはどうかお考えですか。次の中から1つお選びください。

1. 必要だと思う 2. どちらかといえば必要だと思う 3. 必要ないと思う

問5

現在、職業に就いていらっしゃる方におたずねします。

問6 あなたの職場では次のことがらについて、男女は平等になっていると思いますか（次にあげるそれぞれの面で性別によって差があると思いますか）。

あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等である	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない		問6
1. 賃金	1	2	3	4	5	6	→	
2. 昇進や昇格	1	2	3	4	5	6	→	
3. 仕事の内容	1	2	3	4	5	6	→	
4. 研修の機会や内容	1	2	3	4	5	6	→	
5. 経験や能力を発揮する機会	1	2	3	4	5	6	→	

問7 あなたの職場では女性の活躍推進について、積極的に推進していると思いますか。次の中から1つお選びください。

1. 積極的に推進している
2. 積極的とは言えないが推進している
3. 推進しているとは言えない

問7

問8 今の職場について、あなたのお考えに近い番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	そう思う	やや思う	あまり 思わない	思わない	わからない		問8
1. あなた自身は活躍したい	1	2	3	4	5	→	
2. 現在の生活や仕事に満足している	1	2	3	4	5	→	
3. 女性が社会で働くには不利な点が多い	1	2	3	4	5	→	
4. 仕事を続けキャリアを積んでいきたい	1	2	3	4	5	→	
5. 管理職への打診があれば受けてみたい	1	2	3	4	5	→	
6. 退職して仕事に就かない	1	2	3	4	5	→	
7. 女性も管理職として活躍している	1	2	3	4	5	→	
8. 女性の管理職の部下には、なりたくない	1	2	3	4	5	→	

現在、職業に就いていらっしゃる方または職業経験のある方におたずねします。

問9 女性が活躍するために企業が取り組むべきことはなんだと思いますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	だとも 重要 だと思 う	まあ重 要 だと思 う	思わな い 重要だ と	わから ない		問9
1. 女性を管理職へ積極的に登用する	1	2	3	4	→	
2. 女性職員の採用拡大	1	2	3	4	→	
3. 非正規労働者の正社員転換・待遇改善	1	2	3	4	→	
4. 在宅勤務、時短勤務・フレックスタイム等、勤務場所や勤務時間の柔軟化	1	2	3	4	→	
5. 出産や育児等による休業がハンディとならないような人事制度の導入	1	2	3	4	→	
6. 企業内託児所や学童保育所などの設置	1	2	3	4	→	

離職されている方におたずねします。

問10 再就職される場合の雇用形態について希望されるものを次の中から1つお選びください。

- 1. 正規社員
- 2. 非正規社員 [⇒問11へ]
- 3. パート社員（家に子どもがいない時間のみ等） [⇒問11へ]

問10

問10で「2」または「3」を選ばれた方におたずねします。

問11 その理由を次の中から、あなたのお考えに近いものを2つまでお選びください。

- 1. 家事や育児で家族の協力や理解が得られないから
- 2. 正規社員で雇用する企業が少ないから
- 3. 仕事より家庭生活を優先したいから
- 4. 時間外勤務や休日出勤を避けたいから
- 5. 配偶者（特別）控除の範囲内で働きたいから
- 6. 積極的に仕事に就くつもりがないから
- 7. その他〔具体的に _____ 〕

問11

離職経験のある方におたずねします。

問12 離職の原因（理由）としてあてはまるものを3つまでお選びください。

- 1. 結婚
- 2. 出産
- 3. 育児
- 4. 看護
- 5. 介護
- 6. 転職・起業
- 7. 配偶者の転勤
- 8. 健康上の理由
- 9. 給料が少ない
- 10. 定年退職
- 11. 解雇等職場の都合
- 12. 特に理由はない
- 13. その他〔具体的に _____ 〕

問12

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問13 女性の活躍を進めるうえでどのような問題があると思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

- 1. 家事・育児と仕事の両立が難しい
- 2. 女性が就ける仕事に限られている
- 3. 活躍したいと思える仕事がない
- 4. 活躍を望む女性が少ない
- 5. お手本となる「活躍する女性」が身近にいない
- 6. 結婚・出産で退職する（退職せざるを得ない）女性が多い
- 7. 上司・同僚の男性の認識、理解が不十分
- 8. 家族の理解が不十分
- 9. その他〔具体的に _____ 〕
- 10. わからない

問13

問14 女性が意欲をもって働き続けるためには、何が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

1. 女性の積極的登用
2. 能力開発、自己啓発
3. 働き方改革の推進
4. 福利厚生の充実
5. 賃金の男女平等
6. 非常勤職員の正規職員化
7. 家族の理解や協力
8. 職場の理解や協力
9. 経営者・管理職の意識改革
10. 女性自身の意識改革
11. 育児・介護に関する制度の充実
12. ロールモデル（自分が目指したい事を実践している手本となる人）
13. その他〔具体的に _____ 〕
14. わからない

問14

問15 出産・育児などで離職した女性が再就職を希望する場合、どのような支援や対策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを3つまでお選びください。

1. 離職しても同一企業に再雇用されるようにすること
2. 求人情報や就職ガイダンスの充実
3. 再就職に関する相談体制の充実
4. 再就職のための講座やセミナーの充実
5. 子育てや介護をしながら働ける労働環境の整備
6. 保育所などの保育施設の充実
7. その他〔具体的に _____ 〕
8. わからない

問15

「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」に関することでおたずねします。

問16 あなたは、「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)」という言葉をご存知ですか。
次の中から1つお選びください。

1. 言葉も内容も知っている
2. 言葉は聞いたことがあるが内容は知らない
3. 知らない

問16

問17 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度についてあなたが理想とする(希望する)生活に最も近いものを1つお選びください。

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問17

問18 「仕事」、「家庭生活」、「地域活動・個人の生活(学習、趣味、付き合い等)」の優先度についてあなたの現実(現状)の生活に最も近いものを1つお選びください。

1. 「仕事」優先
2. 「家庭生活」優先
3. 「地域活動・個人の生活」優先
4. 「仕事」と「家庭生活」をともに優先
5. 「仕事」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
6. 「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先
7. 「仕事」と「家庭生活」と「地域活動・個人の生活」をともに優先

問18

問19 あなたは次にあげる家事をしていますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分は手伝い程度している	していない		問19
1. 掃除	1	2	3	4	→	
2. 洗濯	1	2	3	4	→	
3. 食料品、日用品などの買物	1	2	3	4	→	
4. 食事のしたく	1	2	3	4	→	
5. 食事の後かたづけ	1	2	3	4	→	
6. ごみ捨て	1	2	3	4	→	

問20 あなたの平日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 0～1時間未満
2. 1～2時間未満
3. 2～3時間未満
4. 3～5時間未満
5. 5時間以上

問20

問21 あなたの休日の1日あたりの家事従事時間（家事・育児・介護）はどの程度ですか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 0～1時間未満
2. 1～2時間未満
3. 2～3時間未満
4. 3～5時間未満
5. 5時間以上

問21

身近に育児または介護の対象者がいる方におたずねします。

問22 あなたは育児または介護をどの程度していますか。あてはまる番号を1つずつお選びください。

	主に自分がしている	自分と家族が同じ程度している	自分手伝い程度している	していない		問22
1. 育児（お孫さんを含む）	1	2	3	4	→	
2. 介護	1	2	3	4	→	

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問23 男性が「育児・介護休業制度」を利用することが進まないのは、どうしてだと思いますか。あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

1. 主たる家計の稼ぎ手は男性だから
2. 職場や同僚に迷惑がかかるから
3. 上司の対応も含め利用しにくい雰囲気があるから
4. 育児、介護は女性の方が向いているから
5. 昇給、昇格に影響すると考えるから
6. その他〔具体的に _____ 〕
7. わからない

問23

問24 今後、女性と男性がともに仕事・家事・育児・介護・地域活動等に積極的に参加していくためには、どのようなことが重要だと思いますか。

あなたのお考えに近いものを次の中から3つまでお選びください。

1. 男女の固定的な役割分担意識を改める
2. 夫婦や家族間のコミュニケーションをはかる
3. 方針・政策決定の場に女性を積極的に登用する
4. 雇用機会や昇進など、職場での男女平等をはかる
5. 労働時間短縮や取得しやすい育児、介護、ボランティア等の休暇・休業制度を普及させる
6. 社会の中で男性による家事・育児・介護・地域活動の評価を高める
7. 男性の関心を高めるよう啓発や情報提供を行う
8. 男性のための仲間（ネットワーク）作りをすすめる
9. 男性が相談しやすい窓口を設ける
10. 官民ともに家事・育児・介護に係るサービスを充実させる
11. その他〔具体的に_____〕
12. 特に必要なことはない
13. わからない

問24

「地域社会」に関することでおたずねします。

問25 あなたが住んでいる地域では、自治会・PTA・そのほかの地域での活動において、次のような事例が見受けられますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	その う である	その う ではない	わ か ら な い		問25
1. 自治会やPTAの会長は、男性と決まっている	1	2	3	→	
2. 自治会やPTAの責任ある役職は、ほとんどが男性である	1	2	3	→	
3. 役員や組織の運営事項は、男性だけで決めている	1	2	3	→	
4. 実際の仕事は妻がしているのに、名義は夫になっている	1	2	3	→	
5. 女性自身が責任ある役職に就くのを避けている	1	2	3	→	
6. 女性が責任ある役職に就こうとすると、男性や他の女性から反対される	1	2	3	→	

問26 あなたが住んでいる地域では、次の1から6の活動について誰が中心となり取り組んでいますか。あてはまる番号をそれぞれ1つずつお選びください。

	男 性	女 性	男 性 も 女 性 も	わ か ら な い		問26
1. 自治会の役員活動	1	2	3	4	→	
2. 自治会の行事等の活動	1	2	3	4	→	
3. PTAの役員活動	1	2	3	4	→	
4. PTAの行事等の活動	1	2	3	4	→	
5. 育成会の役員活動	1	2	3	4	→	
6. 育成会の行事等の活動	1	2	3	4	→	

問27 女性も地域の重要な方針決定の場に出ていただく必要があります。

あなたは、どうすればそれが可能になると思いますか。次の中から1つお選びください。

1. 役員の中かの女性の割合を定めるなどの、積極的改善措置（ポジティブ・アクション）※を導入すること
2. 積極的改善措置（ポジティブ・アクション）は導入しないが、男性中心の役員構成ではなく、女性も活躍できるような組織づくりを導入すること
3. 地域が女性の活躍を受け入れる雰囲気を持つこと
4. 女性が活動し、活躍できるように家族が協力すること
5. 女性が積極的に役職につく意識をもつこと
6. その他〔具体的に _____ 〕
7. わからない

問27

※ 積極的改善措置(ポジティブ・アクション)
男女共同参画に関し、男女間の格差を改善するため必要な範囲内において、男女のいずれか一方に対し、当該機会を積極的に提供することをいいます。

問28 東日本大震災以降も様々な自然災害が起こる中で、本市においても令和元年東日本台風災害による甚大な被害が発生しました。これらの教訓から、平時の防災体制や災害発生後の対応にも男女共同参画の視点も必要だと指摘されています。

災害に備えるために、これからどのような施策が必要だと思いますか。あなたのお考えに近いものを、すべてをお選びください。

1. 女性も男性も防災活動や訓練に取り組む
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所などの運営に女性も参画できるようにする
4. 防災や災害現場で活動する女性を育成する
5. 日頃から地域の男女共同参画を進める
6. 備蓄品について、女性、乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を入れる
7. 日頃からコミュニケーション・地域のつながりを大切にする
8. 性別や立場によって異なる災害時の備え（生活環境、物資、安全など）について知識を普及する
9. 避難所マニュアルを整備し、女性、乳幼児、子ども、介護が必要な人、障害者などが安全に過ごせるようにする
10. その他〔具体的に _____ 〕
11. 特に必要なことはない
12. わからない

問28	

「選択的夫婦別姓制度」に関することでおたずねします。

問29 あなたは、名字(姓)とは、どういうものだと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

1. 他の人と区別して自分を表す名称の一部
2. 先祖から受け継がれてきた名称
3. 夫婦を中心にした家族の名称
4. その他
〔具体的に _____ 〕
5. わからない

問29	

問30 現在の法律では、婚姻によって、夫婦のいずれかが必ず名字(姓)を変えなければならないことになっています。

あなたは、婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字(姓)を変えると、仕事の上で何らかの不便を生ずることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 何らかの不便を生ずることがあると思う [⇒問31へ]
2. 何らの不便も生じないと思う
3. どちらともいえない

問30

問30で「1」を選ばれた方におたずねします。

問31 婚姻前から仕事をしてきた人が、婚姻によって名字(姓)を変えらると、仕事の上で何らかの不便が生ずることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。

あてはまる番号を1つお選びください。

1. 婚姻をする以上、仕事の上で何らかの不便を生ずるのは仕方ない
2. 婚姻をしても、仕事の上で不便を生じないようにした方がよい [⇒問32へ]
3. どちらともいえない

問31

問31で「2」を選ばれた方におたずねします。

問32 婚姻をして名字(姓)を変えても、仕事の上で不便を生じないようにするため、婚姻前の名字(姓)を通称として使えばよいという考え方がありますが、あなたは、このような考え方について、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 仕事の上で、通称を使うことができれば、不便を感じないで済むと思う
2. 仕事の上で通称を使うことができても、それだけでは、対処しきれない不便があると思う
3. どちらともいえない

問32

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問33 あなたは、例えば、男性の兄弟のいない女性が、名字(姓)を変えると、実家の名字(姓)がなくなってしまうなどの理由で、婚姻するのが難しくなることがあると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 実家の名前を残すために、婚姻するのが難しくなることがあると思う [⇒問34へ]
2. 実家の名前を残すために、婚姻するのが難しくなることはないと思う
3. どちらともいえない

問33

問 33 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問34 実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなることがあるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるのは、仕方ない
2. 実家の名前を残すために婚姻をするのが難しくなるようなことは、ないようにした方がよい
3. どちらともいえない

問34

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問35 あなたは、婚姻によって、ご自分の名字（姓）が相手の名字（姓）に変わったとした場合、そのことについて、どのような感じを持つと思いますか。あてはまる番号をすべてお選びください。

1. 名字（姓）が変わったことで、新たな人生が始まるような喜びを感じると思う
2. 相手と一体となったような喜びを感じると思う
3. 何も感じないと思う
4. 名字（姓）が変わったことに違和感を持つと思う
5. 今までの自分が失われてしまったような感じを持つと思う
6. その他〔具体的に _____ 〕
7. わからない

問35

問36 あなたは、あなた以外の人の中には、婚姻によって名字（姓）を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. そのような感じを持つ人がいると思う [⇒問 37 へ]
2. そのような感じを持つ人はいないと思う
3. どちらともいえない

問36

問 36 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問37 婚姻によって名字（姓）を変えると、今までの自分が失われてしまったような感じを持つ人がいるとして、そのことについて、あなたは、どのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 婚姻をする以上、そのような感じを持つことがあっても仕方がない
2. 婚姻をしても、そのような感じを持つことがないようにした方がよい
3. どちらともいえない

問37

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問38 世間には、正式に結婚している夫婦と全く同じ生活をしているけれども、正式な夫婦となる届出をしていないという男女（内縁の夫婦）がいます。

あなたは、そのような内縁の夫婦の中に、双方がともに名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない人がいると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦もいると思う [⇒問 39 へ]
2. 名字（姓）を変えたくないという理由で、正式な夫婦となる届出をしない内縁の夫婦はいないと思う
3. どちらともいえない

問38

問 38 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問39 そのような内縁の夫婦は、法律（民法）上は正式な夫婦として認められませんが、あなたは、そのような男女についてどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 同じ名字（姓）を名乗らない以上、正式な夫婦とは違うと思う
2. 同じ名字（姓）を名乗っていなくても、正式な夫婦と同じような生活をしていれば、正式な夫婦と変わらないと思う
3. どちらともいえない

問39

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問40 あなたは、夫婦・親子の名字（姓）が違くと、夫婦を中心とする家族の一体感（きずな）に、何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 家族の名字（姓）が違くと、家族の一体感（きずな）が弱まると思う
2. 家族の名字（姓）が違ってても、家族の一体感（きずな）には影響がないと思う
3. その他〔具体的に _____ 〕
4. わからない

問40

問41 あなたは、夫婦の名字（姓）が違くと、自分と違う名字（姓）の配偶者の父母との関係に何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 名字（姓）が違くと、配偶者の父母との関係を大切にしなくなると思う
2. 名字（姓）が違ってても、配偶者の父母との関係には影響はないと思う
3. その他〔具体的に _____ 〕
4. わからない

問41

問42 あなたは、夫婦の名字（姓）が違くと、夫婦の間の子どもに何か影響が出てくると思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 子どもにとって好ましくない影響があると思う
2. 子どもに影響はないと思う
3. その他〔具体的に _____ 〕
4. わからない

問42

問43 現在は、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗らなければならないことになっていますが、「現行制度と同じように夫婦が同じ名字（姓）を名乗ることのほか、夫婦が希望する場合には、同じ名字（姓）ではなく、それぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めた方がよい。」という意見があります。

このような意見について、あなたはどのように思いますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 婚姻をする以上、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきであり、現在の法律を改める必要はない
2. 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望している場合には、夫婦がそれぞれ婚姻前の名字（姓）を名乗ることができるように法律を改めてもかまわない [⇒問 44 へ]
3. 夫婦が婚姻前の名字（姓）を名乗ることを希望していても、夫婦は必ず同じ名字（姓）を名乗るべきだが、婚姻によって名字（姓）を改めた人が婚姻前の名字（姓）を通称としてどこでも使えるように法律を改めることについては、かまわない
4. わからない

問43

問 43 で「2」を選ばれた方におたずねします。

問44 希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗れるように法律が変わった場合、あなたは、夫婦でそれぞれの名字（姓）を名乗ることを希望しますか。

あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず、あてはまる番号を1つお選びください。

1. 希望する 2. 希望しない 3. どちらともいえない

問44

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問45 希望すれば、夫婦がそれぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗れるように法律が変わった場合を想定してお答えください。

それぞれの婚姻前の名字（姓）を名乗っている夫婦に二人以上の子どもがある場合、子ども同士（兄弟・姉妹）の名字（姓）が異なってもよいという考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 子ども同士の名字（姓）が異なってもかまわない
 2. 子ども同士の名字（姓）は同じにするべきである [⇒問 46 へ]
 3. どちらともいえない

問45

問 45 で「2」を選ばれた方におたずねします。

問46 子ども同士は同一の名字（姓）を名乗るべきであるとして、それぞれの子どもの成年に達した時には、それまで異なる父または母の名字（姓）に変えることができるという考え方について、あなたは、どのように考えますか。あてはまる番号を1つお選びください。

1. 今までの名字（姓）を変えない方がよい
 2. 変えることができるとしてもかまわない
 3. どちらともいえない

問46

ここからは、再び全員の方におたずねします。

問47 あなたは、仮に結婚して戸籍上の名字（姓）が変わったとした場合、働くときに旧姓を通称として使用したいと思いませんか。

あなたが、結婚なさっている、いないに関わらず、あてはまる番号を1つお選びください。

1. 旧姓を通称として使用したいと思う [⇒問 48 へ]
 2. 旧姓を通称として使用したいと思わない
 3. どちらともいえない

問47

問 47 で「1」を選ばれた方におたずねします。

問48 住民票やマイナンバーカードに希望者は旧姓を記載することができますが、これ以外に、あなたが旧姓を通称として使用するとき、どのようなものに旧姓が使用できるとよいと思いませんか。あてはまるものをすべてお選びください。

1. 勤務先の社員証、社内資格など 2. 運転免許証など公的な身分証
 3. 銀行口座 4. 証券口座
 5. 保険契約 6. 各種国家資格
 7. その他〔具体的に _____ 〕
 8. 特にない 9. わからない

問48	

男女の「人権」に関することでおたずねします。

問49 身近な人（夫・妻・恋人）からの暴力が、DV（ドメスティック・バイオレンス）※として問題になっています。次にあげる行為は、DVにあたる行為です。

あなたは、今までにこれらの行為を受けた又はしたことがありますか。あてはまる番号を、それぞれ1つずつお選びください。

※DV（ドメスティック・バイオレンス）・・・配偶者等に身体的又は精神的な苦痛を与える暴力的行為をいいます。

	受けたことがある	したことがある	受けたこともしたこともありません	受けたこともしたこともありません		問49
1. 刃物を突きつけ、「殺す」とおどす	1	2	3	4	→	
2. なぐる、ける	1	2	3	4	→	
3. 物を投げつけたり壊したりする	1	2	3	4	→	
4. 髪の毛をつかんで引きずり回す	1	2	3	4	→	
5. 大声で怒鳴る	1	2	3	4	→	
6. メールや郵便物、行動を細かく監視する	1	2	3	4	→	
7. 「だれのおかげで生活できるんだ」とか「出て行け」と言う	1	2	3	4	→	
8. 何を言っても無視し続ける	1	2	3	4	→	
9. 生活費を渡さない	1	2	3	4	→	
10. 嫌がっているのに性的行為を強要する	1	2	3	4	→	
11. 避妊に協力しない	1	2	3	4	→	

問50 あなたはDV（ドメスティック・バイオレンス）にあったとき、相談するところをご存知ですか。知っている相談窓口をすべてお選びください。

1. DV相談ナビ
2. 長野県女性相談センター
3. 県警（警察安全相談窓口）
4. 長野県児童虐待・DV 24時間ホットライン
5. 女性の人権ホットライン
6. 長野県性暴力被害者支援センター “りんどうハートながの”
7. 県警性被害犯罪ダイヤルサポート110
8. 長野犯罪被害者支援センター
9. 長野市福祉事務所（長野市役所子育て支援課内、篠ノ井支所内）
10. 長野市男女共同参画センター
11. 特にない

問50	

問51 DV(ドメスティック・バイオレンス)についてあなたの考えに最も近いのはどれですか。
次の中から1つお選びください。

1. どんな場合でも重大な人権侵害にあたると思う
2. どんな場合でも人権侵害にあたると思う
3. 人権侵害にあたる場合も、そうでない場合もあると思う
4. 人権侵害にあたるとは思わない
5. わからない

問51

問52 あなたは、暴力や様々な悩みなどに関する相談窓口などで配慮してほしいと思うことは何ですか。
あてはまる番号をすべてお選びください。

1. メールによる相談ができる
2. LINEなどSNSによる相談ができる
3. 電話による相談ができる
4. 通話料が無料
5. 24時間相談ができる
6. 相談内容に関連する、他の相談窓口との連携が行われる
7. 同性の相談員がいる
8. 匿名で相談ができる
9. 弁護士など、法的知識のある相談ができる
10. 臨床心理士、公認会計士など、心理専門職の相談ができる
11. その他〔具体的に _____ 〕
12. 特にない
13. わからない

問52	

令和3年9月発行

発行 長野市

編集 長野市地域・市民生活部 人権・男女共同参画課

長野市大字鶴賀緑町 1613 番地 電話 026 (224) 5032 (直通)

E-mail : jinken-danjo@city.nagano.lg.jp

集計 協同組合長野シーアイ開発センター